

2026年度

専門科目教育要項

東京科学大学歯学部口腔保健学科
口腔保健工学専攻

目 次

まえがき.....	1
基本理念等.....	2
授業計画表	5
教育課程表（2026年度入学者）	6
教育課程表（2025年度入学者）	13
教育課程表（2023・2024年度入学者）	21
主な関係規則一覧.....	27
歯科技工士国家試験について.....	63
学生周知事項.....	65
講義室等一覧	72
歯学部口腔保健学科口腔保健工学専攻教員連絡先一覧.....	73

第 1 学年 履修科目

口腔保健と専門職
メディア情報学基礎
メディア情報学応用
造形美術概論実習
AI・データサイエンスのための数学
医療とAI・ビッグデータ入門
アカデミック・リテラシー
感染予防
早期臨床体験実習
う蝕と歯周病
人体の構造と機能
歯の解剖学
研究体験実習
多職種連携 I
口腔保健工学エクスターンシップ A

第 2 学年 履修科目

科学英語 I
英語 II
ICCD L1 On-demand
ICCD L1 On-line

ヘルスプロモーション
グローバル口腔保健工学
口腔と全身の基礎医学
硬組織薬理学
歯の形態実習
口腔保健理工学
口腔保健理工学実習
デジタルデンティストリー基礎
全部床義歯補綴学
全部床義歯実習
デジタル全部床義歯実習
部分床義歯補綴学
部分床義歯補綴学実習
歯冠修復学
歯冠修復学実習
口腔保健工学エクスターンシップB

第 3 学年 履修科目

科学英語Ⅱ
英語Ⅱ
ICCD on-demand
ICCD on-line
コミュニケーション学
グローバル口腔保健工学実習
口腔保健工学管理学
周術期手術支援工学
高齢者歯科学
臨床咬合学
デジタルデンティストリー応用
顎顔面補綴学
顎補綴学実習
顔面補綴学実習
臨床義歯管理工学
デジタル金属床義歯実習
審美修復学実習
デジタル歯冠修復学実習
インプラント歯科補綴学実習

小児歯科学

小児歯科学実習

矯正歯科学

再建工学包括臨床実習Ⅰ

医療倫理

研究実習Ⅰ

多職種連携Ⅱ

口腔保健工学エクスターンシップ

第4学年 履修科目

英語Ⅱ

ICCD-ondemand

ICCD-online

ICCD-Advanced

歯科技工士と法律

画像解析学

スポーツ歯科学

顎関節症とオーラルアプライアンス

睡眠とオーラルアプライアンス

デジタルデンティストリー実習

再建工学包括臨床実習Ⅱ

再建工学包括臨床実習Ⅲ

統合実習基礎

統合実習応用

研究実習Ⅱ

研究実習Ⅲ

多職種連携Ⅲ

口腔保健工学エクスターンシップ

口腔保健工学企業研修

まえがき

本冊子は、皆さんが歯学部口腔保健学科口腔保健工学専攻の授業を受けるうえで、知っておいていただきたい事項をまとめたものです。本専攻での履修を円滑かつ充実したものにするため、内容を理解し、活用するようにしてください。

なお、教育要項（シラバス）は電子化され冊子体は配布致しませんので、教育内容に関する情報はインターネットを利用して本学ホームページから入手してください。各科目のシラバスおよび授業スケジュールは教育支援システム（ドリームキャンパス）に、それぞれアクセスして参照してください。また、授業に関するお知らせや資料等も随時 **e-learning** システムの **isctLMS** に掲載されますので、日々のチェックを心掛けるようお願いします。

2026年 4 月

歯学部口腔保健学科教育委員会

基本理念、教育理念、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー等

○東京科学大学のミッション・コアバリュー

ミッション：「科学の進歩」と「人々の幸せ」とを探究し、社会とともに新たな価値を創造する

コアバリュー：常識や型にとらわれず、あらゆる知と技術を探求し、自在に融合させる一人一人の個性や想いを尊重し、豊かな創造の文化を育む自らの在り方をつねに問い続け、果敢に変革し続ける

○東京科学大学の教育理念

「挑戦し続けるフロンランナー」と「知と癒しの匠」としての気概と人間力をあわせ持ち、「科学の進歩」と「人々の幸せ」とを探究し、社会とともに新たな価値を創造する高度専門人材を輩出する。

○医歯学系の教育理念と養成する人材像

1. 幅広い教養と豊かな感性を備えた人材

病める人と向き合う医療人として、患者の痛みが分かり患者を取り巻く様々な状況をも理解できる、豊かな教養と人間への深い洞察力、高い倫理観と説明能力を備えた人材を養成する。

2. 自己問題提起、自己問題解決型の創造力豊かな人材

学業あるいは研究に当たり、常識や型にとらわれず、疑問を投げかけ、あらゆる知と技術を探求し、自在に融合させ、自ら解決する能力を持つ、独創的な研究とイノベーションを推進できる人材を養成する。

3. 国際感覚と国際競争力に優れる人材

研究成果が即座に世界に伝播する現代において、その情報と時間の共有化ができ、医学・医療の最尖端に挑戦し続ける人材を養成する。

歯学部口腔保健学科

●教育理念

温かく豊かな人間性を有し、口腔保健・福祉の立場から、人々の健康で幸せな生活の実現のため、専門的知識および技術をもって広く社会貢献し、指導的役割を果たすことのできる人材を育成します。

●教育目標

〈口腔保健工学専攻〉

1. 生命の尊厳と基本的な科学原理・概念を理解し、生命科学の知識を修得する。
2. 深い人間理解と医療人としての高い倫理観、豊かな感性を身につける。
3. 社会における口腔保健・福祉の果たす役割とその重要性を理解する。
4. QOLの向上に関わるものづくりの専門家として、自らの高度な知識と技術を社会に還元する意欲を養う。
5. 科学的探究心と問題解決能力を身につけ、生涯学習への意欲を培う。
6. 保健・医療・福祉等の関連職種と連携して活動できる能力を身につける。
7. 口腔保健の立場から国際貢献ができる能力を修得する。

◆ディプロマ・ポリシー

歯学部口腔保健学科では、教養部および各専攻における、基礎から臨床、実践に統合する体系的学習を行い、進級要件を満たし、卒業までに、所定の単位を修得し、以下の要件を満たしている者に学位を授与する。

1. 幅広い教養と豊かな感性

全学共通科目から専門の臨床・臨地実習に至る全教育課程を通して、口腔保健・医療・福祉領域の専門職に必要とされる幅広い教養ならびに人々の心情と行動を理解できる豊かな感性と高い倫理観を身につけている。

2. 問題提起、解決能力

口腔保健・医療の急速な進歩ならびに口腔保健・医療・福祉への多様なニーズに対応できるよう、科学的根拠に基づいた論理的思考力と、主体的に問題を提起、解決する能力を有している。

3. 研究・開発能力

歯科医療の進歩に応じた歯科技工に関する知識と技術だけでなく、最新の ICT やデジタル技術を歯科技工物製作に応用できる技術開発への基礎力を有し、Scientific Clinician・Clinical Scientistを目指す研究マインドを備えている。

4. 国際性

口腔保健・医療・福祉分野における国際貢献への高い関心を有し、国際活動・協力を実践するための基礎力を備えている。

◆カリキュラム・ポリシー

〈口腔保健工学専攻〉

東京科学大学の教育理念、および歯学部口腔保健学科の教育理念に基づき、口腔保健工学専攻の教育目標をふまえて、ディプロマ・ポリシーを実現するためのカリキュラムの策定方針を以下のとおり定める。

1. 全学共通科目の人文・社会科学、専門科目の医療倫理、コミュニケーション学、PBL テュートリアルで行う口腔保健と専門職、ヘルスプロモーション、多職種連携等の履修をとおして、歯科医療人としての倫理観ならびにコミュニケーション能力を育てる。
2. 全学共通科目の自然科学、専門課程の基礎歯科医学を学び、さらに統合力を必要とする卒業研究、再建工学包括臨床実習等の履修をとおして、学際的科学の視点と問題提起、解決能力を育成する。
3. 歯科医療の進歩に応じた歯科技工に関する知識と技術を基礎から応用まで段階的に学ぶことにより、最新の情報工学、機械工学を駆使した歯科補綴装置製作の理論と実際への理解を深め、新たな技術開発への基礎力を培う。
4. 高齢者歯科学、周術期手術支援工学、顎顔面補綴学や3Dモデリングによる手術シミュレーション等の履修をとおして、疾患により失われた機能回復を促し、患者のQOL向上に寄与できる能力を育成するとともに、人々の健康を支援することにより人々の幸福に貢献する、医療者としての使命感を養う。
5. 全学共通科目の外国語、専門科目の科学英語、グローバル口腔保健工学実習等の履修により、国際協力に関心をもち、海外の文化、社会への理解を深め、国際貢献への姿勢と能力を培う。

2026年度 歯学部口腔保健学科口腔保健工学専攻 専門科目授業計画表

第1学年

	学部専門科目	期 間
前期	入 学 式	2026/4/2 (木)
	新入生オリエンテーション	2026/4/3 (金)～ 2026/4/6 (月)
	授 業 17 週	2026/4/7 (火)～ 2026/7/28 (火)
	「多職種連携Ⅰ」	2026/4/14 (火)
後期	専門課程ガイダンス	2026/9/18 (金)
	授 業 15 週	2026/9/16 (水)～ 2026/12/23 (水)
	大 掃 除	2026/12/24 (木)
	冬 季 休 業	2026/12/25 (金)～ 2027/1/5 (火)
	授 業 6 週	2027/1/6 (水)～ 2027/2/12 (金)
	補 講 ・ 再 試 験	2027/2/15 (月)～ 2027/2/24 (水)
	大 掃 除	2027/2/22 (月)
	Science Tokyo - TMU 交流	2027/3/1 (月)～ 2027/3/3 (水)
	春 季 休 業	2027/3/4 (木)～ 2027/3/31 (火)

第2学年

	区 分	期 間
前期	授 業 18 週	2026/4/1 (水)～ 2026/7/29 (水)
	入 学 式 (編 入 生)	2026/4/2 (木)
	専門課程ガイダンス	2026/4/3 (金)
	TOEFL 試 験	2026/4/15 (水)
	カービングコンテスト	2026/7/21 (火)
	大 掃 除	2026/7/29 (水)
	オープンキャンパス	2026/7/30 (木)～ 2026/7/31 (金)
	夏 季 休 業	2026/8/3 (月)～ 2026/8/31 (月)
	授 業 3 週	2026/9/1 (火)～ 2026/9/16 (水)
	補 講 ・ 再 試 験	2026/9/10 (木)～ 2026/9/25 (金)
後期	授 業 13 週	2026/9/28 (月)～ 2026/12/24 (木)
	大 掃 除	2026/12/24 (木)
	冬 季 休 業	2026/12/25 (金)～ 2027/1/5 (火)
	授 業 6 週	2027/1/6 (水)～ 2027/2/12 (金)
	補 講 ・ 再 試 験	2027/2/15 (月)～ 2027/2/24 (水)
	大 掃 除	2027/2/22 (月)
	Science Tokyo - TMU 交流	2027/3/1 (月)～ 2027/3/3 (水)
	業 界 研 究	2027/3/4 (木) 予定
	春 季 休 業	2027/3/5 (金)～ 2027/3/31 (火)

第3学年

	区 分	期 間
前期	春 季 休 業	2026/4/1 (水)～ 2026/4/2 (木)
	専門課程ガイダンス	2026/4/3 (金)
	授 業 17 週	2026/4/6 (月)～ 2026/7/28 (火)
	TOEFL 試 験	2026/4/15 (水)
	業 界 研 究	2026/6/29 (月)
	カービングコンテスト	2026/7/21 (火)
	就 職 対 策 講 座	2026/7/22 (水)
	大 掃 除	2026/7/29 (水)
	オープンキャンパス	2026/7/30 (木)～ 2026/7/31 (金)
	夏 季 休 業	2026/8/3 (月)～ 2026/8/31 (月)
	授 業 3 週	2026/9/1 (火)～ 2026/9/18 (金)
	登 院 式	2026/9/7 (月)
後期	授 業 14 週	2026/9/24 (木)～ 2026/12/24 (木)
	グローバル海外研修	2026/10/5 (月)～ 2026/10/9 (金)
	解 剖 体 追 悼 式	2026/10/22 (木) 午後予定
	大 掃 除	2026/12/24 (木)
	冬 季 休 業	2026/12/25 (金)～ 2027/1/4 (月)
	授 業 6 週	2027/1/5 (火)～ 2027/2/12 (金)
	補 講 ・ 再 試 験	2027/2/15 (月)～ 2027/2/24 (水)
	大 掃 除	2027/2/22 (月)
	Science Tokyo - TMU 交流	2027/3/1 (月)～ 2027/3/3 (水)
	業 界 研 究	2027/3/4 (木) 予定
	春 季 休 業	2027/3/5 (金)～ 2027/3/31 (火)

第4学年

	区 分	期 間
前期	授 業 18 週	2026/4/1 (水)～ 2026/7/31 (金)
	専門課程ガイダンス	2026/4/3 (金)
	TOEFL 試 験	2026/4/15 (水)
	カービングコンテスト	2026/7/21 (火)
	大 掃 除	2026/7/29 (水)
	オープンキャンパス	2026/7/30 (木)～ 2026/7/31 (金)
	夏 季 休 業	2026/8/3 (月)～ 2026/8/28 (金)
	授 業 3 週	2026/9/1 (火)～ 2026/9/18 (金)
後期	授 業 14 週	2026/9/24 (木)～ 2026/12/24 (木)
	歯科技工臨床能力判定試験	2026/12/15 (火)
	大 掃 除	2026/12/24 (木)
	冬 季 休 業	2026/12/25 (金)～ 2027/1/11 (月)
	授 業 4 週	2027/1/6 (水)～ 2027/1/27 (水)
	卒 業 研 究 発 表 会	2027/1/8 (金)
	臨床実習Ⅲ/企業発表会	2027/1/13 (水)
	国家試験対策 および自己研修	2027/1/15 (金)～ 2027/2/19 (金)
	国 家 試 験 模 擬 試 験	2026/12/21 (月)・ 2027/1/14 (木)
	国 家 試 験	2027/2/21 (日) 予定(9月に正式発表)
	大 掃 除	2027/2/22 (月)
	Science Tokyo - TMU 交流	2027/3/1 (月)～ 2027/3/3 (水)
	卒 業 式	2027/3/26 (金)

2026年度入学者用

東京科学大学歯学部専門科目学修内規より抜粋

別表1 授業科目及び単位数（第2条関係）

3 歯学部口腔保健学科口腔保健工学専攻

区分	授業科目	単位数			履修学年							
					1年次		2年次		3年次		4年次	
		必修	選択	自由	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎分野	科学的思考の基盤人間と生活	口腔保健と専門職	1			○						
		科学英語Ⅰ	1				○					
		科学英語Ⅱ	1						○			
		英語Ⅱ		1～4			○	○	○	○	○	○
		International Course for Clinical Dentistry (ICCD)L1—L3 On—demand※1		1			○	○	○	○	○	○
		International Course for Clinical Dentistry (ICCD)L1—L3 On—line		1			○	○	○	○	○	○
		International Course for Clinical Dentistry (ICCD) Advanced		0.5								○
		ヘルスプロモーション	1				○					
		メディア情報学基礎	1			○						
		メディア情報学応用	1			○						

		コミュニケーション学	1							○			
		造形美術概論実習	1				○						
		グローバル口腔保健工学	1						○				
		グローバル口腔保健工学実習	1							○	○		
		AI・データサイエンスのための数学	2				○						
		医療とAI・ビッグデータ入門	2				○						
		医療とAI・ビッグデータ応用	1					○					
		アカデミック・リテラシー	1				○						
専門基礎分野	歯科技工と歯科医療	歯科技工士と法律	1									○	
		感染予防	2				○						
		口腔保健工学管理学	1							○			
		早期臨床体験実習	1				○						
		周術期手術支援工学	1							○			
		う蝕と歯周病	1				○						
		高齢者歯科学	2								○		
	歯・口腔の	人体の構造と機能	2				○						
		歯の解剖学	1				○						
		口腔と全身の基礎医学	2					○	○				

	構造と機能	硬組織薬理学※1	1				○					
		画像解析学※1	1							○		
		歯の形態実習	2				○	○				
		臨床咬合学	1						○			
	歯科材料・ 歯科 技工 機器と 加工 技術	口腔保健理工学	3				○					
		口腔保健理工学 実習	3				○					
		デジタルデンテ ィストリー基礎	1					○				
		デジタルデンテ ィストリー応用	1						○			
専門分野	有床義歯 技工学	顎顔面補綴学	1							○		
		顎補綴学実習	2.5							○		
		顔面補綴学実習	1							○		
		臨床義歯管理工 学	1							○		
		スポーツ歯科学 ※1	1								○	
		顎関節症とオー ラルアプライア ンス※1	1								○	
		睡眠とオーラル アプライアンス ※1	1								○	
		全部床義歯補綴 学	1				○					

		全部床義歯実習	2					○					
		デジタル全部床義歯実習	2					○					
		部分床義歯補綴学	1						○				
		部分床義歯補綴学実習	4						○				
		デジタル金属床義歯実習	2							○			
	歯冠修復技工学	歯冠修復学	2						○				
		歯冠修復学実習	5						○				
		審美修復学実習	2							○			
		デジタル歯冠修復学実習	1							○			
		デジタルデンティストリー実習	1									○	
		インプラント歯科補綴学実習	2							○			
	小児歯科技工学	小児歯科学	1								○		
		小児歯科学実習	1								○		
	矯正歯科技工学	矯正歯科学	2							○			
	歯科技	再建工学包括臨床実習Ⅰ	3.5								○		
		再建工学包括臨床実習Ⅱ	6									○	○

	工 実 習	床実習Ⅱ											
		再建工学包括臨 床実習Ⅲ※2		2								○	○
		統合実習基礎	1.5										○
		統合実習応用※1		1									○
統 合 分 野	統 合 口 腔 保 健 工 学	医療倫理	1							○			
		研究体験実習※1		1			○						
		研究実習Ⅰ	1							○	○		
		研究実習Ⅱ	4									○	○
		研究実習Ⅲ※2		2								○	○
		多職種連携Ⅰ	0.5			○							
		多職種連携Ⅱ	0.5							○			
		多職種連携Ⅲ	1									○	
		口腔保健工学エ クスターンシッ プA			1	○	○						
		口腔保健衛生エ クスターンシッ プB			1			○	○				
		口腔保健衛生エ クスターンシッ プC			1					○	○		
		口腔保健衛生エ クスターンシッ プD			1							○	○
口腔保健工学企 業研修※2			2								○	○	
計			94. 5	14	6.5 ～ 9.5								

※1 8科目から5単位以上修得する。

※2 3科目の中から1科目履修する。

4 全学科共通自由科目

授業科目	単位数	履修対象学年					
		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
Moral and Political Philosophy for Medicine	1	○	○	○	○	○	○
Biosocial Research Topics	1	○	○	○	○	○	○
Applied Critical Thinking for Health Sciences	1	○	○	○	○	○	○
Fundamentals of Global Health	1	○	○	○	○	○	○
Leadership	1	○	○	○	○	○	○
Negotiation	1	○	○	○	○	○	○
オンライン異文化交流 (※1)	0.5～ 3	○	○	○	○	○	○
ポストコロナ社会における感染症対策	1	○	○	○	○	○	○
AI実践演習	1		○	○	○	○	○
アントレプレナー教育	1		○	○	○	○	○
疫学基礎	1	○	○	○	○	○	○
生物統計学基礎	1	○	○	○	○	○	○
生物統計学応用I	1	○	○	○	○	○	○
生物統計学応用II	1	○	○	○	○	○	○
臨床試験方法論基礎	1	○	○	○	○	○	○
臨床試験方法論応用	1	○	○	○	○	○	○
口腔疫学基礎	1	○	○	○	○	○	○
疫学応用	1	○	○	○	○	○	○
計	17.5 ～20						

※1 所定のプログラムを修了した学生に対し、0.5単位を認定する。ただし、同一年次・年度に認定できる単位は、0.5単位を上限とする。

5 医歯学系異分野研究プロジェクト科目

授業科目	単位数	履修対象学年			
		1年次	2年次	3年次	4年次
異分野研究プロジェクトA	1			○	○
異分野研究プロジェクトB	2			○	○
異分野研究プロジェクトC	4			○	○
異分野研究プロジェクトD	6			○	○

※東京科学大学の学院の学士課程に属する学生のみ履修可能。

別表2 進級要件（第7条、第8条関係）

3 歯学部口腔保健学科口腔保健工学専攻

1年次	別表1の3に定める1年次に履修する必修科目の単位を全て修得しなければ、2年次に進級することができない。
2年次	別表1の3に定める2年次に履修する必修科目の単位を全て修得しなければ、3年次に進級することができない。
3年次	別表1の3に定める3年次の前期に履修する必修科目のうち、次の授業科目の単位を修得しなければ、3年次後期以降の授業科目を履修することができない。 一 デジタル金属床義歯実習 二 審美修復学実習 三 デジタル歯冠修復学実習 また、別表1の3に定める3年次に履修する必修科目の単位を全て修得しなければ、4年次に進級することができない。

2025年度入学者用

東京科学大学の学部における学修に関する細則より抜粋

別表2（専門科目）

6 歯学部口腔保健学科口腔保健工学専攻

区分	授業科目	単位数			履修学年							
		必修	選択	自由	1年次		2年次		3年次		4年次	
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎分野	科学的思考の基盤人間と生活	口腔保健と専門職	1			○						
		科学英語Ⅰ	1				○					
		科学英語Ⅱ	1						○			
		英語Ⅱ※1			1～4		○	○	○	○	○	○
		International Course for Clinical Dentistry (ICCD)L1—L3 On-demand※2		1			○	○	○	○	○	○
		International Course for Clinical Dentistry (ICCD)L1—L3 On-line			1		○	○	○	○	○	○
		International Course for Clinical Dentistry (ICCD) Advanced			0.5							○
		ヘルスプロモーション	1				○					
		メディア情報学基礎	1			○						
		メディア情報学	1			○						

専 門 基 礎 分 野	応 用	応用											
		コミュニケーション学	1						○				
		造形美術概論実習	1				○						
		グローバル口腔保健工学	1						○				
		グローバル口腔保健工学実習	1						○	○			
		AI・データサイエンスのための数学	2				○						
		医療とAI・ビッグデータ入門	2				○						
		医療とAI・ビッグデータ応用	1					○	○				
		アカデミック・リテラシー	1				○						
	歯 科 技 工 と 歯 科 医 療	歯科技工士と法律	1								○		
		感染予防	2				○						
		口腔保健工学管理学	1						○				
		早期臨床体験実習	1				○						
		周産期手術支援工学	1						○				
		う蝕と歯周病	1				○						
		高齢者歯科学	2							○			
	歯 ・ 口 腔	人体の構造と機能	2				○						
		歯の解剖学	1				○						
		口腔と全身の基	2					○	○				

	の構造と機能	礎医学											
		硬組織薬理学※2		1				○	○				
		画像解析学※2		1								○	
		歯の形態実習	2					○	○				
		臨床咬合学	1							○			
	歯科材料・歯科技工機器と加工技術	口腔保健理工学	3					○					
		口腔保健理工学実習	3					○					
		デジタルデンティストリー基礎	1						○				
		デジタルデンティストリー応用	1							○			
専門分野	有床義歯技工学	顎顔面補綴学	1								○		
		顎補綴学実習	2.5								○		
		顔面補綴学実習	1								○		
		臨床義歯管理工学	1								○		
		スポーツ歯科学※2		1								○	
		顎関節症とオーラルアプライアンス※2		1								○	
		睡眠とオーラルアプライアンス※2		1								○	
		全部床義歯補綴	1					○					

	学											
	全部床義歯実習	2					○					
	デジタル全部床義歯実習	2					○					
	部分床義歯補綴学	1						○				
	部分床義歯補綴学実習	4						○				
	デジタル金属床義歯実習	2							○			
歯冠修復技工学	歯冠修復学	2						○				
	歯冠修復学実習	5						○				
	審美修復学実習	2							○			
	デジタル歯冠修復学実習	1							○			
	デジタルデンティストリー実習	1									○	
	インプラント歯科補綴学実習	2							○			
小児歯科技工学	小児歯科学	1								○		
	小児歯科学実習	1								○		
矯正歯科技工学	矯正歯科学	2							○			
歯科	再建工学包括臨床実習Ⅰ	3.5								○		

技 工 実 習		再建工学包括臨 床実習Ⅱ	6									○	○
		再建工学包括臨 床実習Ⅲ※3		2								○	○
		統合実習基礎	1.5										○
		統合実習応用※2		1									○
統 合 分 野	統 合 口 腔 保 健 工 学	医療倫理	1								○		
		研究体験実習※2		1			○						
		研究実習Ⅰ	1								○		
		研究実習Ⅱ	4									○	○
		研究実習Ⅲ※3		2								○	○
		多職種連携Ⅰ	0.5			○							
		多職種連携Ⅱ	0.5							○			
		多職種連携Ⅲ	1									○	
		口腔保健工学エ クスターンシッ プA			1	○	○						
		口腔保健工学エ クスターンシッ プB			1			○	○				
		口腔保健工学エ クスターンシッ プC			1					○	○		
		口腔保健工学エ クスターンシッ プD			1							○	○
		口腔保健工学企 業研修※3		2								○	○
計			94. 5	14	6.5 ～ 9.5								

※1 英語Ⅱ(A)・(B)・(C)・(D)各1単位

※2 8科目から5単位以上修得する。

※3 3科目の中から1科目修得する。

7 全学科共通自由科目

授業科目	単位数	履修対象学年					
		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
Moral and Political Philosophy for Medicine	1	○	○	○	○	○	○
Biosocial Research Topics	1	○	○	○	○	○	○
Applied Critical Thinking for Health Sciences	1	○	○	○	○	○	○
Fundamentals of Global Health	1	○	○	○	○	○	○
Leadership	1	○	○	○	○	○	○
Negotiation	1	○	○	○	○	○	○
Design Thinking	1	○	○	○	○	○	○
オンライン異文化交流（※1）	0.5～3	○	○	○	○	○	○
ポストコロナ社会における感染症対策	1	○	○	○	○	○	○
AI実践演習（※2）	1		○	○	○	○	○
アントレプレナー教育	1		○	○	○	○	○
疫学基礎	1	○	○	○	○	○	○
生物統計学基礎	1	○	○	○	○	○	○
生物統計学応用I	1	○	○	○	○	○	○
生物統計学応用II	1	○	○	○	○	○	○
臨床試験方法論基礎	1	○	○	○	○	○	○
臨床試験方法論応用	1	○	○	○	○	○	○
口腔疫学基礎	1	○	○	○	○	○	○
疫学応用	1	○	○	○	○	○	○
計	18.5～21						

※1 所定のプログラムを修了した学生に対し、0.5単位を認定する。ただし、同一年次・年度に認定できる単位は、0.5単位を上限とする。

※2 〔3 医学部保健衛生学科検査技術学専攻専門科目〕のうちAI実践演習を選

択科目として履修する学生又は履修して単位を付与された学生を除く。

別表3（進級要件）

6 歯学部口腔保健学科口腔保健工学専攻

1年次	全学科共通科目	別表1の1に定める単位を全て修得しなければ、2年次に進級することができない。
	専門科目	1年次の末までに次の授業科目の単位を修得しなければ、2年次に進級することができない。 一 口腔保健と専門職 二 メディア情報学基礎 三 メディア情報学応用 四 造形美術概論実習 五 AI・データサイエンスのための数学 六 医療とAI・ビッグデータ入門 七 アカデミック・リテラシー 八 感染予防 九 早期臨床体験実習 十 う蝕と歯周病 十一 人体の構造と機能 十二 歯の解剖学 十三 多職種連携 I
2年次	全学科共通科目	別表1の2に定める単位を全て修得しなければ、3年次に進級することができない。
	専門科目	2年次の末までに次の授業科目の単位を修得しなければ、3年次に進級することができない。 一 科学英語 I 二 ヘルスプロモーション 三 グローバル口腔保健工学 四 医療とAI・ビッグデータ応用 五 口腔と全身の基礎医学 六 歯の形態実習 七 口腔保健理工学 八 口腔保健理工学実習 九 デジタルデンティストリー基礎 十 全部床義歯補綴学 十一 全部床義歯実習 十二 デジタル全部床義歯実習 十三 部分床義歯補綴学 十四 部分床義歯補綴学実習

		十五 歯冠修復学 十六 歯冠修復学実習
3年次	全学科共通科目	別表1の3に定める単位を全て修得しなければ、4年次に進級することができない。
	専門科目	3年次の前期までに次の授業科目の単位を修得しなければ、3年次後期以降の授業科目を履修することができない。 一 デジタル金属床義歯実習 二 審美修復学実習 三 デジタル歯冠修復学実習 また、3年次の末までに次の授業科目の単位を修得しなければ、4年次に進級することができない。 四 科学英語Ⅱ 五 コミュニケーション学 六 グローバル口腔保健工学実習 七 口腔保健工学管理学 八 周術期手術支援工学 九 高齢者歯科学 十 臨床咬合学 十一 デジタルデンティストリー応用 十二 顎顔面補綴学 十三 顎補綴学実習 十四 顔面補綴学実習 十五 臨床義歯管理工学 十六 インプラント歯科補綴学実習 十七 小児歯科学 十八 小児歯科学実習 十九 矯正歯科学 二十 再建工学包括臨床実習Ⅰ 二十一 医療倫理 二十二 研究実習Ⅰ 二十三 多職種連携Ⅱ

別表1 (1)～(5) 省略

(6) 口腔保健学科(口腔保健工学専攻) 教育課程

区分	授業科目	単位数			履修学年							
					1 年		2 年		3 年		4 年	
		必修	選択	自由	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活	口腔保健と専門職	1			○						
		科学英語Ⅰ	1				○					
		科学英語Ⅱ	1						○			
		英語Ⅱ※1			1～4		○	○	○	○	○	○
		International Course for Clinical Dentistry (ICCD)L1-L3 On-demand※2		1			○	○	○	○	○	○
		International Course for Clinical Dentistry (ICCD)L1-L3 On-line			1		○	○	○	○	○	○
		International Course for Clinical Dentistry (ICCD) Advanced			0.5							○
		ヘルスプロモーション	1				○					
		メディア情報学基礎	1			○						
		メディア情報学応用	1			○						
		コミュニケーション学	1						○			
		造形美術概論実習	1			○						
		グローバル口腔保健工学	1					○				
		グローバル口腔保健工学実習	1						○	○		
		AI・データサイエンスのための数学	2			○						
		医療とAI・ビッグデータ入門	2			○						
		アカデミック・リテラシー	1			○						
専門基礎	歯科技工と歯科医療	歯科技工士と法律	1								○	
		感染予防	2			○						
		ポストコロナ社会における感染症対策※2		1			○					
		口腔保健工学管理学	1						○			

専 門 分 野		早期臨床体験実習	1				○						
		周産期手術支援工学	1							○			
		う蝕と歯周病	1				○						
		高齢者歯科工学	2								○		
	歯・口腔の構造と機能	人体の構造と機能	2				○						
		歯の解剖学	1				○						
		口腔と全身の基礎医学	2					○	○				
		硬組織薬理学※2		1				○					
		画像解析学※2		1								○	
		歯の形態実習	2					○	○				
		臨床咬合学	1							○			
	歯科材料・歯科技工器具と加工技術	口腔保健理工学	3					○					
		口腔保健理工学実習	3					○					
		デジタルデンティストリー基礎	1						○				
		デジタルデンティストリー応用	1							○			
	有床義歯技工学	顎顔面補綴学	1								○		
		顎補綴学実習	2.5								○		
		顔面補綴学実習	1								○		
		臨床義歯管理工学	1								○		
		スポーツ歯科学※2		1								○	
		顎関節症とオーラルアプライアンス※2		1								○	
		睡眠とオーラルアプライアンス※2		1								○	
		全部床義歯補綴学	1					○					
		全部床義歯実習	2					○					
		デジタル全部床義歯実習	2					○					
		部分床義歯補綴学	1						○				
		部分床義歯補綴学実習	4						○				
		デジタル金属床義歯実習	2							○			
	歯冠	歯冠修復学	2						○				

統合分野	修復 技工 学	歯冠修復学実習	5						○				
		審美修復学実習	2							○			
		デジタル歯冠修復学実習	1							○			
		デジタルデンティストリー実習	1									○	
		インプラント歯科補綴学実習	2							○			
	小児 歯科 技工 学	小児歯科学	1								○		
		小児歯科学実習	1								○		
	矯正 歯科 技工 学	矯正歯科学	2							○			
	歯科 技工 実習	再建工学包括臨床実習Ⅰ	3.5								○		
		再建工学包括臨床実習Ⅱ	6									○	○
		再建工学包括臨床実習Ⅲ※3		2								○	○
		統合実習基礎	1.5										○
		統合実習応用※2		1									○
	総合 口腔 保健 工学	医療倫理	1								○		
		研究体験実習※2		1			○						
		卒業研究Ⅰ	1								○		
		卒業研究Ⅱ	4									○	○
		卒業研究Ⅲ※3		2									○
		多職種連携Ⅰ	0.5			○							
		多職種連携Ⅱ	0.5							○			
		多職種連携Ⅲ	1									○	
		口腔保健工学エクスター ンシップ			1	○	○	○	○	○	○	○	○
		口腔保健工学企業研修 ※3		2								○	○
計			93.5	15	3.5 ～ 6.5								

※1 英語Ⅱ(A)・(B)・(C)・(D) 各1単位

※2 9科目から5単位以上修得する。

※3 3科目の中から1科目修得する。

(7) 全学科共通自由科目

授業科目	単位数	履修対象学年					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
Moral and Political Philosophy for Medicine	1	○	○	○	○	○	○
Biosocial Research Topics	1	○	○	○	○	○	○
Problem-solving in the Health Sciences	1	○	○	○	○	○	○
Applied Critical Thinking for Health Sciences	1	○	○	○	○	○	○
Fundamentals of Global Health	1	○	○	○	○	○	○
Leadership	1	○	○	○	○	○	○
Negotiation	1	○	○	○	○	○	○
Design Thinking	1	○	○	○	○	○	○
オンライン異文化交流 (※1)	0.5~3	○	○	○	○	○	○
ポストコロナ社会における感染症対策	1	○	○	○	○	○	○
医療とAI・ビッグデータ応用 (※2) (※3)	1		○	○	○	○	○
AI実践演習 (※3)	1		○	○	○	○	○
アントレプレナー教育	1		○	○	○	○	○
疫学基礎	1	○	○	○	○	○	○
生物統計学基礎	1	○	○	○	○	○	○
生物統計学応用I	1	○	○	○	○	○	○
生物統計学応用II	1	○	○	○	○	○	○
臨床試験方法論基礎	1	○	○	○	○	○	○
臨床試験方法論応用	1	○	○	○	○	○	○
口腔疫学基礎	1	○	○	○	○	○	○
疫学応用	1	○	○	○	○	○	○
計	20.5~23						

※1 所定のプログラムを修了した学生に対し、0.5単位を認定する。但し、同一年次・年度に認定できる単位は、0.5単位を上限とする。

※2 別表1(1)及び(4)のうち医療とAI・ビッグデータ応用を必修科目として履修する学生又は履修して単位を付与された学生を除く。

※3 別表1(3)のうち医療とAI・ビッグデータ応用及びAI実践演習を選択科目として履修する学生又は履修して単位を付与された学生を除く。

別表 2

評価基準	評価	単位認定
当該科目の到達目標を期待された水準を超えて達成した	A +	合格
当該科目の到達目標を全て達成した	A	
当該科目の到達目標を概ね達成した	B	
当該科目の到達目標のうち最低限を達成した	C	
当該科目の到達目標を達成していない	D	不合格
到達目標の達成度を評価できない	F	

※全学科共通自由科目のうち、「オンライン異文化交流」の評価は、以下のとおりとする。

評価基準	評価	単位認定
当該科目の到達目標を達成している	合格	合格
当該科目の到達目標を達成していない	不合格	不合格

別表3 (1)～(4) 省略

(5) 口腔保健学科(口腔保健工学専攻)

(1) 第1学年の末までに次の授業科目の単位の修得もしくは試験に合格しなければ、第2学年に進級することができない。 口腔保健と専門職、メディア情報学基礎、メディア情報学応用、造形美術概論実習、AI・データサイエンスのための数学、医療とAI・ビッグデータ入門、アカデミック・リテラシー、感染予防、早期臨床体験実習、う蝕と歯周病、人体の構造と機能、歯の解剖学、多職種連携Ⅰ
(2) 第2学年の末までに次の授業科目の単位の修得もしくは試験に合格しなければ、第3学年に進級することができない。 科学英語Ⅰ、ヘルスプロモーション、グローバル口腔保健工学、口腔と全身の基礎医学、歯の形態実習、口腔保健理工学、口腔保健理工学実習、デジタルデンティストリー基礎、全部床義歯補綴学、全部床義歯実習、デジタル全部床義歯実習、部分床義歯補綴学、部分床義歯補綴学実習、歯冠修復学、歯冠修復学実習
(3) 第3学年の前期までに次の授業科目の単位の修得もしくは試験に合格しなければ、第3学年後期以降の授業科目を履修することができない。 デジタル金属床義歯実習、審美修復学実習、デジタル歯冠修復学実習
(4) 第3学年の末までに次の授業科目の単位の修得もしくは試験に合格しなければ、第4学年に進級することができない。 科学英語Ⅱ、コミュニケーション学、グローバル口腔保健工学実習、口腔保健工学管理学、周術期手術支援工学、高齢者歯科学、臨床咬合学、デジタルデンティストリー応用、顎顔面補綴学、顎補綴学実習、顔面補綴学実習、臨床義歯管理工学、インプラント歯科補綴学実習、小児歯科学、小児歯科学実習、矯正歯科学、再建工学包括臨床実習Ⅰ、医療倫理、研究実習Ⅰ、多職種連携Ⅱ

規 則 集

目次

- 第1章 総則(第1条—第10条)
- 第2章 入学、再入学、転入学及び編入学(第11条—第18条)
- 第3章 休学、留学、退学、転学並びに転学院及び転系(第19条—第24条)
- 第4章 授業科目、単位数及び履修方法等(第25条—第28条)
- 第5章 履修の認定及び学位等(第29条—第36条)
- 第6章 入学料及び授業料(第37条—第43条)
- 第7章 表彰及び懲戒並びに除籍(第44条—第46条)
- 第8章 科目等履修生等(第47条—第51条)
- 第9章 寄宿舍(第52条)
- 附則

第1章 総則

(趣旨)

第1条 この学則は、学校教育法(昭和22年法律第26号。以下「学教法」という。)第85条及び国立大学法人東京科学大学組織運営規則(令和6年規則第1号。次条において「組織運営規則」という。)第22条第1項及び第24条第1項の規定に基づき東京科学大学(以下「本学」という。)に置く学院並びに学部及び学部に置く学科の修業年限、教育課程その他の学生の修学上必要な事項を定めるものとする。

(学院並びに学部及び学科)

第2条 本学に置く学院並びに学部及び学部に置く学科は、次のとおりとする。

- 理学院
- 工学院
- 物質理工学院
- 情報理工学院
- 生命理工学院
- 環境・社会理工学院
- 医学部 医学科
- 保健衛生学科
- 歯学部 歯学科
- 口腔保健学科

2 前項に規定する学院並びに学部及び学部に置く学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的及び位置は、組織運営規則第22条第2項及び第24条第2項の定めるところによる。

(入学定員及び収容定員並びに系等)

第3条 学院並びに学部及び学部に置く学科の入学定員及び収容定員は、別表1のとおりとする。

2 学院に、教育上の目的に応じて、専門教育実施の基本的な単位として系を置く。

3 学部に置く学科に、専攻を置く。

4 前2項の系及び専攻は、別表1のとおりとする。

5 学修の課程については、別に定める。

(系への所属)

第4条 本学の学院に入学した1年次相当の学生に係る修学指導等については、各学院において行うこととし、所定の授業科目を履修し、所定の単位を修得した学生は、前条第2項に規定する学院に置く系に所属するものとする。

(修業年限)

第5条 修業年限は、医学部医学科及び歯学部歯学科を除き、4年とする。

2 医学部医学科及び歯学部歯学科の修業年限は、6年とする。

3 前2項の規定にかかわらず、再入学者、転入学者及び編入学者の修業年限は、過去に本学又は他の大学において在学していた期間及び当該期間に修得した授業科目等を考慮して定める。

(在学年限)

第6条 在学年限は、医学部医学科及び歯学部歯学科を除き、8年とする。

2 医学部医学科及び歯学部歯学科の在学年限は、10年とする。

3 前2項の規定にかかわらず、再入学者、転入学者及び編入学者の在学年限は、過去に本学又は他の大学において在学していた期間及び当該期間に修得した授業科目等を考慮して定める。

(学年)

第7条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第8条 学年を、次の区分のとおり2学期に分ける。

前期 4月1日から毎年度において学長が定める9月中の日まで

後期 前期最終日の翌日から翌年3月31日まで

2 前項に定める各学期を、前半及び後半に分けることができるものとする。

(休業日)

第9条 学生の休業日は、次に掲げるとおりとする。

一 日曜日

二 土曜日

三 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日

四 春期休業日、夏期休業日及び冬期休業日

2 前項の規定にかかわらず、教育上必要がある場合には、休業日に授業を行うことができる。

3 第1項第4号の休業日は、その都度、学長が別に定める。

4 第1項に定めるもののほか、学長は、臨時の休業日を定めることができる。

(教授会の審議及び学長の決定事項)

第10条 入学、卒業、学位の授与その他学生の在籍に関する事項及び教育課程の編成に関する事項は、学院又は学部の教授会の議を経て、学長が決定する。

第2章 入学、再入学、転入学及び編入学

(入学資格)

第11条 本学に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

一 高等学校又は中等教育学校を卒業した者

二 通常の課程による12年の学校教育を修了した者又は通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者

三 外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの

四 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

五 専修学校の高等課程(修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

六 文部科学大臣の指定した者(昭和23年文部省告示第47号)

七 高等学校卒業程度認定試験規則(平成17年文部科学省令第1号)による高等学校卒業程度認定試験に合格した者(同規則附則第2条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程(昭和26年文部省令第13号)による大学入学資格検定に合格した者を含む。)

八 学教法第90条第2項の規定により大学に入学した者であって、本学において、大学における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの

九 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18歳に達したもの

(入学の時期)

第12条 入学の時期は、学年の始めとする。ただし、第16条第4項に規定する者については、学期の始めとすることがある。

(入学志願の手続)

第13条 入学志願者は、入学願書に所定の書類と別に定める検定料を添えて、願い出なければならない。

2 前項の検定料は、別に定めるところにより、免除することがある。

3 一度納付した検定料は、別に定めがある場合を除き返還しない。

4 入学志願の時期は、その都度決定して公告する。

(入学者選考)

第14条 入学志願者に対しては、学力その他に基づき選考の上、入学者を決定する。

2 前項の入学者選考の方法、期日等については、その都度決定して公告する。

3 入学者選考に関し必要な事項は別に定める。

(再入学)

第15条 本学を卒業した者(第17条第2項第1号及び第4項第2号により編入学を願い出た場合を除く。)又は第21条若しくは第22条の規定により退学した者が再び入学を願い出たときは、前条の規定にかかわらず、収容定員に余裕がある場合に限り、選考の上、入学を許可することがある。

2 三大学連合憲章に基づく協定による複合領域コースを履修する者(以下「複合領域コース履修者」という。)が第22条の規定により退学し、協定大学に編入学した後再び入学を願い出て入学を許可された場合であって、学院へ再び入学するときは3年次相当に、医学部医学科又は歯学部歯学科へ再び入学するときは退学時の在籍学科の在籍年次以上に入学する。

3 再入学に関し必要な事項は別に定める。

(転入学)

第16条 他の大学に在学している者で、本学に転入学を願い出る者があるときは、収容定員に余裕がある場合に限り、学力その他に基づき選考の上、入学を許可することがある。

2 前項の規定により、次の各号に掲げる学院等に転入学を願い出ることができる者は、当該各号に定める大学等に在学する者とする。

- 一 学院 国内の他の大学又は本学と協定を締結している外国の大学
- 二 医学部医学科 国内の他の大学の医学部医学科
- 三 歯学部歯学科 国内の他の大学の歯学部歯学科
- 四 医学部保健衛生学科及び歯学部口腔保健学科 国内の他の大学又は外国の大学

3 協定大学に2年以上在学する複合領域コース履修者(第22条の規定により退学した者を除く。)が本学の学院に転入学を願い出て選考の上、入学を許可された場合は3年次相当に、医学部保健衛生学科に転入学を願い出て選考の上、入学を許可された場合は2年次に入学する。

4 本学と協定を締結している外国の大学に2年以上在学する外国人が本学の学院に転入学を願い出て入学を許可された場合は、3年次相当に入学する。

5 転入学に関し必要な事項は別に定める。

(編入学)

第17条 高等専門学校又は短期大学を卒業した者で、本学の学院に編入学を願い出た者があるときは、学力その他に基づき選考の上、入学を許可する。

2 次の各号のいずれかに該当する者で、本学の医学部医学科の2年次に編入学を願い出た者があるときは、学力その他に基づき選考の上、入学を許可する。

- 一 大学(本学を含む。)を卒業した者(医学を履修する課程を卒業した者を除く。)
- 二 学教法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者
- 三 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者(学校教育における15年の課程を修了し、学士の学位に相当する学位を取得したと本学において認めた者を含む。)

3 短期大学を卒業した者で、本学の医学部保健衛生学科の2年次又は歯学部口腔保健学科口腔保健衛生学専攻の2年次に編入学を願い出た者があるときは、学力その他に基づき選考の上、入学を許可する。

4 次の各号のいずれかに該当する者で、本学の歯学部口腔保健学科口腔保健工学専攻の2年次に編入学を願い出た者があるときは、学力その他に基づき選考の上、入学を許可する。

- 一 高等専門学校又は短期大学を卒業した者
- 二 大学(本学を含む。)を卒業した者
- 三 歯科技工士を養成する専修学校の専門課程のうち、文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者

5 編入学に関し必要な事項は別に定める。

(誓約書)

第18条 入学を許可された者は、所定の誓約書を提出し、これに記載された事項を守らなければならない。

第3章 休学、留学、退学、転学並びに転学院及び転系

(休学)

第19条 傷病その他やむをえない理由のため一定期間以上学修することができないときは、許可を受けて休学することができる。

2 傷病のため学修することが不適当と認められる学生及び行方不明の学生に対しては、休学を命ずることがある。

3 休学した期間は、在学期間に算入しない。

4 休学に関し必要な事項は、別に定める。

(留学)

第20条 外国の大学又はこれに相当する高等教育機関等に留学しようとするときは、願い出て留学することができる。

2 留学した期間は、在学期間に算入する。

3 留学に関し必要な事項は、別に定める。

(願いによる退学)

第21条 傷病その他やむをえない事情があるときは、願い出て退学することができる。

(協定大学編入学のための退学)

第22条 複合領域コース履修者が協定大学に編入学するときは、願い出て退学するものとする。

(転学)

第23条 他の大学に転学しようとするときは、あらかじめ許可を受けなければならない。

(転学院及び転系)

第24条 学院に所属する者のうち、転学院又は転系を志願する者については、別に定めるところにより、許可することがある。

第4章 授業科目、単位数及び履修方法等

(授業科目、単位数及び履修方法等)

第25条 教育上の目的を達成するために必要な授業科目、単位数及び履修方法等については、別に定める。

(授業の方法)

第26条 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行う。

2 前項の授業は、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

3 第1項の授業は、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。

4 第1項の授業の一部を、本学の校舎及び附属施設以外の場所で行うことができる。

5 授業の方法に関し必要な事項は、別に定める。

(成績評価基準等の明示等)

第27条 本学においては、学生に対して、授業の方法及び内容並びに1年間の授業の計画をあらかじめ明示するものとする。

2 本学においては、学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準に従って適切に行うものとする。

(教育内容等の改善のための組織的な研修等)

第28条 本学においては、学生に対する教育の充実を図るため、授業の内容及び方法を改善するための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

第5章 履修の認定及び学位等

(授業科目の履修の認定)

第29条 授業科目の履修の認定については、別に定める。

(他の大学における授業科目の履修等)

第30条 本学において教育上有益と認めるときは、学生が他の大学において履修した授業科目について修得した単位を、60単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとして認定することができる。

2 前項の規定は、学生が、第19条の規定により休学し、当該休学期間中に外国の大学において授業科目を履修する場合、第20条の規定により外国の大学に留学する場合、外国の大学等が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合及び外国の大学等の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。

(入学前の既修得単位の認定)

第31条 本学において教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位(大学設置基準(昭和31年文部省令第28号)第31条第1項に規定する科目等履修生及び同条第2項に規定する特別の課程の履修(いわゆる履修証明プログラムをいう。))により修得した単位を含む。)を、本学における授業科目の履修により修得したものとして認定することができる。

2 前項の規定により認定することができる単位数は、編入学及び転入学の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、前条第1項(同条第2項において準用する場合を含む。)の規定により本学において修得したものとして認定する単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

(卒業)

第32条 第5条に規定する修業年限以上在学し、所定の授業科目を履修し、次の区分により定める単位数以上を修得した者については、卒業を認める。

学院／学部・学科・専攻			卒業に必要な単位数
学院			各学院が定める124単位以上の単位数以上
医学部	医学科		219.5単位以上
	保健衛生学科	看護学専攻	132単位以上
		検査技術学専攻	142.5単位以上
歯学部	歯学科		199.5単位以上
	口腔保健学科	口腔保健衛生学専攻	129.5単位以上
		口腔保健工学専攻	130.5単位以上

2 前項に規定する単位数には、各学院又は学部が別に定める授業科目の単位数を含まなければならない。

3 第1項の規定による卒業に必要な単位数のうち、第26条第2項に規定する授業の方法により修得した単位数は、60単位を超えないものとする。ただし、卒業に必要な単位数が124単位を超える学院又は学部にあつては、その超える単位数を60単位に加えて卒業要件として認定することができる。

(早期卒業)

第33条 本学の学院に3年以上在学(学校教育法施行規則(昭和22年文部省令第11号)第149条の規定に該当する者を含む。)し、所定の授業科目を履修し、前条第1項に規定する各学院の定める124単位以上の単位数以上を優秀な

成績をもって修得したと認められる者については、[第5条](#)及び[前条第1項](#)の修業年限に係る規定にかかわらず、卒業を認めることができる。

- 2 [前項](#)に規定する単位数には、各学院が別に定める授業科目の単位数を含まなければならない。
- 3 [第1項](#)の規定による卒業に必要な単位数のうち、[第26条第2項](#)に規定する授業の方法により修得した単位数は、60単位を超えないものとする。ただし、卒業に必要な単位数が124単位を超える学院にあっては、その超える単位数を60単位に加えて卒業要件として認定することができる。
- 4 早期卒業に関し必要な事項は、別に定める。

(学位)

第34条 [前2条](#)の規定により、卒業を認められた者に対し、次の区分により学位を授与する。

学院／学部・学科・専攻			授与する学位(専攻分野)
理学院			学士(理学)
工学院			学士(工学)
物質理工学院			学士(理学)又は学士(工学)
情報理工学院			学士(理学)又は学士(工学)
生命理工学院			学士(理学)又は学士(工学)
環境・社会理工学院			学士(工学)
医学部	医学科		学士(医学)
	保健衛生学科	看護学専攻	学士(看護学)
		検査技術学専攻	学士(保健学)
歯学部	歯学科		学士(歯学)
	口腔保健学科		学士(口腔保健学)

(学位の授与)

第35条 学位の授与については、[東京科学大学学位規程\(令和6年規程第91号\)](#)による。

(教育職員免許状)

第36条 学院において[教育職員免許法\(昭和24年法律第147号\)](#)及び[教育職員免許法施行規則\(昭和29年文部省令第26号\)](#)に規定する所定の単位を修得した者が取得できる教育職員免許状の種類及び免許教科は、[別表2](#)のとおりとする。

第6章 入学料及び授業料

(入学料)

第37条 入学、再入学、転入学及び編入学の選考に合格した者で入学のため所要の手續をとろうとする者は、所定の期日までに別に定める入学料を納付しなければならない。ただし、[第42条](#)の規定により入学料の免除又は徴収猶予を申請した者については、免除又は徴収猶予を許可し、又は不許可とするまでの間、入学料の徴収を猶予する。

- 2 [前項](#)の規定にかかわらず、[第22条](#)の規定により退学した複合領域コース履修者が協定大学に編入学した後、再入学する場合は、入学料は徴収しないものとする。

(授業料)

第38条 授業料の額は、別に定めるところによるものとし、各年度に係る授業料について、次の区分で納付しなければならない。この場合において、それぞれの学期において納付する額は、年額の2分の1に相当する額とする。

納付区分	納期
前期分	5月31日まで
後期分	11月30日まで

- 2 [前項](#)の規定にかかわらず、学生の申出があったときは、前期分の授業料を徴収するときに、当該年度の後期分の授業料を併せて徴収するものとする。
- 3 [前2項](#)の規定にかかわらず、医学部及び歯学部の入学を許可される者の申出があったときは、入学年度の前期分又は前期分及び後期分の授業料を、入学を許可するときに併せて徴収するものとする。

(既納の入学料及び授業料)

第39条 一度納付した入学料及び授業料は返還しない。

(休学者及び復学者の授業料)

第40条 学生が休学を許可され、又は命ぜられ、[次の各号](#)のいずれかに該当する場合は、月割(前期の最終月は9月1日から前期の最終日まで、後期の初月は後期の開始日から10月末日までとみなす。以下同じ。)により、休学当月の翌月(休学の開始日が月の初日である場合にあっては、休学当月)から復学当月の前月までの授業料を免除する。

- 一 [第38条第1項](#)に規定する授業料の納期までに休学を願い出た場合
- 二 [第42条](#)の規定により、授業料の徴収猶予の許可を受けている場合
- 2 [前項](#)の規定により、授業料の免除を受けた学生が、[第38条第1項](#)に規定する授業料の納期より後に復学した場合にあっては、復学当月から当該学期末までに係る授業料を、直ちに納付しなければならない。
(退学者等の授業料)

第41条 退学又は除籍の場合であっても、その学期に属する分の授業料は、納付しなければならない。ただし、学生が退学を許可され、[次の各号](#)のいずれかに該当する場合は、月割により、退学当月の翌月以降の授業料を免除する。

- 一 [第38条第1項](#)に規定する授業料の納期までに退学を願い出た場合
- 二 [次条](#)の規定により、授業料の徴収猶予の許可を受けている場合
- 2 停学を命ぜられた場合であっても、その期間中の授業料は、納付しなければならない。
- 3 [前2項](#)の規定にかかわらず、[第46条第7号](#)に規定する死亡による除籍となった者その他別に定める者の除籍日の属する学期の未納の授業料は、全額を免除することがある。
(入学料及び授業料の免除又は徴収猶予)

第42条 入学料及び授業料は、別に定める基準により、免除又は徴収猶予することができる。

(授業料返還の特例)

第43条 [第39条](#)の規定にかかわらず、[第38条第3項](#)の規定に基づき授業料を納付した者が、入学年度の前年度の3月31日までに入学を辞退した場合には、納付した者の申出により、当該授業料を返還する。

- 2 [第39条](#)の規定にかかわらず、授業料を納付した者において、当該授業料に係る期間に、休学した者については、月割により、休学当月の翌月(休学の開始日が月の初日である場合にあっては休学当月)から復学当月の前月までの授業料を、卒業、退学又は除籍により在籍しなくなった者については、月割により、卒業日、退学日又は除籍日の属する月の翌月以降の授業料を返還する。

第7章 表彰及び懲戒並びに除籍

(表彰)

第44条 学生に表彰に値する行為があったときは、表彰することがある。

- 2 表彰に関し必要な事項は、別に定める。

(懲戒)

第45条 学生が法令若しくは本学の規則に違反し、又は学生としての本分に反する行為を行ったときは懲戒する。

- 2 懲戒は、退学、停学及び訓告とする。
- 3 懲戒に関し必要な事項は、別に定める。

(除籍)

第46条 [次の各号](#)のいずれかに該当する者は、除籍する。

- 一 学力劣等で成業の見込みがないと認められるとき。
- 二 在学期間が[第6条](#)に規定する年数を超えるとき。
- 三 休学期間が[第19条第4項](#)に基づき別に定める期間を超えるととき。
- 四 入学料の免除若しくは徴収猶予を許可されなかった者又は半額免除若しくは徴収猶予を許可された者が、納付すべき入学料を所定の期日までに納付しなかったとき。
- 五 授業料の納付を怠り、督促しても、なお、納付しなかったとき。
- 六 [第19条第2項](#)の規定により休学を命ぜられた行方不明の学生が、別に定める休学期間を経過しても復学できないとき。
- 七 死亡したとき

第8章 科目等履修生等

(科目等履修生)

第47条 本学の学生以外の者で、本学が開設する授業科目のうち一又は複数の授業科目を履修することを願い出る者があるときは、選考の上、科目等履修生として入学を許可することがある。

- 2 科目等履修生に関し必要な事項は、別に定める。

(特別聴講学生)

第48条 他の大学との協定に基づき、国内の他の大学の学生で本学が開設する授業科目を履修することを願い出る者があるときは、特別聴講学生として入学を許可することがある。

- 2 特別聴講学生に関し必要な事項は、別に定める。

(海外交流学生)

第49条 本学と外国の大学との学術交流協定等に基づき、本学の教員の下で教育研究指導を受けることについて当該大学の学部学生から志願がある場合には、海外交流学生として、入学を許可することがある。

- 2 海外交流学生に関し必要な事項は、別に定める。

(海外訪問学生)

第50条 本学と外国の大学との相互了解に基づき、本学の教員の下で教育研究指導を受けることについて当該大学の学部学生から志願がある場合には、本学において教育研究上有益と認められ、支障のない場合に限り、海外訪

- 問学生として入学を許可することがある。
- 2 海外訪問学生に関し必要な事項は、別に定める。
(短期交流学生)

第51条 国内の他の大学等の学生で、本学と国内の他の大学等との間における学術交流のため、当該他の大学等の授業科目(別に定めるものを除く。)の一環として本学の教員から指導又は助言を受けることを志願する者があるときは、支障のない場合に限り、短期交流学生として入学を許可することがある。

- 2 短期交流学生に関し必要な事項は、別に定める。

第9章 寄宿舍

第52条 本学に、寄宿舍を置く。

- 2 寄宿舍に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この学則は、令和6年10月1日から施行する。

- 2 次に掲げる学則は、廃止する。

一 東京工業大学学則(平成23年学則第3号)

二 東京医科歯科大学学則(平成16年規程第4号)

- 3 第2条第1項に定めるもののほか、本学に、次の学部及び学科(以下「旧学部等」という。)を置く。

理学部 数学科

地球惑星科学科

工学部 情報工学科

- 4 旧学部等は、この学則の施行の日(以下「施行日」という。)前に東京工業大学に入学し、施行日において引き続き当該学部等に在学する者(この項において「在学生」という。)が当該学部等に在学しなくなるまでの間、存続するものとし、在学生の修学に係る取扱いについては、なお従前の例による。

- 5 別表1の規定にかかわらず、令和8年度の医学部医学科の入学定員は101人とし、令和8年度から令和13年度までの情報理工学院及び医学部医学科(令和9年度から令和13年度までにあつては、医学部医学科に限る。)に係る同表の「収容定員」欄に掲げる数並びに学院、学部及び大学の収容定員の合計については、次表のとおりとする。

学院・学部	系・学科	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度
情報理工学院	数理・計算科学系 情報工学系	488	—	—	—	—	—
	(第3年次相当編入学定員)	4	—	—	—	—	—
計		492	—	—	—	—	—
学院計		4,452	—	—	—	—	—
医学部	医学科	604	589	574	558	542	526
		(第2年次編入学定員)	25	25	25	25	25
	計	629	614	599	583	567	551
学部計		1,450	1,435	1,420	1,404	1,388	1,372
合計		5,902	5,927	5,912	5,896	5,880	5,864

- 6 この学則第8章に定めるもののほか、当分の間、社会環境的な要因により、在籍している外国の大学での継続的な学修が困難となった者又は在籍予定の外国の大学での学修が困難となった者については、東京科学大学学則附則第6項及び大学院学則附則第6項に基づく海外特例学生に関する暫定取扱規程(令和7年規程第71号)の規定に基づき、海外特例学生として入学を許可することがある。

附 則(令6.10.1学3)

この学則は、令和7年4月1日から施行する。

附 則(令7.7.4学3)

この学則は、令和7年7月4日から施行する。

附 則(令7.9.22学5)

この学則は、令和8年4月1日から施行する。

別表1(第3条関係)

学院・学部	系・学科	専攻	入学定員 人	編入学定員 人	収容定員 人
理学院	数学系 物理学系 化学系 地球惑星科学系	—	151		604

計			151		604
工学院	機械系 システム制御系 電気電子系 情報通信系 経営工学系	—	358		1,432
	(第3年次相当編入学定員)			9	18
計			358	9	1,450
物質理工学院	材料系 応用化学系	—	183		732
	(第3年次相当編入学定員)			5	10
計			183	5	742
情報理工学院	数理・計算科学系 情報工学系	—	132		528
	(第3年次相当編入学定員)			2	4
計			132	2	532
生命理工学院	生命理工学系	—	150		600
	(第3年次相当編入学定員)			10	20
計			150	10	620
環境・社会理工学院	建築学系 土木・環境工学系 融合理工学系	—	134		536
	(第3年次相当編入学定員)			4	8
計			134	4	544
学院計			1,108	30	4,492
医学部	医学科	—	85		510
		(第2年次編入学定員)		5	25
	計		85	5	535
	保健衛生学科	看護学専攻	55		220
		検査技術学専攻	35		140
計			175	5	895
歯学部	歯学科		—		318
	口腔保健学科	口腔保健衛生学専攻	22		88
		口腔保健工学専攻	10		40
		(第2年次編入学定員)		5	15
		計	10	5	55
計			85	5	461
学部計			260	10	1,356
合計			1,368	40	5,848

別表2(第36条関係)

学院	免許状の種類	免許教科
理学院	中学校教諭一種免許状	数学、理科
	高等学校教諭一種免許状	数学、理科
工学院	高等学校教諭一種免許状	情報、工業
物質理工学院	中学校教諭一種免許状	理科
	高等学校教諭一種免許状	理科、工業
情報理工学院	中学校教諭一種免許状	数学
	高等学校教諭一種免許状	数学、情報

生命理工学院	中学校教諭一種免許状	理科
	高等学校教諭一種免許状	理科
環境・社会理工学院	高等学校教諭一種免許状	工業

(趣旨)

第1条 東京科学大学(以下「本学」という。)の学士課程における学修については、東京科学大学学則(令和6年学則第1号。以下「学則」という。)に定めるもののほか、この規程による。

(授業科目及びその単位数等)

第2条 授業科目及びその単位数は、各学院又は各学部(以下「各学院等」という。)の定めるところによる。

- 2 各学院等は、授業科目を必修科目、選択科目及び自由科目に分けて体系的に編成するものとし、卒業の要件として修得を必要としている授業科目のほか、卒業の要件に算入しない授業科目を置くことができる。
- 3 学院において必要と認める場合は、前項の授業科目のほか、選択必修科目を設けて、体系的に編成することができる。
- 4 授業科目及び単位数等に関し必要な事項は、別に定める。

(単位の計算方法及び授業期間)

第3条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算するものとする。

- 一 講義及び演習については、15時間以上30時間以内の別に定める時間数の授業をもって1単位とする。
- 二 実験、実習、製図及び実技については、30時間以上45時間以内の別に定める時間数の授業をもって1単位とする。
- 2 各授業科目の授業は、各学院では、各クォーター(学則第8条第2項に基づき各学期を前半と後半に分けた期間をいう。)において8週にわたる期間を単位として行うものとし、各学部では、各学期において10週又は15週にわたる期間を単位として行うものとする。ただし、教育上の必要があり、かつ、十分な教育効果をあげることができると認められる場合は、この限りでない。

(履修申告及び再履修)

第4条 学生は、所定の期間内に、履修申告を行うものとする。

- 2 学生は、第6条第2項の規定により不合格となった授業科目を再履修することができる。
- 3 履修申告及び再履修に関し必要な事項は、別に定める。

(履修申告の上限単位数)

第5条 学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、卒業の要件として学生が修得すべき単位数について、学生が1学年又は1学期に履修申告できる単位数の上限(以下「履修申告上限単位数」という。)を定めるものとする。

- 2 履修申告上限単位数に関し必要な事項は、別に定める。

(授業科目の履修の認定及び学修の評価)

第6条 授業科目の履修の認定は、授業の目的、形態又は内容に応じ、平常の学修成果や試験等の評価により、総合的に行う。

- 2 前項の規定による評価は、100点満点をもって表し、60点以上を合格とする。ただし、点数をもって評価しがたい場合は、合格(到達目標を最低限達成している。)及び不合格(到達目標を達成していない。)の評価をもってこれに代えることがある。
- 3 前2項の評価基準は、次の表のとおりとする。

評価基準	評価	単位認定
授業科目の到達目標を期待された水準を超えて達成した	90～100	合格
授業科目の到達目標を全て達成した	80～89	
授業科目の到達目標を概ね達成した	70～79	
授業科目の到達目標のうち最低限を達成した	60～69	
授業科目の到達目標を達成していない	0～59	不合格

- 4 第2項の評価により合格した者には、学期ごとに所定の単位を与える。なお、既修得単位の取消し及び成績の更新はできない。
- 5 学生は、第2項の評価の結果に疑義があるときは、別に定めるところにより、成績の確認又は不服申立てを行うことができる。
- 6 前各項のほか、授業科目の履修の認定及び学修の評価に関し必要な事項は、別に定める。

(学修の評価におけるGrade Point制度)

第7条 Grade Point(以下「GP」という。)とは、前条の学修の評価に基づき算出される0又は0.5から4.5までの数値をいう。

- 2 GPは、次の計算式により算出するものとする。ただし、学修の評価が59点以下の授業科目については「0」とする。

$$GP = (\text{学修の評価} - 55) / 10$$

- 3 Grade Point Average(以下「GPA」という。)とは、個々の学生の学修到達度を計る数値であって、履修申告した授業科目ごとのGPに単位数を乗じ、その総和を履修申告した授業科目の単位数の総和で除して算出されるものをいう。
- 4 Grade Point Total(以下「GPT」という。)とは、履修申告した授業科目ごとのGPに単位数を乗じ、その総和を特定の値で除して算出されるものをいう。
- 5 前各項のほか、GP、GPA及びGPTに関し必要な事項は、別に定める。
(試験等)

第8条 第6条第1項に定める試験等は、学院における期末試験及び学部における本試験並びに各学院等において独自に実施する試験等並びに追試験及び再試験とする。

- 2 試験方法は、授業の目的、形態に応じ、授業担当教員が決定する。
- 3 期末試験及び本試験等をやむを得ない理由により受けられなかった者については、別に定めるところにより、追試験を行うことがある。
- 4 期末試験及び本試験等又は追試験を受験し、第6条第2項の評価に合格しなかった者については、別に定めるところにより、再試験を行うことがある。
- 5 前各項のほか、試験等に関し必要な事項は、別に定める。
(他の大学における授業科目の履修等)

第9条 学生は、学則第30条第1項の規定に基づき、他の大学における授業科目の履修及び単位の認定を希望する場合は、所定の書類により所定の期間内に、所属する学院の長(以下「学院長」という。)又は学部の長(以下「学部長」という。)に申請し、許可を受けなければならない。

(外国の大学における授業科目の履修等)

第10条 学則第30条第2項の規定に基づき、外国の大学における授業科目の履修等を希望する場合の取扱いについては、別に定める。

(入学前の既修得単位の認定)

第11条 学則第31条の規定による単位認定を願い出た学生がある場合は、各学院等において教育上有益と認めるときは、別に定める授業科目及び単位数を超えない範囲で、かつ、合計60単位を超えない範囲で認定することができる。ただし、学院における系への所属に係る学生の選考に用いる授業科目として別に定めるもののうち、必修科目の認定は行わない。

(再入学者、転入学者及び編入学者の既修得単位の認定)

第12条 学則第15条の規定による再入学者に係る授業科目の既修得単位については、各学院等において審査の上、再入学した学院又は学部において修得した授業科目の単位として認定することができる。

2 学則第16条の規定による転入学者及び学則第17条の規定による編入学者に係る既修得単位については、各学院等において審査の上、別に定める授業科目の単位として認定することができる。

(卒業の要件等)

第13条 進級要件又は卒業要件等は、各学院等が別に定める。

(広域学修制度)

第14条 本学に、学生の所属する学院若しくは系又は学科等における専門分野以外の分野における幅広い教養及び専門力の涵養を目的として、広域学修制度を設ける。

- 2 前項の広域学修制度の目的を達成するため、本学に、学生が広域な学修を可能とするプログラムを置くものとする。
- 3 前項のプログラムは、次の各号に掲げるプログラムに分類するものとし、その趣旨は当該各号に定めるものとする。
- 一 挑戦的学修プログラム 新たな分野の学修に挑むことで、分野を横断した多様な素養及び幅広い視野や見識を身につけた人材を養成する。
 - 二 特別専門学修プログラム 分野横断的、かつ、機動的に編成された教育拠点において、学士課程の異なる専門分野を有機的に連携した教育を実施し、先端的分野や社会の課題に対応できる実務的人材を養成する。
- 4 前項の分類に基づき置かれるプログラムの履修要件等については、別に定める。

(雑則)

第15条 この規程に定めるもののほか、学士課程における学修に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この規程は、令和6年10月1日から施行する。
- 2 次に掲げる規程等は、廃止する。
- 一 東京工業大学学修規程(平成16年規程第10号)
 - 二 東京工業大学におけるGPA制度に関する要項(平成28年1月8日制定)
 - 三 東京医科歯科大学学部教育におけるGPA制度取り扱いに関する要項(平成28年3月31日制定)

- 3 令和6年9月30日において現に東京医科歯科大学の各学部に進学する者(以下「在学者」という。)及び令和6年10月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者に適用するGPA制度については、[第7条](#)の規定にかかわらず、なお従前の例による。

(趣旨)

第1条 この規程は、東京科学大学学則(令和6年学則第1号。以下「学則」という。)第45条第3項及び東京科学大学大学院学則(令和6年学則第2号。以下「大学院学則」という。)第58条第3項の規定に基づき、東京科学大学(以下「本学」という。)における学生の懲戒及び教育的措置(以下「懲戒等」という。)に関し必要な事項を定めるものとする。

(基本的な考え方)

第2条 懲戒等は、対象となる行為の態様、経緯、結果、影響等を総合的に判断し、教育的配慮を加えて行うものでなければならない。

2 懲戒等によって学生に科せられる不利益は、過重なものとなってはならない。

3 懲戒等の取扱いについては、刑事訴追の有無を処分決定の絶対的な基準とはしないものとする。

(懲戒等の対象となる行為)

第3条 懲戒等の対象となる行為は、次に掲げるとおりとする。

一 犯罪行為又は犯罪未遂行為

二 国立大学法人東京科学大学におけるハラスメントの防止等に関する規則(令和6年規則第57号)第2条第7号に規定する行為

三 国立大学法人東京科学大学情報倫理規則(令和6年規則第69号)第3条に規定する行為

四 試験における不正又は論文の作成における不正等学問的倫理に反する行為

五 本学の教育研究活動を妨害する行為

六 本学の名誉・信用を失墜させる行為

七 本学の規則に違反する行為

八 その他学生の本分に著しく反する行為

(懲戒処分の種類及び内容)

第4条 懲戒処分の種類及び定義は、次に掲げるとおりとする。

一 退学 本学の学生としての身分を喪失させること。

二 停学 6月以下の期間を定めて、又は期間を定めずに、登校を禁じること。

三 訓告 文書により注意を与え、将来を戒めること。

2 停学期間の計算は、暦日によるものとする。

3 停学期間は、在学期間に算入する。ただし、卒業又は修了に係る在学期間の要件においては、在学期間に算入しない。

4 停学期間が1月以内の場合には、前項ただし書の規定は適用しない。

5 停学又は訓告の懲戒処分を受けた学生は、学長に反省文を提出しなければならない。

(教育的措置)

第5条 学院、学部及び研究科(以下「学院等」という。)の長(以下「学院長等」という。)は、第3条に規定する行為を行った当該学院等に所属する学生が、懲戒処分に相当しないとされた場合においても、学生の本分についての反省を促すため、当該学生に対し、次に掲げる教育的措置を行うことができる。

一 厳重注意 口頭又は文書により、強く反省を求めること。

二 注意 口頭又は文書により、反省を求めること。

(停学期間中の措置)

第6条 停学期間中の学生は、授業科目等の履修、定期試験等の受験、学位論文審査の申請、大学施設の利用及び課外活動への参加をすることができない。ただし、大学施設の利用については、学院長等が、特に必要と認めた場合は、許可することがある。

2 停学期間中の学生に対しては、当該学院等は、面談等により、更生に向けた指導を適宜行うものとする。

3 前項に規定する面談等は、必要に応じカウンセラー等の専門家の協力を得て行うことができるものとする。

4 停学期間中の休学の願い出は、受理しないものとする。

(定期試験等における不正行為)

第7条 定期試験等における不正行為を行った学生が、当該不正行為を行った学期に受験した定期試験等は全て無効とし、当該学期に履修した授業科目の成績を0点又は不合格とする。ただし、学期又は学年をまたぎ開講される授業科目の取扱いとは別に定める。

2 定期試験等における不正行為を行った学生は、当該不正行為を行った学期において、新たに授業科目の履修は認めないものとする。

(謹慎)

第8条 学生が懲戒に該当する行為を行ったことが明白であり、かつ、停学以上の懲戒がなされることが確実である場合は、学長は、当該学生に懲戒等の決定前に謹慎を命ずることができる。この場合において、謹慎開始日から懲戒等の決定した日までの間は懲戒に準じ、当該学生の登校等を禁止する。

- 2 謹慎の期間は、その全部又は一部を停学期間に通算することができる。
(自宅待機)
- 第9条 学院長等は、ハラスメントの防止その他の教育上の配慮が求められる場合は、[第3条](#)に規定する行為を行ったことが明白な学生に対し、懲戒等が決定するまでの間、自宅待機を命じることができる。
- 2 学院長等は、自宅待機を命じた学生に、授業科目の履修、大学施設の利用及び課外活動への参加を制限することができる。
- 3 自宅待機の期間は停学期間に含めないものとする。
- 4 自宅待機の期間中に謹慎に変更となる場合は、変更日から謹慎の扱いとする。
(懲戒等の決定前の休学又は自主退学)
- 第10条 学長は、[第3条](#)に規定する行為を行った学生が、懲戒等の決定前に休学又は退学を願い出た場合は、受理しないものとする。
(調査委員会)
- 第11条 学院長等は、学生の懲戒等の対象となる事案について、事実の確認及び当該学生を含む関係者への事情聴取(以下「事実調査」という。)を行うため、調査委員会を置くものとする。
- 2 異なる学院等に所属する複数の学生が関与している事案については、当該学生の所属する学院等で合同の調査委員会を置くことができる。合同の調査委員会を置かない場合であっても、各学院等の調査委員会は、相互に連携して事実調査を行うものとする。
- 3 [前2項](#)の規定にかかわらず、[第3条第2号](#)に係る事案については、ハラスメント対策委員会が行う事実調査をもって、[同条第3号](#)に係る事案については、情報倫理委員会が行う事実調査をもって、調査委員会及び事実調査に代えるものとする。
(学生懲戒審査委員会)
- 第12条 懲戒処分の要否及び懲戒処分を要する場合のその内容の案(以下「処分案」という。)、期間の定めのない停学の解除の可否及び不服申立の調査等について審議するため、学長の下に学生懲戒審査委員会(以下「審査委員会」という。)を置く。
- 2 審査委員会は、次に掲げる委員を持って組織する。
 - 一 理事のうちから学長が指名する者 1人
 - 二 副学長のうちから学長が指名する者 若干人
 - 三 学院を主担当する専任の教授のうちから学長が指名する者 1人
 - 四 大学院医歯学総合研究科、大学院保健衛生学研究科、医学部及び歯学部(以下「研究科等」という。)に所属する専任の教授から学長が指名する者 1人
 - 五 学長が委嘱する学外有識者 1人
 - 六 その他学長が必要と認める者
- 3 審査委員会に委員長を置き、[前項第1号](#)の委員をもって充てる。
- 4 委員長は、審査委員会を招集し、その議長となる。
- 5 審査委員会には、必要に応じ班を設けることができる。
- 6 審査委員会は、必要があると認めた場合は、オブザーバーとして委員以外の者の出席を求め、その意見を聞くことができる。
(審査委員会に置ける議決)
- 第13条 審査委員会は、構成員の3分の2以上の出席がなければ、議事を開き、議決することができない。
- 2 審査委員会の議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
(懲戒等の手続)
- 第14条 学院長等は、学生について、懲戒等の対象となる事案が生じた場合は、速やかに事実関係を把握し、審査委員会を通じて学長に報告するとともに、調査委員会に、事実調査を行わせるものとする。
- 2 調査委員会は、調査に当たり当該学生に対し事情聴取を行うものとする。ただし、学生が心身の故障、身柄の拘束その他の事由により直接事情聴取を受けることができないときは、これに替えて文書による質問、照会等により事情聴取することができる。
- 3 調査委員会は、事情聴取に際し、学生から補佐人の同席及び補佐人からの陳述について求めがあった場合は、これに応じなければならない。ただし、事情聴取の妨げになると調査委員会が認めた場合、補佐人の数を制限することができる。
- 4 調査委員会は、事情聴取に際し、当該学生に口頭又は文書により弁明する機会を与えるものとする。ただし、学生が、正当な理由なく事情聴取に応ぜず、弁明しない場合は、この権利を放棄したものとみなす。
- 5 学生は、本学が行う必要な調査については、誠実に協力しなければならない。
- 6 調査委員会は、事実調査の結果に基づき、調査結果報告書を作成し、学院長等に報告するものとする。
- 7 学院長等は、[前項](#)の報告を受けたときは、審査委員会に調査結果報告書を報告するものとする。
- 8 審査委員会は、[前項](#)の報告を受けたときは、学長に報告するとともに審査委員会において処分案の審議を開始するものとする。

- 9 審査委員会は、処分案の審議に当たり、事実関係の再調査が必要と認めた場合は、学生又は補佐人等から事情聴取を行うことができる。
- 10 第2項及び第3項の規定は、前項の事情聴取について準用する。
- 11 審査委員会は、処分案を作成し、学長に報告するものとする。
- 12 学長は、前項の報告を受けたときは、審査委員会を通じて学院長等に処分案を通知するものとする。
- 13 学院長等は、前項の規定により通知を受けた処分案が懲戒処分を要するものであったときは、処分案の審議を教授会に付議し、審査委員会を通じてその審議結果を学長に報告するものとする。この場合において、教授会の審議結果が審査委員会の処分案と異なる場合は、その理由を付するものとする。
- (懲戒処分の決定)
- 第15条 学長は、前条第13項の報告に基づき、懲戒処分の要否及び懲戒処分を要する場合のその内容を決定し、審査委員会を通じて学院長等に通知するものとする。
- (懲戒等の告知)
- 第16条 懲戒等の効力は、学生に懲戒等を告知したときに生じるものとする。
- 2 懲戒処分の告知は、前条の通知を受けた学院長等が学生及び保護者等又は連絡先人に懲戒処分通知書を交付して行うものとする。ただし、学生の所在を知ることができない場合においては、公示送達又は他の適切な方法により行うものとする。
- 3 教育的措置の告知は、学院長等が学生に行うものとする。
- (懲戒処分の告示等)
- 第17条 学長は、懲戒処分を行ったときは、教育研究評議会に報告するとともに、学生の氏名を伏して学内に告示するものとする。
- 2 学院長等は、教育的措置を行ったときは、教育研究評議会に報告するものとする。
- (懲戒に関する記録)
- 第18条 懲戒処分を行ったときは、学生の学籍簿の「特記事項」又は累加記録に記載するものとする。
- (逮捕・勾留時の取扱い)
- 第19条 学生が逮捕・勾留され、学生からの事情聴取を行うことができない場合においては、事情聴取及び弁明の機会が付与されないことにより学生の権利を損なうことがないように十分に配慮した上で懲戒等を行うことができる。
- (期間を定めない停学の解除)
- 第20条 学院長等は、期間を定めない停学の処分を受けた学生について、その反省の程度及び学修意欲等を総合的に判断して、処分を解除することが妥当であると認めた場合は、教授会の議を経て、審査委員会を通じて学長に対し、当該処分の解除を申請することができる。
- 2 学長は、前項の申請があったときは、当該処分の解除の可否の審議を審査委員会に依頼するものとする。
- 3 審査委員会は、当該処分の解除の可否を審議し、学長に報告するものとする。
- 4 学長は、前項の報告を受けたときは、審査委員会を通じて学院長等に審査委員会の審議結果を通知するものとする。
- 5 停学処分解除の告知は、学院長等が学生に停学処分解除通知書を交付して行うものとする。
- 6 学長は、停学処分の解除を行ったときは、教育研究評議会に報告するものとする。
- 7 停学処分の解除を行ったときは、学生の学籍簿の「特記事項」又は累加記録に記載するものとする。
- 8 期間を定めない停学は、6月を経過した後でなければ解除することができないものとする。
- (不服申立て)
- 第21条 懲戒処分を受けた学生は、事実誤認、新事実の発見その他正当な理由がある場合は、懲戒処分通知書を受け取った日の翌日から起算して14日以内に、文書により、学長に対し、審査委員会を通じて不服申立てをすることができる。
- 2 学長は、前項の不服申立てを受理したときは、不服申立てを却下する場合を除き、審査委員会の議を経て、速やかに再調査の要否を決定しなければならない。
- 3 前項において、学長が不服申立てを却下する場合又は再調査の必要がないと決定した場合は、速やかに、当該学生に通知するものとする。この場合の通知は、学院長等が学生に文書を交付して行うものとする。
- 4 第2項において、学長が再調査の必要があると決定した場合の調査等については、第14条から第18条までの規定を準用する。なお、当初の調査等を行った調査委員会の委員となった者については、再調査等を行う調査委員会の委員とすることはできない。
- 5 不服申立ては、懲戒処分の効力を妨げないものとする。
- (科目等履修生等の懲戒等)
- 第22条 この規程の規定は、科目等履修生、特別聴講学生、海外交流学生、海外訪問学生、短期交流学生、大学院研究生及び特別研究学生の懲戒等について準用する。
- (守秘義務)
- 第23条 学生の懲戒等に関する事項に関わった職員は、職務上知り得た情報を漏らしてはならない。その職を退いた後も同様とする。

(事務)

第24条 学生の懲戒等に関する事務は、教育推進部学生支援課において処理する。

(雑則)

第25条 この規程に定めるもののほか、学生の懲戒等に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規程は、令和6年10月1日から施行する。

2 次に掲げる規程等は、廃止する。

一 東京工業大学学生の懲戒等に関する規程(平成24年規程第1号。以下「旧東工大規程」という。)

二 東京医科歯科大学における学生の懲戒に関する申合せ(平成20年2月8日申合せ。以下「旧医科歯科大申合せ」という。)

3 この規程の施行の日前にした行為に係る懲戒等については、旧東工大規程及び旧医科歯科大申合せの規定は、なおその効力を有する。ただし、令和7年4月1日以降、旧東工大規程の適用においては、この規程第12条の学生懲戒審査委員会を、旧東工大申合せ第11条の学生懲戒審査委員会とみなし、旧医科歯科大申合せの適用においては、この規程第12条の学生懲戒審査委員会を、旧医科歯科大申合せ6. (5)の懲戒委員会とみなす。

(趣旨)

第1条 この細則は、東京科学大学学修規程(令和6年規程第88号。以下「学修規程」という。)第15条の規定に基づき、東京科学大学に置く医学部及び歯学部における全学科に共通する授業科目(以下「全学科共通科目」という。)及び専門に関する授業科目(以下「専門科目」という。)の履修及び試験に関し必要な事項を定めるものとする。

(授業科目及びその単位数)

第2条 授業科目の単位数及び履修学年については、別に定めるとおりとする。

- 2 必修科目は、教育目的を達成するため、修了要件として修得を必要としている科目とする。
- 3 選択科目は、学生の履修目的に応じて選択し、修得単位を修了要件に算入する科目とする。
- 4 自由科目は、修了要件に算入しない科目とする。
- 5 授業科目の前3項の規定による区分については、別に定めるとおりとする。

(単位の計算方法)

第2条の2 学修規程第3条に定めるもののほか、講義実習(講義と実習を組み合わせた授業の形態をいう。以下に同じ)の授業科目の単位数は、講義10時間、実習15時間の授業をもって1単位とすることを基準として計算するものとする。

(成績不服申立て)

- 第3条 学修規程第6条第2項に規定する学修の評価の結果により付される授業科目の履修の認定の可否について疑義がある場合は、所定の期日までに科目責任者に対して確認を行うことができる。
- 2 前項の確認に対する回答に不服がある場合は回答受領後3日以内に別紙に定める「成績不服申立書」を所属する学科の教育委員会に対して学科を所掌する教務係を介して提出することができる。
 - 3 前項の成績不服申し立て書に対して提出を受けた教育委員会は、別紙に定める「成績不服申立回答書」を用いて回答を行う。

(本試験)

第4条 学修規程第8条第1項に定める本試験は、定期試験と共用試験とする。

(定期試験)

第5条 定期試験とは、履修した授業科目について行う試験をいう。

- 2 定期試験を受験することのできる学生は、原則として次のとおりとする。
 - 一 講義及び演習 当該授業科目の授業時間数の3分の2以上履修した者
 - 二 実習 当該授業科目の授業時間数の4分の3以上履修した者
 - 三 講義実習 講義の授業時間数の3分の2以上履修し、実習の授業時間数の4分の3以上履修した者

(共用試験)

第6条 共用試験とは、医療従事者として必要となる知識、習得した技術を確認することを目的とした試験をいう。

- 2 共用試験を受験することのできる学生は、別に定める。
- 3 共用試験の結果は、合否をもって掲示する。
- 4 前3項のほか、共用試験に関し必要な事項は、各学部が別に定めることができる。

(追試験)

第7条 追試験とは、病気その他やむを得ない理由により本試験を受験できなかった者に対して行う試験をいう。ただし、追試験は、原則として1回限りとする。

- 2 追試験を受験しようとする者は、試験申請書を用いて、本試験終了後、原則として5日以内に医学部長又は歯学部長(以下「学部長」という。)に願い出て、許可を受けなければならない。
- 3 追試験受験決定許可が否の場合は、本試験を不合格とする。
- 4 前3項のほか、追試験に関し必要な事項は、各学部が別に定めることができる。

(再試験)

第8条 再試験とは、本試験又は追試験を受験し、不合格となった者に対し行う試験をいう。ただし、再試験は、原則として1回限りとする。

- 2 再試験の実施日時は、所定の期日までに公示する。
- 3 再試験は学部長等の判断により、受験を許可しないことがある。
- 4 再試験受験決定許可が否の場合は、当該授業科目を不合格とする。
- 5 前各項のほか、再試験に関し必要な事項は、各学部が別に定めることができる。

(入学前の既修得単位の認定(全学科共通科目))

第9条 学修規程第11条に定める入学前の既修得単位の認定にあたり、全学科共通科目の単位認定に関する必要な事項は、別に定める。

(編入学者の既修得単位の認定(全学科共通科目))

第10条 学修規程第12条に定める編入学者の既修得単位の認定に当たり、医学部医学科及び歯学部口腔保健学科口腔保健工学専攻における2年次編入学者の全学科共通科目の単位認定に必要な事項は、当該学部において別に定める。

(進級要件)

第11条 学生は、別に定める要件を満たさなければ、進級し、又は所定の授業科目を履修し、単位を修得することができない。

2 休学期間を除き、同一学年の在籍は2年までとし、2年を超える学生は、特別に考慮すべき事由のない限り、東京科学大学学則(令和6年学則第1号)第46条第1号に規定する「成業の見込みがない」者として、同条の規定により除籍する。

3 前項の場合において、大学は、教授会等における審議を行う前に、除籍の対象となる学生に対し、書面又は口頭による弁明の機会を与えなければならない。ただし、当該学生が、弁明の機会を与えられたにもかかわらず、正当な理由なく欠席し、又は文書を提出しなかった場合は、この権利を放棄したものとみなす。

4 第2項の場合において、教授会等における審議の後、当該学生から不服が申立てられた場合で、学部長等が再審議の必要性があると判断したときは、学部長等は、教授会等に再度審議を行わせるものとする。

(仮進級)

第12条 別に定める進級要件(歯学部口腔保健学科3年次にあつては、後期以降の授業科目の履修要件を含む。)を満たさない者について、仮進級を認めることができる。

2 仮進級に関し必要な事項は、各学部が別に定めることができる。

附 則

1 この細則は、令和6年10月1日から施行する。

2 次に掲げる規則(以下「旧規則」という。)は廃止する。

一 東京医科歯科大学学部専門科目履修規則(平成22年規則第41号)

二 東京医科歯科大学試験規則(平成23年規則第1号)

三 東京医科歯科大学全学共通科目履修規則(平成16年規則第217号)

3 この細則の施行の日(以下「施行日」という。)の前日において、東京医科歯科大学の各学部 に在学する学生(以下「在学者」という。)であつて、施行日以後、引き続き東京科学大学の各学部 に在学する者(施行日以後に在学者の属する年次に再入学、転入学又は編入学する者を含む。)に係る授業科目の履修等については、旧規則の規定は、なお効力を有する。

附 則(令6. 11. 5細75)

この細則は、令和6年11月5日から施行し、改正後の東京科学大学の学部における学修に関する細則の規定は、令和6年10月1日から適用する。

附 則(令6. 11. 5細76)

1 この細則は、令和7年4月1日から施行する。

2 この細則の施行の日(以下「施行日」という。)の前日において、東京科学大学の各学部 に在学する学生(以下「在学者」という。)であつて、施行日以後、引き続き東京科学大学の各学部 に在学する者(施行日以後に在学者の属する年次に再入学、転入学又は編入学する者を含む。)に係る授業科目の履修等については、改正前の東京科学大学の学部における学修に関する細則の規定は、なおその効力を有する。

附 則(令7. 3. 7細10)

1 この細則は、令和7年4月1日から施行する。ただし、第2条の2、第5条、第9条、第12条及び別表2(1医学部医学科及び4歯学部歯学科の備考に限る。この項において同じ。)の改正規定は、令和7年3月7日から施行し、改正後の東京科学大学の学部における学修に関する細則第2条の2、第5条、第9条、第12条及び別表2の規定は、令和6年10月1日から適用する。

2 この細則の施行の日(以下「施行日」という。)の前日において、東京科学大学の各学部 に在学する学生(以下「在学者」という。)であつて、施行日以後、引き続き東京科学大学の各学部 に在学する者(施行日以後に在学者の属する年次に再入学、転入学又は編入学する者を含む。)に係る授業科目の履修等については、改正前の東京科学大学の学部における学修に関する細則別表2(1医学部医学科及び4歯学部歯学科の備考を除く。)及び別表3の規定は、なおその効力を有する。

附 則(令7. 10. 14細35)

1 この細則は、令和8年4月1日から施行する。

2 この細則の施行の日(以下「施行日」という。)の前日において、東京科学大学の各学部 に在学する学生(以下「在学者」という。)であつて、施行日以後、引き続き東京科学大学の各学部 に在学する者(施行日以後に在学者の属する年次に再入学、転入学又は編入学する者を含む。)に係る改正前の東京科学大学の学部における学修に関する細則別表1、別表2及び別表3の規定は、なお効力を有する。

別紙 (成績不服申立書、成績不服申立回答書)

年 月 日

教育委員会 御中

(成績不服申立人)

学部 _____

学科・専攻 _____

学籍番号 _____

氏名 _____

成績不服申立書

科目名 _____

科目責任者名 _____

申立内容 (記入欄)

--

科目責任者への確認内容 (記入欄)

(確認実施日 年 月 日)

確認内容に対しての科目責任者の回答 (記入欄)

(回答受領日 年 月 日)

※「科目責任者の確認内容」及び「確認内容に対しての科目責任者の回答」については、経緯の分かる資料を添付し記入に代えることも可能とする。

(成績不服申立書受領日 年 月 日)

年 月 日

(成績不服申立人)

学部

学科・専攻

学籍番号

氏名 殿

教育委員会

成績不服申立回答書

年 月 日付け成績不服申立書に対して、下記のとおり回答いたします。

記

成績不服申立書に対する回答

本件への措置

以上

(教育委員会議決日 年 月 日)

(趣旨)

第1条 この要項は、東京科学大学学修規程(令和6年規程第88号。以下「学修規程」という。)第7条第5項及び東京科学大学大学院学修規程(令和6年規程第94号。以下「大学院学修規程」という。)第8条第5項の規定に基づき、東京科学大学(以下「本学」という。)に置く学院並びに医学部、歯学部及び研究科における学修の評価におけるGrade Point Average(以下「GPA」という。)に関し必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第2条 この要項において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- 一 Grade Point(以下「GP」という。)学修規程第7条第1項及び第2項並びに大学院学修規程第8条第1項及び第2項に規定する履修申告した授業科目の成績に基づき算出される0又は0.5から4.5までの数値をいう。
- 二 Grade Point Average(以下「GPA」という。)学修規程第9条第3項及び大学院学修規程第8条第3項に規定する授業科目のGPと単位数の積の総和を履修申告した授業科目の単位数の総和で除した数値をいう。
- 三 クォーターGPA 各クォーターにおけるGPAをいう。
- 四 学期GPA 各学期におけるGPAをいう。
- 五 年度GPA 各年度におけるGPAをいう。
- 六 通算GPA 在学期間におけるGPAをいう。

(対象学生)

第3条 GPA制度を適用する対象学生は、本学の学士課程、修士課程、博士課程及び専門職学位課程に在学する全ての学生とする。ただし、工学部に在学する学生を除く。

(対象授業科目)

第4条 GPA制度の対象とする授業科目(以下「対象授業科目」という。)は、各課程において卒業又は修了の要件となる全ての授業科目とする。ただし、次に掲げる授業科目は、対象としない。

- 一 学修規程第6条第2項ただし書及び大学院学修規程第7条第2項ただし書の規定により「合格」又は「不合格」をもって学修の評価を行う授業科目
- 二 学修規程第9条から第12条まで並びに大学院学修規程第10条及び第12条の規定により単位を認定された授業科目
- 三 東京科学大学の学院における学修に関する細則(令和6年細則第48号)別表に規定する研究関連科目、横断科目(教養科目)及び横断科目(専門科目)並びに東京科学大学大学院の学院における学修に関する細則(令和6年細則第50号)別表に規定する講究科目、研究関連科目、横断科目(教養科目)及び横断科目(専門科目)に分類される授業科目

(GPAの算出方法)

第5条 学院においては、クォーターGPA、学期GPA、年度GPA及び通算GPAについて、全ての対象授業科目によるGPA並びに専門科目群及び教養科目群のGPAを算出するほか、学院の学士課程の学生については、併せて授業科目区分ごとの対象授業科目によるGPAを算出するものとする。

2 医学部、歯学部及び研究科においては、全ての対象授業科目による年度GPA及び通算GPAを算出するものとする。

3 前2項のGPAは、次の各号の計算式により算出するものとし、その数値に小数点以下第二位未満の端数があるときは、小数点以下第三位の値を四捨五入するものとする。

- 一 $\text{クォーターGPA} = (\text{当該クォーターに履修申告した対象授業科目のGP} \times \text{単位数}) \text{の総和} / (\text{当該クォーターに履修申告した対象授業科目の単位数}) \text{の総和}$
- 二 $\text{学期GPA} = (\text{当該学期に履修申告した対象授業科目のGP} \times \text{単位数}) \text{の総和} / (\text{当該学期に履修申告した対象授業科目の単位数}) \text{の総和}$
- 三 $\text{年度GPA} = (\text{当該年度に履修申告した対象授業科目のGP} \times \text{単位数}) \text{の総和} / (\text{当該年度に履修申告した対象授業科目の単位数}) \text{の総和}$
- 四 $\text{通算GPA} = (\text{在学期間に履修申告した対象授業科目のGP} \times \text{単位数}) \text{の総和} / (\text{在学期間に履修申告した対象授業科目の単位数}) \text{の総和}$

(再履修科目の単位修得時の取扱い)

第6条 不合格とされた授業科目を再履修し、単位を修得した場合は、当該科目の不合格とされた成績をGPAの算出から除外し、修正するものとする。

(GPAの成績証明書等への記載)

第7条 学院においては、成績証明書及び学業成績書、医学部、歯学部及び研究科においては成績証明書に、通算GPAを記載するものとする。

2 学院においては、教務Webシステムに、クォーターGPA、学期GPA、年度GPA及び通算GPAを記載するものとする。

(雑則)

第8条 この要項に定めるもののほか、GPA制度の取扱いに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要項は、令和6年10月1日から施行する。

附 則(令7.3.7)

- 1 この要項は、令和7年4月1日から施行する。
- 2 この要項の施行の日(以下「施行日」という。)の前日において、東京科学大学の各学部 に在学する学生(以下「在学者」という。)であって、施行日以後、引き続き東京科学大学の各学部 に在学する者(施行日以後に在学者の属する年次に再入学、転入学又は編入学する者を含む。)に係る対象授業科目については、改正前の東京科学大学におけるGPA制度に関する要項の規定は、なおその効力を有する。

附 則(令7.6.16)

この要項は、令和7年6月16日から施行し、改正後の東京科学大学におけるGPA制度に関する要項の規定は、令和7年4月1日から適用する。

(趣旨)

第1条 この要項は、東京科学大学(以下「本学」という。)における公欠の制度(以下「公欠制度」という。)に関し、必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第2条 この要項において「公欠」とは、本学の学生が、本学が認める一定の事由によりやむをえず授業を欠席した場合、これを欠席扱いとはしない取扱いをいう。

(対象学生)

第3条 公欠制度の対象学生は、次のとおりとする。

- 一 本学の学士課程又は大学院課程に在学する者
- 二 前号のほか、授業科目の履修が認められている者

(対象授業科目)

第4条 公欠制度が適用される授業科目は、原則として、学士課程及び大学院課程の全ての授業科目とする。ただし、授業科目の実施形態等を踏まえた授業担当教員の判断により、公欠制度が適用されない場合がある。

(適用事由)

第5条 公欠が適用される事由、公欠の期間の目安、届出時の必要書類及び届出時期は、次のとおりとする。

公欠事由	公欠として認められる期間の目安		届出時必要書類	届出時期の目安
(1) 学校保健安全法施行規則(昭和33年6月13日文部省令第18号。以下「施行規則」という。)第18条に規定する感染症に罹患した場合、又は感染しているおそれがある場合	施行規則第19条に規定する出席停止の期間の基準のとおり(右記診断書等に記載されている出席停止の期間のとおり)		診断書等	公欠事由該当期間終了後1週間以内
(2) 親族(配偶者及び2親等以内の親族に限る。)が死亡した場合	配偶者及び1親等(父母・子)	連続する7日以内(休日を含む。)	会葬礼状等	公欠事由該当期間終了後1週間以内
	2親等(祖父母、兄弟・姉妹、孫)	連続する3日以内(休日を含む。)		
(3) 裁判員制度による裁判員若しくは裁判員候補者又は検察審査会制度による検察審査員若しくは補充員に選任された場合	裁判所又は検察審査会事務局からの通知書その他事実が確認できる書類に記載のある期間		裁判所又は検察審査会からの通知書等	書類到着後から公欠事由期間開始前まで
(4) 被災等により通学が困難と学長が認めた場合	学長が必要と認めた期間		罹災証明書等	公欠事由発生後、相当の期間内

(手続等)

第6条 学生は、前条に規定する事由が生じたことにより公欠を希望する場合は、別に定める公欠届に、同条に定める必要書類を添えて、担当部署を通じて学長に提出するものとする。

- 2 担当部署は、前項の届出があったときは、前条の規定により公欠が適用される事由に該当することを確認した上で、当該学生が公欠制度の適用を希望する履修科目の授業担当教員に、届出の内容を連絡するものとする。
- 3 前項の連絡を受けた授業担当教員は、授業科目の実施形態等を踏まえた上で、公欠の適否を判断し、適当と認める場合には、配慮の内容等を当該学生に通知するものとする。

(学生への配慮義務)

第7条 授業担当教員は、公欠が適当であると認めた学生から求めがあった場合は、当該学生に対して、履修上の不利益が生じないよう配慮するものとする。

- 2 前項のほか、授業担当教員は、試験実施日に公欠が適当であると認めた学生に対しては、追試験又は課題提出による評価等の配慮を行うものとする。

(公欠制度の適用除外等)

第8条 第6条の規定により公欠が適当であると認めた場合であっても、公欠の期間が長期間にわたることにより、当該授業科目の単位を修得することが困難であると授業担当教員が判断した場合は、当該授業科目の履修申告を不許可とする場合がある。

- 2 第5条に規定する公欠が適用される事由に該当しない場合であっても、授業担当教員又は該当する授業科目を開設する部局の長等の判断により、欠席扱いとしない等の特別の配慮をする場合がある。

(雑則)

第9条 この要項に定めるもののほか、公欠制度に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この要項は、令和6年10月1日から施行する。
- 2 次に掲げる申合せ及び要項は、廃止する。
 - 一 東京工業大学における公欠の制度に関する申合せ(令和元年11月28日教育・国際連携本部制定)
 - 二 国立大学法人東京医科歯科大学における授業欠席に関する取扱要項(令和2年11月30日制定)
- 3 学部及び研究科に在学する学生については、令和7年3月31日までの間、第4条ただし書の規定は適用しない。

(趣旨)

第1条 東京科学大学の歯学部における専門に関する授業科目(以下「専門科目」という。)の履修及び試験等に関しては、東京科学大学学則(令和6年学則第1号。以下「学則」という。)、東京科学大学学修規程(令和6年規程第88号。以下「学修規程」という。)及び東京科学大学の学部における学修に関する細則(令和6年細則第49号。以下「学修細則」という。)に定めるもののほか、この内規の定めるところによる。

(授業科目及びその単位数)

第2条 学修細則第2条第1項に定める授業科目の単位数及び履修学年並びに同条第3項から第5項までの規定による区分については、別表1に定めるとおりとする。

(定期試験)

第3条 学修細則第5条第1項に定める定期試験とは、科目試験をいう。

2 科目試験とは、履修した授業科目について行う試験をいう。

3 科目試験の受験資格は、学修細則第5条第2項の定めるところによる。

4 科目試験の受験資格について、授業科目の目的、形態又は内容により、学修細則第5条第2項各号の規定と異なる条件を課すときは、教育要項に明示する。

(共用試験)

第4条 学修細則第6条に定める共用試験(以下「共用試験」という。)については、臨床実習前共用試験と臨床実習後共用試験の2種類とし、歯学科において実施する。

2 共用試験のうち、臨床実習前共用試験は5年次の包括臨床実習導入履修前に実施する。

3 臨床実習前共用試験を受験することのできる学生は、別表1の1に定める歯学部歯学科における授業科目のうち4年次に履修する必修科目の全ての単位を修得した学生とする。

4 共用試験のうち、臨床実習後共用試験は6年次の包括臨床実習Ⅲの履修期間内に実施する。

5 共用試験のうち、臨床実習後共用試験を受験することのできる者は、包括臨床実習導入、包括臨床実習Ⅰ及び包括臨床実習Ⅱの単位を修得した学生とする。

(追試験)

第5条 学修細則第7条に定める追試験の実施時期については、次のとおりとする。

一 歯学科においては、原則として当該科目を履修した学年の末までに実施するものとする。

二 口腔保健学科においては、原則として当該科目を履修した学期の学期内に実施するものとする。

(再試験)

第6条 学修細則第8条に定める再試験の実施時期については、次のとおりとする。

一 歯学科においては、原則として当該科目を履修した学年の末までに実施する。

二 口腔保健学科においては、原則として当該科目を履修した学期の学期内に実施するものとする。

(進級要件)

第7条 学修細則第11条第1項に定める進級要件は、別表2に定めるとおりとする。

2 前項のほか、全学科共通科目に係る進級要件については、東京科学大学学部全学科共通科目学修内規(令和6年10月1日医学部教授会・歯学部教授会共同決定)の定めるところによる。

(仮進級)

第8条 本人の責によらない、やむを得ない事情により、試験等を受験できず、別表2に定める進級要件を満たさなかった学生については、所属学科の教育委員会において協議し、仮進級を認めることができる。

2 前項のほか、科目試験の不合格により、前条に定める進級要件を満たさなかった学生については、不合格となった科目が3科目以内、かつ、特別な事情がある場合に限り、所属学科の教育委員会において協議し、仮進級を認めることができる。

3 仮進級が認められた学生は、原則として翌年度4月末日(口腔保健学科3年次後期への仮進級が認められた学生にあっては原則として当年度の10月末日)までに、未修得科目の単位認定を受けなければならない。

4 第2項の不合格となった科目について、前項の単位認定を受けた場合の学修の評価は、60点とする。

附 則

1 この内規は、令和6年10月1日から施行する。

2 次に掲げる内規は、廃止する。

一 東京医科歯科大学歯学部歯学科専門科目履修内規(平成23年2月2日歯学部長制定)

二 東京医科歯科大学歯学部歯学科試験内規(平成23年2月2日歯学部長制定)

三 東京医科歯科大学歯学部口腔保健学科専門科目履修内規(平成23年12月7日歯学部長制定)

四 東京医科歯科大学歯学部口腔保健学科試験内規(平成23年12月7日歯学部長制定)

附 則(令6.12.18)

1 この内規は、令和7年4月1日から施行する。

- 2 この内規の施行の日(以下「施行日」という。)の前日において、東京科学大学の歯学部 に在学する学生(以下「在学者」という。)であって、施行日以後、引き続き東京科学大学の歯学部 に在学する者(施行日以後に在学者の属する年次に再入学、転入学又は編入学する者を含む。)に係る学修の評価におけるGrade Point制度及び歯学科における仮進級制度は、改正前の東京科学大学歯学部専門科目学修内規の規定は、なおその効力を有する。

附 則(令7.9.17)

この内規は、令和8年4月1日から施行する。

別表1 授業科目及び単位数(第2条関係)

1 歯学部歯学科

授業科目	単位数		履修学年											
			1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次	
	必修	自由	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
多職種連携 I	0.5		○											
歯学入門	1			○										
早期臨床体験実習	1			○										
基礎情報医歯学	1			○										
行動科学基礎	2			○										
社会と環境	1.5			○										
遺伝の分子基盤	0.5			○										
細胞機能の分子基盤	1			○										
生命を構成する分子とその代謝	1			○										
硬組織生化学の分子基盤	1			○										
生命の分子基盤実習	0.5			○										
人体の構造と機能(歯の解剖)	0.5			○										
研究入門 I	0.5			○										
研究入門 I α		1		○										
AI・データサイエンスのための数学	2			○										
医療とAI・ビッグデータ入門	2			○										
アカデミック・リテラシー	1			○										
生命科学基礎	2			○										
英語Ⅱ※2・※3	1～4				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
International Course For Clinical Dentistry L1 ※3	2				○	○								
International Course For Clinical Dentistry L2 ※3									○					
International Course For Clinical Dentistry L3 ※3											○			
人体の構造と機能(人体解剖学)	4				○									

人体の構造と機能(人体解剖実習)	4				○									
人体の構造と機能(組織学総論)	1				○									
人体の構造と機能(組織学各論)	2					○								
人体の構造と機能(人体の発生)	1					○								
学年混合セミナーⅠ	0.5				○									
医療とAI・ビッグデータ応用	1				○									
人体の構造と機能(神経系の機能Ⅰ)	0.5				○									
人体の構造と機能(神経系の機能Ⅱ)	0.5				○									
人体の構造と機能(生命維持のための生体機能)	0.5					○								
人体の構造と機能(口腔生理)	0.5					○								
人体の構造と機能(生理学実習)	0.5					○								
人体の構造と機能(口腔組織学)	1					○								
予防と健康管理	3					○								
歯科医療基礎Ⅰ	1					○								
医療統計学・疫学基礎	1					○								
研究入門Ⅱ	0.5					○								
研究入門Ⅱα		1				○								
自然科学演習	1					○								
System—based medical terminologyⅠ	1						○							
System—based medical terminologyⅡ ※2・※3	1							○		○		○		○
IMRAD Format Presentation in English ※2	1						○	○	○	○				
多職種連携Ⅱ	0.5						○							
臨床歯学イントロダクション	1						○							
感染と生体防御(免疫学・細菌学)	4						○							
病因と病態(病理学)	3.5						○							
病態科学演習	3.5						○							
生体と薬物(薬理学)	3						○							
歯科法医学	1						○							

隣接医学Ⅰ(内科等)	1.5						○							
隣接医学Ⅱ(外科・耳鼻科・眼科等)	1.5						○							
歯科医療基礎Ⅱ	2						○							
学年混合セミナーⅡ	0.5						○							
行動科学発展		1					○							
生命倫理	2						○	○						
歯科材料と歯科医療機器(歯科理工学)	3.5							○						
歯科放射線学基礎	1.5							○						
総合診療・地域医療	1							○						
課題統合セミナー	2							○						
研究入門Ⅲ	0.5							○						
研究実習Ⅰ	7							○						
研究実習Ⅱ	1								○					
保存修復学	2								○					
歯内治療学	2								○					
歯周病学	2								○					
全部床補綴学	2								○					
部分床補綴学	2								○					
口腔外科学	2								○					
歯科麻酔学	2								○					
高齢者歯科学	1								○					
歯科医療基礎Ⅲ	1.5								○					
学年混合セミナーⅢ	0.5								○					
冠橋義歯補綴学	2									○				
インプラント治療学	1.5									○				
歯科矯正学	2									○				
小児歯科学	2									○				
障害者歯科学	0.5									○				
歯科放射線学臨床	1									○				
医療統計学・疫学演習	1									○				
医療情報学	0.5									○				
基礎医歯学総合学習	0.5									○				
発展歯科臨床	3										○			
歯科心身医学	1										○			
包括臨床実習導入※4	4										○			
包括臨床実習Ⅰ	6										○			
International Course For C1		0.5										○	○	

inical Dentist ry Advanced														
包括臨床実習Ⅱ	15											○		
口腔顎顔面臨床 解剖	1.5											○		
長寿口腔健康科 学	1.5											○		
包括医療統合教 育Ⅰ	1											○		
多職種連携Ⅲ	1												○	
包括臨床実習Ⅲ ※5	11												○	
包括医療統合教 育Ⅱ	1												○	
歯科医療総合学 習	2													○
配属選択実習		2												○
デンタルエク スターンシップ※ 1・※2		1～6	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
計	163	6.5 ～1 1.5												

※1 所定のプログラムを修了した学生に対し、1プログラムにつき1単位を認定する。

ただし、一の学年に認定できる単位は、1単位を上限とする。

※2 履修学年が複数年にわたっている授業科目では、そのいずれかの学年で履修することができる。

※3 5科目から2単位以上修得する。

※4 包括臨床実習導入は、臨床実習前共用試験〔Computer Based Testing (CBT)及びPre—Clinical Clerkship Objective Structured Clinical Examination(Pre—CC OSCE)〕に合格しなければ、履修することができない。

※5 包括臨床実習Ⅲは臨床実習後共用試験〔臨床実地試験：Clinical Practice Examination(CPX)及び一斉技能試験：Clinical Skill Examination(CSX)〕に合格しなければ、単位を修得することができない。

2 歯学部口腔保健学科口腔保健衛生学専攻

区分	授業科目	単位数			履修学年							
					1年次		2年次		3年次		4年次	
		必修	選択	自由	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門 基礎 分野	科学英語Ⅰ	1					○					
	科学英語Ⅱ			1				○				
	英語Ⅱ			1～4			○	○	○	○	○	○
	International Course for Clinical Dentistry(ICCD) L1—L3 On—demand			1			○	○	○	○	○	○
	International Course for Clinical Dentistry(ICCD) L1—L3 On—line			1			○	○	○	○	○	○
	International Course for Clinical Dentistry(ICCD) Advanced			0.5								○
	人体の構造と機能	4				○	○	○				
	歯・口腔の構造と機能	5				○	○	○				
	疾病の成り立ちと回復過程の 促進	6					○	○	○			
	公衆衛生学	1				○						
	社会保障	1				○						
	高齢者福祉	1					○					

	保健医療サービス	2					○	○				
	社会調査・研究の基礎	1							○			
	生命倫理	0.5							○			
	メディア情報学基礎	1				○						
	多職種連携	1			○							
	AI・データサイエンスのための数学	2				○						
	医療とAI・ビッグデータ入門	2				○						
	アカデミック・リテラシー	1				○						
専門分野	歯科衛生学総論	1				○						
	臨床歯科医学	6					○	○	○			
	チーム医療の実践	1							○	○		
	口腔機能管理実習	1							○	○		
	高齢者歯科学	1							○	○		
	障害者歯科学	1								○		
	臨床医学	2							○			
	口腔疾患予防学	8					○	○	○			
	臨床口腔保健応用学	1									○	
	健康教育の基礎	2					○	○				
	食生活教育	1					○	○				
	健康教育の企画と実践	2							○	○		
	歯科衛生学演習	2									○	○
	生体材料学	1					○					
	口腔内科学	1						○				
	歯科診療補助論	7					○	○	○			
	歯科衛生臨床実習	13								○	○	○
	歯科衛生臨地実習	6									○	○
	臨床体験実習	1				○	○	○				
統合分野	歯科衛生過程	2						○	○			
	卒業研究	4				○	○	○	○	○	○	○
	児童・家庭福祉	1					○					
	障害児・者福祉	1					○					
	地域福祉	1					○					
	コミュニケーション論	1					○					
	社会福祉実習	1							○	○		
	口腔保健と国際協力※		1						○			
	地域口腔保健論※		1								○	○
	先端歯科医療学※		1								○	○
口腔保健衛生選択科目	在宅訪問・災害口腔保健医療※		1								○	○
	歯科衛生臨床・臨地応用論			1							○	○
	口腔保健衛生エクスターンシップ			1						○	○	○
	口腔保健マネジメント論			1							○	○
計	保健行動科学			1							○	○
		98.5	4	8.5 ～1 1.5								

※選択科目から1単位以上修得する。

3 歯学部口腔保健学科口腔保健工学専攻

区分	授業科目	単位数			履修学年							
		必修	選択	自由	1年次		2年次		3年次		4年次	
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎分野	科学的思考の基盤と生活	口腔保健と専門職	1			○						
		科学英語Ⅰ	1				○					
		科学英語Ⅱ	1						○			
		英語Ⅱ		1～4			○	○	○	○	○	○
		International Course for Clinical Dentistry (ICCD)L1—L3 On—demand※1		1			○	○	○	○	○	○
		International Course for Clinical Dentistry (ICCD)L1—L3 On—line		1			○	○	○	○	○	○
		International Course for Clinical Dentistry (ICCD) Advanced		0.5								○
		ヘルスプロモーション	1				○					
		メディア情報学基礎	1			○						
		メディア情報学応用	1			○						
		コミュニケーション学	1						○			
		造形美術概論実習	1			○						
		グローバル口腔保健工学	1					○				
		グローバル口腔保健工学実習	1						○	○		
		AI・データサイエンスのための数学	2			○						
		医療とAI・ビッグデータ入門	2			○						
		アカデミック・リテラシー	1			○						
専門基礎分野	歯科技工と歯科医療	歯科技工士と法律	1								○	
		感染予防	2			○						
		ポストコロナ社会における感染症対策※1		1			○					
		口腔保健工学管理学	1						○			
		早期臨床体験実習	1			○						
		周産期手術支援工学	1						○			
		う蝕と歯周病	1			○						
		高齢者歯科学	2							○		
	歯・口腔の構造と機能	人体の構造と機能	2			○						
		歯の解剖学	1			○						
		口腔と全身の基礎医学	2				○	○				
		硬組織薬理学※1		1			○					
		画像解析学※1		1							○	
		歯の形態実習	2				○	○				
		臨床咬合学	1						○			
	歯科材料・	口腔保健理工学	3				○					
		口腔保健理工学実習	3				○					

専門分野	歯科技工器と加工技術	デジタルデンティストリー基礎	1						○				
		デジタルデンティストリー応用	1							○			
	有床義歯工学	顎顔面補綴学	1								○		
		顎補綴学実習	2.5								○		
		顔面補綴学実習	1								○		
		臨床義歯管理工学	1								○		
		スポーツ歯科学※1		1								○	
		顎関節症とオーラルアプライアンス※1		1								○	
		睡眠とオーラルアプライアンス※1		1								○	
		全部床義歯補綴学	1					○					
		全部床義歯実習	2					○					
		デジタル全部床義歯実習	2					○					
		部分床義歯補綴学	1						○				
		部分床義歯補綴学実習	4						○				
		デジタル金属床義歯実習	2							○			
	歯冠修復工学	歯冠修復学	2						○				
		歯冠修復学実習	5						○				
		審美修復学実習	2							○			
		デジタル歯冠修復学実習	1							○			
		デジタルデンティストリー実習	1									○	
		インプラント歯科補綴学実習	2							○			
	小児歯科学	小児歯科学	1								○		
		小児歯科学実習	1								○		
	矯正歯科学	矯正歯科学	2							○			
	歯科技工実習	再建工学包括臨床実習Ⅰ	3.5								○		
		再建工学包括臨床実習Ⅱ	6									○	○
		再建工学包括臨床実習Ⅲ※2		2								○	○
		統合実習基礎	1.5										○
		統合実習応用※1		1									○
統合分野	統合口腔保健工学	医療倫理	1							○			
		研究体験実習※1		1			○						
		研究実習Ⅰ	1							○	○		
		研究実習Ⅱ	4									○	○
		研究実習Ⅲ※2		2								○	○
		多職種連携Ⅰ	0.5			○							
		多職種連携Ⅱ	0.5							○			

	多職種連携Ⅲ	1										○	
	口腔保健工学エクステンションシップ			1	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	口腔保健工学企業研修※2		2									○	○
計		93.5	15	3.5 ～6.5									

※1 9科目から5単位以上修得する。

※2 3科目の中から1科目履修する。

4 全学科共通自由科目

授業科目	単位数	履修対象学年					
		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
Moral and Political Philosophy for Medicine	1	○	○	○	○	○	○
Biosocial Research Topics	1	○	○	○	○	○	○
Applied Critical Thinking for Health Sciences	1	○	○	○	○	○	○
Fundamentals of Global Health	1	○	○	○	○	○	○
Leadership	1	○	○	○	○	○	○
Negotiation	1	○	○	○	○	○	○
オンライン異文化交流(※1)	0.5～3	○	○	○	○	○	○
ポストコロナ社会における感染症対策	1	○	○	○	○	○	○
AI実践演習	1		○	○	○	○	○
アントレプレナー教育	1		○	○	○	○	○
疫学基礎	1	○	○	○	○	○	○
生物統計学基礎	1	○	○	○	○	○	○
生物統計学応用I	1	○	○	○	○	○	○
生物統計学応用II	1	○	○	○	○	○	○
臨床試験方法論基礎	1	○	○	○	○	○	○
臨床試験方法論応用	1	○	○	○	○	○	○
口腔疫学基礎	1	○	○	○	○	○	○
疫学応用	1	○	○	○	○	○	○
計	17.5～20						

※1 所定のプログラムを修了した学生に対し、0.5単位を認定する。ただし、同一年次・年度に認定できる単位は、0.5単位を上限とする。

5 医歯学系異分野研究プロジェクト科目

授業科目	単位数	履修対象学年			
		1年次	2年次	3年次	4年次
異分野研究プロジェクトA	1			○	○
異分野研究プロジェクトB	2			○	○
異分野研究プロジェクトC	4			○	○
異分野研究プロジェクトD	6			○	○

※東京科学大学の学院の学士課程に属する学生のみ履修可能。

別表2 進級要件(第6条、第7条関係)

1 歯学部歯学科

1年次	別表1の1に定める1年次に履修する必修科目の単位を全て修得しなければ、2年次に進級することができない。
-----	---

2年次	別表1の1に定める2年次に履修する必修科目の単位を、全て修得しなければ、3年次に進級することができない。
3年次	別表1の1に定める3年次に履修する必修科目の単位を全て修得しなければ、4年次に進級することができない。
4年次	別表1の1に定める4年次に履修する必修科目の単位を全て修得し、かつ、共用試験に合格しなければ、5年次に進級することができない。
5年次	別表1の1に定める5年次に履修する必修科目の単位を全て修得しなければ、6年次に進級することができない。

2 歯学部口腔保健学科口腔保健衛生学専攻

1年次	1年次の末までに次の授業科目の単位を修得しなければ、2年次に進級することができない。 一 公衆衛生学 二 社会保障 三 歯科衛生学総論 四 メディア情報学基礎 五 多職種連携 六 AI・データサイエンスのための数学 七 医療とAI・ビッグデータ入門 八 アカデミック・リテラシー (以下、1年次に実施される授業を対象とする) 九 人体の構造と機能 十 歯・口腔の構造と機能
2年次	2年次の末までに次の授業科目の単位を修得しなければ、3年次に進級することができない。 一 科学英語 I 二 人体の構造と機能 三 歯・口腔の構造と機能 四 高齢者福祉 五 保健医療サービス 六 健康教育の基礎 七 食生活教育 八 生体材料学 九 口腔内科学 十 臨床体験実習 十一 児童・家庭福祉 十二 障害児・者福祉 十三 地域福祉 十四 コミュニケーション論 (以下、2年次に実施される授業を対象とする) 十五 疾病の成り立ちと回復過程の促進 十六 臨床歯科医学 十七 口腔疾患予防学 十八 歯科診療補助論 十九 歯科衛生過程
3年次	3年次の前期までに次の授業科目の単位を修得しなければ、3年次後期以降の授業科目を履修することができない。 一 疾病の成り立ちと回復過程の促進 二 社会調査・研究の基礎 三 生命倫理 四 臨床歯科医学 五 臨床医学 六 口腔疾患予防学 七 歯科診療補助論 八 歯科衛生過程 (以下、3年次前期に実施される授業を対象とする) 九 健康教育の企画と実践 また、3年次の末までに次の授業科目の単位を修得しなければ、4年次に進級することができない。 十 チーム医療の実践 十一 口腔機能管理実習 十二 高齢者歯科学 十三 障害者歯科学 十四 健康教育の企画と実践 十五 社会福祉実習

3 歯学部口腔保健学科口腔保健工学専攻

1年次	1年次の末までに次の授業科目の単位を修得しなければ、2年次に進級することができない。 一 口腔保健と専門職 二 メディア情報学基礎 三 メディア情報学応用
-----	--

	四 造形美術概論実習 五 AI・データサイエンスのための数学 六 医療とAI・ビッグデータ入門 七 アカデミック・リテラシー 八 感染予防 九 早期臨床体験実習 十 う蝕と歯周病 十一 人体の構造と機能 十二 歯の解剖学 十三 多職種連携Ⅰ
2年次	2年次の末までに次の授業科目の単位を修得しなければ、3年次に進級することができない。 一 科学英語Ⅰ 二 ヘルスプロモーション 三 グローバル口腔保健工学 四 口腔と全身の基礎医学 五 歯の形態実習 六 口腔保健理工学 七 口腔保健理工学実習 八 デジタルデンティストリー基礎 九 全部床義歯補綴学 十 全部床義歯実習 十一 デジタル全部床義歯実習 十二 部分床義歯補綴学 十三 部分床義歯補綴学実習 十四 歯冠修復学 十五 歯冠修復学実習
3年次	3年次の前期までに次の授業科目の単位を修得しなければ、3年次後期以降の授業科目を履修することができない。 一 デジタル金属床義歯実習 二 審美修復学実習 三 デジタル歯冠修復学実習 また、3年次の末までに次の授業科目の単位を修得しなければ、4年次に進級することができない。 四 科学英語Ⅱ 五 コミュニケーション学 六 グローバル口腔保健工学実習 七 口腔保健工学管理学 八 周術期手術支援工学 九 高齢者歯科学 十 臨床咬合学 十一 デジタルデンティストリー応用 十二 顎顔面補綴学 十三 顎補綴学実習 十四 顔面補綴学実習 十五 臨床義歯管理工学 十六 インプラント歯科補綴学実習 十七 小児歯科学 十八 小児歯科学実習 十九 矯正歯科学 二十 再建工学包括臨床実習Ⅰ 二十一 医療倫理 二十二 研究実習Ⅰ 二十三 多職種連携Ⅱ

歯科技工士国家試験について

【試験の実施】

試験は毎年 1 回実施しますが、試験を施行する期日及び場所並びに受験願書の提出期限等は 9 月初旬に官報で公告いたします。

1. 試験日

令和 9 年 2 月 21 日（日）予定

2. 集合時間

各試験場とも午前 9 時 15 分までに受験番号に従い指定された試験会場に入室してください。災害等によって試験の開始時間等に変更が生じた場合は、「一般財団法人歯科医療振興財団」のホームページに掲載します。

3. 試験場（※本専攻は東京都の試験場で受験します。）

受験地	試験場	所在地
※ 東京都	日本歯科大学生命歯学部	東京都千代田区富士見 1-9-20

4. 試験科目

学説試験：歯科理工学、歯の解剖学、顎口腔機能学、有床義歯技工学、歯冠修復技工学、矯正歯科技工学、小児歯科技工学及び関係法規

実地試験：歯科技工実技

5. 受験資格

- (1) 文部科学大臣の指定した歯科技工士学校を卒業した者
- (2) 都道府県知事の指定した歯科技工士養成所を卒業した者
- (3) 歯科医師国家試験又は歯科医師国家試験予備試験を受けることができる者
- (4) 外国の歯科技工士学校若しくは歯科技工士養成所を卒業し、又は外国で歯科技工士免許を受けた者で、厚生労働大臣が前記（1）から（3）までに掲げる者と同等以上の知識及び技能を有すると認めた者

6. 受験手続

試験を受けようとする者は、受験願書、卒業証明書若しくは卒業見込証明書、歯科医師国家試験等を受けることができる者である旨を証する書類又は歯科技工士国家試

験受験資格認定書の写し及び写真（出願前 6 月以内に脱帽正面で撮影した縦 6 cm、横 4 cmのもので、その裏面に撮影年月日及び氏名を記載すること）が必要です。

なお、受験願書、写真用台紙、受験手数料払込用紙等は、当財団から 10 月下旬に各学校・養成所に送付されます。

受験に関する書類は指定期日までに一般財団法人歯科医療振興財団に提出してください。（本学では大学でまとめて送付します。）なお、卒業見込証明書を提出した者にあたっては、指定期日までに卒業証明書を提出してください。当該期日までに提出されないときは、当該受験は無効となります。（本学では大学でまとめて送付します。）

7. 受験手数料

受験手数料の額は 30,000 円です。

8. 試験当日の持参品

- （1）受験票
- （2）HB の鉛筆（シャープペンシル不可）及び黒のボールペン、マジック
- （3）消しゴム（砂消しゴムは不可）
- （4）昼食
- （5）実地試験に必要な技工用器具
- （6）その他（電卓機能及びメールの送受信機能がある時計は使用を禁止）

9. 合格者の発表

合格者の発表は約 1 か月後、一般財団法人歯科医療振興財団ホームページおよび厚生労働省ホームページの資格・試験情報のページにおいて、受験地、受験番号を掲示して発表し、即日合格証書を郵送します。

一般財団法人歯科医療振興財団：<http://www.dc-training.or.jp>

厚生労働省：<https://www.mhlw.go.jp>

10. その他

視覚、聴覚、音声機能もしくは言語機能に障害を有するもので受験を希望する者は、期日までに一般財団法人歯科医療振興財団に申し出てください。申し出た者については、受験の際にその障がいの状況に応じて必要な配慮を講ずることがあります。

学 生 周 知 事 项 等

湯島地区 学生周知事項（教育要項 2026 年度版）

1 連絡・通知

告示、通知、連絡（試験関係、休講情報、講義室変更、奨学金関係、健康診断、授業料の納付、呼び出し等）は、isct LMS（電子掲示板）や大学メールアドレス isct への配信、Slack への投稿で行います。

特に大学メールアドレスへの連絡は、プライベートなメールアドレスの使用とは異なりますので、1日に1回はメールを確認するように心がけ、見落として不利益を被らないよう十分注意してください。

2 電話等による学生の呼び出し等

電話等による学生の呼び出しは、緊急かつ重大な場合を除いて一切行わないので、各関係者（保護者等を含みます）に説明しておいて下さい。

3 学生証

学生証は、本学の学生である旨を証明するものです。

入学時に交付したものを卒業時まで使用しますので、紛失・破損等のないよう大切に取り扱いして下さい。

また、定期試験受験時、通学定期券の購入時等に提示を求められたときに提示できるよう、常に携帯するようにして下さい。

（1）再交付

学生証を紛失又は破損等した場合は、速やかに教務課 湯島学位審査グループ（1号館西1階）に申し出て、再交付の手続きを行って下さい。

再交付には費用がかかりますので注意してください。また再交付まで約1ヶ月近くの期間を要します。

（2）返却

卒業、退学、除籍、又は有効期間が経過した場合は、速やかに学生証を湯島学位審査グループに返却して下さい。なお、返却できない場合は費用を負担することになります。

4 証明書等

証明書等は湯島教務室 歯学教務グループまたは口腔保健教務グループにて発行するものと、自動発行機にて発行するものがあります。

(1) 歯学教務グループまたは口腔保健教務グループで発行するもの

(受付時間：8：30～17：15)

次に掲げるものは、歯学教務グループまたは口腔保健教務グループで発行しますので証明書交付願を提出して下さい。(交付は、原則として、提出のあった日の7日～10日後(休日を含まない)となります。)

①成績証明書

②卒業見込証明書(英文) ※ただし最終学年の在学者のみ申請可能

③在学証明書(英文)

※その他：上記以外の証明書等については、個別に歯学教務グループまたは口腔保健教務グループに相談して下さい。

(2) 自動発行機(利用時間：月～金 8：30～21：00)

在学証明書・卒業見込み証明書(最終学年在籍者のみ)は、学生談話室(5号館4階)に設置されている[自動発行機]にて発行します。

(問い合わせ先) 教務課 湯島学位審査グループ(03-5803-5074)

5 学生旅客運賃割引証(学割証)

(1) 概要

学生が課外活動又は帰省などでJR線を利用する場合、乗車区間が片道100kmを超えるときに旅客運賃の割引(2割)を受けることができます。

この制度は、修学上の経済的負担を軽減し、学校教育の振興に寄与することを目的とするものなので、計画的に使用すること。(年間使用限度：10枚/人)

(2) 注意事項

次に掲げる行為があったときは、普通運賃の2倍の追徴金を取られるばかりでなく本学の全学生に対する学割証の発行が停止されることがありますので、乱用又は不正に使用することのないよう注意して下さい。

①他人名義の学割証を使って乗車券を購入したとき

②名義人が乗車券を購入し、これを他人に使用させたとき

③使用有効期間を経過したものを使用したとき

(3) 学割証の発行

学割証は、学生談話室（5号館4階）に設置されている「自動発行機」にて発行します。

（利用時間：8：30～21：00）

（問い合わせ先）湯島学生支援室 学生支援総括グループ（03-5803-5077）

6 住所・氏名等の変更

本人又は保証人等の住所・本籍又は氏名等（電話番号を含む。）に変更が生じた場合は、速やかに歯学教務グループまたは口腔保健教務グループに申し出て所定の手続きをとって下さい。

この手続きを怠った場合、大学から本人又は保護者等に緊急に連絡する必要があるが生じても連絡が取れないので注意して下さい。

7 休学、復学、退学、公欠、欠席

(1) 休学

傷病や家庭の事情等を事由として、2か月以上休学する場合は、「休学願」を歯学教務グループまたは口腔保健教務グループに提出し、学長の許可を受けて下さい。（最大申請期間は1年以内の月末となります。）

なお、傷病を事由とした休学を願い出る場合は、医師の診断書の添付が必要となります。

休学を許可される期間は、通算して3年（36か月）を超えることができません。

※休学を願い出る場合は2か月以上前までに歯学教務グループまたは口腔保健教務グループに連絡を行うこと。

(2) 復学

休学している学生が、復学をする場合は許可を受けた休学期間が満了する場合は自動復学となります。

ただし、傷病を事由とした休学をしている場合は期間満了の場合も自動復学とはならず、「復学願」の提出が必要となります。（医師の診断書と保健管理センター発行の復学に関する意見書を添付する必要があります。）

また、休学許可期間の途中で復学を希望する場合は、その事由を問わず、「復学願」を歯学教務グループまたは口腔保健教務グループに提出し、学長の許可を受けて下さい。

※復学を願い出る場合は2か月以上前までに歯学教務グループまたは口腔保健グループに連絡を行うこと。

(3) 退学

本学を退学しようとする場合は、「退学願」を歯学教務グループまたは口腔保健教務グループに提出し、学長の許可を受けて下さい。

※退学を願い出る場合は2か月以上前までに歯学教務グループまたは口腔保健教務グループに

連絡を行うこと。

(4) 公欠

「東京科学大学における公欠の制度に関する要項」で公欠として認められる事由に該当し授業等を欠席する（した）場合は「公欠届」を歯学教務グループまたは口腔保健教務グループに提出して下さい。

公欠として認められる事由と必要添付書類及び届出時期は次の通りです。

公欠事由	公欠として認められる期間の目安	必要添付書類	届出時期の目安
(1) 学校保健安全法施行規則（昭和 33 年 6 月 13 日文科省令第 18 号。以下「施行規則」という。）第 18 条に規定する感染症に罹患した場合、又は感染しているおそれがある場合	施行規則第 19 条に規定する出席停止の期間の基準のとおり（右記診断書等に記載されている出席停止の期間のとおり）	診断書等	公欠事由該当期間終了後 5 日以内
(2) 親族（配偶者及び 2 親等以内の親族に限る。以下同じ。）が死亡した場合	配偶者及び 1 親等（父母・子）	会葬礼状等	公欠事由該当期間終了後 5 日以内
	2 親等（祖父母・兄弟・姉妹・孫）		
(3) 裁判員制度による裁判員若しくは裁判員候補者又は検察審査会制度による検察審査員若しくは補充員に選任された場合	裁判所または検察審査会事務局からの通知書その他の事実が確認できる書類に記載のある期間	裁判所又は検察審査会からの通知書等	書類到着後から公欠事由期間開始前まで
(4) 被災等により通学が困難と学長が認めた場合	学長が必要と認めた期間	罹災証明書等	公欠事由発生後、相当の期間内

(5) 欠席届

公欠に該当しない事由により、授業等を欠席した場合は「授業欠席届」を欠席期間の最終日から原則として 5 日以内に歯学教務グループまたは口腔保健教務グループに提出することができます。

8 台風等の自然災害や交通機関運休による休講措置（湯島地区）

湯島地区において、台風等の自然災害や交通機関運休に伴う授業の休講・試験の延長を決定した場合は、大学ホームページ「学生生活」トップページのお知らせ欄に掲載します。

（参考 URL）<https://www.tmd.ac.jp/faculties/kyukou/>

9 安否確認システムについて

安否確認システム（エマージェンシーコール）は、地震や火災をはじめとする災害等に際し、学生・教職員の安否確認等を行うためのものです。各自、登録マニュアルご参照のうえ、下記の登録サイトにアクセスし、緊急連絡先の登録を行ってください。

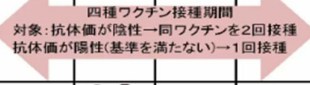
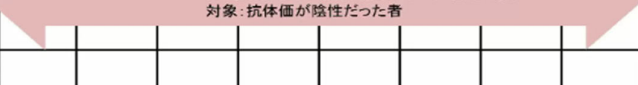
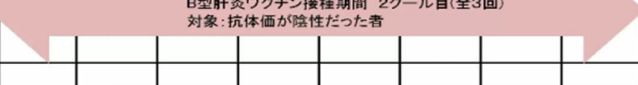
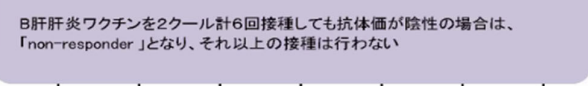
安否確認システム <https://www.gsmc.titech.ac.jp/anpi/anpi.html>

10 実習要件となる検査、ワクチン接種

歯学科、口腔保健学科の教育課程の中には臨地実習（附属病院をはじめ、近隣の医療機関等、臨床の現場で行う実習）が含まれます。こうした実習に参加するために、医学部、歯学部では実習要件を設定しています。

（参考 URL）https://www.tmd.ac.jp/hsc/74_59cdef94be987/

必要となる検査やワクチン接種の機会は全て大学で用意されています。期間内に参加できない場合は外部の医療機関にて実費対応をする必要が生じますので、検査や健康診断、ワクチン接種の案内を見逃さず、必ず参加する様にしてください。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年	 四種抗体検査 麻疹/風疹/ 流行性耳下腺炎/水痘 （対象：全員）		 1回目			 2回目						
 四種ワクチン接種期間 対象：抗体価が陰性→同ワクチンを2回接種 抗体価が陽性（基準を満たす）→1回接種												
2年	 B型肝炎抗原抗体検査 （対象：全員）	 1回目		 2回目					 3回目			
	 T スポット、TB検査 （対象：全員）											
 B型肝炎ワクチン接種期間 1クール目（全3回） 対象：抗体価が陰性だった者												
3年	 B型肝炎抗原抗体検査 （対象：2年次にB肝ワクチン 1クール目を接種した者）	 1回目		 2回目					 3回目			
 B型肝炎ワクチン接種期間 2クール目（全3回） 対象：抗体価が陰性だった者												
4年	 B型肝炎抗原抗体検査 （対象：2年でB肝ワクチン											
 B型肝炎ワクチンを2クール計6回接種しても抗体価が陰性の場合は、 「non-responder」となり、それ以上の接種は行わない												

11 ユニット試験時の注意事項

歯学科、口腔保健学科専門科目定期試験（筆記試験）時には定期試験時の注意事項に従ってください。遵守しない場合には不正行為を行ったとみなされます。

参考：東京科学大学学生の懲戒等に関する規程（抜粋）

（定期試験等における不正行為）

第7条 定期試験等における不正行為を行った学生が、当該不正行為を行った学期に受験した定期試験等は全て無効とし、当該学期に履修した授業科目の成績を0点又は不合格とする。ただし、学期又は学年

をまたぎ開講される授業科目の取扱いとは別に定める。

2 定期試験等における不正行為を行った学生は、当該不正行為を行った学期において、新たに授業科目の履修は認めないものとする。

12 ロッカーの貸与

各人にロッカーを貸与します。私物は講義室等に置かず、全てロッカーに保管して下さい。

教室及びロッカー室内での盗難が多発しているため、貴重品等の管理は厳重にして下さい。

また、各人の責による備品等の破損については、各人の負担により現状に復して下さい。

13 授業中（大学行事や課外授業を含む）の本人及び賠償責任が伴う事故等

歯学部学生は入学時に「学校教育災害傷害保険」（学研災）及び「医学生教育研究賠償責任保険」（医学賠）に加入しています。

なお、針刺し事故が起こった場合は、湯島学生支援室 学生支援総括グループ（5号館3階：03-5803-5077）へ連絡のうえ指示を受けてください。

ただし、他人に対する針刺し事故については上記の「医学賠」保険の対象となります。

さらに補償を手厚くしたい方には、生協の保険（coop 学生総合共済）があります。

14 遺失物及び拾得物

学内での遺失物又は拾得物の届出は以下のとおりとなります。

- ・遺失または拾得した建物の防災センターまたは守衛所

15 各種事務手続きの窓口一覧

① 湯島地区の教務事務

【歯学科学生】湯島教務室 歯学教務グループ（1号館西1階：03-5803-5411）

【口腔保健学科学生】湯島教務室 口腔保健教務グループ（1号館西1階：03-5803-5104）

② 授業料の納入・・・経理課収入第2グループ（緑が丘地区3号館：03-5803-5042）

③ 奨学金・授業料免除・・・湯島学生支援室 学生支援総括グループ（5号館3階：03-5803-5077）

④ 学生証発行・・・教務課 湯島学位審査グループ（1号館西1階：03-5803-5074）

⑤ 大学メール・・・情報基盤課 ITサポート第2グループ

（6号館2階：03-5803-5599）

⑥ 図書館の利用・・・図書館利用支援課 御茶ノ水図書館グループ

（M&Dタワー3階：03-5803-5596）

⑦ 針刺し事故・・・湯島学生支援室 学生支援総括グループ（5号館3階：03-5803-5077）

講義室等一覧



歯学部口腔保健学科口腔保健工学専攻 教員連絡先一覧

分野名	氏名	メールアドレス
口腔基礎工学分野	青木 和広	kazuhiro_aoki.bhoe@tmd.ac.jp
	大木 明子	moki.mfoe@tmd.ac.jp
	久保 優里	yshimizu.dsc@tmd.ac.jp
口腔デジタルプロセス学分野	高市 敦士	a.takaichi.rpro@tmd.ac.jp
	岩城 麻衣子	m.iwaki.gerd@tmd.ac.jp
	土田 優美	yumi.bmoe@tmd.ac.jp
口腔医療工学分野	池田 正臣	ikeda.csoe@tmd.ac.jp
	佐藤 隆明	tsatope@tmd.ac.jp
	塩沢 真穂	m.shiozawa.abm@tmd.ac.jp

2026 年度学年別担当教員

口腔保健学科口腔保健工学専攻

担当学年	氏名	所属等
第1学年担当	青木 和広	口腔基礎工学分野・教授
第2学年担当	高市 敦士	口腔デジタルプロセス学分野・教授
第3学年担当	池田 正臣	口腔医療工学分野・教授
第4学年担当	土田 優美	口腔デジタルプロセス学分野・助教

お知らせ

授業日程は、適宜変更となります。

最新のものは、isctLMS、及びキャンパス教育支援システムより、ご確認ください。

第 1 学年
履修科目・ユニット

時間割番号	023600						
科目名	口腔保健と専門職				科目ID		
担当教員	青木 和広, 大木 明子, 久保 優里[AOKI Kazuhiro, OKI Meiko, KUBO Yuri]						
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1		単位数	1	
実務経験のある教員による授業	該当する				授業形態	対面	
必修 15 時間 演習 15 コマ							
主な講義場所 2 号館 3 階 第 2、第 3 講義室							
授業の目的、概要等 自学自習とディスカッションに基づく問題基盤型学習(PBL)や演習をととして、口腔保健の基礎知識、保健・医療・福祉の専門職に共通する職業倫理、および多職種連携の重要性を学ぶ。							
授業の到達目標 1. 口腔保健の概要を説明できる。 2. 保健・医療・福祉の専門職の内容を概説できる。 3. 保健・医療・福祉の専門職に共通する職業倫理を説明できる。 4. 保健・医療・福祉の専門職による多職種連携の重要性を説明できる。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	9/29	13:30-15:10	第1講義室	オリエンテーション、シナリオ1	口腔保健と専門職を学ぶ意義、学習方法(PBLチュートリアル)、シナリオ提示、学習項目の検討	青木 和広 大木 明子	到達目標:1-4 LMSに教材をアップしているの で、事前準備をして くること TA:久保優里先生
3-6	10/13	13:30-17:05	第1講義室	学習項目の発表、シナリオ2	ディスカッション、シナリオ提示、学習項目の検討	青木 和広 大木 明子	到達目標:1-4 LMSに教材をアップしているの で、事前準備をして くること TA:久保優里先生
7-9	10/20	13:30-16:10	第1講義室	学習項目の発表、全体発表準備	ディスカッション、全体発表項目、発表法の検討	青木 和広 大木 明子	到達目標:1-4 LMSに教材をアップしているの で、事前準備をして くること TA:久保優里先生
10-12	10/27	13:30-16:10	第1講義室	全体発表準備、作成した内容の発表、修正	ディスカッション、発表内容の検討	大木 明子	到達目標:1-4 LMSに教材をアップしているの で、事前準備をして くること TA:久保優里先生
13-15	11/10	13:30-16:10	第1講義室	全体発表	グループ課題発表、討論、まとめ	青木 和広 大木 明子	到達目標:1-4 LMSに教材をア

						アップしているの で、事前準備をし てくること TA:久 保優里先生
授業方法 講義、PBL、グループ討論、課題発表 事前に提示された課題を学習して資料を準備しておくこと。						
授業内容 医療チームメンバーの一員として、医療や口腔保健に関わる専門職について理解する。						
成績評価の方法 評価は事前学習の資料準備、授業参加態度、全体発表、課題レポートによって行う。 ・授業態度を加味し、出席状況(10 点)、資料準備・グループディスカッションの状況(20 点)、全体発表の内容(20 点)、課題レポートの内容(50 点)で総合的に評価する。 ・資料準備やディスカッションの状況はチューターの評価、全体発表とレポートの評価は担当教員および TA による点数の平均を評価点とする。 ・対面授業に出席し、発表資料、レポートなどの課題を提示された期限までに提出すること。						
成績評価の基準 ・事前学習資料内容、グループディスカッション、全体発表の合計点数が 60 点以上の者を合格とする。 ・配点は、出席状況(10 点)、資料準備・グループディスカッションの状況(20 点)、全体発表の内容(20 点)、課題レポートの内容(50 点)とし、合計 100 点満点で換算する。 ・授業態度を加味して総合的に評価し、この科目の評価とする。 ・レポートの生成 AI の利用は不可とします。						
準備学習等についての具体的な指示 ・試験規則に規定された出席要件を満たさない場合、本科目の単位は認定しない。 ・やむをえない事情で遅刻・欠席する場合は、担当教員にその旨連絡する。 ・事前に資料の配付、LMS へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。 ・事前学習内容を評価するので、必ず事前学習を行い、まとめてから PBL に参加すること。						
試験の受験資格 ・3 分の 2 以上の出席で単位認定の最低条件とする。 ・カードタッチを出席の基本とする。遅刻でもカードタッチがなければ欠席とする。 ・対面講義に出席し、演習に参加、事前準備資料や発表資料などの課題を提示された期限までに提出すること。 ・特別に勘案すべき事情があるために指示が達成できない場合には、その事情とともに締め切り前および授業開始前までに科目責任者にメールで連絡すること。これらの十分な対応が行われたと判断された場合には事情などに応じてレポート等での対応を行うこととする。						
他科目との関連 多職種連携Ⅰを基礎とし、多職種連携Ⅱ、Ⅲにつながる。						
履修上の注意事項 ・試験規則に規定された出席要件を満たさない場合、本科目の単位は認定しない。 ・やむをえない事情で遅刻・欠席する場合は、担当教員にその旨連絡する。 ・事前に資料の配付、LMS へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。 ・課題レポートが生成 AI をそのままコピーアンドペーストの場合はレポート課題点数が得られないので自分で考えてレポート課題に取り組むこと。						
備考 PBL 方式の演習、グループワークによる課題発表をおこなう。 昨年度授業終了時アンケート結果より、内容を再検討し、歯科技工士により近いシナリオを提示することで演習内容を改善している。 担当教員のオフィスアワー 青木 和広 メールにて日時を相談 kazuhiro_aoki.bhoe@tmd.ac.jp 大木 明子 メールにて日時を相談 moki.mfoe@tmd.ac.jp						
オフィスアワー						

青木 和広毎週月曜日 16時から18時 2号館2階 216号室(口腔基礎工学分野)
オフィスにいない場合もあるので、あらかじめメールで問い合わせることを推奨。

時間割番号	023505						
科目名	メディア情報学基礎			科目ID	DE110500L		
担当教員	木下 淳博, 須永 昌代, 高市 敦士, 佐々木 好幸, 土田 優美, 金澤 学[KINOSHITA Atsuhiko, SUNAGA Masayo, TAKAICHI Atsushi, SASAKI Yoshiyuki, TSUCHIDA Yumi, KANAZAWA Manabu]						
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1	単位数	1		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	メディア利用科目		
科目名:メディア情報学基礎 時間数:15 時間 授業形態:講義・演習							
主な講義場所 遠隔授業 (Zoom、isct LMS)、M&D タワー 4 階 図書館内 情報検索室 (通常:3 階図書館入口より入館、試験時:4 階廊下からの入り口より入館)							
授業の目的、概要等 口腔保健活動および研究活動に必要なメディア情報処理、コンテンツ作成の基礎を修得し、演習を行う。							
授業の到達目標 1) 情報セキュリティ、著作権を理解して、口腔保健学に必要な情報処理を実践できる。 2) PC 上でプレゼンテーションファイル、静止画像、動画像を編集できる。 3) 表計算ソフトで簡単な集計ができる。 4) インターネットからの情報を適切に収集し、吟味できる。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	9/28	09:45-11:30	遠隔授業 (非同期型)	情報セキュリティと著作権	情報セキュリティ、著作権	木下 淳博 須永 昌代	到達目標:1 学習 方法:動画視聴 (終了後に課題提出)
3-4	10/5	09:45-11:30	遠隔授業 (非同期型)	メディアコンテンツ作成 演習1	フリーソフトによる静止画像処理と パワーポイントによる動画作成演習	木下 淳博 須永 昌代	到達目標:2 学習 方法:動画視聴 (終了後に課題提出)
5-6	10/19	09:45-11:30	遠隔授業 (非同期型)	メディアコンテンツ作成 演習 2	フリーソフトによる動画像処理演習	木下 淳博 須永 昌代	到達目標:2 学習 方法:動画視聴 (終了後に課題提出)
7-8	10/26	09:45-11:30	遠隔授業 (非同期型)	メディアコンテンツ作成 演習 3	フリーソフトによる動画像処理演習	木下 淳博 須永 昌代	到達目標:2 学習 方法:動画視聴 (終了後に課題提出)
9-10	11/2	09:45-11:30	遠隔授業 (非同期型)	表計算演習	エクセルによる集計、グラフ作成 演習	木下 淳博 須永 昌代	到達目標:3 学習 方法:動画視聴 (終了後に課題提出)
11-12	11/9	09:45-11:30	遠隔授業 (非同期型)	情報の収集と吟味	インターネット情報の収集と吟味	高市 敦士	到達目標:4 学習 方法:動画視聴 (終了後に課題提出)
13-14	11/16	09:45-11:30	遠隔授業	プレゼンテーション作成	生成 AI を用いたプレゼンテーショ	高市 敦士	到達目標:2 学習

			(非同期型)	演習	ン作成		方法:動画視聴 (終了後に課題提出)
15-16	11/30	10:45-12:25	情報検索室	試験/課題発表(動画処理)	課題発表(動画処理)	木下 淳博 須永 昌代 高市 敦士	到達目標:1-4 学習方法:Web 試験 補足:提出期限までにすべての課題を提出すること 到達目標:1-4 学習方法:Web 試験 補足:提出期限までにすべての課題を提出すること

授業方法
 講義、演習
 遠隔授業(同期型・非同期型)を行う。
 遠隔授業(非同期型)は isct LMS にアップロードされる資料にて学習し、課題の提出をもって出席とする。課題提出の期限は原則授業実施予定日から一週間とする。
 遠隔授業(同期型)では指示された期間までに課題を提出すること。

遠隔授業(非同期型)での質問は、授業担当者にメールで質問すること。回答は授業担当者よりメールで行う。
 遠隔授業(同期型)での質問は、授業時間中のチャットや発言、または授業担当者へメールで質問すること。回答は授業担当者より授業時間中に直接回答もしくはメールで行う。

成績評価の方法
 各回の提出課題の達成度、確認テストの点数、最終回の定期試験の点数により、授業の到達目標の達成度を評価する。
 欠席等により課題が提出されない場合は、当該課題は 0 点として評価するので注意すること。

成績評価の基準
 各回の課題の達成度を 7 割、最終回の定期試験の成績を 3 割として合計 100 点満点で換算し、評価する。到達目標をすべて達成した場合は 80 点以上とする。

準備学習等についての具体的な指示
 isct LMS に事前掲載された資料・非同期ビデオを視聴し、指示がある場合は事前準備(isct LMS へのログイン、資料のダウンロード、リンクサイトからの情報収集等)を行うこと。予習や事前作業が必要な場合は、isct LMS 上のビデオ等で詳細な指示を行う。

試験の受験資格
 定期試験、追・再試験を受験することのできる者は原則として次のとおりとする。
 ・授業コマの 2/3 以上出席した者
 ＊遠隔授業では、課せられた課題(確認テストへの解答、課題提出)をすべて実施したことをもって出席とみなす。

なお、特別に勘案すべき事情があるために指示が達成できない場合や同期型授業に参加できない場合には、その事情とともに締め切り前および授業開始前までに科目責任者にメールで連絡すること。これらの十分な対応が行われたと判断された場合には事情などに応じてレポート等での対応を行うこととする。

備考
 口腔保健衛生学専攻と口腔保健工学専攻との合同授業
 昨年度授業終了時アンケート結果より、演習内容を修正し、内容を改善している。

オフィスアワー
 高市 敦士 随時(メールにて面談の日程を調整すること)
 2 号館 2 階 口腔デジタルプロセス学分野 教授室
 佐々木 好幸 随時(事前にメールでアポイントを取ること)
 木下 淳博 金 16:00-17:00 3 号館 5 階 教育メディア開発学分野
 金澤 学 火-金 16:00- 18:00

1号館3階 高齢者歯科学分野学分野 Lab9

須永 昌代随時

土田 優美メールにて面談の日程を調整すること

時間割番号	023690						
科目名	メディア情報学応用			科目 ID			
担当教員	土田 優美 高市 敦士[TSUCHIDA Yumi, TAKAICHI Atsushi]						
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1	単位数	1		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面		
科目名:メディア情報学応用 時間数:15 時間 授業形態:講義・演習							
主な講義場所 遠隔授業 (WebClass) 2 号館 3 階 リアルモードラボ							
授業の目的、概要等 口腔保健活動および研究活動に必要な、情報処理に関する基礎的な知識と能力を習得する。							
授業の到達目標 1) 情報処理に必要なコンピュータに関する基礎的な知識を習得する。 2) コンピュータ技術を応用したものづくりの基礎的な知識を習得する。 3) 文書作成ソフトウェアの基本操作を習得する。 4) 表計算ソフトウェアの基本操作を習得する。 5) プレゼンテーションソフトウェアの基本操作を習得する。 6) 効果的なプレゼンテーションの方法を理解できる。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	12/14	09:45-11:30	遠隔授業 (非同期型)	コンピュータの基礎知識	ハードウェア、ソフトウェア	土田 優美	到達目標:1 学習 方法:講義 事前 学習:なし 終了 後に小テストを実施
3-4	12/21	09:45-11:30	遠隔授業 (非同期型)	コンピュータ技術を応用 したものづくり	コンピュータ技術の発展と産業、 デジタルデンティストリー概論	土田 優美	到達目標:2 学習 方法:講義 事前 学習:なし 終了 後に小テストを実施
5-7	1/18	09:45-12:25	リアルモ ードラボ	文書作成演習	文書作成ソフトウェアの基本操作	土田 優美	到達目標:3 学習 方法:演習 事前 学習:なし
8-10	1/25	09:45-12:25	リアルモ ードラボ	表計算演習	表計算ソフトウェアの基本操作	土田 優美	到達目標:4 学習 方法:演習 事前 学習:なし
11-14	2/1	08:50-12:25	遠隔授業 (非同期型)	プレゼンテーション作成 演習	プレゼンテーションソフトウェアの 基本操作、効果的なプレゼンテー ション	土田 優美	到達目標:5,6 学 習方法:演習 事 前学習:なし
15	2/8	09:45-10:30	リアルモ ードラボ	課題発表	課題発表	土田 優美	到達目標:5,6 学 習方法:演習 事 前学習:なし
16-17	2/8	10:45-12:25	リアルモ ードラボ	試験	試験	土田 優美	

授業方法 講義、演習 遠隔授業(非同期型)、対面授業を行う。 遠隔授業(非同期型)は WebClass にアップロードされる資料にて学習し、小テストでの合格または課題の提出をもって出席とする。 ※小テストは実施期限をよく確認し、必ず期限内に実施すること。小テスト未実施および不合格は欠席となるため注意すること。 ※小テストは満点の取得をもって合格とする。 ※小テストは期限内であれば何度でも実施可能。 遠隔授業(非同期型)での質問は、授業担当者にメールで質問すること。回答は授業担当者よりメールで行う。
成績評価の方法 評価は試験と課題発表によって行う。 ・試験：80 点(試験の点数が 6 割未満の場合は再試験とする。) ・課題発表：20 点 出席状況、授業態度を総合的に評価に加味する。
成績評価の基準 試験の点数が 6 割以上のものを合格とする。 試験、課題発表の評点に出席状況、授業態度を加味して総合的に評価し、総合点が 80 点以上であれば A 評価以上とする。
準備学習等についての具体的な指示 事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。
試験の受験資格 定期試験、追・再試験を受験する資格は以下のすべてとする。 ・3 分の 2 以上の出席を基本とする。 ・特別に勘案すべき事情があるために指示が達成できない場合や同期型授業に参加できない場合には、その事情とともに締め切り前および授業開始前までに科目責任者にメールで連絡すること。これらの十分な対応が行われたと判断された場合には事情などに応じて課題等での対応を行うこととする。
備考 前年度履修学生の科目評価で、特段の改善意見がなかったため、前年度と同様の授業編成とする。
オフィスアワー 土田 優美メールにて面談の日程を調整すること

時間割番号	023507						
科目名	造形美術概論実習				科目ID	DE130700E	
担当教員	池田 正臣 宮永 美知代 角田 優 鈴木 友晴 塩沢 真穂[KEDA Masaomi, MIYANAGA Michiyo, KADOTA Yu, SUZUKI Tomoharu, SHIOZAWA Maho]						
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1		単位数	1	
実務経験のある教員による授業	該当する				授業形態	対面	
時間数:33 時間 授業形態:講義 12 コマ、実習 21 コマ							
主な講義場所 2 号館 3 階 塑像製作実習室							
授業の目的、概要等 光が物体にあたり、その反射を目がとらえ、脳が認識し、認識した物体を指手で再現するという造形美術の理論的背景を学び、実際に、2 次元、3次元で、物体をとらえ、その形態を再現する。補綴装置製作の過程でも同様の方法にて、歯や顔貌を認識し色や形態を再現できる能力が必要なため、その基礎となる形態認識能力と造形に関する知識と技術を習得し、観察力、認識力、造形力を養い、歯と顔貌を立体的に認識し的確に造形できる能力を培う。							
授業の到達目標 1.人モデルを観察し、塑像制作の基本的操作を理解し、行うことができる。 2.人体外部からの観察により、頭頸部の骨・筋肉の形態が理解できる。 3.歯科領域における美的感覚の重要性を説明できる。 4.人体解剖における芸術と医学の共通の時代背景を説明できる。 5.芸術的視点からの人体の観察法を理解する。 6.人体の頭部・顔面領域のサイズを計測し、分類・比較を行うことにより、人体の特徴を深く理解できる。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-3	10/5	13:30-16:10	遠隔授業 (同期型)	塑像制作実習・講義 1	美術解剖学(医療と造形の接点としての美術解剖学)	宮永 美知代 角田 優 鈴木 友晴	Zoom 講義SBOs 4-6
4-6	10/19	13:30-16:10	遠隔授業 (同期型)	塑像制作実習・講義 2	美術解剖学(顔をどう見るか)	宮永 美知代 角田 優 鈴木 友晴	Zoom 講義SBOs 4-6
7-9	10/26	13:30-16:10	遠隔授業 (同期型)	塑像制作実習・講義 3	美術解剖学(頭蓋と顔)	宮永 美知代 角田 優 鈴木 友晴	Zoom 講義SBOs 4-6
10-12	11/9	13:30-16:10	遠隔授業 (同期型)	塑像制作実習・講義 4	美術解剖学(表情と顔)・仕上げ	宮永 美知代 角田 優 鈴木 友晴	Zoom 講義SBOs 4-6
13-15	11/16	13:30-16:10	305 室 連携教育 講義室 遠隔授業 (同期型)	塑像制作実習・講義 5	塑像制作実習(課題説明、クロッキー)	宮永 美知代 角田 優 鈴木 友晴	実習SBOs 1-3
16-18	11/30	13:30-16:10	305 室 連携教育 講義室 遠隔授業 (同期型)	塑像制作実習・講義 6	塑像制作実習(課題説明、クロッキー)	宮永 美知代 角田 優 鈴木 友晴	実習SBOs 1-3
19-21	12/7	13:30-16:10	305 室	塑像制作実習・講義 7	塑像制作実習(課題説明、クロッキー)	宮永 美知代	実習SBOs 1-3

			連携教育 講義室 遠隔授業 (同期型)		一)	角田 優 鈴 木 友晴	
22-25	12/14	13:30-17:05	305 室 連携教育 講義室 遠隔授業 (同期型)	塑像制作実習・講義 8	塑像制作実習(心棒の制作、粘土 練り、制作)	宮永 美知代 角田 優 鈴 木 友晴	実習.SBOs 1-3
26-29	1/18	13:30-17:05	305 室 連携教育 講義室 遠隔授業 (同期型)	塑像制作実習・講義 9	塑像制作実習(心棒の制作、粘土 練り、制作)	宮永 美知代 角田 優 鈴 木 友晴	実習.SBOs 1-3
30-33	1/25	13:30-17:05	305 室 連携教育 講義室 遠隔授業 (同期型)	塑像制作実習・講義 10	塑像制作実習(心棒の制作、粘土 練り、制作)	宮永 美知代 角田 優 鈴 木 友晴	実習.SBOs 1-3

授業方法
講義・実習

成績評価の方法

- ・評価は実習で作成し提出された作品について行う。
- 実習作品 80 点について、「観察力」「認識力」「表現力」を評価する。
- ・講義参加状況(10 点)、レポート内容および適宜、実習態度の評価(10 点)を行い、総合的に評価する。

成績評価の基準

- ・講義参加状況(10 点)、レポート内容および適宜、実習態度の評価(10 点)、作品の評価(80 点)を行い、総合的に評価する。
- ・総合点 60 点以上を合格とする。

準備学習等についての具体的な指示

事前に資料の配付、isct LMS へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

実習は実習室で行う。

試験の受験資格

定期試験、追・再試験を受験する資格は以下のすべてとする。

- ・4 分の 3 以上の出席を基本とする。
- ・実習に出席し、提示された期限までに製作物を提出すること。
- ・特別に勘案すべき事情があるために指示が達成できない場合や実習に参加できない場合には、その事情とともに締め切り前および授業開始前までに科目責任者にメールで連絡すること。これらの十分な対応が行われたと判断された場合には事情などに応じてレポート等での対応を行うこととする。

備考

前年度履修学生の科目評価案アンケートをもとに授業内容を改善している。

オフィスアワー

塩沢 真穂2 号館 3 階 314

時間割番号	023700				
科目名	AI・データサイエンスのための数学			科目ID	
担当教員	中林 潤[NAKABAYASHI Jun]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1	単位数	2
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	メディア利用科目
科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):別表 2-1).4-2).4-3).4-4).4-5)					
主な講義場所					
同期型遠隔授業と講義動画のオンデマンド配信					
授業の目的、概要等					
社会が高度にデジタル化され、様々な階層で大量のデータを AI を使って解析すると言ったことが盛んに行われるようになっている。これらの技術を使用するにあたって、その基礎理論をしっかりと理解しておくことが重要であるが、AI・データサイエンスの基礎理論を理解するためには、ある程度の数学的知識が必要である。					
この講義は数論など数学の基本から始めて、微積分や代数・行列など基礎数学について学び、AI やデータサイエンスを習得するために必要最低限の数理科学的基礎知識、つまり数理リテラシーを身につけることを目的としている。					
授業の到達目標					
数論や微積分、代数・行列などを理解し、AI・データサイエンスを習得するのに必要な数学的基礎知識を身につける。					
授業計画					
回	日付	時刻	講義室	担当教員	
1-2	9/17	10:45-12:25	遠隔授業 (同期型)	中林 潤	
3-4	9/24	10:45-12:25	遠隔授業 (同期型)	中林 潤	
5-6	10/1	10:45-12:25	遠隔授業 (同期型)	中林 潤	
7-8	10/8	08:50-10:30	遠隔授業 (同期型)	中林 潤	
9-10	10/22	08:50-10:30	遠隔授業 (同期型)	中林 潤	
11-12	11/5	08:50-10:30	遠隔授業 (同期型)	中林 潤	
13-14	11/19	08:50-10:30	遠隔授業 (同期型)	中林 潤	
15-16	12/3	08:50-10:30	遠隔授業 (同期型)	中林 潤	
17-18	12/17	08:50-10:30	遠隔授業 (同期型)	中林 潤	
19-20	1/14	08:50-10:30	遠隔授業 (同期型)	中林 潤	
21-22	1/20	08:50-10:30	遠隔授業 (同期型)	中林 潤	
23-24	1/20	10:45-12:25	遠隔授業 (同期型)	中林 潤	
25-26	1/21	08:50-10:30	遠隔授業 (同期型)	中林 潤	
27-28	1/27	08:50-10:30	遠隔授業 (同期型)	中林 潤	
29-30	1/28	10:45-12:25	遠隔授業	中林 潤	

			(同期型)		
授業方法					
授業の前半にスライドを使って講義を行い、後半に課題の演習を行う。					
授業内容					
数論, 微積分, 変分, 代数, 行列, 確率, 統計					
成績評価の方法					
出席状況＋授業中の態度＋授業内課題(40%), 最終レポートの点数(60%)を勘案して総合的に評価する。期末試験の筆記試験は行わない。					
成績評価の基準					
「東京科学大学全学共通科目履修規則」に従う					
準備学習等についての具体的な指示					
特に準備学習は不要である。授業後半の課題をしっかりと行い、毎回の講義内容を身につけることが重要である。授業中に疑問が生じた場合、その場で質問して解消しておく。					
試験の受験資格					
講義全体の 2/3 以上に出席すること。出席は授業内の課題の提出で確認する。					
参考書					
Python で体感医療と AI はじめの一步：糖尿病・乳がん・残存歯のデータ、肺の X 線画像を使って機械学習・深層学習を学ぶ体験型入門書／宮野, 悟, 1954-, 中林, 潤, 木下, 淳博, 歯学, 須藤, 毅顕, 宮野悟 監修, 中林潤, 木下淳博, 須藤毅顕 編集: 羊土社, 2024.9					
他科目との関連					
「医療と AI・ビッグデータ入門」の講義を理解し、実習を行うための基礎知識となる。					
オフィスアワー					
中林 潤: 月曜～金曜 A.M.10:00 – P.M. 05:00 国府台キャンパス 4 階 教官研究室—9					

時間割番号	023710				
科目名	医療と AI・ビッグデータ入門			科目 ID	
担当教員	宮野 悟, 高橋 邦彦, 坂内 英夫, 清水 秀幸, 朱 欣, 江花 有亮, 曹 日丹, 田畑 寛治, 中林 潤, 木下 淳博, 須藤 毅頭, 平川 晃弘, 角 勇樹, 森田 久美子, 竹内 康雄, 土田 優美, 河原 智樹, 徳永 伸一, 中山 まどか, 原田 芽衣[MIYANO Satoru, TAKAHASHI Kunihiko, BANNAI Hideo, SHIMIZU Hideyuki, SHU Kin, EBANA Yusuke, CAO Ridan, TABATA Kanji, NAKABAYASHI Jun, KINOSHITA Atsuhiro, SUDO Takeaki, HIRAKAWA Akihiro, SUMI Yuki, MORITA Kumiko, TAKEUCHI Yasuo, TSUCHIDA Yumi, KAWAHARA Tomoki, TOKUNAGA Shinichi, NAKAYAMA Madoka, HARADA Mei]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1	単位数	2
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面
主な講義場所 同期型遠隔授業と講義動画のオンデマンド配信					
授業の目的、概要等 今後のデジタル社会の基礎知識として捉えられている数理・データサイエンス・AI の基礎的素養を習得する。 なぜ、数理・データサイエンス・AI を学ぶのか、社会でどのように活用され新たな価値を生んでいるのかという全体像の把握と、健康・医療分野での AI の活用事例を学ぶ。 将来的に保健医療分野における AI 技術研究を自ら進めるもしくは企業等の技術者と共同で AI 技術開発を推進する機会を得た際に必要となる素養を習得する。					
授業の到達目標 ・社会で起きている変化を理解し、数理・データサイエンス・AI を学ぶことの意義を説明できる。 ・AI を活用した新しいビジネス/サービスを説明できる ・どんなデータが集められ、どう活用されているかを説明できる。 ・データ・AI を活用するために使われている技術を概説できる。 ・データ・AI を活用することによって、どのような価値が生まれているかを説明できる。 ・データ・AI 利活用における最新動向(ビジネスモデル、テクノロジー)を説明できる。 ・データ利活用プロセスを体験し、データを解析して考察できる。					
授業計画					
回	日付	時刻	講義室	担当教員	
1-2	10/8	10:45-12:25		宮野 悟	
3-4	10/15	10:45-12:25		宮野 悟	
5-6	10/22	10:45-12:25		宮野 悟	
7-8	10/29	10:45-12:25		宮野 悟	
9-10	11/5	10:45-12:25		宮野 悟	
11-12	11/12	10:45-12:25		宮野 悟	
13-14	11/19	10:45-12:25		宮野 悟	
15-16	11/26	10:45-12:25		宮野 悟	
17-18	12/3	10:45-12:25		宮野 悟	
19-20	12/10	10:45-12:25		宮野 悟	
21-22	12/17	10:45-12:25		宮野 悟	
23-24	1/7	10:45-12:25		宮野 悟	
25-26	1/14	10:45-12:25		宮野 悟	
27-28	1/21	10:45-12:25		宮野 悟	
29-30	1/27	10:45-12:25		宮野 悟	
授業方法 ・前半は講義、後半は自分の PC で演習を行う。					
授業内容					

AI・数理・データサイエンスに関する概論講義、実習 社会におけるデータ・AI 利活用に関する講義: 社会に起きている変化、社会で活用されているデータ、データ・AI の活用領域、データ・AI 利活用のための技術、データ・AI 利活用の現場、データ・AI 利活用の最新動向など データ解析実習: データハンドリング、機械学習など
成績評価の方法 ・本科目では試験を実施せず、各講義および演習後の課題によって成績評価を行う。すべての課題を期限内に提出すれば、80 点以上の成績を得ることができます。 ・最終回終了時まで、以下の授業評価アンケートに回答していることを成績評価の前提とする。本科目では、学生の授業評価を基に、講義内容や演習内容の見直しを行う。 昨年度の授業評価にて「非同期動画視聴後に質問ができるチャットのようなものがあつたらよかったと感じた。」との意見があつたため、各回の課題には自由記述欄を設け、授業内容に関する質問や意見を随時受け付ける。また、「zoom の授業内だけではなく、提出課題などで挙げられた質問も取り扱っていただきたい」との意見があつたため、課題後に提出された質問には、次回演習内または補足資料にて回答する。 ○医学科の学生:「M1 コース評価アンケート 2026」の「2026 年度「医療と AI・ビッグデータ入門」コース評価」 ○保健衛生学科看護学専攻の学生:「科目評価(旧 科目別授業評価アンケート)【保健衛生学科】2026」の「科目評価 看護 1 年「医療と AI・ビッグデータ入門」」 ○保健衛生学科検査技術学専攻の学生:「科目評価(旧 科目別授業評価アンケート)【保健衛生学科】2026」の「科目評価 検査 1 年「医療と AI・ビッグデータ入門」」 ○歯学科の学生:「歯学科授業評価アンケートコース 2026」の「科目評価 医療と AI・ビッグデータ入門」 ○口腔保健学科口腔保健衛生学専攻の学生:「OH1-4 口腔保健衛生学専攻授業評価アンケートコース 2026」の「科目評価 医療と AI・ビッグデータ入門」 ○口腔保健学科口腔保健工学専攻の学生:「OE1-4 口腔保健工学専攻授業評価アンケートコース 2026」の「科目評価 医療と AI・ビッグデータ入門」
成績評価の基準 ・課題をすべて期限内に提出し、提出課題により本科目の到達目標を全て達成したと判断された場合は、科目の評点を 80 点以上とする。 ・課題が提出されない場合は、当該授業を欠席として扱うのみならず、当該課題は 0 点として評価するので注意すること。 ・期限内に提出された課題、および期限後に再提出された課題は 100 点満点で、期限後に初めて提出された課題は 79 点満点で評価する。 ・LMS 上で提出された課題のみを評価対象とし、個別メール等で送られた課題は原則受け付けない。
準備学習等についての具体的な指示 ・LMS にあげている動画教材を活用して予習・復習に役立てること。
試験の受験資格 ・試験は実施しないが、成績評価には講義の 2/3 の出席(課題提出)が必要である。 ・授業コマで課された課題の提出をもって、当該授業コマを出席とみなす。
教科書 Python で体感! 医療と AI はじめの一步/宮野 悟,中林 潤,木下 淳博,須藤 毅頭,宮野 悟 監修,中林 潤 編集,木下 淳博 編集,須藤 毅頭 編集,羊土社
参考書 参考書 ・東京大学のデータサイエンティスト育成講座: Python で手を動かして学ぶデータ分析/中山浩太郎 監修,塚本邦尊,山田典一,大澤文孝 著,中山 浩太郎,塚本 邦尊,山田 典一,大沢 文孝,1973-,:マイナビ出版, 2019 ・データサイエンスの基礎/濱田悦生著; 狩野裕編,濱田 悦生,狩野 裕,講談社サイエンティフィク,:講談社, 2019

- ・Python3 スキルアップ教科書/辻真吾、小林秀幸、鈴木庸氏、細川康博/技術評論社
- ・みんなの Python 第4版/柴田淳/SB Creative
- ・新しい人工知能の教科書/多田智史、石井一夫/翔泳社
- ・いちばんやさしいディープラーニング入門教室/谷岡広樹、廉鑫/ソーテック社
- ・医療 AI とディープラーニングシリーズ 医用画像ディープラーニング入門 /藤田広志/オーム社

他科目との関連

- ・情報処理、数学、統計学の授業内容と密接に関わる。

履修上の注意事項

- ・グループ演習および課題提出を行うので、対面授業の選択学生を含めて参加者は PC 持参を原則とする。

備考

- ・実習では 1 人 1 台のコンピュータを使用する。
- ・事前に LMS の資料『事前資料』に目を通しておくこと

オフィスアワー

中林 潤/月曜～金曜

A.M.10:00 – P.M. 05:00

国府台キャンパス 4 階 教官研究室—9

時間割番号	023720				
科目名	アカデミック・リテラシー			科目ID	
担当教員	木谷 真紀子[KITANI Makiko]				
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1	単位数	1
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面
【科目責任者】木谷 真紀子					
別表 1-1)言語を通じた人間の創造的営みを理解する					
別表 1-3)人間の歴史的営みを理解する					
別表 1-5)人間の思考の枠組みを知り、自らの思考を振り返る					
別表 1-6)優れた芸術作品に触れて完成を高める					
別表 1-7)人間の心への理解を高める					
別表 1-10)現代社会における科学の責任を意識できるようになる					
別表 3-2)自らの考えを的確に伝えるための基本的な文章表現能力を身につける					
主な講義場所					
国府台キャンパスにて対面で実施予定。					
授業の目的、概要等					
「アカデミック・リテラシー」は、調査力・思考力・表現力・コミュニケーション能力を総合的に向上させ、高校までの学習に対する受動的な意識から、大学生の主体的な学びの意識へと早期に転換させることを目指す取り組みである。「文章表現リテラシー」「情報活用リテラシー」「口頭表現リテラシー」の三種のリテラシーを育む内容で構成され、大学生活や今後に向け、調査、分析、考察、論理的文章の執筆、またアカデミックプレゼンテーションやディスカッションなどをする能力を身につけることを目標とする。					
三つに分けて記す。					
1情報活用リテラシー：レポートや論文などアカデミックな論理的文章の執筆や、発表のために必要で正確な情報を収集し、活用できるようになる。					
2文章表現リテラシー：複数の文献を用いて 3000 字以上の論理的文章が書けるようになる。					
3口頭表現リテラシー：PPT を用いたアカデミックプレゼンテーションができるようになる。					
授業の到達目標					
1情報活用リテラシー					
・研究倫理の観点から、情報収集のために必要なリテラシーを身につける					
・複数の情報を比較して、情報を精査する視点を得ることができるようになる					
2文章表現リテラシー					
・論理的に展開するための定型に則った文章を書けるようになる					
・自ら問いを立て、調査やデータに基いた考察分析ができるようになる					
3口頭表現リテラシー					
・論理的に展開するための口頭表現を身につけることができる					
・定型に則った明解なプレゼンテーションができるようになる					
授業計画					
回	日付	時刻	講義室	担当教員	
1-2	9/17	08:50-10:30		木谷 真紀子	
3-4	9/24	08:50-10:30		木谷 真紀子	
5-6	10/1	08:50-10:30		木谷 真紀子	
7-8	10/15	08:50-10:30		木谷 真紀子	
9-10	10/29	08:50-10:30		木谷 真紀子	
11-12	11/12	08:50-10:30		木谷 真紀子	

13-14	11/26	08:50-10:30		木谷 真紀子
15-16	12/10	08:50-10:30		木谷 真紀子
17-18	1/7	08:50-10:30		木谷 真紀子
19-20	1/28	08:50-10:30		木谷 真紀子
授業方法 文章表現、情報活用、口頭表現の三種類の内容で構成し、担当者が講義を行う。受講者には、課題の執筆や口頭発表、ディスカッションなどを課す。アクティブラーニング形式で行うため、出席し、能動的な態度で臨むこと。				
授業内容 1. ガイダンス ・リテラシー授業、今後の課題について説明 ・自己紹介文執筆、提出(400字) ・文献検索と引用法について 2. 情報活用Ⅰ、文章表現Ⅰ 書評とディスカッションへの記事提出 優れた自己紹介文の紹介、メールの書き方、論理的文章の型や、レポートの描き方など説明。この授業で書く3000字のレポートについての説明。 3. 情報活用Ⅱ、口頭表現Ⅰ、文章表現Ⅱ ディスカッションで提出した記事について、他紙、全国紙、地方紙などを提出、記事内容の比較分析。情報倫理・研究倫理の要点についてZoom講義で説明。 ディスカッションについての説明の後、新聞記事に基づいたディスカッション 提出した記事から引用した論理的文章の提出。 4. 情報活用Ⅲ、文章表現Ⅲ 記事の比較分析、ディスカッションを通して考えたことなどを提出。書評記事を提出。 前回の文章の返却。それに基づいた説明。 5. 文章表現Ⅳ、口頭表現Ⅱ 第4回で提出した書評を引用し書籍を紹介する文章の提出。 アカデミックプレゼンテーションの型、スライドの作成方法など説明。 ブックトークについての説明。 6. 口頭表現Ⅲ 第4回で提出した書籍の、PPTを用いたブックトークの実施。 7. 文章表現Ⅴ、情報活用Ⅳ この授業で書く3000字のレポートについてのテーマの決定。 自分のテーマに基づく、アンケート、インタビューの実施について。 アンケート項目の検討と提出。				
成績評価の方法 情報活用の課題 20%、文章表現の課題 50%、口頭表現 20%、 期末コメントシート 10%				
成績評価の基準 (授業開始前)授業内容を把握し、学期を通して扱う書評と、ディスカッションのテーマとしたい記事を探し、初回授業で提出する。 (授業開始後)シラバスに則った課題を遅れることなく提出する。				
準備学習等についての具体的な指示 与えられた課題に取り組み、〆切を遅れず提出すること。				
試験の受験資格 授業内の課題を提出し、3分の2以上の授業に出席していること。				
教科書 授業内で指示。				

参考書

授業内で指示。

他科目との関連

グローバル教養総合講座「情報活用」。また本講義で学んだアカデミック・リテラシーを、他の授業でいかす。

履修上の注意事項

「アカデミック・リテラシー」そのものを身につける授業であるため、生成AIなどの使用が認められた場合は、不合格とする。課題は遅れることなく提出すること。授業には能動的に臨むこと。

オフィスアワー

月、金曜 12:20～13:30 管理研究棟 2 階

※原則的に上記の曜日時間としますが、事前に連絡のある学生には、上記時間外でも対応します。

時間割番号	023510B						
科目名	感染予防			科目ID	DE231000L		
担当教員	青木 和広, 鈴木 敏彦, 竹内 康雄, 芦田 浩, 相田 潤, 岡野 徳壽, 二川 浩樹, 片桐 さやか, 太田 悠介, 大杉 勇人, 林 陽平, 黒嶋 雄志, 道 泰之, 池田 通, 齋藤 良一, 永井 重徳, 二川 浩樹, 久保 優里[AOKI Kazuhiro, SUZUKI Toshihiko, TAKEUCHI Yasuo, ASHIDA Hiroshi, AIDA Jun, OKANO Tokuju, NIKAWA Hideki, KATAGIRI Sayaka, OTA Yusuke, OHSUGI Yujin, HAYASHI Yohei, KUROSHIMA Takeshi, MICHI Yasuyuki, IKEDA Toru, SAITO Ryoichi, NAGAI Shigenori, NIKAWA Hiroki, KUBO Yuri]						
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1	単位数	2		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面		
時間数:30 時間 授業形態:対面授業、遠隔授業(非同期)講義・対面演習、対面実習							
主な講義場所 対面授業 2号館第1講義室、第3講義室 対面演習 2号館第3講義室 遠隔授業(非同期型) 対面実習 口腔保健学科基礎科学実習室 (1 号館西 7 階)							
授業の目的、概要等 病原微生物の特徴と病原性、口腔および全身の感染症の病因と感染成立の機序および生体の防御反応のしくみ、感染予防の方法ならびに実際の対処法、特に、歯科医療で必要となる消毒・滅菌の実際と標準予防策について理解する。							
授業の到達目標 授業の到達目標 1. 細菌、ウィルス等による感染について、微生物の病原性を構造、機能、遺伝的因子から説明できる。 2. 感染への生体防御機構を微生物の特性に基づき説明できる。 3. 感染の予防と治療の基礎について説明できる。 4. 口腔に存在する微生物の特徴と感染症について説明できる。 5. 感染予防の方法と限界について説明できる。 6. 病理学とは何かを説明できる 7. 抗感染症薬について説明できる。 8. 疫学の成り立ちと疫学の基礎的用語について説明できる。 9. 歯科医療現場で遭遇する感染症について説明できる。 10. 歯科技工操作における感染予防・安全対策の対処法が説明できる。 11. 細菌をグラム染色し、陽性が陰性が判定できる。 12. 感染症対策を自ら考えることができる。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-3	10/6	09:45-12:25	第1講義室	微生物と疾病、病原性微生物	微生物の特徴、病原性微生物細菌、ウィルス、真菌の特徴	鈴木 敏彦	到達目標:1
4-6	10/13	09:45-12:25	第1講義室	病原微生物と感染症	グラム陽性菌・陰性菌と感染症、ウィルス感染症	太田 悠介	到達目標:2,3 小テストと感想記入をして出席となります。
7	10/16	09:45-10:30	遠隔授業(非同期型)	感染に対する生体防御機構 その1	宿主防御機構と免疫	片桐 さやか	到達目標:3 動画視聴後に小テストと感想記入をして出席となります。

8	10/16	10:45-11:30	遠隔授業 (非同期型)	感染に対する生体防御機構 その2	宿主防御機構と免疫	大杉 勇人	到達目標:3 動画視聴後に小テストと感想記入をして出席となります。
9	10/16	11:40-12:25	遠隔授業 (非同期型)	感染に対する生体防御機構 その3	宿主防御機構と免疫	大杉 勇人	到達目標:3 動画視聴後に小テストと感想記入をして出席となります。
10	10/16	13:30-14:15	遠隔授業 (非同期型)	感染に対する生体防御機構 その4	宿主防御機構と免疫 11 月いっぱいには視聴すること。	林 陽平	到達目標:3 動画視聴後に小テストと感想記入をして出席となります。
11	10/16	14:25-15:10	遠隔授業 (非同期型)	感染に対する生体防御機構 その5	宿主防御機構と免疫 11 月いっぱいには視聴すること。	林 陽平	到達目標:3 動画視聴後に小テストと感想記入をして出席となります。
12	10/16	15:25-16:10	遠隔授業 (非同期型)	感染に対する生体防御機構 その6	宿主防御機構と免疫 11 月いっぱいには視聴すること。	片桐 さやか	到達目標:3 動画視聴後に小テストと感想記入をして出席となります。
13-15	11/24	09:45-12:25	遠隔授業 (非同期型)	口腔の微生物と感染症	口腔細菌叢、ブラーク、う蝕、歯髄炎、歯周病ほか	竹内 康雄	到達目標:4, 11 動画視聴後に小テストと感想記入をして出席となります。
16-17	12/1	09:45-11:30	第3講義室	疫学の基礎	感染症と疫学、オッズ比、擬陽性等、疫学用語の理解	相田 潤	到達目標:8 感想記入を行って出席となります。
18-20	12/4	09:45-12:25	遠隔授業 (非同期型)	滅菌、消毒法と感染対策	洗浄、消毒、滅菌と歯科における感染対策	黒嶋 雄志	到達目標:1,3,5, 9,10 小テストと感想記入をして出席となります。
21-22	12/15	09:45-11:30	第3講義室	疫学演習	感染症対策演習 (班ごとの発表)	相田 潤, 青木 和広	到達目標:1-10, 12 宿題を行った上で参加すること
23-25	12/22	09:45-12:25	第3講義室	抗感染症薬	化学療法薬、抗真菌薬、抗ウイルス薬	芦田 浩	到達目標:7 小テストと感想記入をして出席となります。
26-28	1/15	13:30-16:10	口腔保健 学科基礎 科学実習室	細菌観察の実際	細菌のグラム染色(口腔内細菌も含む)	鈴木 敏彦, 芦田 浩, 岡野 徳壽	到達目標:1-12 対面実習 レポートの提出もあわせて出席となります。

							す。
29-30	1/29	16:20-18:00	第1講義 室	感染予防・消毒材料の開 発	除菌・抗菌作用、バイオフィルム形 成阻止材料	二川 浩樹	到達目標:1-5 授業後に感想記 入して出席となり ます。
31	2/15	13:30-14:15	情報検索 室 1	期末テスト(13:30～ 14:30)		青木 和広	試験開始は 13:30 からです。

授業方法

対面講義(複合コースは遠隔同期も可能)、遠隔授業(非同期)、対面の演習、対面の実習

成績評価の方法

評価は確認テスト、発表、実習レポートおよび期末試験(筆記試験:60 分の予定)によって行う。

- ・確認テスト(22 点)、感染症対策演習発表スライド提出(14 点)、微生物実習レポート(14 点)による評価を行う(平常点合計 50 点)。
- ・期末試験(筆記試験)の配点は 50 点、上記平常点 50 点と合算して成績を評価する。

成績評価の基準

- ・総合点数が 60 点以上のものを合格とする。
- ・期末試験の点数が 6 割未満の場合は再試験とする。
- ・配点は、筆記試験(50 点)、確認テスト(22 点)、感染症対策演習発表スライド提出(14 点)、微生物実習レポート(14 点)とし、合計 100 点満点で換算する。
- ・出席状況、授業態度、試験の平均点等を考慮して総合的に評価し、この科目の評価とする。

準備学習等についての具体的な指示

事前に資料の配付、LMS へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

特に、相田先生の演習は事前のプレゼンテーションの準備が必要です。

また、毎回非同期授業は確認テストがあります。合格点をとれるまで繰り返し視聴してください。

対面授業の場合も感想記入と確認テストがあれば、回答をお願いします。

微生物学実習には色鉛筆が必要です。準備できる学生は持参すること。

試験の受験資格

定期試験、追・再試験を受験する資格は以下のすべてとする。

- ・2/3 以上の出席を基本とする。
- ・遠隔授業(非同期型)を視聴し、確認テストなどの課題(感想記入も含む)を提示された期限までに提出して出席となる。
- また、確認テストは満点をとるなど指定がある場合は、その条件をクリアした場合に出席となる。
- ・まとめとなる二川先生の特別講義、相田先生の演習(プレゼン準備必要)および対面の微生物学実習はかならず出席すること。
- ・やむを得ない理由で欠席する場合は、メールで連絡後、科目責任者が指示するレポート課題などの提出後、評価を行い、試験の受験資格を認めることとする。

備考

アクティブラーニングは対面講義、対面実習、演習によりおこなう。

昨年度の授業終了時アンケート結果より、実習内容を再検討し、新カリキュラムの内容として対面演習を増やすなど改善を行っている。

担当教員のオフィスパワーおよび連絡先

毎週月曜日 17 時～18 時

これ以外は

メールにて面談の日程を調整すること

青木和広 kazuhiro_aoki.bhoe@tmd.ac.jp

それぞれの担当教員への質問は WebClass 科目の掲示板を使うこと。

非同期授業は、動画視聴後に多肢選択式問題をそれぞれの期限までに行うこと。

対面授業では、AL(グループディスカッション)を行う。

オフィスパワー

青木 和広 毎週月曜日 16 時から 18 時 2 号館 2 階 216 号室(口腔基礎工学分野)

オフィスにいない場合もあるので、あらかじめメールで問い合わせることを推奨。

時間割番号	023512						
科目名	早期臨床体験実習			科目ID	DE151200E		
担当教員	池田 正臣, 青木 和広, 大木 明子, 土田 優美, 岩城 麻衣子, 高市 敦士, 塩沢 真穂, 佐藤 隆明[IKEDA Masaomi, AOKI Kazuhiro, OKI Meiko, TSUCHIDA Yumi, IWAKI Maiko, TAKAICHI Atsushi, SHIOZAWA Maho, SATO Takaaki]						
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1	単位数	1		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面		
時間数:後期 30 時間 授業形態:講義 8 コマ、実習 22 コマ							
主な講義場所 遠隔授業(同期型)一部対面 2号館第4実習室							
授業の目的、概要等 歯科外来、歯科技工部を見学し、臨床の現場を体験することで歯科医学ならびに歯科医療の現況を知り、医療人としての基本的な姿勢を学ぶ。また、歯科技工所と歯科企業を見学し、歯科器材・歯科技工装置の開発と製造および販売の現状と歯科市場の動向について把握することで、将来のニーズを読み取る能力を身に着ける。これらにより、歯科技工士に求められる資質とは、人の健康の維持・増進に寄与し、健康で幸せな生活の実現のため専門的知識および技術をもって広く社会貢献することであることを認識する。							
授業の到達目標 1. 歯科医療従事者に求められる態度を身につける。 2. 歯科医療と歯科保険制度が人々の健康の維持増進に果たす社会的役割を説明できる。 3. 加齢に伴う高齢者の身体的変化を説明できる。 4. 歯科業界の市場および動向について説明できる。 5. 行動特性検査と分析結果を説明できる。 6. 歯科医療のなかでの歯科技工士の役割を説明できる。 7. 歯科材料、器械の扱いを説明できる。 8. 歯科医療の現状と補綴装置、顔、口等のニーズについて分析できる。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-4	11/2	13:30-17:05	第4実習室	オリエンテーション、歯科医療概論 身だしなみと態度 歯科技工部(リアルモードスタジオ)・病院見学	現在の歯科業界の動向と検証 保険制度と保存修復治療のながれ 医療現場での身だしなみと態度、高齢者疑似体験実習 歯学部附属病院および歯科技工部の紹介	青木 和広 池田 正臣 高市 敦士 大木 明子 岩城 麻衣子 土田 優美	到達目標1-4 病院(動画)・技工部 見学・高齢者疑似体験
5-8	11/17	13:30-17:05	第4実習室	行動特性分析 歯科技工所見学	行動特性検査登録(web) 中規模 歯科技工所見学科	池田 正臣	到達目標1-5 歯科技工所見学1 4:00~
9-12	12/1	13:30-17:05	第4実習室	課題学習と発表会について 資料室、図書館の見学	課題学習法とPPT 操作・作成・発表方法 資料室見学、図書館の見学と利用方法、文献検索方法	池田 正臣	到達目標1-5 図書館見学13:40~15:00
13-16	12/8	13:30-17:05	遠隔授業(同期型)	マーケティングリサーチ1と就職活動	歯科市場における商品とサービスおよび将来的なニーズ 就職活動の実際	池田 正臣	到達目標1-3.7 Zoom
17-20	12/15	13:30-17:05	遠隔授業	行動特性分析 マーケ	自身の将来設計発表、(就職後の	池田 正臣	到達目標 1-4.7

			(同期型)	ティンブリサーチ2 将来のための自己分析	自分と就職先) 行動特性検査分析結果の解説 歯科市場における商品とサービスおよび将来的なニーズ	樋口 和秀	Zoom
21-24	12/22	13:30-17:05	第4実習室	歯科技工士の役割 歯科材料メーカー見学	歯科技工士会、同窓会等、国外の歯科技工士教育、奨励制度の紹介 材料メーカーでの体験実習	池田 正臣	到達目標4.7
25-27	1/26	13:30-16:10	遠隔授業 (同期型)	課題学習発表方法	課題学習発表方法おさらい	池田 正臣	到達目標1-8 Zoom
28-30	2/2	13:30-16:10	遠隔授業 (同期型)	学習結果発表	課題に関する学習結果発表	池田 正臣	到達目標8 Zoom

授業方法

講義、課題発表、演習、実習

遠隔授業(同期型)では、授業時間中のチャットや発言、または授業担当者にメールにて質問すること。授業担当者より授業時間中・メールにて回答する。

授業内容

歯科材料メーカー・歯科技工所見学では、スーツを着用し、白衣を持参すること

成績評価の方法

- ・参加状況(10 点)、実習態度(見学への参加度、10 点)、学習成果発表(歯科材料、機器、補綴物、治療方法のニーズについて 80 点) 学習成果発表の点数が 60%未満の場合はスライドを再提出とする。
- ・遠隔授業(同期型)に出席し、演習発表資料などの課題を提示された期限までに提出すること。

成績評価の基準

- ・配点は発表時間 20 点、説明のわかりやすさ 20 点、スライドの論理性 20 点、質疑応答 20 点、合計 80 点)で評価する。
- ・学習成果発表の点数が 60%以上のものを合格とする。
- ・授業態度を加味して総合的に評価し、この科目の評価とする。

準備学習等についての具体的な指示

事前に資料の配付、web-class へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。歯科材料、機器、補綴物、治療方法の違いについて事前に調べておくこと。講義は基本的に遠隔授業(同期型)で、実習は実習室と材料メーカーで行います。

試験の受験資格

定期試験(学習成果発表会)の受験資格

定期試験、追・再試験を受験する資格は以下のすべてとする。

- ・2/3 以上の出席を基本とする。
- ・遠隔授業(同期型)に出席し、発表資料などの課題を提示された期限までに提出すること。
- ・特別に勘案すべき事情があるために指示が達成できない場合や同期型授業に参加できない場合には、その事情とともに締め切り前および授業開始前までに科目責任者にメールで連絡すること。これらの十分な対応が行われたと判断された場合には事情などに応じてレポート等での対応を行うこととする。

教科書

必要に応じ、適宜資料の配布を行う。

参考書

必要に応じ、適宜資料の配布を行う。

備考

昨年度授業終了時アンケート結果より、実習内容を再検討し、昨年度より内容を改善している。

担当教員のオフィシアワーおよび連絡先

池田正臣 ikeda.csoe@tmd.ac.jp

メールにて面談の日程を調整すること

オフィスアワー

池田 正臣:メールにて面談の日程を調整すること

大木 明子:メールにて面談の日程を調整すること。2号館2階准教授室

青木 和広:毎週月曜日 16時から18時 2号館2階 216号室(口腔基礎工学分野)

オフィスにいない場合もあるので、あらかじめメールで問い合わせすることを推奨。

高市 敦士:随時(メールにて面談の日程を調整すること)

2号館2階 口腔デジタルプロセス学分野 教授室

塩沢 真穂:2号館3階314

土田 優美:メールにて面談の日程を調整すること

時間割番号	023514B						
科目名	う蝕と歯周病			科目ID	DE251400L		
担当教員	池田 正臣 井上 剛 佐藤 隆明 平石 典子 岩田 隆紀 竹内 康雄[IKEDA Masaomi, INOUE Go, SATO Takaaki, HIRAISHI Noriko, IWATA Takanori, TAKEUCHI Yasuo]						
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1	単位数	1		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	メディア利用科目		
時間数: 15時間 講義14コマ、実習1コマ 授業形態: 講義(非同期・一部同期) 1 月 29 日 (金)実習 10:45～11:30(光重合演習:湯島 2 号館 4 階第 4 実習室) 2 月 5 日 (金) 10:00～11:00(期末試験:湯島 2 号館 2 階第 1 講義室)、学生証および筆記用具持参							
主な講義場所 遠隔授業(非同期型)							
授業の目的、概要等 う蝕の原因と歯の実質欠損病態およびその治療法を理解する。また、歯周病の原因、病態、治療法の概要について理解する。							
授業の到達目標 1. 保存修復の全体像を説明できる。 2. う蝕の診断と処置が技工操作に与える影響について説明できる。 3. 接着材料と技術について説明できる。 4. 歯周病の全体像を説明できる。 5. 審美修復材料について説明できる。 6. 歯周病の診断と処置と歯科技工物との関係について説明できる。 7. 修復物の予後と2次う蝕の予防について説明できる。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	9/25	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	う蝕 保存修復概論 1	う蝕と保存修復の概要	池田 正臣	到達目標 1～3
3-4	10/9	10:45-12:25	遠隔授業 (非同期型)	う蝕 保存修復概論 2	硬組織疾患の診断と処置、不潔域、自浄作用 う蝕の診断と処置、切削装置	井上 剛 平 石 典子	到達目標 1～3
5-6	10/30	10:45-12:25	遠隔授業 (非同期型)	う蝕	硬組織、窩洞の名称と分類、窩洞形態	井上 剛 平 石 典子	到達目標 1～3
7-8	11/20	10:45-12:25	遠隔授業 (非同期型)	歯周病学概論	歯周病の治療法	井上 剛 平 石 典子	到達目標 4,6
9-10	11/27	13:30-15:10	遠隔授業 (非同期型)	歯周病	歯周病の病因と病態	井上 剛 平 石 典子	到達目標 4,6
11-12	12/11	10:45-12:25	遠隔授業 (非同期型)	接着性コンポジット レジン修復	材料、接着の基礎(歯質との接着)、臨床術式	井上 剛 平 石 典子	到達目標 3,5,7
13-14	1/15	10:45-12:25	遠隔授業	メインテナンス	う蝕予防、修復物の予後	井上 剛 平	到達目標 3,5,7

			(非同期型)			石 典子	
15	1/29	10:45-11:30	第4実習室	材料の透過性演習(2号館4F第4実習室)	光照射演習・ディスカッション 間接法用修復材料について	池田 正臣	到達目標 3.5,7
16	2/5	10:00-10:50	第1講義室	期末試験 10:00~11:00(2号館2F第1講義室)		池田 正臣 佐藤 隆明	到達目標 3.5,7

授業方法
講義、演習
遠隔授業(非同期型)後に、授業担当者にメールにて質問すること。授業担当者よりメールにて回答する。

成績評価の方法
・出席状況(10点)、ディスカッション・演習(授業最終日)への参加度(10点)、期末試験(80点)で総合的に評価する。
・期末試験が60%未満の場合は再試験とする。
・試験は対面試験(2月5日10時~11時)を実施する

成績評価の基準
・期末試験の点数が60%以上のものを合格とする。
・授業態度を加味して総合的に評価し、この科目の評価とする。

準備学習等についての具体的な指示
事前に資料の配付、isct LMSへのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。講義は基本的に遠隔授業(同期型)で行います。

試験の受験資格
定期試験、追・再試験を受験する資格は以下のすべてとする。
・2/3以上の出席を基本とする。
・遠隔授業(非同期型)を視聴。
・特別に勘案すべき事情があるために指示が達成できない場合は、その事情とともに締め切り前および授業開始前までに科目責任者にメールで連絡すること。これらの十分な対応が行われたと判断された場合には事情などに応じてレポート等での対応を行う

教科書
歯冠修復技工学 = Dental Technology for Fixed Dental Prostheses and Restorations／全国歯科技工士教育協議会 編集[末瀬一彦][ほか] [著]末瀬 一彦, 1951-, 全国歯科技工士教育協議会.: 医歯薬出版, 2017

参考書
接着歯学 = Adhesive dentistry／日本接着歯学会 編, 日本接着歯学会.: 医歯薬出版, 2015

備考
担当教員のオフィスアワーおよび連絡先
池田正臣 ikeda.csoe@tmd.ac.jp
メールにて面談の日程を調整すること
昨年度授業終了時アンケート結果より、実習内容を再検討し、昨年度より内容を改善している。

オフィスアワー
池田 正臣:メールにて面談の日程を調整すること

時間割番号	023517A						
科目名	人体の構造と機能			科目ID			
担当教員	青木 和広, 片桐 さやか[AOKI Kazuhiro, KATAGIRI Sayaka]						
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1	単位数	2		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面		
時間数:30 時間 授業形態:遠隔(非同期型)授業と対面授業および実習 同期型は理工学系の参加者が受講、医歯学系は対面授業の場合							
主な講義場所 2号館 第1,3講義室、LMS 上のオンデマンド講義、および、口腔保健学科基礎科学実習室（1 号館西 7 階） Zoom による遠隔授業(同期型)							
授業の目的、概要等 骨の構造と機能を学ぶことを中心に、恒常性を維持するために素晴らしく構成されている人体の不思議に目を向け、生命が営まれるメカニズムを分子レベルから個体レベルに至るまで理解する。骨が地上に生きるための支持器官であるとともに、全身と連関して内分泌器官として機能していることが発見されて来た経緯を学ぶことにより、科学的好奇心を鼓舞し、生物学研究に対する理解を深める。ネット情報が、どの論文のどの図の解釈から記載されているかを調べ、エビデンスベースで物事を判断できるように、生物学的論文の読み方も学ぶ。また、口腔内細菌が全身疾患と連関していることと新規薬物開発の過程について理解することにより、2 年生科目である「口腔と全身の基礎医学」や「硬組織薬理(硬組織に限らず薬理学の各論)」への橋渡しとする。							
授業の到達目標 1. 骨の構造と機能を説明できる。 2. 骨を構成する細胞について説明できる。 3. 筋肉の起始停止を説明できる。 4. 破骨細胞、骨芽細胞の構造と機能について説明できる。 5. カルシウム代謝を理解することにより、生体の恒常性維持機構を説明できる。 6. 骨のリモデリングと石灰化機構について説明できる。 7. カルシウム代謝の理解から、ホルモンのターゲットとなる腎臓、腸、骨の構造と機能を説明できる。 8. 中枢神経系、自律神経系、運動神経、感覚神経の構造と機能について概説できる。 9. 骨と中枢神経系との連関について発見された経緯について学ぶことにより、生物学の研究手法を説明できる。 10. 細胞内シグナル伝達とその解析方法に関して概説できる。 11. 生物学と理工学との融合研究をととした骨造成剤の開発について概説できる。 12. 新薬開発の過程に関して概説できる。 13. 口腔内細菌と全身疾患との関連、特に歯周病と糖尿病の関連を説明できる。 14. 恒常性維持機構など人体の合目的的な構造と機能について概説できる。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	9/29	09:45-11:30	第1講義室	はじめに、基礎医学について、口腔と骨	臨床に向けた基礎医学分野 口腔における骨の重要性	青木 和広	到達目標:1, 2 WebClass に資料がアップされます。授業後に確認テストを行うこと。
3-4	10/2	10:45-12:25	第1講義室	支持器官としての骨の構造と機能	骨と筋肉、解剖用語の理解	青木 和広	到達目標:1-4, 6 WebClass に資料がアップされま

							す。授業後に確認テストを行うこと。
5-6	10/20	09:45-11:30	第1講義室	骨にかかわる生体の恒常性維持機構	骨の機能にかかわる細胞とカルシウム代謝	青木 和広	到達目標:1, 2, 4-6, 14 WebClass に資料がアップされます。授業後に確認テストを行うこと。
7-8	10/23	10:45-12:25	第1講義室	生体の恒常性維持に働く器官の理解	骨の石灰化機構 腎臓と小腸の構造と機能 内分泌器官としての骨	青木 和広	到達目標:5,6, 7,14 WebClass に資料がアップされます。授業後に確認テストを行うこと。
9-10	10/27	09:45-11:30	第1講義室	骨のリモデリング単位 ハバース系	骨の標本観察実習 顕微鏡の基礎知識	青木 和広	到達目標:1-6 白衣を着用して臨むこと 色鉛筆とスケッチブックを持参のこと。骨の標本観察実習
11-12	11/6	10:45-12:25	口腔保健学科基礎科学実習室 第4実習室	骨のリモデリング単位 ハバース系	骨の標本観察実習	青木 和広	到達目標:1-6 白衣を着用して臨むこと 色鉛筆とスケッチブックを持参のこと。骨の標本観察実習
13-14	11/10	09:45-11:30	口腔保健学科基礎科学実習室 第4実習室	骨リモデリングの分子機構	骨吸収から骨形成へのカップリング機構	青木 和広	到達目標:1,2,4-6 WebClass に資料がアップされます。授業後に確認テストを行うこと。
15-16	11/17	08:50-10:30	口腔保健学科基礎科学実習室 第4実習室	軟骨組織の観察	骨の標本観察実習	青木 和広	到達目標:1-6 白衣を着用して臨むこと 色鉛筆とスケッチブックを持参のこと。骨の標本観察実習
17-18	11/24	13:30-15:10	遠隔授業(非同期型)	歯周病と全身疾患	歯周病と糖尿病との関連など口腔内細菌と全身との関連の理解	片桐 さやか	到達目標:13 WebClass に資料がアップされます。授業後に確認テストを行うこと。
19-20	11/27	10:45-12:25	第1講義室	骨の多臓器連関1 (レポート課題)	骨と中枢神経系、末梢神経系(自律神経系)、内分泌系、免疫系(全身と骨の連関)	青木 和広	到達目標:10, 11

21-22	12/18	10:45-12:25	第1講義 室	骨の多臓器連関2	オステオカルシンについて、発表 の項目分けを行う	青木 和広	到達目標:1-11, 14 PBLのように 勉強してきたこと をシェアして、発 表に備える
23	1/19	08:50-09:35	遠隔授業 (同期型)	新薬開発の過程 発表 準備	薬の開発過程と グループワーク	青木 和広	到達目標:1-14 参考論文を班で3 つまとめる
24-26	1/22	09:45-12:25	第3講義 室	人体の不思議について 発表準備 (論文読解)	人体の合目的的な構造と機能に ついて理解する	青木 和広	到達目標:1-14 グループ別に発 表の概要を示す。 グループ内で意 見を出し合い、ブ ラッシュアップす る。
27-28	1/26	08:50-10:30	第1講義 室	人体の不思議について 発表準備	人体の合目的的な構造と機能に ついて理解する	青木 和広	到達目標:1-14 グループ別に発 表の概要を示す。 グループ内で意 見を出し合い、ブ ラッシュアップす る。
29-30	2/2	08:50-10:30	第1講義 室	人体の不思議について 発表	人体の合目的的な構造と機能に ついて理解する	青木 和広	到達目標:1-14 グループ別に発 表し、グループ内 で意見を出し合 い、質問を投げ かけます。
31	2/12	10:45-11:30	情報検索 室1	期末テスト(11:30～ 12:30)		青木 和広	試験開始は 11:30 からです。

授業方法

講義、実習

対面授業では、オンデマンド講義を視聴し、その後、グループで疑問を話して、質疑応答時間を設ける。

その時間に答えられないことは、メールにて回答する。

理工学系の参加者は、Zoom のブレイクアウト機能を用いて、種々のグループワークを行う。

顕微鏡を用いた実習を行う。

終了した講義内容、あるいは、LMS にアップしている教材を勉強しておき、次の授業にテストを行うことがある(反転授業)。

成績評価の方法

評価は提出課題、発表、討論、実習のスケッチおよび期末試験(筆記試験:60 分の予定)によって行う。

・授業後の確認テスト(10 点)、TBL 方式などによる発表内容や討論の態度(10 点)、提出レポートや組織スケッチ(20 点)による評価を行う。
発表内容や討論の態度はグループの評価ではなく個人評価である。

・平常点を重視する。

・期末の客観試験、論述試験の配点は 60 点とする。

・期末試験の点数が 6 割未満の場合は再試験とする。

・出席状況、授業態度を加味する。

成績評価の基準

・期末試験の点数が 60 点以上のものを合格とする。 ・配点は、期末試験 60 点、授業後の確認テスト(10 点)、発表内容や討論の態度(10 点)、提出レポートや組織スケッチ(20 点)とし、合計 100 点満点で換算する。 ・出席状況、授業態度を加味して総合的に評価し、この科目の評価とする。
準備学習等についての具体的な指示 ・質問がある場合は、WebClass の掲示板を使って質問すること。 質問があった場合は、担当教員に連絡が行くため、返答までしばし待つこと。 質問は、講義を受講した全員に共有されるので、他の学生の質問内容を各自参照すること。
試験の受験資格 本試験、追・再試験を受験する資格は以下のすべてとする。 ・3 分の 2 以上の出席を基本とするが、実習は休まないようにすること ・理工学系学生は、遠隔授業(同期型)に出席、あるいは、非同期授業を受講し、発表資料などの課題を提示された期限までに提出すること。 ・非同期型授業の場合は、視聴記録とともに確認テストに合格し、感想を記入することで出席とみなします。 ・特別に勘案すべき事情があるために指示が達成できない場合や授業に参加できない場合には、その事情とともに締め切り前および授業開始前までに科目責任者にメールで連絡すること。これらの十分な対応が行われたと判断された場合には事情などに応じてレポート等での対応を行うが、事由が生じるあるいは生じた前後 1 週間以内に、科目責任者に連絡を怠った場合は、この対応は適応されないので注意すること。教務に提出する必要がある書類に留意すること。
教科書 新骨の科学 = Bone biology 現在絶版の為、図書館で参照のこと スライドの図を参照／須田立雄 [ほか] 編著；田中栄 [ほか] 著、須田立雄、小澤 英浩、高橋 栄明、田中 栄(整形外科学)、中村 浩彰、森 諭史、高橋 直之、網塚 憲生、遠藤 直人、竹澤 保政：医歯薬出版、2016
参考書 ヒューマンボディ：からだの不思議がわかる解剖生理学／Barbara Herlihy 著；片桐康雄 [ほか] 監訳、Herlihy, Barbara, Maebius, Nancy K., 片桐 康雄、飯島 治之、片桐 展子、尾岸 恵三子、エルゼビア・ジャパン, 2008 現代歯科薬理学／鈴木 邦明、戸莉 彰史、青木 和広、兼松 隆、筑波 隆幸、八田 光世、鈴木邦明 監修、戸莉彰史、青木和広、兼松隆、筑波隆幸、八田光世 編、戸莉彰史 [ほか] 執筆：医歯薬出版、2024.1
備考 アクティブラーニングは同期型授業、対面演習によりおこなう。 昨年度授業終了時アンケート結果より、実習内容を再検討し、対面で質問を受ける時間を設け、昨年度より内容を改善している。 担当教員のオフィスパワーおよび連絡先 毎週月曜日 17 時～18 時 これ以外は メールにて面談の日程を調整すること 青木和広 kazuhiko_aoki.bhoe@tmd.ac.jp それぞれの担当教員への質問は WebClass 科目の掲示板を使うこと。 非同期授業は、動画視聴後に多肢選択式問題をそれぞれの期限までに行うこと。 対面授業では、AL(グループディスカッション)を行う。
オフィスパワー 青木 和広 毎週月曜日 16 時から 18 時 2 号館 2 階 216 号室(口腔基礎工学分野) オフィスにいない場合もあるので、あらかじめメールで問い合わせることを推奨。

時間割番号	023760						
科目名	歯の解剖学			科目ID			
担当教員	青木 和広, 武智 正樹, 久保 優里[AOKI Kazuhiro, TAKECHI Masaki, KUBO Yuri]						
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1	単位数	1		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	メディア利用科目		
時間数:15 時間 授業形態:講義と実習 講義は遠隔授業(非同期型) および対面授業(歯の鑑別演習)							
主な講義場所 遠隔授業(非同期型) 2 号館第 1 講義室(対面の演習) MD タワー4 階 図書館情報検索室(試験会場)							
授業の目的、概要等 歯の形態を知り、永久歯の鑑別ができるようになること。							
授業の到達目標 1. 歯の生物学的特性、歯の外形と内形を説明できる。 2. 歯の種類と名称を列挙できる。 3. 歯の記号と歯式の表示法を説明できる。 4. 歯の方向と部位を表す用語を説明できる。 5. 歯の形態を説明できる。 6. 歯の植立様式を説明できる。 7. 永久歯の形態的特徴を列挙できる。 8. 乳歯の形態的特徴を列挙できる。 9. 歯の数、形態および色の異常について説明できる。 10. 歯の鑑別の重要性を説明できる。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	9/28	08:50-09:35	遠隔授業 (同期型)	歯の鑑別について	シラバス説明 歯の鑑別の重要性	青木 和広	到達目標:10 講義を視聴後、感想を記入
2	9/28	14:25-15:10	遠隔授業 (非同期型)	歯の解剖学総論	歯の種類と名称、歯式、英語名称、歯列弓、咬合	青木 和広 武智 正樹	到達目標:1-7, 9 講義を視聴後、確認テスト、 感想を記入
3	9/28	15:25-16:10	遠隔授業 (非同期型)	永久歯の形態 1, 2 永久歯の形態 3	前歯群(切歯、犬歯)の形態	青木 和広 武智 正樹	到達目標:1-7, 9 講義を視聴後、確認テスト、 感想を記入
4	10/6	13:30-14:15	遠隔授業 (非同期型)	永久歯の形態 4	小臼歯の形態	青木 和広 武智 正樹	到達目標:1-7, 9 講義を視聴後、確認テスト 感想を記入
5	10/6	14:25-15:10	遠隔授業	永久歯の形態 5	大臼歯の形態	青木 和広	到達目標:1-7, 9

			(非同期型)			武智 正樹	講義を視聴後、確認テスト 感想を記入
6	11/24	15:25-16:10	遠隔授業 (非同期型)	乳歯の形態	乳歯の特色、乳切歯、乳犬歯、乳臼歯	青木 和広 武智 正樹	到達目標:1-10 到達目標:1-7,9 講義を視聴後、確認テスト 感想を記入
7	11/24	16:20-17:05	遠隔授業 (非同期型)	歯の異常	歯の特殊な形	青木 和広 武智 正樹	到達目標:1-10 到達目標:1-7,9 講義を視聴後、確認テスト 感想を記入
8-9	12/21	13:30-15:10	遠隔授業 (非同期型)	対面鑑別テストに向けた練習(自学自習) 国家試験問題演習(自学自習)	対面鑑別テストに向けた練習 国家試験問題演習 LMS 上の練習 問題を行う(異常歯に関しては、期末試験対策になります)	青木 和広	到達目標:1-10 到達目標:1-7,9 LMS にアップした問題を解いて理解を深めること。 国家試験問題は、期末試験まで継続的に表示します。
10-11	1/12	10:45-12:25	第1講義室	歯の鑑別演習 その1	鑑別テスト演習	青木 和広	到達目標:1-7,9 永久歯の鑑別演習 最初に鑑別テストを行います。
12-13	1/26	10:45-12:25	第1講義室	歯の鑑別演習 その2	鑑別テスト演習	青木 和広	到達目標:1-10 永久歯の鑑別演習 最初に鑑別テストを行います。
14-15	2/1	13:30-15:10	第1講義室	歯の鑑別演習 その3	鑑別テスト演習	青木 和広	到達目標:1-10 永久歯の鑑別演習 最初に鑑別テストを行います。
16	2/9	13:30-14:15	情報検索室1	期末テスト(13:30～14:30)		青木 和広	試験開始は 13:30 からです。

授業方法

講義、実習

- ・前の講義内容、あるいは、LMS にアップしている教材を勉強しておき、次の授業にテストを行うことがある(反転授業)。また、前の講義を受けて発表をしてもらうこともあるので、PCを準備しておくこと(前もって指示する)。
- ・遠隔授業(非同期型)で質問を受ける方法は、掲示板に書き込むようにしてください。個別にメールでは行わないようにしてください。
- ・対面実習は、歯の鑑別練習となる(毎回鑑別テストを行う)。
- ・試験前の対応はしていないので、この時間にしっかりと練習しておくこと。

成績評価の方法

評価は提出課題(小テスト)と期末試験(歯の鑑別テストおよび筆記試験 CBT 方式)および平常点の合計によって総合的に評価する。

・課題提出は、小テストの合計を 20 点として評価する。 ・期末試験は歯の鑑別テストと客観試験の合計であり、70 点分として評価する。 ・平常点は、出席状況、授業態度を 10 点として評価する。 ・期末試験の点数が 6 割未満の場合は再試験とする。 期末試験では、鑑別テスト 4 割、筆記試験は 6 割で換算する。期末試験が 6 割以上でも鑑別テストが 7 割以上とれない場合は、鑑別テストのみ再試験とする。 なお、筆記テストは CBT (Computer based test) となる。
成績評価の基準 ・期末試験が 6 割以上で歯の鑑別テストが 7 割以上のものを合格とする。 ・評価の配点は、期末試験 70 点、提出課題が 20 点 (提出レポートや小テストなど)、出席状況、授業態度 (10 点) とし、合計 100 点満点で換算し、この科目の評価 (総合点数) とする。 A+ は、期末試験が 9 割以上の場合、あるいは、総合点数が 90 点以上の場合となる。
準備学習等についての具体的な指示 事前に資料の配付、LMS へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。 歯の模型を必要に応じて持参すること。
試験の受験資格 定期試験、追・再試験を受験する資格は以下のすべてとする。 ・2/3 以上の出席を受験資格とする。 ・特別に勘案すべき事情があるために教員からの指示が達成できない場合や同期型授業に参加できない場合には、その事情とともに締め切り前および授業開始前までに科目責任者にメールで連絡すること。これらの十分な対応が行われたと判断された場合には事情などに応じてレポート等での対応を行うこととする。 ・非同期講義では、ビデオ視聴記録が確認できても、感想を記入し、小テスト (確認テスト) を行う、もしくは合格点があるものは合格点に達しなければ出席とカウントされない。
教科書 口腔・顎顔面解剖学 = Oral and Maxillofacial Anatomy / 全国歯科技工士教育協議会 編集、脇坂聡、杉田順弘、市川博之、里田隆博、木暮ミカ 著、脇坂 聡、杉田、順弘、市川、博之、全国歯科技工士教育協議会、: 医歯薬出版、2016 顎口腔機能学 / 全国歯科技工士教育協議会、志賀、博、町、博之、小泉、順一、上杉、華子、小見野、真梨恵、全国歯科技工士教育協議会 編集、: 医歯薬出版、2024.2
備考 アクティブラーニングは対面実習、演習によりおこなう。 昨年度授業終了時アンケート結果より、実習内容を再検討し、昨年度より内容を改善している。 担当教員のオフィスアワーおよび連絡先 毎週月曜日 17 時～18 時 これ以外は メールにて面談の日程を調整すること 青木和広 kazuhiro_aoki.bhoe@tmd.ac.jp それぞれの担当教員への質問は LMS 科目の掲示板を使うこと。 非同期授業は、動画視聴後に多肢選択式問題をそれぞれの期限までに行うこと。 対面授業では、AL (グループディスカッション) を行う。
オフィスアワー 青木 和広 毎週月曜日 16 時から 18 時 2 号館 2 階 216 号室 (口腔基礎工学分野) オフィスにいない場合もあるので、あらかじめメールで問い合わせることを推奨。

時間割番号	023a90						
科目名	研究体験実習			科目ID			
担当教員	青木 和広, 土田 優美, 池田 正臣, 佐藤 隆明, 大木 明子, 塩沢 真穂, 金子 奏絵, 高市 敦士[AOKI Kazuhiro, TSUCHIDA Yumi, IKEDA Masaomi, SATO Takaaki, OKI Meiko, SHIOZAWA Maho, KANEKO Kanae, TAKAICHI Atsushi]						
開講時期	2026 年度後期	対象年次	1	単位数	1		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面		
時間数:30 時間 授業形態:講義・演習・実習 対面授業 大岡山DAYあり							
主な講義場所 2 号館 4 階第 4 実習室 各分野の研究室 大岡山キャンパス 2 号館第 1 講義室							
授業の目的、概要等 『「科学の進歩」と「人々の幸せ」とを探究し、社会とともに新たな価値を創造する』という本学の存在意義(ミッション)を中心に、各学生の知的興味、将来の方向性に沿った歯科技工領域研究、あるいは生物学と理工学の融合研究のテーマを紹介することにより、研究とは何かを考え、日々の勉強から研究のシーズを見つけ出せることを理解する。							
授業の到達目標 1. 口腔保健工学専攻3分野の研究を説明できる 2. 工学院と物質理工学院の研究に触れて、理工学との融合研究をイメージできる。 3. 本学の基本理念を中心に課題発見から課題解決への研究の流れを理解できる。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	9/25	10:45-12:25	第4実習室	研究とは何か？	研究について考える キャリアについて考える 先輩の話を伺う (6回生久保優里先生)	青木 和広	到達目標:1-3
3-5	10/23	13:30-16:10	第4実習室	研究室見学 その1 (見学後、 15時20分から第4実習室で各自発表)	工学3分野(口腔デジタルプロセス学、口腔医療工学、口腔基礎工学)のうち1つの分野の見学	青木 和広 池田 正臣 大木 明子, 佐藤 隆明 土田 優美	到達目標:1-3 各分野に分かれて、研究見学。最後に集まり、グループごとに報告し、質問を受ける
6-8	11/6	13:30-16:10	第4実習室	研究室見学 その2 (見学後、 15時20分から第4実習室で各自発表)	工学3分野(口腔デジタルプロセス学、口腔医療工学、口腔基礎工学)のうちまだ見学していない分野の見学	青木 和広 池田 正臣 大木 明子, 佐藤 隆明 土田 優美	到達目標:1-3 各分野に分かれて、再度訪問したい分野の研究見学。最後に集まり、各分野ごとに報告し、質問を受ける。
9-11	11/13	09:45-12:25	その他	工学院、物質理工学院の研究を垣間見る (講義)	大岡山(工学院、物質理工学院)の研究紹介	青木 和広	到達目標:1-3 見学後レポート提出

12-14	11/13	13:30-16:10	その他	大岡山(工学院)3つの研究室見学	工学院の研究を垣間見る 古川 克子先生 荒木 稚子先生 田中 智久先生	青木 和広	到達目標:1-3 見学後レポート提出
15-17	11/20	13:30-16:10	第1講義室	研究室見学 その3 (見学後、15時20分から第4実習室で各自発表)	工学3分野(口腔デジタルプロセス学、口腔医療工学、口腔基礎工学)のうちまだ見学していない分野の見学	青木 和広 土田 優美 池田 正臣 佐藤 隆明	到達目標:1-3
18-21	12/8	08:50-12:25	特別講堂 (D棟4階)	OH4 卒業研究発表会 参加	アンケート調査による研究など、工学専攻の研究とは別の研究手法を学ぶ	青木 和広 大木 明子	到達目標:1-3 Padletに感想を記載する PadletのアクセスURLは事前に案内する。
22-23	12/11	13:30-15:10	第1講義室	物質理工学院の研究紹介	物質理工学院生駒俊之教授の研究	青木 和広	到達目標:1-3 見学後レポート提出
24-28	1/8	09:45-15:10	特別講堂 (D棟4階)	OE4 卒業研究発表会 参加	4年生の研究発表から、工学専攻での研究を学ぶ	青木 和広	到達目標:1-3 Padletに感想を記載する PadletのアクセスURLは事前に案内する。
29-30	1/29	13:30-15:10	第1講義室	発表会	研究体験実習のまとめ 前日までに発表スライドをWebClassに提出	青木 和広	到達目標:1-3 この科目を通して得られたことを個別に発表する。各自、見学した分野の研究、身の回りのことでも研究したいテーマなど自由に発表

授業方法

対面講義、見学、グループ学習、課題発表

成績評価の方法

出席状況、授業への取り組みや授業態度(20点)、分野見学後の毎回の発表内容や大岡山 DAY のレポート内容(30点)、最後に行う個別の発表内容(50点)から総合的評価を行う。

成績評価の基準

出席状況、授業への取り組みや授業態度(20点)、3回にわたる分野見学報告の内容と11月13日の大岡山キャンパスにおける見学報告内容(30点)、最後に行う個別の発表内容(50点)から総合的評価を行う。

個別発表においては、各自の知的好奇心や自らの将来構想をもとに、自らが考えた研究テーマであるかどうかを基準として評価を行う。
A以上の評価は、8割以上参加が条件となる。

準備学習等についての具体的な指示

事前の資料配付およびWeb Class上へのアップロードがあった場合には、予習をして授業に臨むこと。
Web Classを連絡だけでなく、反転授業のためにも利用するので、チェックを怠らず、指示に従って課題および予習を行うこと。
発表会に向けて、パワーポイントの使い方は練習しておくこと。

試験の受験資格

4分の3の出席が単位取得の基本条件。

それぞれの授業の開始時間から 30 分以上の遅刻はその時間の出席とはならない。 非同期型授業は、感想記入までおこなって出席となる。 やむをえず、欠席する場合は、再受講などの措置をとるので、かならず、授業前、場合によってはその日のうちに理由をメールで送ること。
参考書 研究の育て方：ゴールとプロセスの「見える化」／近藤克則著、近藤 克則、医学書院、2018
備考 2025 年度のアンケートや学生からの意見をもとに、工学院の見学時間を延ばし、VI 構想の実体化にむけた取り組みを学生から始めるための改善をおこなっている。 この科目は、研究に対する興味と日々の学習から研究のシーズを探す姿勢を学ぶことを目標としている。 選択科目ではあるが、1 年生はまず最初の 2 回に参加し、履修をするかどうかを決定すること。 対面授業では、AL(グループディスカッション)を行う。
オフィスアワー 青木 和広:毎週月曜日 16 時から 18 時 2 号館 2 階 216 号室(口腔基礎工学分野) オフィスにいない場合もあるので、あらかじめメールで問い合わせることを推奨。 高市 敦士:随時(メールにて面談の日程を調整すること) 2 号館 2 階 口腔デジタルプロセス学分野 教授室

時間割番号	023b30						
科目名	多職種連携Ⅰ			科目ID			
担当教員	大木 明子, 久保 優里, 土田 優美, 青木 和広[OKI Meiko, KUBO Yuri, TSUCHIDA Yumi, AOKI Kazuhiro]						
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1	単位数	0.5		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面		
必修 0.5 単位 演習 8 コマ							
主な講義場所 MD タワー2F 鈴木章夫記念講堂							
授業の目的、概要等 現代の医療・歯科医療は、多様な専門職が連携するチームで実施される。本授業は、本学の全学科学生が参加する多職種連携教育（IPE）として行い、保健・医療・福祉の各専門職の役割を相互に理解するとともに、共通する職業倫理や仕事への姿勢、多職種連携の重要性を学び、将来像を考察することを目的とする。さらに、患者・家族の講演を通して、医療者のプロフェッショナリズムを考察し自覚を深める。 また、チーム医療に不可欠なコミュニケーションとチームダイナミクスを理解し、第一学年として、知識や価値観を他学科学生と共有し、相手の役割や意見を尊重する態度、リーダーシップ／フォロワーシップを身につける。学修は演習形式で行い、協働のために各自が役割を果たす。							
授業の到達目標 1. 自らの知識や価値観を、他学科の学生に共有することができる。 2. 他学科学生の役割や意見を尊重した説明や返答、問いかけができる。 3. 他学科学生との演習活動の中で、協働を実現するために、自らの役割を果たすことができる。							
H26 歯科技工学教育モデル・コア・カリキュラム A-1 歯科技工学概論 到達目標: A-1-1)-⑤ 多職種との連携とチーム医療について説明できる。 A-1-1)-⑥ チーム医療でのコミュニケーション力の必要性を認識できる。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	4/14	08:50-10:30	鈴木章夫記念講堂	オリエンテーション 教員講演	・実習オリエンテーション ・学科専攻紹介	大木 明子, 久保 優里	到達目標 1-3、講義対面 事前学習:なし 各学科専攻教員
3-4	4/14	10:45-12:25	鈴木章夫記念講堂	講義 グループワーク 1 質疑応答 1	・チームビルディング ・自己紹介、学科専攻紹介 ・学科専攻に関する質疑応答	大木 明子, 久保 優里	到達目標 1-3、演習対面、課題提出 各学科専攻教員
5-6	4/14	13:30-15:10	鈴木章夫記念講堂	患者講師講演 グループワーク 2	・多職種協働の大切さ ・講演を踏まえたグループディスカッション	大木 明子	到達目標 1-3、講義対面 非常勤講師:長岡亮介 演習対面 各学科専攻教員
7-8	4/14	15:25-17:05	鈴木章夫記念講堂	質疑応答 2 グループワーク 3 総括	・講演とグループワークを踏まえた質疑応答 ・実習全体を踏まえたグループディスカッション ・実習のまとめ	大木 明子	到達目標 1-3、講義演習対面、課題提出 各学科専攻教員 事後

						課題を提出すること
授業方法 対面講義、演習(グループワーク) 医学部歯学部の全学科全専攻の1年生、2年次編入生が参加し、グループに分かれて討論を行う。 課題の提出をLMSにて行うこと(実習後課題の提出期限は1週間後、期限指定についてはLMSを確認)。						
授業内容 チーム医療とは、チームビルディング、患者からみた多職種連携についての講演やグループワーク、発表						
成績評価の方法 成績はグループワークへの参加態度(50%)、レポート等の提出物(50%)により評価する。 出席状況、授業態度を総合評価に加味する。						
成績評価の基準 ・合計点数が60%以上のものを合格とする。 参加態度は、司会や書記を務め、積極的に発言しただけではなく、グループメンバーの話しやすい雰囲気を作るなど、聞く姿勢も評価の対象となる。 ・期日までに提出された課題を採点対象とし、講演で聞いた内容やグループワークで話し合った内容が含まれているか、自分自身の考えが描かれているかについて授業の到達目標の達成度に応じて採点する。						
準備学習等についての具体的な指示 資料の配布、LMSへのアップロード等があった場合は、各自視聴すること。 課題の提出をLMSにて行うこと。						
試験の受験資格 試験は実施しない ・出席を基本とし、演習に参加する。 ・演習発表資料などの課題を提示された期限までに提出すること。 ・特別に勘案すべき事情があるために指示が達成できない場合には、その事情とともに締め切り前および授業開始前までに科目責任者にメールで連絡すること。これらの十分な対応が行われたと判断された場合には事情などに応じてレポート等での対応を行うこととする。						
参考書 他人の悩みはひとごと、自分の悩みはおおごと。：#なんで僕に聞くんだろう。／幡野 広志、1983-幡野広志 著：幻冬舎、2020.11 チームが機能するとはどういうことか：「学習力」と「実行力」を高める実践アプローチ／Edmondson, Amy C.野津 智子、エイミー・C・エドモンドソン 著、野津智子 訳：英治出版、2014.5 患者中心の医療の方法／Stewart, Moira, Brown, Judith Belle, Weston, W. Wayne, McWhinney, Ian R., -2012, McWilliam, Carol L, Freeman, Thomas, 1948-, 葛西 龍樹, 1957-, Moira Stewart, Judith Belle Brown, W Wayne Weston, Ian R McWhinney, Carol L McWilliam, Thomas R Freeman 著、葛西龍樹 監訳、若手医：羊土社、2021.4						
他科目との関連 多職種連携Ⅱ、Ⅲへの導入科目である。医療者のプロフェッショナリズムを育成するための科目である。						
履修上の注意事項 積極的に参加すること。課題を提出すること。出席は開始前のカードリーダー及びチューター確認とする。						
備考 東京科学大学に入学した医歯系学生の、専門にかかわらずに全員が参加する科目である。 昨年の科目評価を受けての変更点： ・グループワークが困難な場合は、チューターへ報告、相談の上、グループ内での座席の交換を可能とする。 科目責任者(口腔保健工学専攻)のオフィスアワーおよび連絡先 大木明子 准教授 メールにて日時を相談 moki.mfoe@tmd.ac.jp						
オフィスアワー 大木 明子メールにて面談の日程を調整すること。2号館2階准教授室						

時間割番号	023c70				
科目名	口腔保健工学エクスターンシップ A			科目 ID	
担当教員	青木 和広[AOKI Kazuhiro]				
開講時期	2026 年度通年	対象年次	1	単位数	1
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面

海外研修プログラムを履修した学生に、自由選択科目(卒業要件以外)の単位として1単位を認定する。

成績評価の方法

それぞれの海外研修プログラムの責任者が、学生の研修内容等を総合的に判定して可否をつけ、口腔保健学科教育委員会において承認を受けた後、教授会で最終判定を行う。

評価としては、発展的に学習して自らの課題解決策等について具体的に論述できる場合は 80 点 以上とする。

また、3)の TMU との交流における成績は、参加への積極性や発表時の内容等により総合的に判断して成績をつけるものとする。なお、ポイントは学年をまたいで持ち越しにはなるが、90 点以上の基準としては、プログラムの全部の参加状況が一つの基準となる。

準備学習等についての具体的な指示

- ・各自のテーマに必要な知識および技術を十分に理解して実習に臨むこと。
- ・訪問計画は担当教員と相談し、各自入念に準備しておくこと。

3)の TMU との交流にあたり、事前に TMU 学生と交流をし、準備を進めることが大切である。

来日時の交流に備えた事前の交流の仕方は、担当教員から指示がある。

試験の受験資格

○ 単位認定条件

1)海外研修奨励制度による研修プログラムへの参加

(1) 語学能力(英語)

選考時面接にて英語能力を評価。CEFR-J B1 High 以上を積極的に評価する。

(2) 海外渡航時の注意事項、危機管理に関する研修(講義)の履修

(3) 研修報告書の提出

日本語および英語(詳細は別に定める)

(4) 研修報告会における発表

研修報告会が開催されるときは、研修報告のプレゼンテーションを行う。

(5) 本学および海外の担当教員による学生評価の成績(70 点 以上)

2)その他の海外研修プログラム(口腔保健学科教育委員会が認めたもの)

(1) 語学能力(英語)

選考時面接にて英語能力を評価。CEFR-J B1 High 以上を積極的に評価する。

(2) 研修特別コースの履修(*)

研修内容によって、特別に提供されるコースの履修(詳細は別に定める)

(3) 海外における生活上の注意、危機管理に関する研修(講義)の履修

(4) 研修報告書の提出

日本語および英語(詳細は別に定める)

(5) 研修報告会における発表

研修報告会が開催されるときは、研修報告のプレゼンテーションを行う。

(6) 本学および海外の担当教員による学生評価の成績(70 点以上)

(*)なお、オンラインの国際交流プログラムを実施する場合においても、大学が開催する海外の教育研究機関とのオンライン交流会参加をもって、単位申請することができる。

- ・ 国際活動ポイント Point System for International Exchange(P-Sie) の総計が 15 以上あること。

(各交流プログラム担当者により付与ポイントを設定していただき、国際交流委員会の承認後、募集に際して学生にポイント数を明示する。学年持越し可とする。)

・大学が開催する P-Sie 対象のオンラインまたは対面のプログラムの単位認定条件は2)(2)(3)以外のすべての条件を満たすこと。

3) 台北医学大学(TMU)との交流で必修科目ではない、任意参加のプログラムにすべて参加した場合は、15 ポイントを付与し、エクスターンシップの単位申請ができる。単位認定は、教育委員会および教授会の承認を得る。

履修上の注意事項

1. 海外研修プログラムを履修した学生に、自由選択科目(卒業要件以外)の単位として1単位を認定する。 2. 単位認定の対象となる海外研修プログラムは以下のプログラムとする。各プログラムにおける単位認定条件は別に定める。 1) 大学海外研修奨励制度(事前研修を含む。) 2) その他の海外研修プログラム(口腔保健学科教育委員会が認めたもの)(*) 3. 所定のプログラムを終了した学生に対し、口腔保健学科教育委員会の議を経て、歯学部教授会が単位を認定する。但し、同一年次・年度で認定できる単位は1単位を上限とする。また、「その他の海外研修プログラム」に該当するプログラムで認定できる単位は、プログラムの内容・年次・年度・回数に限らず、在学期間を通じて1単位とする。 (*)なお、オンラインの国際交流プログラムを実施する場合においても、大学が開催する海外の教育研究機関とのオンライン交流会参加をもって、単位申請することができる。 ・国際活動ポイント Point System for International Exchange (P-Sie)の総計が 15 以上あること。(各交流プログラム担当者により付与ポイントを設定していただき、国際交流委員会の承認後、募集に際して学生にポイント数を明示する。学年持越し可とする。) ・大学が開催する P-Sie 対象のオンラインまたは対面のプログラムの単位認定条件は2)(2)(3)以外のすべての条件を満たすこと。 3) 台北医学大学(TMU)との交流で必修科目ではない、任意参加のプログラムにすべて参加した場合は、15 ポイントを付与し、エクスターンシップの単位申請ができる。単位認定は、教育委員会および教授会の承認を得る。

備考

昨年度授業終了時アンケート結果より、実習内容を再検討し、昨年度より内容を改善している。

国際交流自体が、AL(グループディスカッション)となる。

学生自身で単位申請を行うこと。

オフィスアワー

毎週月曜日 16時から18時 2号館2階 216号室(口腔基礎工学分野)

オフィスにいない場合もあるので、あらかじめメールで問い合わせることを推奨。

第 2 学年
履修科目・ユニット

時間割番号	023502						
科目名	科学英語 I				科目 ID	DE210200L	
担当教員	佐藤 隆明, 池田 正臣[SATO Takaaki, IKEDA Masaomi]						
開講時期	2026 年度前期	対象年次	2		単位数	1	
実務経験のある教員による授業	該当する				授業形態	メディア利用科目	
時間数: 講義 15 コマ 授業形態: 講義と演習 遠隔授業(同期型)、演習、課題発表							
主な講義場所 自宅学習 遠隔授業(同期型)							
授業の目的、概要等 歯科界で使われる英語について基本的な知識を増やし、日常的に使用される歯科技工関連の専門用語を、英語で理解し・表現する(読む、聞く、書く、話す)ことができる力を身につける。							
授業の到達目標 1. 英語で、自己紹介ができる。 2. 英語で、簡単なコミュニケーションを行うことができる。 3. 英語で、歯科医療の概要を説明できる。 4. 英語で、歯／口腔の解剖学的構造を説明できる。 5. 英語で、歯科補綴装置、専門用語を説明できる。 6. 英語で、歯科材料を説明できる。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	4/30	16:20-17:05	遠隔授業 (同期型)	自然科学の英語	歯科用単語の説明 各科名称、治療法、補綴装置を扱う治療法、日常診療他 教科書の音読(英語)	佐藤 隆明	到達目標: 2-6
2-3	5/7	15:25-17:05	遠隔授業 (同期型)	歯科治療の基礎	歯科用単語の説明 各科名称、治療法、補綴装置を扱う治療法、日常診療他 教科書の音読(英語)	佐藤 隆明	到達目標: 2-6
4-5	5/14	15:25-17:05	遠隔授業 (同期型)	歯科治療の基礎	歯科用単語の説明 各科名称、治療法、補綴装置を扱う治療法、日常診療他 教科書の音読(英語)	佐藤 隆明	到達目標: 2-6
6-7	5/21	15:25-17:05	遠隔授業 (同期型)	歯科治療の基礎	歯科用単語の説明 各科名称、治療法、補綴装置を扱う治療法、日常診療他 教科書の音読(英語)	佐藤 隆明	到達目標: 2-6
8-9	5/28	15:25-17:05	遠隔授業 (同期型)	歯科治療の基礎	歯科用単語の説明 各科名称、治療法、補綴装置を扱う治療法、日常診療他 教科書の音読(英語)	佐藤 隆明	到達目標: 2-6
10-11	6/11	15:25-17:05	遠隔授業 (同期型)	歯科治療の基礎	歯科用単語の説明 各科名称、治療法、補綴装置を扱う治療法、日常診療他 教科書の音読(英語)	佐藤 隆明	到達目標: 2-6
12-13	6/25	15:25-17:05	遠隔授業 (同期型)	歯科治療の基礎	歯科用単語の説明 各科名称、治療法、補綴装置を扱う治療法、日常診療他 教科書の音読(英語)	佐藤 隆明	到達目標: 2-6
14-15	7/2	15:25-17:05	遠隔授業 (同期型)	英語で自己紹介 まとめ	コミュニケーション演習 英語で発表 質疑応答	佐藤 隆明	到達目標: 2-6

授業方法 遠隔授業(同期型)、演習、課題発表
成績評価の方法 ・自己紹介、英語で発表(20 点) ・期末テストの得点 (70 点) ・授業態度・参加度(10 点)とし総合的に評価し可否を判定する。 ・遠隔授業(同期型)に出席し、演習発表資料、レポートなどの課題を提示された期限までに提出すること。
成績評価の基準 ・授業態度・参加度を加味して総合的に評価し、この科目の評価とする。 ・期末テストが 6 割未満の場合は再試験とする。
準備学習等についての具体的な指示 ・講義中、参考書「歯科英語」を用いて音読を行う 不安な場合は事前に単語を調べるなど自己学習を行うこと ・英語での自己紹介プレゼンテーションを準備し、最終日に英語で発表する ・発表課題については、事前に課題を製作すること ・AI に課題内容を作成させる行為、他人の作成物をコピーする行為は禁止する
試験の受験資格 定期試験、追・再試験を受験する資格は以下のすべてを満たす者とする。 ・2/3 以上の出席を評価基準とする。 ・出席は講義中に点呼を行う形式で実施する。Zoom 接続ログがあっても応答が無い場合は欠席として扱う。 ・また、点呼後に講義中カメラをオフにして、こちらからの呼びかけに応じない場合は講義に参加していないものと判断する(欠席または遅刻・早退として扱う)。 ・遠隔授業(同期型)に出席し、発表資料などの課題を提示された期限までに提出すること。 ・特別に勘案すべき事情があるために指示が達成できない場合や同期型授業に参加できない場合には、その事情とともに締め切り前および授業開始前までに科目責任者にメールで連絡すること。これらの十分な対応が行われたと判断された場合には事情などに応じてレポート等での対応を行うこととする。
参考書 歯科英語／全国歯科技工士教育協議会編；鶴田潤 [[ほか] 著,全国歯科技工士教育協議会,鶴田, 潤,:医歯薬出版, 2017 Dr. 佐藤とリチャードの臨床で使える歯科英会話 = Dr. Sato and Dr. Richard's Dental English conversation／佐藤尚弘, Richard Foxton 著,佐藤, 尚弘Foxton, Richard,:クインテッセンス出版, 2010
履修上の注意事項 参考書欄の「歯科英語」を使用します。 講義時は手元に用意すること Zoom で実施します。 事前に、カメラ・マイク、下記設定を確認しておくこと 自身の準備不足、設定不良、機器不良による不利益は、原則として考慮しない トピック: 2026 年度 科学英語 I Zoom ミーティングに参加する
備考 本科目は、演習中心の科目となります。 国際的な感覚、視野を持って仕事をするには必ずしも英語ができることだけで実現するものではありません。 積極的に発言すること、楽しむこと、様々な要素とともに英語というツールを活用することが必要となると思います。 新たな知識を得ることを楽しんで受講するようにしてください。 昨年度授業終了時アンケート結果より、授業内容を再検討し、専門用語の解説内容を改善している。 担当教員のオフィシアワーおよび連絡先 佐藤隆明 tsato.ope@tmd.ac.jp メールにて面談の日程を調整すること
オフィシアワー 池田 正臣:メールにて面談の日程を調整すること

時間割番号	023620a		
科目名	英語Ⅱ: Topical Discussion	科目ID	
担当教員	WHITAKER SIMON[WHITAKER SIMON]		
開講時期	2026 年度通年	対象年次	2～4
実務経験のある教員による授業		授業形態	メディア利用科目
・曜日・時間:水曜 3 講 ・対象:全学科 ・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー): 別表3ー4) 別表4ー5)			
授業の目的、概要等 A course focused on in-depth discussion of contemporary social topics which affect everyone, from AI and social media to new or growing health and environmental challenges. We will consider a small set of such topics from different angles. You will continuously work on and develop important skills like those of open and impromptu discussion. You will also be building up and consolidating vocabulary, and even your own ideas, as we explore points of connection between these topical debates and the often-overlapping ways they can be approached.			
授業の到達目標 To be able to engage in extended discussions in English on a range of topics 多様なトピックについて、英語でより長い議論をすることができる To be able to comprehend and use new vocabulary 新しい語彙を理解して使用することができる To be able to speak in front of others more effectively 他の人の前でより効果的に話すことができる To be able to overcome shyness and worries about stating opinions and communicating in imperfect English 完璧な英語でなくとも、羞恥心に打ち勝ち、自分の意見を英語で伝え議論に参加することができる To be able to productively engage in activities in a cross-cultural environment by collaborating with people from different cultural backgrounds in English 様々な文化的背景を持つ仲間と協働し、生産的に業務に貢献・遂行できる To be able to utilize critical thinking skills (including productively making and responding to counterarguments) and lateral thinking skills in English 英語でクリティカルシンキングやラテラルシンキングスキルを活用できる(健全で建設的な反論およびそれへの対応を含む) To be able to productively engage in academic and professional activities using English in an international setting 国際的な場面で、英語を使い、学問的および専門的な活動に生産的に貢献することができる 以下の 3 点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70 点以上)の必要条件として要求される。 1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。 2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。 3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。			

授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	6/10	13:30-14:15	遠隔授業 (同期型)	Class 1	Half-length session. Introduction to course and introducing each other.	WHITAKER SIMON	Active learning/speaking + Seminar
2-3	6/17	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 2, Class 3	Topic 1. First tutor-led discussion.	WHITAKER SIMON	Active learning/speaking + Seminar
4-5	6/24	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 4, Class 5	Further group discussion around topic 1.	WHITAKER SIMON	Active learning/speaking + Seminar
6-7	7/1	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 6, Class 7	Topic 2. Second tutor-led discussion.	WHITAKER SIMON	Active learning/speaking + Seminar
8-9	7/8	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 8, Class 9	Further group discussion around topic 2.	WHITAKER SIMON	Active learning/speaking + Seminar
10-11	7/15	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 10, Class 11	Topic 3. Third tutor-led discussion.	WHITAKER SIMON	Active learning/speaking + Seminar
12-13	7/22	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 12, Class 13	Further group discussion around topic 3.	WHITAKER SIMON	Active learning/speaking + Seminar
14-15	7/29	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 14, Class 15	Discussion of topics covered + further areas of study/consideration.	WHITAKER SIMON	Active learning/speaking + Seminar
授業方法							
Skills Instruction and Practice							
授業内容							
Class 1: Orientation							
Classes 2-15: Skills Instruction and Continuous Assessment							
Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.							
成績評価の方法							
Participation: 50%, Presentations: 30%. Discussion contributions: 20%							
再評価: 再評価はありません。							
成績評価の基準							
「東京科学大学学修規程第6条」による							
準備学習等についての具体的な指示							
Attendance and participation are both essential.							
試験の受験資格							
「英語Ⅱ」の各科目(1単位)は、45 分×15 コマです。科目ごとに成績がつきます。試験が実施される場合、受験資格があるのは、原則としてその科目に3分の2以上出席した者です。「英語Ⅱ」では再評価は行いません。							

履修上の注意事項

教員がとる出欠を優先します。既に履修済の英語Ⅱ科目と同一名の科目は原則として履修できません。

オフィスアワー

WHITAKER SIMON:水・木曜日 12時30分～13時 管理研究棟 3階 ウィタカー研究室

時間割番号	023630				
科目名	英語Ⅱ: Global Connections			科目ID	
担当教員	PATRICK FOSS[PATRICK FOSS]				
開講時期	2026 年度通年	対象年次	2～4	単位数	1
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	メディア利用科目
・曜日・時間:水曜 3 講 ・対象:全学科 ・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー): 別表3ー4) 別表4ー5)					
授業の目的、概要等					
While it is important for medical professionals in Japan to study and understand issues specific to their own country, it is also crucial to remember that we are all part of a global community as well. Learning about problems or innovations in other contexts can lead to greater respect and empathy and may spark ideas concerning ways we can better help others or even ourselves. This course will examine societal and healthcare-related challenges being faced in various countries through the perspectives of people from those countries.					
授業の到達目標					
To be able to engage in extended discussions in English on a range of topics 多様なトピックについて、英語でより長い議論をすることができる To be able to comprehend and use new vocabulary 新しい語彙を理解して使用することができる To be able to speak in front of others more effectively 他の人の前でより効果的に話すことができる To be able to overcome shyness and worries about stating opinions and communicating in imperfect English 完璧な英語でなくとも、羞恥心に打ち勝ち、自分の意見を英語で伝え議論に参加することができる To be able to productively engage in activities in a cross-cultural environment by collaborating with people from different cultural backgrounds in English 様々な文化的背景を持つ仲間と協働し、生産的に業務に貢献・遂行できる To be able to utilize critical thinking skills (including productively making and responding to counterarguments) and lateral thinking skills in English 英語でクリティカルシンキングやラテラルシンキングスキルを活用できる(健全で建設的な反論およびそれへの対応を含む) To be able to productively engage in academic and professional activities using English in an international setting 国際的な場面で、英語を使い、学問的および専門的な活動に生産的に貢献することができる 以下の 3 点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70 点以上)の必要条件として要求される。 1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。 2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。 3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。					

授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	9/16	13:30-14:15	遠隔授業 (同期型)	Orientation	Introduction to course	PATRICK F OSS	Active learning/seminar
2-3	9/30	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Discussion 1	Listening and speaking activities	PATRICK F OSS	Active learning/seminar Zoom 同上
4-5	10/7	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Discussion 2	Listening and speaking activities	PATRICK F OSS	Active learning/seminar Zoom 同上
6-7	10/14	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Discussion 3	Listening and speaking activities	PATRICK F OSS	Active learning/seminar Zoom 同上
8-9	10/21	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Discussion 4	Listening and speaking activities	PATRICK F OSS	Active learning/seminar Zoom 同上
10-11	10/28	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Discussion 5	Listening and speaking activities	PATRICK F OSS	Active learning/seminar Zoom 同上
12-13	11/4	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Discussion 6	Listening and speaking activities	PATRICK F OSS	Active learning/seminar Zoom 同上
14-15	11/11	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Discussion 7	Listening and speaking activities	PATRICK F OSS	Active learning/seminar Zoom 同上
授業方法							
Skills Instruction and Practice							
授業内容							
Class 1: Orientation							
Classes 2-15: Skills Instruction and Continuous Assessment							
Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.							
成績評価の方法							
Active and thoughtful participation: 80% Group discussion: 20%							
再評価: 再評価はありません。							
成績評価の基準							
「東京科学大学学修規程第 6 条」による							
準備学習等についての具体的な指示							
Attendance and participation are both essential.							
試験の受験資格							
「英語Ⅱ」の各科目(1単位)は、45 分×15 コマです。科目ごとに成績がつきます。試験が実施される場合、受験資格があるのは、原則としてその科目に3分の2以上出席した者です。「英語Ⅱ」では再評価は行いません。							
履修上の注意事項							
教員がとる出欠を優先します。 既に履修済の英語Ⅱ科目と同一名の科目は原則として履修できません。							
オフィスアワー							

PATRICK FOSS:毎週水曜日 PM.12:30-PM.1:00

管理研究棟 2階 フォス研究室

時間割番号	023640						
科目名	英語Ⅱ: Conversation I(前期)			科目ID			
担当教員	REED JESSE RYAN[REED JESSE RYAN]						
開講時期	2026 年度前期	対象年次	2～4	単位数	1		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	メディア利用科目		
・曜日・時間:水曜 3 講 ・対象:全学科 ・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー): 別表3ー4) 別表4ー5)							
授業の目的、概要等							
English II, "Conversation I" is a course for students who want to improve their spoken English skills. The course focuses on practical conversational abilities, and students will engage in interviews, role-playing, and group discussions on a variety of topics. The course prioritizes vocabulary development, effective public speaking, and the development of confidence in expressing opinions, even in imperfect English. The course aims to create an active and supportive learning environment, emphasizing not only the improvement of English skills but also the use of those skills in real-world situations.							
授業の到達目標							
To be able to engage in extended discussions in English on a range of topics 多様なトピックについて、英語でより長い議論をすることができる							
To be able to comprehend and use new vocabulary 新しい語彙を理解して使用することができる							
To be able to speak in front of others more effectively 他の人の前でより効果的に話すことができる							
To be able to overcome shyness and worries about stating opinions and communicating in imperfect English 完璧な英語でなくとも、羞恥心に打ち勝ち、自分の意見を英語で伝え議論に参加することができる							
以下の 3 点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70 点以上)の必要条件として要求される。							
1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。							
2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。							
3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	4/1	13:30-14:15	遠隔授業 (同期型)	Class 1	Intro to Conversation I	REED JESSE RYAN	Active Learning, Seminar, Zoom
2-3	4/8	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 2, Class 3	Discussion/Presentation Practice	REED JESSE RYAN	Active Learning, Seminar, Zoom

4-5	4/15	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 4, Class 5	Discussion/Presentation Practice	REED JESS E RYAN	Active Learning, Seminar, Zoom
6-7	4/22	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 6, Class 7	Discussion/Presentation Practice	REED JESS E RYAN	Active Learning, Seminar, Zoom
8-9	5/13	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 8, Class 9	Discussion/Presentation Practice	REED JESS E RYAN	Active Learning, Seminar, Zoom
10-11	5/20	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 10, Class 11	Discussion/Presentation Practice	REED JESS E RYAN	Active Learning, Seminar, Zoom
12-13	5/27	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 12, Class 13	Discussion/Presentation Practice	REED JESS E RYAN	Active Learning, Seminar, Zoom
14-15	6/3	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 14, Class 15	Discussion Test	REED JESS E RYAN	Active Learning, Seminar, Zoom

授業方法

Skills Instruction and Practice

授業内容

Class 1: Orientation

Classes 2-13: Skills Instruction and Continuous Assessment

Classes 14 and 15: Review and/or Final Assessment

Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.

成績評価の方法

Conversation I 評価: Attendance & Participation: 50% Homework: 10% English Interview: 15%

Discussion Test: 25%

再評価: 再評価はありません。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

Attendance and participation are both essential.

試験の受験資格

「英語Ⅱ」の各科目(1単位)は、45 分×15 コマです。科目ごとに成績がつきます。試験が実施される場合、受験資格があるのは、原則としてその科目に3分の2以上出席した者です。「英語Ⅱ」では再評価は行いません。

履修上の注意事項

教員がとる出欠を優先します。既に履修済の英語Ⅱ科目と同一名の科目は原則として履修できません。

オフィスアワー

猪熊 恵子 水・木曜日 12時30分～13時 管理研究棟 3階 猪熊研究室

時間割番号	023641						
科目名	英語Ⅱ ConversationⅠ（後期）			科目ID			
担当教員	REED JESSE RYAN[REED JESSE RYAN]						
開講時期	2026 年度後期	対象年次	2～4	単位数	1		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	メディア利用科目		
・曜日・時間:水曜 3 講 ・対象:全学科 ・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー): 別表3－4) 別表4－5)							
授業の目的、概要等							
EnglishⅡ, "ConversationⅠ" is a course for students who want to improve their spoken English skills. The course focuses on practical conversational abilities, and students will engage in interviews, role-playing, and group discussions on a variety of topics. The course prioritizes vocabulary development, effective public speaking, and the development of confidence in expressing opinions, even in imperfect English. The course aims to create an active and supportive learning environment, emphasizing not only the improvement of English skills but also the use of those skills in real-world situations.							
授業の到達目標							
To be able to engage in extended discussions in English on a range of topics 多様なトピックについて、英語でより長い議論をすることができる							
To be able to comprehend and use new vocabulary 新しい語彙を理解して使用することができる							
To be able to speak in front of others more effectively 他の人の前でより効果的に話すことができる							
To be able to overcome shyness and worries about stating opinions and communicating in imperfect English 完璧な英語でなくとも、羞恥心に打ち勝ち、自分の意見を英語で伝え議論に参加することができる							
以下の3点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70点以上)の必要条件として要求される。							
1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。 2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。 3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	9/16	13:30-14:15	遠隔授業 (同期型)	Class 1	Intro to ConversationⅠ	REED JESSE RYAN	Active Learning, Seminar, Zoom
2-3	9/30	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 2, Class 3	Discussion/Presentation Practice	REED JESSE RYAN	Active Learning, Seminar, Zoom
4-5	10/7	13:30-15:10	遠隔授業	Class 4, Class 5	Discussion/Presentation Practice	REED JESSE	Active Learning,

時間割番号	023650						
科目名	英語Ⅱ: ConversationⅡ(前期)			科目ID			
担当教員	REED JESSE RYAN[REED JESSE RYAN]						
開講時期	2026 年度前期	対象年次	2～4	単位数	1		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	メディア利用科目		
・曜日・時間:水曜 3 講 ・対象:全学科 ・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー): 別表3ー4) 別表4ー5)							
授業の目的、概要等							
EnglishⅡ“ConversationⅡ”(Improving Conversational Proficiency) is an advanced course designed for students aiming to refine their spoken English skills. Students will actively engage in extensive discussions, interviews, and group discussion tasks, fostering a higher level of language proficiency, cultural adaptability, and effective communication. The course places a strong emphasis on vocabulary expansion, advanced public speaking techniques, and the continued cultivation of confidence in expressing opinions, even within the complexities of the English language. Evaluation methods include individual interviews, group discussions, and reflective homework assignments. The objective is to create a stimulating and encouraging learning environment, helping students to not only excel in language proficiency but also to develop the application of advanced English skills in diverse real-world contexts.							
授業の到達目標							
To be able to engage in extended discussions in English on a range of topics 多様なトピックについて、英語でより長い議論をすることができる							
To be able to comprehend and use new vocabulary 新しい語彙を理解して使用することができる							
To be able to speak in front of others more effectively 他の人の前でより効果的に話すことができる							
To be able to overcome shyness and worries about stating opinions and communicating in imperfect English 完璧な英語でなくとも、羞恥心に打ち勝ち、自分の意見を英語で伝え議論に参加することができる							
以下の3点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70点以上)の必要条件として要求される。							
1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。 2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。 3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	6/10	13:30-14:15	遠隔授業 (同期型)	Class 1	Intro to ConversationⅡ	REED JESSE RYAN	Active Learning, Seminar, Zoom
2-3	6/17	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 2, Class 3	Discussion/Presentation Practice	REED JESSE RYAN	Active Learning, Seminar,

[illegible]

時間割番号	023660					
科目名	International Course for Clinical Dentistry (ICCD) L1-L3 On-demand			科目ID		
担当教員	高市 敦士, JANELLE RENEE MOROSS, 關 奈央子, 金森 ゆうな, 駒ヶ嶺 友梨子, 水谷 幸嗣[TAKAICHI Atsushi, JANELLE RENEE MOROSS, SEKI Naoko, KANAMORI Yuna, KOMAGAMINE Yuriko, MIZUTANI Koji]					
開講時期	2026 年度3年通年	対象年次	2～4	単位数	1	
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	メディア利用科目	
主な講義場所 オンデマンド教材はLMSで行う						
授業の目的、概要等 歯学部国際歯科臨床教育コース(International Course for Clinical Dentistry, ICCD)オンデマンドは歯学分野における語彙力向上や文章理解力と臨床の専門的な知識を習得するために、学部学生の臨床的な知識を高めることを目的としています。						
授業の到達目標 学生が全てのレベル(L1-3)を修了したとき、 1. 英語の理解能力を向上 2. 歯学分野の英語の語彙力を向上 することができる。 コース修了時、 英語で臨床歯学を学修することを期待できる。						
授業計画						
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員
1	9/28	08:50-09:35	オンデマ ンド	L1 1. オンデマンド学 習 配信期間 9/28(月) (9:00)- 10/2(金)(23:59)	・歯科英単語学習 ・リーディ ング教材	關 奈央子, J ANELLE RE NEE MORO SS, 駒ヶ嶺 友梨子, 金森 ゆうな
2	10/1	08:50-09:35	オンデマ ンド	L1 2. 学習確認テスト 配信期間 10/1(木) (9:00)-2(金)(23:59)	・学習確認テスト	關 奈央子, J ANELLE RE NEE MORO SS, 駒ヶ嶺 友梨子, 金森 ゆうな
3	10/19	08:50-09:35	オンデマ ンド	L1 3. 復習教材提供 配信期間 10/19(月) (9:00)- 23(金)(23:59)	・歯科英単語学習 ・リーディング 教材	關 奈央子, J ANELLE RE NEE MORO SS, 駒ヶ嶺 友梨子, 金森 ゆうな
4	10/22	08:50-09:35	オンデマ ンド	L1 4. 学習確認テスト 配信期間 10/22(木) (9:00)-23(金)(23:59)	・学習確認テスト	關 奈央子, J ANELLE RE NEE MORO SS, 駒ヶ嶺 友梨子, 金森 ゆうな
授業方法 L1 では高齢者歯科学、L2 では歯周病学、L3 では保存修復学と矯正歯科学に関する歯科英単語と知識について、自習や課題を行う。						
成績評価の方法 オンデマンド教材履修状況により評価される。履修期間内に全ての教材学習を行なうこと。						

準備学習等についての具体的な指示

課題に取り組む前に、記事／論文を読み、語彙を学ぶこと。

試験の受験資格

1. LMS コースに配信される課題

LMS の指定のコースにオンデマンドの課題が提供される。全ての当該課題を定められた期間内に履修し一定のスコアを記録すること。

履修上の注意事項

1. このコースを選択する学生は、必要な LMS のオンデマンド課題を全て修了すること。 2. ICCD はレベル 1 から 3 で構成されており、レベル 1 への履修登録をもってレベル 2 (OH/OE3) レベル 3 (OH/OE4) でもコースを受講することになる。 3. ICCD は全てのレベル(レベル 1-3)を履修したのちに単位が付与される。

備考

昨年度授業終了時アンケート結果より、今年度も昨年同様の内容で実施する。

高市敦士 a.takaichi.rpro(@)tmd.ac.jp

※E-mail は上記アドレス(@)の部分を@に変えてください。

關奈央子 seki.n.03df(@)m.isct.ac.jp

※E-mail は上記アドレス(@)の部分を@に変えてください。

※オフィスアワー:月曜日 15～16 時

MOROSS Janelle

moross.j.1ee3(@)m.isct.ac.jp

※E-mail は上記アドレス(@)の部分を@に変えてください。

※オフィスアワー:ご予約をご希望の場合は、双方の都合のよい時間をご相談するためにメールをお送りください。

参照ホームページ

参考) <https://www.tmd.ac.jp/international/events/iccd/>

オフィスアワー

高市 敦士 随時(メールにて面談の日程を調整すること)

2 号館 2 階 口腔デジタルプロセス学分野 教授室

關 奈央子:毎週月曜日 15:00 - 16:00 M&D タワー7階 教員室

水谷 幸嗣D 棟 11 階 総合診療歯科学分野研究室

JANELLE RENEE MOROSS:ご予約をご希望の場合は、双方の都合のよい時間をご相談するためにメールをお送りください。

時間割番号	023670					
科目名	International Course for Clinical Dentistry (ICCD) L1-L3 On-line			科目ID		
担当教員	高市 敦士, JANELLE RENEE MOROSS, 關 奈央子, 金森 ゆうな, 金澤 学, 駒田 亘, 駒ヶ嶺 友梨子, 水谷 幸嗣, 畑山 貴志, 保坂 啓一, Richard Foxton, 米満 郁男, 前川 祥吾, 永田 瑞, 矢野 孝星[TAKAICHI Atsushi, JANELLE RENEE MOROSS, SEKI Naoko, KANAMORI Yuna, KANAZAWA Manabu, KOMADA Wataru, KOMAGAMINE Yuriko, MIZUTANI Koji, HATAYAMA Takashi, HOSAKA Keiichi, Richard Foxton, YONEMITSU Ikuo, MAEKAWA Shogo, NAGATA Mizuki, YANO Kosei]					
開講時期	2026 年度3年通年	対象年次	2～4	単位数	1	
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	メディア利用科目	
主な講義場所 オンラインセッション(入室のためのIDとパスワードはLMSに掲示)						
授業の目的、概要等 歯学部国際歯科臨床教育コース(International Course for Clinical Dentistry, ICCD)オンラインは学部学生の臨牀的な知識、文化的コンピテンシー、そしてコミュニケーションと論理的な問題解決の基本的な能力を高めることを目的としています。 ICCD は学生に国際的なネットワーキングに参加できるようにし、歯学分野における語彙と英語でのコミュニケーション能力を向上させ、さらに、歯学に関連した様々なアクティビティを通して臨床の専門的な知識を習得することを可能にします。 ディスカッションや、問題解決のためにチームで仕事をしたり、論理的な議論を作り上げたりする機会を提供し、チームビルディングや批判的吟味、批判的思考能力、そして学際的な臨床の治療計画の基本を強化します。						
授業の到達目標 学生が全てのレベル(L1-3)を修了したとき、 1. 英語の理解能力を向上 2. 歯学分野の英語の語彙力を向上 3. 仲間や教員と歯学分野のトピックについてディスカッション 4. 文化的規範について学び、互いの文化について理解 することができる。 コース修了時、 1. 文化的コンピテンシーの向上 2. ネットワーキング能力の向上 3. 問題解決能力の向上 4. 英語で臨床歯学を学修すること 5. コミュニケーション上の課題に対処するためのレジリエンス／柔軟性の獲得 6. 情報を批判的かつ客観的に吟味する能力の向上 7. より明確な推論能力と論理的な説明を行う能力の獲得 を期待できる。						
授業計画						
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員
1	9/16	17:15-18:00	遠隔授業 (同期型)	L1 1. イントロ Zoom ID は後日配布 授業時間:17:15-18:00	・コースイントロダクション(日本語) ・本コースをプロデュースする臨床系教員との対談(日本語) ※前後で9/30 プレゼンの打ち合わせがあります。	金澤 学, 關 奈央子, 駒田 亘, 駒ヶ嶺 友梨子, 水谷 幸嗣, 畑山 貴志, 保坂 啓一
2	9/16	17:15-18:00	遠隔授業 (非同期型)	L1 2. プレゼン準備	・プレゼンテーション準備 ※LMSを適宜参照・使用すること。	金森 ゆうな
3	9/30	18:10-18:55	遠隔授業	L1 3. 国際交流	・自己紹介 ・プレゼンテーション	關 奈央子, J

			(同期型)	Zoom ID は後日配布 授業時間:18:10-19:50	(国や文化、大学の紹介) ・コミュ ニケーションアクティビティ	ANELLE RE NEE MORO SS, 金森 ゆ うな
4	10/14	18:10-18:55	遠隔授業 (同期型)	L1 4. 国際交流 Zoom ID は後日配布 授業時間:18:10-20:45	・講義 ・ディスカッションとプレゼ ンテーション(「高齢化に付随した 問題点と解決策」) ・フィードバッ ク(20:10-20:45)	關 奈央子, J ANELLE RE NEE MORO SS, 駒ヶ嶺 友梨子

成績評価の方法

授業への参加、授業でのプレゼンテーションと論理的なスピーキングが考慮される。

準備学習等についての具体的な指示

コース開始前に LMS にて提示する予定表により、各回で取り上げるテーマを再確認し、事前に当該テーマについて十分に予習した上で、授業に参加してください。

試験の受験資格

オンラインセッションへの出席と参加

定刻までにオンラインセッションに入室し、クラスでのディスカッションやアクティビティに参加する準備をしてくること。

各日、予定されているオンラインセッション時間の 2/3 以上の出席をもって出席とみなす。

履修上の注意事項

1. このコースを選択する学生は、全てのオンラインセッションに出席し、プレゼンテーションを準備し、そして授業でのディスカッションとプレゼンテーションに参加すること。 2. ICCD はレベル 1 から 3 で構成されており、レベル 1 への履修登録をもってレベル 2(OH/OE3)レベル 3(OH/OE4)でもコースを受講することになります。 3. ICCD は全てのレベル(レベル 1-3)を履修したのちに単位が付与されます。 4. ICCD オンデマンドの履修も推奨される。 5. 履修においては TOEFL iBT61 (ITP500)程度の英語力が推奨される。

備考

オンライン授業においては AL(ペア/グループディスカッション、ケース演習など)を行う。

昨年度授業終了時アンケート結果より、今年度も昨年同様の内容で実施する。

高市敦士 a.takaichi.rpro(@)tmd.ac.jp

※E-mail は上記アドレス(@)の部分を@に変えてください。

關奈央子 seki.n.03df(@)misct.ac.jp

※E-mail は上記アドレス(@)の部分を@に変えてください。

※オフィスアワー:月曜日 15~16 時

MOROSS Janelle

moross.j.1ee3(@)misct.ac.jp

※E-mail は上記アドレス(@)の部分を@に変えてください。

※オフィスアワー:ご予約をご希望の場合は、双方の都合のよい時間をご相談するためにメールをお送りください。

参照ホームページ

参考) <https://www.tmd.ac.jp/international/events/iccd/>

オフィスアワー

高市 敦士 随時(メールにて面談の日程を調整すること)

2 号館 2 階 口腔デジタルプロセス学分野 教授室

前川 祥吾 毎週月、火、木、金曜日 PM.17:00-18:00 10 号棟 7 階第 3 研究室

永田 瑞 10 号館 7 階 歯周病学分野医局 随時

駒田 亘 随時

金澤 学 火-金, 16:00- 18:00

1 号館 3 階 高齢者歯科学分野学分野 Lab9

關 奈央子 毎週月曜日 15:00 - 16:00 M&D タワー 7 階 教員室

水谷 幸嗣 D 棟 11 階 総合診療歯科学分野研究室

JANELLE RENEE MOROSS:ご予約をご希望の場合は、双方の都合のよい時間をご相談するためにメールをお送りください。

時間割番号	023017A						
科目名	ヘルスプロモーション			科目ID	DE230400Z		
担当教員	大木 明子, 塩沢 真穂, 安達 奈穂子, 竹内 康雄, 池川 麻衣, 品田 佳世子[OKI Meiko, SHIOZAWA Maho, ADACHI Naoko, TAKEUCHI Yasuo, IkeGAWA Mai, SHINADA KAYOKO]						
開講時期	2026 年度前期	対象年次	2	単位数	1		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面		
必修 20 時間							
講義 5 コマ、演習 5 コマ、実習 10 コマ(課題発表、口腔疾患予防実習、OH との合同実習)							
主な講義場所							
口腔保健工学専攻 第 1、2、3 講義室、第 3、4 実習室							
口腔保健学科(口腔保健衛生学専攻)相互実習室(1 号館 8 階)							
授業の目的、概要等							
ヘルスプロモーションの変遷を知るとともに、その活動プロセスを学び、口腔保健の専門家としてのヘルスプロモーションにおける役割を理解する。口腔疾患に対する口腔健康管理の基礎とその予防法について学び、口腔領域のヘルスプロモーションについて理解する。							
授業の到達目標							
1. ヘルスプロモーションの定義と役割を理解できる。							
2. WHO の健康の定義と施策を理解できる。							
3. ヘルスプロモーションのアプローチと戦略モデル、展開過程(計画・実施・評価)を理解し、応用できる。							
4. 日本人の健康と疾患(人口動態と死因、生活習慣病)についての背景を理解できる。							
5. 人々の健康における問題を分析し、解決法の検討に応用できる。							
6. 歯科医療、口腔保健、健診に関する法律と歯科疾患の実態について理解できる。							
7. 口腔健康管理の基礎を理解し、う蝕や歯周病などの疾患の予防法を応用できる。							
8. 自分の口腔の状況を認識し、ブラッシング法、フロス、歯磨剤等の使用法について応用できる。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	4/7	13:30-15:10	第1講義室	ヘルスプロモーションとは、施策と活動方法	ヘルスプロモーションとは、背景、ヘルスプロモーションのアプローチと戦略モデル、課題提示	大木 明子	到達目標:1-4 講義 対面 事前学習:LMS の資料をみておくこと
3-5	4/21	13:30-16:10	第2講義室 第3講義室	反転授業・課題演習	ヘルスプロモーション課題演習 (A 喫煙と健康、B メタボリックシンドロームとヘルスプロモーション)	大木 明子, 塩沢 真穂	到達目標:3:5 第2講義室に集合、課題演習グループワーク。事前学習:課題を行い、準備をしてくること。講義前に小テスト回答。
6-7	4/28	13:30-15:10	第2講義室 第3講義室	健康教育とPDCA サイクル・課題演習	ヘルスプロモーション課題演習 健康教育とPDCA サイクル 討論	大木 明子, 塩沢 真穂	到達目標:3:5 第2講義室に集合、講義 課題演習グループワーク。事前学習:課題を行い、準備をしてくること。講義後に小テスト回答。

8-10	5/19	13:30-16:10	第1講義 室	課題発表	ヘルスプロモーション課題発表 割り当てられた課題について発表 スライドを作成し発表	大木 明子, 塩沢 真穂	到達目標:1、3-6 課題発表 対面 事前学習: 発表 資料を作成。発表 スライドを提出
11-12	6/16	13:30-15:10	第1講義 室	口腔の健康	口腔の健康、歯科疾患実態調査、 口腔疾患と健康	大木 明子	到達目標:3,5,6 講義 対面 事前学習:LMS の 資料をみておくこ と
13-16	6/30	08:50-12:25	第3実習 室 第4 実習室	口腔疾患の予防(実習)	歯科疾患の予防と口腔清掃法カリ エスリスクテスト、酸蝕症と飲み物 (pH 測定)	大木 明子, 塩沢 真穂	到達目標:7 実 習、対面 事前 学習:LMS の資料 をみておくこと、 事後:レポート提 出
17-20	7/16	13:30-17:05	口腔保健 学科相互 実習室 第4実習 室	口腔健康管理の基礎実 習	口腔健康管理、ブラッシング法、フ ロスや歯磨剤等の使用法につい て(OH3 との合同実習)	竹内 康雄, 大木 明子, 塩沢 真穂, 安達 奈穂子, 池川 麻衣	到達目標:7, 8 実習 最初に第 4 実習室に集合し 1 号館に移動 事 前学習:LMS の事 前アンケート実 施、指示されたも のを持参するこ と。実習後にレポ ートを提出

授業方法

講義、グループワーク、課題発表、反転授業、演習、実習
反転授業、演習、実習が含まれます。事前に学習して準備を行うこと。
課題の提出を行うこと。

授業内容

ヘルスプロモーション講義、ヘルスプロモーションの演習(グループワーク、課題発表)
口腔疾患の予防実習
口腔健康管理の実習(OH3年との合同実習)

成績評価の方法

評価は提出課題および試験(筆記試験(対面):60 分)によって行う。
・課題演習は、小テスト(5 点×2)、資料準備(2 点)、課題の発表内容(8 点)による評価を行う(合計 20 点)。課題演習はグループの評価で
はなく個人評価である。
・口腔健康管理実習と口腔疾患の予防実習では、レポートを評価する。(各 5 点)
・試験の配点は 70 点とするが、試験の点数が 6 割未満の場合は再試験とする。
・出席状況、授業態度、発表内容、期末試験を総合的に評価する。

成績評価の基準

・試験の点数が 60 点以上のものを合格とする。
・配点は、試験 70 点、小テスト 10 点、課題演習・発表 10 点、口腔健康管理実習レポート 5 点、口腔疾患の予防実習レポート 5 点とし、合計
100 点満点で換算する。
・出席状況、授業態度を加味して総合的に評価し、この科目の評価とする。

準備学習等についての具体的な指示

反転授業の回では、事前に LMS に提示された課題について学習してから講義に臨むこと。
衛生学専攻 3 年との合同実習では歯の染めだしを行うので、汚れてもいい服装でくこと。指定された期日までに事前調査票を記入し提

出すること。最終回の実習では歯磨きについての指導が行われるので、使用している歯ブラシ等清掃用具や歯磨剤など、使用しているものをすべて忘れずに持参すること。

口腔疾患の予防実習では、実習室にて実習を行う。準備するものを事前に指示するので忘れずに持参すること。また、検査結果を期日までに提出すること。

試験の受験資格

試験、追・再試験を受験する資格は以下のすべてとする。

- ・2/3 以上の出席を基本とする。出席確認は学生証のカードタッチで行う。遅刻でもカードタッチがなければ欠席とする。
- ・課題を提示された期限までに提出すること。
- ・口腔疾患予防実習に参加し、レポートを提示された期限までに提出すること。
- ・口腔保健衛生学専攻との合同実習に参加し、レポートを提示された期限までに提出すること。
- ・特別に勘案すべき事情があるために指示が達成できない場合には、その事情とともに締め切り前および授業開始前までに科目責任者にメールで連絡すること。これらの十分な対応が行われたと判断された場合には事情などに応じてレポート等での対応を行うこととする。

参考書

スタンダード衛生・公衆衛生 = STANDARD PUBLIC HEALTH AND HYGIENE／安井利一，荒川浩久，三宅達郎 編集，安井，利一，1951-，荒川，浩久，1952-，三宅，達郎，：学建書院，2019

歯科発アクトイブライフプロモーション 21：健康増進からフレイル予防まで／花田信弘 監著，武内博朗，野村義明，泉福英信 編著，花田，信弘 1953-，武内，博朗，1962-，野村，義明，泉福，英信，：デンタルダイヤモンド社，2017

国際保健医療学／日本国際保健医療学会編集；石井明〔ほか〕編集委員，日本国際保健医療学会，石井，明，：杏林書院，2005

FACTFULNESS：10 の思い込みを乗り越え、データを基に世界を正しく見る習慣／ハンス・ロスリング，オーラ・ロスリング，アンナ・ロスリング・ロンランド 著，上杉周作，関美和 訳，Rosling, Hans, 1948-2017, Rosling, Ola, 1975-，Rönnlund, Anna Rosling, 1975-，上杉，周作，関，美和，：日経 BP 社，2019

口腔保健・予防歯科学 = Oral Health and Preventive Dentistry／安井利一，宮崎秀夫，鶴本明久，川口陽子，山下喜久，廣瀬公治 編，安井，利一，1951-，宮崎，秀夫，1952-，鶴本，明久，1952-，：医歯薬出版，2017

他科目との関連

感染予防、う蝕と歯周病を基礎としています。

履修上の注意事項

・事前に資料の配布、LMS へのアップロード等があった場合には、予習して授業に臨むこと。特に反転授業、課題演習の回は予習してこないと授業に参加できないので必ず予習をしてくること。・口腔疾患の予防実習では、準備するものを事前に指示するので忘れずに持参すること。・口腔健康管理は口腔保健衛生学専攻 3 年との合同実習を行う。授業場所が違うので注意すること。各自、歯ブラシなどの清掃用具、歯磨剤、筆記具を持参し、服装に注意すること。実習に際し事前アンケートが必要になるので指定された期日までに実施して提出すること。衛生学専攻学生からのフィードバック後にレポートを提出すること。

備考

・事前に資料の配布、LMS へのアップロード等があった場合には、予習して授業に臨むこと。特に反転授業、課題演習の回は予習してこないと授業に参加できないので必ず予習をしてくること。

・口腔健康管理は口腔保健衛生学専攻 3 年との合同実習を行う。授業場所が違うので注意すること。各自、歯ブラシなどの清掃用具、歯磨剤、筆記具を持参し、服装に注意すること。実習に際し事前アンケートが必要になるので指定された期日までに実施して提出すること。衛生学専攻学生からのフィードバック後にレポートを提出すること。

反転授業、演習、実習が含まれます。事前に学習して準備を行うこと。

課題の提出を LMS にて行うこと。

昨年度授業終了時アンケート結果より、口腔疾患の予防実習のコマ数の増加と内容を改善した。また、合同実習内容の再検討と学生同士のフィードバックの時間、終了後のまとめの時間を確保した。

担当教員のオフィスパワーおよび連絡先

大木明子 准教授 メールにて日時を相談 moki.mfoe@tmd.ac.jp

塩沢真穂 助教 メールにて日時を相談 m.shiozawa.abm@tmd.ac.jp

連絡先(メールアドレス)

大木 明子 moki.mfoe@tmd.ac.jp

塩沢 真穂 m.shiozawa.abm@tmd.ac.jp

オフィスパワー

大木 明子 メールにて面談の日程を調整すること。2 号館 2 階准教授室

塩沢 真穂 2 号館 3 階 314

時間割番号	023559						
科目名	グローバル口腔保健工学			科目ID			
担当教員	青木 和広, 大木 明子, 關 奈央子, 金森 ゆうな, MARIA GIANINA MAYO, 高市 敦士[AOKI Kazuhiro, OKI Meiko, SEKI Naoko, KANAMORI Yuna, MARIA GIANINA MAYO, TAKAICHI Atsushi]						
開講時期	2026 年度後期	対象年次	2	単位数	1		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	メディア利用科目		
コマ数:17 時間 自習:28 時間 授業形態:LMS での自主学習に続いてグループディスカッションとプレゼンテーションを実施							
主な講義場所 2号館 講義室 と自主学習/グループ自習							
授業の目的、概要等 受講者は LMS で提供されるトピックについて自主学習を行い、その後、自主的なグループディスカッションとクラス内でのプレゼンテーションを行います。このコースは、英語でのリスニング、スピーキング、プレゼンテーション作成／プレゼンテーションスキルの向上を目的としています。 授業の流れは以下のとおりです。 自習:オンデマンド授業／ビデオのトピック グループでの自習:授業／ビデオのトピックに関する次週のプレゼンテーションの準備 対面:質疑応答を交えたプレゼンテーション							
授業の到達目標 1. パワーポイントを使ったプレゼンテーションの作成と発表の練習 2. 英語でのスピーキングとリスニングのスキル向上 3. 英語で歯科関連のトピックを学ぶ 4. 英語でのコミュニケーション方法を理解し、実践する 5. グループワークを通して、何かを創造するために必要なスキルを養う 6. 課題を期限内に完了する責任を学ぶ							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	9/28	09:45-10:30	遠隔授業 (同期型)	グローバル口腔保健工学の概要	LMS の教材の実施	青木 和広	到達目標:1-8 LMSを参照。事前に LMS を閲覧してくること
2	10/19	09:45-10:30	オンデマ ンド	3 分間の自己紹介プレゼンテーションの準備	英語の自己紹介プレゼンテーション準備	JANELLE R ENEE MOR OSS, 關 奈 央子, 金森 ゆうな	到達目標:1-8 LMSを参照。
3-5	10/26	09:45-12:25	第1講義 室	3年生のグローバル報告会	3年生のグローバル報告会に参加	青木 和広, 大木 明子, J ANELLE RE	Padlet に感想、コメント等を記入して出席となりま

						NEE MOROSS	す。
6	11/2	09:45-10:30	第1講義室	3 分間の自己紹介プレゼンテーションの実施	プレゼンテーション、質疑応答、ディスカッション	金森 ゆうな、JANELLE R ENEE MOROSS, MARIA GIANINA MAYO	到達目標:1-8 LMSを参照。課題を行い準備をしてくること
7	11/9	09:45-10:30	オンデマンド	オンデマンド授業、理解度確認	LMS の教材の実施	JANELLE R ENEE MOROSS, 関 奈央子, 金森 ゆうな	到達目標:1-8 LMSを参照。
8	11/16	09:45-10:30	オンデマンド	プレゼンテーションの準備	プレゼンテーションの準備	JANELLE R ENEE MOROSS, 関 奈央子, 金森 ゆうな	到達目標:1-8 LMSを参照。
9	11/30	09:45-10:30	第1講義室	グループプレゼンテーション	5-8 分のグループプレゼンテーション、質疑応答、ディスカッション	金森 ゆうな、関 奈央子, JANELLE R ENEE MOROSS, MARIA GIANINA MAYO	到達目標:1-8 LMSを参照。課題を行い準備をしてくること
10	12/7	09:45-10:30	オンデマンド	オンデマンド授業、理解度確認	LMS の教材の実施	JANELLE R ENEE MOROSS, 関 奈央子, 金森 ゆうな	到達目標:1-8 LMSを参照。
11	12/14	09:45-10:30	オンデマンド	プレゼンテーションの準備	プレゼンテーション準備	JANELLE R ENEE MOROSS, 関 奈央子, 金森 ゆうな	到達目標:1-8 LMSを参照。
12	12/21	09:45-10:30	第1講義室	グループプレゼンテーション	5~8 分のグループプレゼンテーション、質疑応答、ディスカッション	金森 ゆうな、関 奈央子, JANELLE R ENEE MOROSS, MARIA GIANINA MAYO	到達目標:1-8 LMSを参照。
13	1/18	09:45-10:30	オンデマンド	オンデマンド授業、理解度確認	LMS 教材の実施	JANELLE R ENEE MOROSS, 関 奈央子, 金森 ゆうな	到達目標:1-8 LMSを参照。
14	1/25	09:45-10:30	オンデマンド	プレゼンテーションの準備	プレゼンテーション準備	JANELLE R ENEE MOROSS, 関 奈央子, 金森 ゆうな	到達目標:1-8 LMSを参照。

メールにて面談の日程を調整すること

青木和広 kazuhiko_aoki.bhoe@tmd.ac.jp

毎回のグループ別の遠隔授業(同期型)では、AL(グループディスカッション)も行う。

オフィスアワー

青木 和広:毎週月曜日 16時から18時 2号館2階 216号室(口腔基礎工学分野)

オフィスにいない場合もあるので、あらかじめメールで問い合わせすることを推奨。

大木 明子:メールにて面談の日程を調整すること。2号館2階准教授室

関 奈央子:毎週月曜日 15:00 - 16:00 M&D タワー7階 教員室

高市 敦士:随時(メールにて面談の日程を調整すること)

2号館2階 口腔デジタルプロセス学分野 教授室

時間割番号	023770				
科目名	口腔と全身の基礎医学			科目ID	
担当教員	青木 和広, 井関 祥子, 天野 均, 菅森 泰隆, 武智 正樹, 樺沢 勇司, 藤川 芳織, 久保 優里[AOKI Kazuhiro, ISEKI Sachiko, AMANO Hitoshi, Yasutaka Sugamori, TAKECHI Masaki, KABASAWA Yuji, FUJIKAWA Kaoru, KUBO Yuri]				
開講時期	2026 年度通年	対象年次	2	単位数	2
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面
時間数:30 時間 授業形態: 講義は遠隔授業(非同期型)および対面授業(複合領域コースは遠隔同期型でも聴講可能) 演習と実習(複合領域コースは受講不可)					
主な講義場所 対面講義は第1講義室 遠隔授業(非同期型) 対面の OEOH 合同薬理学実習は、1号館7階口腔保健学科基礎実習室 対面の OEOH 合同解剖実習は、3号館地下1階 解剖					
授業の目的、概要等 最初に基礎と臨床をつなぐ薬理学の総論から学ぶ。 つぎに、顎顔面部の解剖を学び、 最後に人体の発生から口腔器官の発生、歯周組織の知識を深める。 具体的には、以下のような項目を理解することになる(詳細は授業日程参照)。 1. 薬の作用・効果の発現を規定する要素・薬の吸収・分布・代謝・排泄について理解する。 2. 顎・顔面・口腔領域の骨格、筋、神経支配、脈管を理解する。 3. ヒトの発生、口腔器官・歯の発生過程および組織を理解する。 4. 実習では、薬理学実習と全身解剖実習を行う 生きた動物を用いた生理・薬理学実習や顎顔面の解剖実習を通じて、医療に携わるものとしての心構えを身につける。 なお、一部の薬の各論は実習において扱うが、鎮痛薬や漢方薬をはじめ口腔や全身に作用する薬の各論、臨床検査については、選択必修科目「硬組織薬理」において学ぶ。各論の中では、末梢神経系作用薬物の種類と作用については、必修項目として学ぶ。					
授業の到達目標 1. 基礎医学(解剖学、生理学、生化学、病理学、微生物学、免疫学)と臨床医学との架け橋である薬理学について説明できる。 2. 多職種連携になぜ薬理学が必要かを説明できる。 3. オーダーメイド医療について説明できる。 4. 薬理作用の種類を説明できる。 5. 薬物受容体と細胞内情報伝達系について説明できる。 6. 薬物の投与方法とその特徴について説明できる。 7. 薬物の生体内動態(吸収、分布、代謝、排泄)について説明できる。 8. 薬物の生物学的検定法、ED50、用量反応曲線について説明できる。 9. 薬理作用を規定する要因について説明できる。 10. 薬物の連用および併用に伴う現象について説明できる。 11. 薬物の構造活性相関について説明できる。 12. ライフステージと薬の効果について説明できる。 13. 人体の発生、口腔組織の発生、発育および歯の交換過程を説明できる。 14. 歯の組織の基本的構造を説明できる。 15. 歯周組織の基本構造を説明できる。					

16. 歯と歯周組織の加齢変化を説明できる。
17. 頭頸部、口腔を構成する主要な骨、頭蓋骨について説明できる。
18. 頭頸部の主要な筋の形態と機能を説明できる。
19. 顎口腔の主な神経支配を説明できる。
20. 口腔領域に分布する主な脈管系を説明できる。
21. 全身麻酔薬について説明できる(薬理学実習の一部として)。
22. 3次元的身体構造を理解できる。
23. 医療人、あるいは医療を支える人を目指す心構えを身につける。
24. 唾液腺の生理・薬理について概説できる。
25. 臨床検査について概説できる。
26. 末梢神経系作用薬物の種類と作用について説明できる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	4/22	08:50-10:30	第1講義室	唾液腺の生理、疾患・治療	唾液腺の生理、病気と治療、臨床検査その1	樺沢 勇司	到達目標:24, 25 講義後に確認テストと感想を記載すること
3	4/22	10:45-11:30	遠隔授業 (非同期型)	臨床検査(口腔関連検査含む)	臨床検査その2	樺沢 勇司	到達目標:25 講義視聴後に確認テストと感想を記載すること
4-6	5/13	09:45-12:25	遠隔授業 (非同期型)	頭蓋の骨	頭蓋骨、口腔を構成する骨、頭蓋の全景	藤川 芳織	到達目標:17 講義視聴後に感想を記載すること
7-9	5/27	09:45-12:25	遠隔授業 (非同期型)	頭頸部の筋、顎関節	顔面筋(表情筋)、咀嚼筋、舌筋、舌骨筋群(舌骨上筋群、舌骨下筋群)、頸部の筋、顎関節の構造と機能	藤川 芳織	到達目標:18 講義視聴後に感想を記載すること
10-12	6/10	09:45-12:25	遠隔授業 (非同期型)	頭頸部の神経	脳神経、頭頸部に分布する脊髄神経、自律神経	武智 正樹	到達目標:19 講義視聴後に感想を記載すること
13-15	6/24	09:45-12:25	遠隔授業 (非同期型)	口腔付近に分布する脈管系	頭頸部に分布する動脈系、静脈系、リンパ系	武智 正樹	到達目標:20 講義視聴後に感想を記載すること
16-17	7/8	09:45-11:30	解剖学実習室	解剖実習見学	頭頸部および全身の解剖	武智 正樹, 藤川 芳織, 青木 和広	到達目標:17-20, 22, 23 実習後に期限までにレポートを提出する
18-19	7/22	09:45-11:30	解剖学実習室	解剖実習見学	頭頸部および全身の解剖	藤川 芳織, 武智 正樹, 青木 和広	到達目標:17-20, 22, 23 実習後に期限までにレポートを提出する
20	9/8	13:30-14:15	情報検索室 1	期末テスト(13:30～14:30)		青木 和広	試験開始は 16:00 からです。前期授業全体が試験範囲
21	10/9	08:50-09:35	遠隔授業	生体と薬物1	薬理学の基礎、薬力学、薬物動態	青木 和広	到達目標:1-3

			(非同期型)		学、オーダーメイド医療		講義視聴後に確認テストと感想を記載すること 10月16日合同授業に備えて、事前アンケートと事前学習を行うこと
22	10/9	09:45-10:30	遠隔授業 (非同期型)	生体と薬物2	薬の使用目的とその作用、受容体と薬物	青木 和広	到達目標:4,5 講義視聴後に確認テストと感想を記載すること 10月16日合同授業に備えて、事前アンケートと事前学習を行うこと
23	10/16	08:50-09:35	第1講義室	生体と薬物3 ~9:45まで OH2と合同授業	薬物の適用方法	青木 和広	到達目標:6 予習をすること 講義後に確認テストと感想を記載すること
24	10/20	08:50-09:35	遠隔授業 (非同期型)	生体と薬物4	薬物の吸収、分布、代謝、排泄	青木 和広	到達目標:7 講義視聴後に確認テストと感想を記載すること
25	10/23	08:50-09:35	第1講義室	生体と薬物5 OH2と合同授業	薬物の生物学的検定法、用量反応曲線	青木 和広	到達目標:8 予習をすること 講義後に確認テストと感想を記載すること
26	10/27	08:50-09:35	遠隔授業 (非同期型)	生体と薬物6	薬理作用を規定する要因、薬物の反復、構造活性相関	青木 和広	到達目標:9-11 講義視聴後に確認テストと感想を記載すること
27	11/2	08:50-09:35	第1講義室	生体と薬物7 OH2と合同授業	ライフステージと薬物	青木 和広	到達目標:12 予習をすること 講義後に確認テストと感想を記載すること
28	11/17	11:40-12:25	口腔保健学科第3講義室	末梢神経系作用薬物 OH2と合同授業	神経伝達物質、自律神経系作用薬、運動神経系作用薬。	青木 和広	到達目標:26 講義視聴後に確認テストと感想を記載すること 1/27の対面演習までによく復習しておくこと
29-31	1/19	13:30-16:10	口腔保健学科基礎科学実習室	自律神経系の薬理・硬組織薬理 OH2と合同授業	自律神経系の薬理実習_摘出腸管を用いた実習 局所麻酔のアドレナリン添加の作用のシミュレーション 蛍光色素の皮下注射による硬組織内時刻描記法	青木 和広、 天野 均、 菅森 泰隆	到達目標:2、3 OH2との合同実習・演習

32-34	1/27	09:45-12:25	口腔保健 学科第3 講義室	末梢神経系作用薬物の 演習 OH2と合同授業	AL(演習)・TBL 方式の講義 神 経伝達物質、自律神経系作用薬、 運動神経系作用薬。 ・授業参加 前に予習が必要です。 11/17 の 授業内容を復習してくる。	青木 和広	到達目標:26 (OH2と合同対面 授業) 予習をし てくること。 9 時 45 分から知識確 認テスト(5 分ほ ど)を行うので、 遅れないように 5 分前に集合する こと
35-37	2/2	13:30-16:10	第1講義 室	口腔組織 Joint Class with OH2	歯と歯周組織の構造および歯の 加齢変化	井関 祥子	到達目標:14-16 講義視聴後に確 認テストと感想を 記載すること
38-40	2/9	08:50-11:30	第1講義 室	人体の発生総論・口腔組 織の発生 OH2と合同 授業	人体の発生過程、口腔組織の発 生過程、歯の交換過程	井関 祥子	到達目標:13 講 義視聴後に確認 テストと感想を記 載すること
41	2/15	10:45-11:30	情報検索 室1	期末テスト(10:30～ 11:30)		青木 和広	試験開始は、 10:30 からです。

授業方法

講義、実習

対面講義では、最初にビデオを視聴し、その後、理解を深める TBL など AL をおこなう。

前の講義内容、あるいは、WebClassにアップしている教材を勉強しておき、次の授業にテストを行うことがある(反転授業)。また、前の講義を受けて発表をしてもらうこともあるので、PCを準備しておくこと(前もって指示する)。

遠隔授業(非同期型)で質問を受ける方法は、掲示板に書き込むようにしてください。個別にメールでは行わないようにしてください。

成績評価の方法

出席状況、授業態度(10 点)、提出レポートや小テストなど提出物(20 点)による平常点、および前期・後期のテスト(70 点)で総合的評価を行う。なお、期末テストが 6 割未満の者は再試験となる。

再試験で 6 割未満のものは不合格となる。

前期の樺沢先生頭頸部の解剖の講義に関する試験を 9 月 8 日に行う予定

後期は、人体の口腔の発生と口腔の解剖・組織の講義、薬理学総論および末梢神経系の生理・薬理、および硬組織の薬理を含めた薬理学実習を試験範囲に含めた試験を 2 月 9 日に行う予定

前期のテストは定期テスト 100 点中 50 点分の評価となる

なお、筆記テストは CBT(Computer based test)となる。

成績評価の基準

・前後期合わせた出席状況、授業態度(10 点)、前後期合わせた提出レポートや小テストなど提出物(20 点)による平常点、および前後期のテスト(54 点)で総合的評価を行う。なお、期末テストが 6 割未満の者は再試験となる。

前期の臨床検査と頭頸部解剖に関する試験点数は 5 割、後期の試験点数も 5 割として評価する。

・授業態度も加味して総合的に評価し、この科目の評価とする。

A+は、総合評価 90 点以上の場合に評価される

準備学習等についての具体的な指示

事前に資料が配布される場合や LMS にアップロードされる場合は、予習をして授業に臨むこと。

また、動物実験では一人一回は注射をする機会があるため、LMS 上のシミュレーション資料で予習しておくこと。

解剖実習の前に、生と死について、また医療従事者として解剖された遺体の提供者に対する気持ちについて考えておくこと。
試験の受験資格 定期試験、追・再試験を受験する資格は以下のすべてとする。 ・2/3 以上の出席を受験資格とする。 ・特別に勘案すべき事情があるために指示が達成できない場合や同期型授業に参加できない場合には、その事情とともに締め切り前および授業開始前までに科目責任者にメールで連絡すること。これらの十分な対応が行われたと判断された場合には事情などに応じてレポート等での対応を行うこととする。 ・非同期講義では、ビデオ視聴記録が確認できても、感想を記入し、小テスト(確認テスト)を行う、もしくは合格点があるものは合格点に達しなければ出席とカウントされない。なお、一部の非同期講義は、期限までの感想記入のみで出席とする講義もある。対面講義でも確認テストを出欠の指標とする。 ・対面実習は参加だけでなく、期限までにレポートを提出することで出席となる。
教科書 口腔・顎顔面解剖学 = Oral and Maxillofacial Anatomy／全国歯科技工士教育協議会 編集,脇坂聡, 杉田順弘, 市川博之, 里田隆博, 木暮ミカ 著,脇坂 聡,杉田, 順弘,市川, 博之,全国歯科技工士教育協議会.;医歯薬出版, 2016
参考書 現代歯科薬理学／鈴木, 邦明,戸苅, 彰史,青木, 和広,兼松, 隆,筑波, 隆幸,八田, 光世,鈴木邦明 監修,戸苅彰史, 青木和広, 兼松隆, 筑波隆幸, 八田光世 編,戸苅彰史 [ほか] 執筆.;医歯薬出版, 2024.1
備考 アクティブラーニングは対面実習、演習によりおこなう。 昨年度授業終了時アンケート結果より、実習内容を再検討し、対面を増やし、臨床検査の講義をいれるなど昨年度より内容を改善している。 担当教員のオフィスアワーおよび連絡先 毎週火曜日 17 時～18 時 これ以外は メールにて面談の日程を調整すること 青木和広 kazuhiro_aoki.bhoe@tmd.ac.jp それぞれの担当教員への質問は LMS 科目の掲示板を使うこと。 非同期授業は、動画視聴後に多肢選択式問題および感想記入をそれぞれの期限までに行うこと。 一部、感想記入のみで出席とする授業もある。 対面授業では、AL(グループディスカッション)を行う。
オフィスアワー 青木 和広,毎週月曜日 16 時から 18 時 2 号館 2 階 216 号室(口腔基礎工学分野) オフィスにいない場合もあるので、あらかじめメールで問い合わせることを推奨。

時間割番号	023780						
科目名	硬組織薬理学			科目ID			
担当教員	青木 和広, 立石 知也, 長谷川 純矢, 七田 崇, 藤井 晋也, 渡部 徹郎, 影近 弘之, 平石 典子, 天野 均, 菅森 泰隆, 樺沢 勇司, 久保 優里[AOKI Kazuhiro, TATEISHI Tomoya, HASEGAWA Junnya, SHICHITA Takashi, FUJII Shinya, WATABE Tetsuro, KAGECHIKA Hiroyuki, HIRAISHI Noriko, AMANO Hitoshi, Yasutaka Sugamori, KABASAWA Yuji, KUBO Yur]						
開講時期	2026 年度通年	対象年次	2	単位数	1		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	メディア利用科目		
時間数:17 時間 (45 分 x19 コマ) 授業形態:講義と実習 講義は対面講義と遠隔授業(非同期型) 薬理実習:対面							
主な講義場所 対面講義は2号館第1 講義室(最初の2コマのみ) 遠隔授業(非同期型) OH との合同実習は、1号館西、7階 口腔保健学科基礎科学実習室							
授業の目的、概要等 必修科目の「口腔と全身の基礎医学」において学ぶ薬理学総論の内容では伝えきれない、全身疾患の病因に基づく薬物治療の実際について学ぶ。 特に、骨に対する薬の作用に関しては、後期に行われる OH との合同演習に参加し、研究実習への橋渡しとなる知識を深めることができる。末梢神経系の薬理は重要項目であるため、口腔と全身の基礎医学と内容をかぶせている。							
授業の到達目標 1. 局所麻酔について概説できる 2. 硬組織内時刻描記法と硬組織に作用する薬物について概説できる。 3. 自律神経系と運動神経の病気とその治療に関して概説できる。 4. 循環器系の薬理、特に高血圧治療薬について概説できる。 5. 血液の薬理、特に局所の止血薬、全身の抗血栓薬について概説できる。 6. 免疫系の生理・薬理について概説できる。 7. 呼吸器系の生理・薬理について概説できる。 8. 消化器系の生理・薬理について概説できる 9. 内分泌系の生理・薬理について概説できる。 10.中神経系の生理・薬理について概説できる。 11.漢方薬の薬理について概説できる。 12.悪性腫瘍の薬理について概説できる。 13.ビタミンについて概説できる。 14.歯科関連の薬剤について概説できる。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	7/1	09:45-10:30	第1講義室	局所麻酔薬	局所麻酔薬の種類と主作用・副作用	青木 和広	到達目標:1
2	7/1	10:45-11:30	第1講義室	硬組織の薬理	骨粗しょう症薬 口腔における骨形成誘導材料 骨形態計測	青木 和広	到達目標:2
3	7/15	09:45-10:30	遠隔授業(非同期	末梢神経系作用薬物	自律神経系作用薬、運動神経系作用薬。	青木 和広	到達目標:3 後期の OH2 との合

			型)				同実習および合同演習(必修科目の口腔と全身の基礎医学)で今一度勉強する機会がある。
4	7/15	10:45-11:30	遠隔授業 (非同期型)	循環器系の薬理	高血圧治療薬	青木 和広	到達目標:4
5	7/15	11:40-12:25	遠隔授業 (非同期型)	血液の薬理	局所性・全身性止血薬、抗血栓療法薬、血液製剤	青木 和広	到達目標:5
6	9/2	09:45-10:30	遠隔授業 (非同期型)	免疫系の薬理	免疫抑制薬、免疫増強薬、ワクチン製剤、抗アレルギー薬、特異的抗リウマチ薬、抗ヒスタミン薬	青木 和広	到達目標:6
7	9/2	10:45-11:30	遠隔授業 (非同期型)	呼吸器系の薬理	鎮咳薬、去痰薬、気管支拡張薬、喘息治療薬、呼吸促進	立石 知也	到達目標:7
8	9/2	11:40-12:25	遠隔授業 (非同期型)	消化器系の薬理	消化性潰瘍治療薬を中心に消化器系に作用する薬物の役割について	青木 和広	到達目標:8
9	9/9	09:45-10:30	遠隔授業 (非同期型)	内分泌系の薬理	糖尿病治療薬、ホルモン拮抗薬	長谷川 純矢	到達目標:9
10	9/9	10:45-11:30	遠隔授業 (非同期型)	中枢神経系の薬理その1	全身麻酔薬、睡眠薬、向精神薬、抗不安薬の種類と特徴	七田 崇	到達目標:10
11	9/9	11:40-12:25	遠隔授業 (非同期型)	中枢神経系の薬理その2	中枢神経興奮薬、抗てんかん薬、パーキンソン病治療薬、アルツハイマー病治療薬の種類と特徴	七田 崇	到達目標:10
12	11/24	09:45-10:30	遠隔授業 (非同期型)	漢方薬物療法 および 歯科における漢方薬 【前半】	漢方薬(和漢薬)	藤井 晋也	到達目標:11
13	11/24	10:45-11:30	遠隔授業 (非同期型)	漢方薬物療法 および 歯科における漢方薬 【後半】	漢方薬(和漢薬) 藤井 晋也担当		到達目標:11
14	11/24	11:40-12:25	遠隔授業 (非同期型)	悪性腫瘍薬	化学療法薬、口腔領域の悪性腫瘍治療薬	渡部 徹郎	到達目標:12
15	1/12	09:45-10:30	遠隔授業 (非同期型)	ビタミン	ビタミンの作用とビタミン薬	影近 弘之	到達目標:13
16	1/12	10:45-11:30	遠隔授業 (非同期型)	歯科用医薬品の特徴と使用	歯科保存薬・歯内療法薬・歯周疾患治療薬	平石 典子	到達目標:14
17-19	1/25	13:30-16:10	口腔保健 学科基礎 科学実習 室	薬理学実習 生物学的検定法	中枢神経抑制薬(麻酔薬) 薬剤感受性の個体差 ED50 吸入麻酔薬・注射薬	青木 和広 天野 均、菅森 泰隆	到達目標:1-3, 8, 21, 23 期限までに実習レポート提出

授業方法 ・前の講義内容、あるいは、LMS にアップしている教材を勉強しておき、次の授業にテストを行うことがある(反転授業)。 ・TBL方式の講義も導入する。
成績評価の方法 出席状況、感想記入(30 点)、確認テストの実施状況(70 点)として総括的評価を行う。 後期の実習と演習の参加およびレポート提出を加味し、最終評価を行う。
成績評価の基準 出席状況、感想記入(30 点)、小テストの実施状況(70 点)として総括的評価を行う。 前期で一度成績をつけるが、後期の実習と演習の参加およびレポート提出を加味し、最終評価を行う。 A+は、後期の実習及び演習の参加をした場合に評価される。
準備学習等についての具体的な指示 事前に資料の配付、LMS へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。 特に後期の実習のまえに、実習書を読み、シミュレーション教材を実施してくること。
試験の受験資格 試験は行わず、毎回行われる小テストなどの課題による平常点による評価となる。 2/3 以上の出席とあわせて、合格となる。 ・初回の対面講義および後期の実習・演習は 30 分以上遅れた場合に欠席となる。 ・遠隔授業(非同期型)の場合は、小テストと感想記入を出席の条件とする。確認テストに合格点があるものは合格点に達しなければ出席とカウントされない。 ・対面実習は、実習レポートを決められた期限までに提出すること。
参考書 現代歯科薬理学／鈴木、邦明、戸苅、彰史、青木、和広、兼松、隆、筑波、隆幸、八田、光世、鈴木邦明 監修、戸苅彰史、青木和広、兼松隆、筑波隆幸、八田光世 編、戸苅彰史 [ほか] 執筆:医歯薬出版、2024.1
備考 アクティブラーニングは対面実習、対面講義によりおこなう。 アンケートを参考に、口腔と全身の基礎医学に薬理学総論だけでなく、末梢神経系の生理・薬理をいれて、講義と実習を近くに配置した。 硬組織薬理学はその他の各論とした。 それぞれの担当教員への質問は LMS 科目の掲示板を使うこと。 非同期授業は、動画視聴後に多肢選択式問題をそれぞれの期限までに行うこと。
オフィスアワー 青木 和広毎週月曜日 16 時から 18 時 2 号館 2 階 216 号室(口腔基礎工学分野) オフィスにいない場合もあるので、あらかじめメールで問い合わせることを推奨。

時間割番号	023790						
科目名	歯の形態実習				科目ID		
担当教員	青木 和広, 池田 正臣, 久保 優里, 土田 優美[AOKI Kazuhiro, IKEDA Masaomi, KUBO Yuri, TSUCHIDA Yumi]						
開講時期	2026 年度通年	対象年次	2		単位数	2	
実務経験のある教員による授業	該当する				授業形態	対面	
科目名:歯の形態実習 時間数:60 時間 授業形態:実習							
主な講義場所 第3 実習室							
授業の目的、概要等 補綴装置製作の基本となる天然歯の形態を精密に彫刻再現できる技術力を養い、種々の補綴装置製作における高度な造形能力を身につける。							
授業の到達目標 1. 大臼歯の形態的特徴を理解し、ワックス彫刻で概形を再現できる。 2. 歯の形態的特徴を理解し、ワックス彫刻で精密に再現できる。 3. 歯の形態的特徴を理解し、石膏彫刻で精密に再現できる。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	4/7	09:45-11:30	第3実習室	ワックス彫刻(概形)	ワックス彫刻(概形)	久保 優里 池田 正臣	到達目標:1 学習 方法:実習 事前 学習:なし 毎回、久保優里先生が実習に入ります
3-4	4/21	09:45-11:30	第3実習室	ワックス彫刻(概形)	ワックス彫刻(概形)	久保 優里	到達目標:1 学習 方法:実習 事前 学習:なし
5-6	4/28	09:45-11:30	第3実習室	ワックス彫刻(概形)	ワックス彫刻(概形)	久保 優里	到達目標:1 学習 方法:実習 事前 学習:なし
7-8	5/12	09:45-11:30	第3実習室	ワックス彫刻(概形)	ワックス彫刻(概形)	久保 優里	到達目標:1 学習 方法:実習 事前 学習:なし
9-10	5/19	09:45-11:30	第3実習室	ワックス彫刻(概形)	ワックス彫刻(概形)	久保 優里	到達目標:1 学習 方法:実習 事前 学習:なし
11-12	5/26	09:45-11:30	第3実習室	ワックス彫刻(概形)	ワックス彫刻(概形)	久保 優里	到達目標:1 学習 方法:実習 事前 学習:なし
13-14	6/9	09:45-11:30	第3実習室	ワックス彫刻(概形)	ワックス彫刻(概形)	久保 優里	到達目標:1 学習 方法:実習 事前 学習:なし
15-16	6/16	09:45-11:30	第3実習室	ワックス彫刻(概形)	ワックス彫刻(概形)	久保 優里	到達目標:1 学習 方法:実習 事前 学習:なし

17-18	6/23	09:45-11:30	第3実習室	ワックス彫刻(概形)	ワックス彫刻(概形)	久保 優里	到達目標:1 学習 方法:実習 事前 学習:なし
19-20	7/7	09:45-11:30	第3実習室	ワックス彫刻(概形)	ワックス彫刻(概形)	久保 優里	到達目標:1 学習 方法:実習 事前 学習:なし
21-22	7/14	09:45-11:30	第3実習室	ワックス彫刻(概形)	ワックス彫刻(概形)	久保 優里	到達目標:1 学習 方法:実習 事前 学習:なし
23-24	7/21	09:45-11:30	第3実習室	カービングコンテスト	カービングコンテスト	久保 優里	到達目標:2 学習 方法:実習 事前 学習:なし
25-26	7/28	09:45-11:30	第3実習室	ワックス彫刻	ワックス彫刻	久保 優里	到達目標:- 学習 方法:- 事前学 習:なし
27-28	9/30	09:45-11:30	第3実習室	ワックス彫刻	ワックス彫刻	久保 優里	到達目標:2 学習 方法:実習 事前 学習:なし
29-30	10/7	09:45-11:30	第3実習室	ワックス彫刻	ワックス彫刻	久保 優里	到達目標:2 学習 方法:実習 事前 学習:なし
31-32	10/14	09:45-11:30	第3実習室	ワックス彫刻	ワックス彫刻	久保 優里	到達目標:2 学習 方法:実習 事前 学習:なし
33-34	10/21	09:45-11:30	第3実習室	ワックス彫刻	ワックス彫刻	久保 優里	到達目標:2 学習 方法:実習 事前 学習:なし
35-36	10/28	09:45-11:30	第3実習室	ワックス彫刻	ワックス彫刻	久保 優里	到達目標:2 学習 方法:実習 事前 学習:なし
37-38	11/4	09:45-11:30	第3実習室	ワックス彫刻	ワックス彫刻	久保 優里	到達目標:2 学習 方法:実習 事前 学習:なし
39-40	11/11	09:45-11:30	第3実習室	ワックス彫刻	ワックス彫刻	久保 優里	到達目標:2 学習 方法:実習 事前 学習:なし
41-42	11/18	09:45-11:30	第3実習室	ワックス彫刻	ワックス彫刻	久保 優里	到達目標:2 学習 方法:実習 事前 学習:なし
43-44	11/25	09:45-11:30	第3実習室	ワックス彫刻	ワックス彫刻	久保 優里	到達目標:2 学習 方法:実習 事前 学習:なし
45-46	12/2	09:45-11:30	第3実習室	ワックス彫刻	ワックス彫刻	久保 優里	到達目標:2 学習 方法:実習 事前 学習:なし
47-48	12/9	09:45-11:30	第3実習室	ワックス彫刻	ワックス彫刻	久保 優里	到達目標:2 学習 方法:実習 事前 学習:なし
49-50	12/16	09:45-11:30	第3実習室	ワックス彫刻	ワックス彫刻	久保 優里	到達目標:2 学習

			室				方法:実習 事前 学習:なし
51-52	1/6	09:45-11:30	第3実習 室	石膏彫刻	石膏彫刻	久保 優里	到達目標:3 学習 方法:実習 事前 学習:なし
53-54	1/13	09:45-11:30	第3実習 室	石膏彫刻(課題提出)	石膏彫刻(課題提出)	久保 優里	到達目標:3 学習 方法:実習 事前 学習:なし
55-56	1/20	09:45-11:30	第3実習 室	石膏彫刻(課題提出)	石膏彫刻(課題提出)	久保 優里	到達目標:3 学習 方法:実習 事前 学習:なし
57-58	2/3	09:45-11:30	第3実習 室	石膏彫刻(課題提出)	石膏彫刻(課題提出)	久保 優里	到達目標:3 学習 方法:実習 事前 学習:なし
59-60	2/10	09:45-11:30	第3実習 室	石膏彫刻(課題提出)	石膏彫刻(課題提出)	久保 優里	到達目標:3 学習 方法:実習 事前 学習:なし

授業方法

実習

歯形彫刻実習。

授業期間中に他学年と合同のカービングコンテストを実施する。

また、授業期間内に課題を課す。

成績評価の方法

実習時間内に行うデッサンなどの小テスト、カービングコンテストの作品、石膏彫刻課題 4 題によって行う。

・デッサンなどの小テスト 10 点

・カービングコンテスト作品 18 点

・石膏彫刻 4 題 各 18 点

その他、出席状況、授業態度を総合的に評価に加味する。

成績評価の基準

各作品の評点に出席状況、授業態度を加味して総合的に評価し、総合点が 80 点以上であれば A 評価以上とする。

準備学習等についての具体的な指示

事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

試験の受験資格

・4 分の 3 以上の出席を単位認定の最低条件とする。

・カードタッチを出席の基本とする。

・本科目は試験を行わない。

教科書

口腔・顎顔面解剖学／全国歯科技工士教育協議会 編集,脇坂聡, 杉田順弘, 市川博之, 里田隆博, 木暮ミカ 著,脇坂 聡,杉田 順弘,市川, 博之,全国歯科技工士教育協議会.:医歯薬出版, 2016

備考

昨年度授業終了時アンケート結果より、演習内容を修正し、内容を改善している。

オフィスアワー

青木 和広毎週月曜日 16 時から 18 時 2 号館 2 階 216 号室(口腔基礎工学分野)

オフィスにいない場合もあるので、あらかじめメールで問い合わせることを推奨。

土田 優美メールにて面談の日程を調整すること

時間割番号	023526A						
科目名	口腔保健理工学			科目 ID	DE252600L		
担当教員	塩沢 真穂[SHIOZAWA Maho]						
開講時期	2026 年度前期	対象年次	2	単位数	3		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	メディア利用科目		
主な講義場所 遠隔授業(同期型および非同期型)							
授業の目的、概要等 歯科技工で用いられている材料の基礎的な物理的、化学的知識を修得する。歯科技工で用いる各種の歯科材料・器械について、扱う上で必要な知識を修得する。							
授業の到達目標 1. 歯科材料の機械的特性と物理的性質を説明できる。 2. 生体材料に要求される化学的・生物学的性質を説明できる。 3. 歯科用ワックスの組成と性質を説明できる。 4. 歯科用合金の種類と特徴を説明できる。 5. 金属の加工法と、それに伴う加工硬化と熱処理について説明できる。 6. 義歯床用レジン組成と特徴、成形法を説明できる。 7. 歯冠用硬質レジン組成と性質を説明できる。 8. 印象材と模型との関係を説明できる。 9. 印象材の組成と性質を説明できる。 10. 石膏の組成と性質を説明できる。 11. 接着の機序と接着剤の成分を説明できる。 12. 成形修復材料の種類と特徴を説明できる。 13. 歯科用陶材の組成と特徴、成形法を説明できる。 14. 審美修復に必要な色彩に関する知識を説明できる。 15. 埋没材の硬化膨張、熱膨張について説明できる。 16. 歯科用合金の鑄造について説明できる。 17. 鑄造体の寸法変化と補償について説明できる。 18. ろう付けについて説明できる。 19. 切削と研磨の原理を説明できる。 20. 歯科用 CAD/CAM の特徴を説明できる。 21. 歯科用インプラント材料の特徴を説明できる。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-3	4/10	13:30-16:10	オンデマンド	歯科理工学概論 材料の物性評価の基礎 歯科材料や歯質の物性 生物学的安全性試験	歯科理工学概論 応力とひずみ、硬さ、レオロジー、光学的性質 歯科材料の安全性、薬機法における歯科材料の分類	塩沢 真穂	到達目標:1 オンデマンド LMS の動画を視聴
4-6	4/16	13:30-16:10	遠隔授業(同期型)	歯科用ワックス	歯科用ワックスの種類と特徴	塩沢 真穂	到達目標:1
7-9	4/23	13:30-16:10	遠隔授業(同期型)	歯科用合金 金属の加工 合金の熱処理	金属材料の特徴、歯科用合金の種類、特徴 加工の特徴、加工硬化、金属材料の熱処理	塩沢 真穂	到達目標:4,5
10-11	4/30	13:30-15:10	遠隔授業(同期型)	歯科用レジン	歯科用レジン	塩沢 真穂	到達目標:7,11
12-13	5/7	13:30-15:10	遠隔授業	補綴用レジン	コンポジットレジン、硬質レジン、	塩沢 真穂	到達目標:7,11

			(同期型)		CAD/CAM ブロック		
14-16	5/12	13:30-16:10	遠隔授業 (同期型)	陶材・セラミックス	セラミックスの特徴	塩沢 真穂	到達目標:13,14 Z
17-18	5/14	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	陶材・セラミックス	セラミックスの特徴	塩沢 真穂	到達目標:13,14
19-20	5/21	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	光と色 切削・研削・研 磨	光と色 切削・研削・研磨	塩沢 真穂	到達目標:13,14
21-23	5/26	13:30-16:10	遠隔授業 (同期型)	歯科用 CAD/CAM の基 礎	CAD/CAM の基礎	堀田 康弘	到達目標:20
24-25	5/28	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	歯科用石膏	模型材の種類、石膏の硬化	塩沢 真穂	到達目標:8-10
26-28	6/4	13:30-16:10	遠隔授業 (同期型)	歯科用石膏	模型材の種類、石膏の硬化	塩沢 真穂	到達目標:8-10
29-30	6/11	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	印象材	印象材の種類、弾性印象材の特 徴	塩沢 真穂	到達目標:8,9
31-33	6/18	13:30-16:10	遠隔授業 (同期型)	成形修復材料 合着材 仮封材・暫間修復材・そ の他 インプラント材料	成形修復材料の種類と特徴	塩沢 真穂	到達目標:11,12
34-35	6/25	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	歯科精密鑄造	金属融解の熱源、鑄込み、鑄造欠 陥の種類と原因、寸法精度に及ぼ す因子	塩沢 真穂	到達目標:15-17
36-37	7/2	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	埋没材	鑄造用埋没材の組成と特徴	塩沢 真穂	到達目標:15-17
38-40	7/9	13:30-16:10	オンデマ ンド	合金の接合	合金の接合	塩沢 真穂	到達目標:15-17 オンデマンド
41-42	7/21	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	歯科での加工法のまと め	歯科精密鑄造のまとめ	玉置 幸道	到達目標:15-19
43-45	7/23	13:30-16:10	遠隔授業 (同期型)	歯科材料のまとめ	グループディスカッション	塩沢 真穂	到達目標:1-20

授業方法

講義・演習

遠隔授業(同期型および非同期型)を行います。

事前に isct LMS に提示されている資料を学習して準備しておくこと。

遠隔授業(非同期型)の課題を isct LMS にて行い、期限までに提出すること。

遠隔授業(同期型)で質問を受ける方法は、授業時間中のチャットや発言、または授業担当者にメールで質問してください。授業担当者より授業時間中に回答もしくはメールで回答します。

遠隔授業(非同期型)で質問を受ける方法は、授業担当者にメールで質問、メールで回答とします。

授業内容

講義

遠隔授業(同期型、非同期型)で行う。

事前に isct LMS に提示される資料を学習しておくこと。

遠隔授業(同期型)で質問を受ける方法は、授業時間中のチャットや発言、または授業担当者にメールで質問してください。授業担当者より授業時間中に回答もしくはメールで回答します。

成績評価の方法

評価は期末試験(100 点)(筆記試験:60 分)によって行う。

期末試験の点数が 6 割以下の場合は再試験を行う。

出席状況と授業態度を加味し、総合的に評価する。

成績評価の基準

期末試験の点数が 100 点満点中 60 点以上の者を合格とする。 出席状況、授業態度を加味して総合的に評価し、この科目の評価とする。
準備学習等についての具体的な指示 事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。
試験の受験資格 定期試験、追・再試験を受験する資格は以下のすべてとする。 ・2/3 以上の出席を基本とする。 ・遠隔授業(同期型)に出席すること。 ・遠隔授業(非同期型)に出席し、小テストなどの課題を提示された期限までに提出すること。 ・特別に勘案すべき事情があるために指示が達成できない場合や同期型授業に参加できない場合には、その事情とともに締め切り前および授業開始前までに科目責任者にメールで連絡すること。これらの十分な対応が行われたと判断された場合には事情などに応じてレポート等での対応を行うこととする。
教科書 スタンダード歯科理工学 第7版: 生体材料と歯科材料／中島裕 [ほか] 編集(幹事)・執筆； 石川邦夫 [ほか] 編集・執筆； 赤坂司 [ほか] 執筆, 中島, 裕, 石川, 邦夫, 赤坂, 司, 学建書院, 2019
参考書 コア歯科理工学／小倉英夫, 高橋英和, 宮崎隆, 小田豊, 榎本貢三, 小園凱夫編； 遠藤一彦 [ほか] 執筆, 小倉, 英夫, 高橋, 英和, 宮崎, 隆, 小田, 豊, 榎本, 貢三, 小園, 凱夫, 遠藤, 一彦, 医歯薬出版, 2008 臨床歯科理工学／宮崎隆 [ほか] 編, 宮崎, 隆, 中島, 裕, 河合, 達志, 小田, 豊, 医歯薬出版, 2006 歯科理工学教育用語集 = A Glossary for Dental Materials and Devices／日本歯科理工学会 編, 日本歯科理工学会, 医歯薬出版, 2018 歯科理工学／全国歯科技工士教育協議会編； 大島浩 [ほか] 著, 全国歯科技工士教育協議会, 大島, 浩, 米山, 隆之, 高橋, 英和, 岩崎, 直彦, 医歯薬出版, 2021
履修上の注意事項 事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。
備考 グループディスカッションが含まれます。 昨年度授業終了時アンケート結果より、前年度の授業時間配分と構成を見直し、実習と連動するようにスケジュールを調整している。 担当教員のオフィスアワー 塩沢 真穂 メールにて日時を相談 m.shiozawa.abm@tmd.ac.jp
オフィスアワー 塩沢 真穂 2 号館 3 階 314

時間割番号	023800						
科目名	口腔保健理工学実習			科目ID			
担当教員	佐藤 隆明, 塩沢 真穂[SATO Takaaki, SHIOZAWA Maho]						
開講時期	2026 年度前期	対象年次	2	単位数	3		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面		
主な講義場所							
2号館 第3実習室、第4実習室、総合実習室、重合・鑄造室							
1号館6階 基礎実習室、小実習室							
1号館7階 口腔保健学科基礎科学実習室							
授業の目的、概要等							
歯科技工で使用する歯科材料の性質を理解し、それらの性質を測定し、適切に扱える力を身につける。							
授業の到達目標							
1. 測定器具を使用して計測できる。							
2. 材料の引張試験と圧縮試験の方法と応力-ひずみ線図を説明できる。							
3. 金属材料の硬さ試験の方法と金属の加工硬化、熱処理について説明できる。							
4. 歯科用ワックスの収縮と変形について説明できる。							
5. 加熱重合レジンの重合方法と重合体の寸法変化について説明できる。							
6. 歯冠用硬質レジンの重合方法と曲げ強さについて説明できる。							
7. 石膏の硬化時間、硬化膨張、発熱を測定し、その性質を説明できる。							
8. 各種印象材の寸法精度と細線再現性を測定し、その性質を説明できる。							
9. 成形修復用材料の適切な取り扱い方法を説明できる。							
10. 歯科用セラミックスの成形方法と性質を説明できる。							
11. 研磨の方法とその理論について説明できる。							
12. セラミックスの色調を測定し、その特性を説明できる。							
13. 各種埋没材の硬化膨張、熱膨張を測定しその性質を説明できる。							
14. 歯科用合金の鑄造方法について説明できる。							
15. 鑄造体の寸法変化について説明できる。							
16. ろう付けとフラックスの役割について説明できる。							
17. 歯科材料メーカーを見学し、技工用材料の製造過程を説明できる。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	4/17	10:45-12:25	第3実習室	測定器具の使い方	ノギス、マイクロメータ、ダイヤルゲージ、目盛付きルーペの使い方	塩沢 真穂 佐藤 隆明	到達目標:1
3-6	4/17	13:30-17:05	第3実習室	ワックス	ワックスの応力緩和による変形測定、冷却による寸法変化測定	塩沢 真穂 佐藤 隆明	到達目標:4
7-8	4/24	10:45-12:25	第3実習室	引張試験	ワイヤーの引張試験、応力ひずみ線図	塩沢 真穂 佐藤 隆明	到達目標:2
9-12	4/24	13:30-17:05	歯学部基礎実習室 歯学部基礎小実習室	硬さ試験	硬さ測定、加工による硬さの変化、熱処理による硬さの変化	塩沢 真穂 佐藤 隆明	到達目標:3
13-14	5/1	10:45-12:25	第3実習室	加熱重合レジン(1)	餅状期の観察、パターンの作製、埋没、流ろう	塩沢 真穂 佐藤 隆明	到達目標:5
15-18	5/1	13:30-17:05	第3実習室	硬質レジン(1)	硬質レジン試験片製作	塩沢 真穂 佐藤 隆明	到達目標:6

19-20	5/8	10:45-12:25	第3実習室	加熱重合レジン(2)	レジン填入、重合	塩沢 真穂 佐藤 隆明	到達目標:5
21-24	5/8	13:30-17:05	第3実習室	硬質レジン	硬質レジンの曲げ試験	塩沢 真穂 佐藤 隆明	到達目標:6
25-30	5/15	10:45-17:05	第3実習室 総合実習室	陶材の焼成収縮・研磨	陶材試験片の作製と寸法測定、研磨、研磨面の観察	塩沢 真穂 佐藤 隆明	到達目標:10, 11
31-36	5/22	10:45-17:05	第3実習室	色の鑑別、色の測定	シェードガイドの識別、Crystal eyeによる測定	塩沢 真穂 佐藤 隆明	到達目標:12
37-38	5/29	10:45-12:25	第3実習室	加熱重合レジン(3)	割り出し	塩沢 真穂 佐藤 隆明	到達目標:5
39-42	5/29	13:30-17:05	口腔保健学科基礎科学実習室	石膏(1)	石膏の硬化時間、硬化膨張、発熱	佐藤 隆明 塩沢 真穂	到達目標:7 衛生学専攻との合同実習
43-48	6/5	10:45-17:05	第3実習室	石膏(2)	練和溶液が石膏硬化に及ぼす影響	塩沢 真穂	到達目標:7
49-50	6/12	10:45-12:25	遠隔授業(非同期型)	成形修復用材料(1)	常温重合レジン、コンポジットレジン、グラスアイオノマーセメント、各種合着用セメントの特徴	塩沢 真穂	到達目標:9
51-54	6/12	13:30-17:05	口腔保健学科基礎科学実習室	印象材(1)	ハイドロコロイド印象材と模型の精度	佐藤 隆明 塩沢 真穂	到達目標:8 衛生学専攻との合同実習
55-56	6/19	10:45-12:25	遠隔授業(非同期型)	成形修復用材料(2)	常温重合レジン、コンポジットレジン、グラスアイオノマーセメント、各種合着用セメントの特徴	塩沢 真穂	到達目標:9
57-60	6/19	13:30-17:05	口腔保健学科基礎科学実習室	印象材(2)	ゴム質印象材と模型の精度	佐藤 隆明 塩沢 真穂	到達目標:8 衛生学専攻との合同実習
61-66	6/26	10:45-17:05	その他	歯科材料の研究・製造	歯科メーカー研究所見学(トクヤマデンタル)	塩沢 真穂 佐藤 隆明	到達目標:17
67-72	7/3	10:45-17:05	第3実習室	埋没材の膨張 (1)	石膏系埋没材の硬化膨張、熱膨張測定	塩沢 真穂 佐藤 隆明	到達目標:13
73-74	7/10	10:45-12:25	第3実習室	ワックスパターン作製	クラウンワックスアップ	塩沢 真穂 佐藤 隆明	到達目標:14
75-78	7/10	13:30-17:05	第3実習室	埋没材の膨張 (2)	リン酸塩系埋没材の硬化膨張、熱膨張測定	塩沢 真穂 佐藤 隆明	到達目標:13
79-84	7/17	10:45-17:05	第3実習室	鋳造	クラウン埋没・鋳造	塩沢 真穂 佐藤 隆明	到達目標:14
85-86	7/24	10:45-12:25	第3実習室	鋳造体の評価	鋳造体の寸法精度測定	塩沢 真穂 佐藤 隆明	到達目標:15
87-90	7/24	13:30-17:05	第3実習室	ろう付け	フラックスとアンチフラックスの働き	塩沢 真穂 佐藤 隆明	到達目標:16

授業方法

実習、見学実習

歯科技工で用いる材料や機材の物性や使用方法の実習

事前に isct LMS に提示されている資料を予習しておくこと。

授業内容 実習および企業見学に出席し、実習終了時にレポートを提出すること。 特別に勘案すべき事情があるために実習に参加できない場合には、その事情とともに授業開始前までに科目責任者にメールで連絡すること。その場合、提出物は、科目責任者の示す期限までに提出する。
成績評価の方法 ・評価は、レポート、確認テスト、実習作品により行う。 ・実習に出席し、レポートおよび製作物を提出すること。 ・評価は、各課題項目での提出レポート(40点)、実習後確認テスト(20点)、実習製作物(10点)、出席状況(20点)、授業態度(10点)とし、その合計点で総括的評価する。 ・特別に勘案すべき事情があるために指示が達成できない場合や実習に参加できない場合には、その事情とともに締め切り前および授業開始前までに科目責任者にメールで連絡すること。これらの十分な対応が行われたと判断された場合には事情などに応じてレポート等での対応を行うこととする。
成績評価の基準 ・総合評価の点数が60点以上のものを合格とする。 ・配点は、提出レポート40点、実習後確認テスト20点、実習作品10点、出席状況20点、授業態度10点とし、合計100点満点で換算する。
準備学習等についての具体的な指示 事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。
試験の受験資格 3/4 以上の出席を基本とする。
教科書 スタンダード歯科理工学 = STANDARD DENTAL MATERIALS SCIENCE : 生体材料と歯科材料／中畠裕, 宮崎隆, 米山隆之 編集幹事, 中畠, 裕, 宮崎, 隆, 1953- 米山, 隆之.: 学建書院, 2019
参考書 コア歯科理工学／小倉英夫, 高橋英和, 宮崎隆, 小田豊, 榎本貢三, 小園凱夫編 ; 遠藤一彦 [ほか] 執筆, 小倉, 英夫, 高橋, 英和, 宮崎, 隆, 小田, 豊, 榎本, 貢三, 小園, 凱夫, 遠藤, 一彦.: 医歯薬出版, 2008 臨床歯科理工学／宮崎隆 [ほか] 編, 宮崎, 隆, 中畠, 裕, 河合, 達志, 小田, 豊.: 医歯薬出版, 2006 歯科理工学教育用語集 = A Glossary for Dental Materials and Devices／日本歯科理工学会 編, 日本歯科理工学会.: 医歯薬出版, 2018 歯科理工学／全国歯科技工士教育協議会編 ; 大島浩 [ほか] 著, 全国歯科技工士教育協議会, 大島, 浩, 米山, 隆之, 高橋, 英和, 岩崎, 直彦.: 医歯薬出版, 2021
履修上の注意事項 事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。
備考 口腔保健理工学講義と連動しています。実習前に、必ず関連した講義を受けてから実習に参加すること。 実習後は、提示された期限までに実習レポートを提出すること。 前年度の授業終了時アンケート結果より、時間配分および内容を再検討し、改善している。 担当教員のオフィスアワー 塩沢 真穂 メールにて日時を相談 m.shiozawa.abm@tmd.ac.jp
オフィスアワー 塩沢 真穂 2号館3階314

時間割番号	023810						
科目名	デジタルデンティストリー基礎			科目ID			
担当教員	土田 優美, 岩城 麻衣子, 高市 敦士[TSUCHIDA Yumi, IWAKI Maiko, TAKAICHI Atsushi]						
開講時期	2026 年度後期	対象年次	2	単位数	1		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	メディア利用科目		
科目名:デジタルデンティストリー基礎 時間数:15 時間 授業形態:講義							
主な講義場所 遠隔授業(WebClass) 2 号館 2 階 第一講義室							
授業の目的、概要等 コンピュータ支援設計・加工・製造および三次元計測の原理と、歯科へ応用するための基礎的な知識を習得する。							
授業の到達目標 1. 三次元データの計測、設計、加工、製造の方法と仕組みの概要を理解できる。 2. コンピュータによるシミュレーションについての概要と利用事例について理解できる。 3. デジタルデンティストリーの最近の動向について理解できる。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	10/14	08:50-09:35	遠隔授業 (非同期型)	デジタルデンティストリー概論	デジタルデンティストリー概論	土田 優美	到達目標:1 学習方法:講義 事前学習:なし 終了後に小テストを実施
2	10/21	08:50-09:35	遠隔授業 (非同期型)	デジタルデンティストリー概論	デジタルデンティストリー概論	土田 優美	到達目標:1 学習方法:講義 事前学習:なし 終了後に小テストを実施
3	10/28	08:50-09:35	遠隔授業 (非同期型)	デジタルデンティストリー各論	デジタルデータの構造・CAD	土田 優美	到達目標:1 学習方法:講義 事前学習:なし 終了後に小テストを実施
4	11/4	08:50-09:35	遠隔授業 (非同期型)	デジタルデンティストリー各論	三次元データ、計測、スキャン	土田 優美	到達目標:1 学習方法:講義 事前学習:なし 終了後に小テストを実施
5	11/11	08:50-09:35	遠隔授業 (非同期型)	デジタルデンティストリー各論	三次元データ、計測、スキャン	土田 優美	到達目標:1 学習方法:講義 事前学習:なし 終了後に小テストを実施
6	11/18	08:50-09:35	遠隔授業 (非同期型)	デジタルデンティストリー各論	切削加工法	岩城 麻衣子	到達目標:1 学習方法:講義 事前

			型)				学習:なし 終了 後に小テストを実施
7	11/25	08:50-09:35	遠隔授業 (非同期 型)	デジタルデンティストリ ー各論	切削加工法	岩城 麻衣子	到達目標:1 学習 方法:講義 事前 学習:なし 終了 後に小テストを実施
8	12/2	08:50-09:35	遠隔授業 (非同期 型)	デジタルデンティストリ ー各論	付加製造法	高市 敦士	到達目標:1 学習 方法:講義 事前 学習:なし 終了 後に小テストを実施
9	12/9	08:50-09:35	遠隔授業 (非同期 型)	デジタルデンティストリ ー各論	付加製造法	高市 敦士	到達目標:1 学習 方法:講義 事前 学習:なし 終了 後に小テストを実施
10	12/16	08:50-09:35	遠隔授業 (非同期 型)	デジタルデンティストリ ー各論	金属の積層造形	高市 敦士	到達目標:1 学習 方法:講義 事前 学習:なし 終了 後に小テストを実施
11-13	1/19	09:45-12:25	第1講義 室	コンピュータによるシミュ レーション	コンピュータによるシミュレーショ ンの概要、利用事例	土田 優美	到達目標:2 学習 方法:講義 事前 学習:なし
14-15	2/2	10:45-12:25	第1講義 室	デジタルデンティストリ ーの最近の動向	デジタルデンティストリーの最近 の動向(株式会社データ・デザイン 瓜生先生)	土田 優美 瓜生 博伺	到達目標:3 学習 方法:講義 事前 学習:なし
16-17	2/8	13:30-15:10	リアルモ ードラボ	試験	試験	土田 優美	

授業方法

講義、演習

遠隔授業(非同期型)、対面授業を行う。

遠隔授業(非同期型)は WebClass にアップロードされる資料にて学習し、小テストでの合格または課題の提出をもって出席とする。

※小テストは実施期限をよく確認し、必ず期限内に実施すること。小テスト未実施および不合格は欠席となるため注意すること。

※小テストは満点の取得をもって出席扱いとする。

※小テストは期限内であれば何度でも実施可能。

遠隔授業(非同期型)での質問は、授業担当者にメールで質問すること。回答は授業担当者よりメールで行う。

対面授業ではグループディスカッションを含む。

成績評価の方法

評価は期末試験(筆記試験)によって行う。

期末試験の点数が 6 割未満の場合は再試験とする。

出席状況、授業態度を総合的評価に加味する。

成績評価の基準

期末試験の点数が 6 割以上のものを合格とする。

出席状況、授業態度、小テストの結果を加味して総合的に評価し、総合点が 80 点以上であれば A 評価以上とする。

準備学習等についての具体的な指示

事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

試験の受験資格

定期試験、追・再試験を受験する資格は以下のすべてとする。

・3 分の 2 以上の出席を基本とする。

・特別に勘案すべき事情があるために指示が達成できない場合や同期型授業に参加できない場合には、その事情とともに締め切り前および授業開始前までに科目責任者にメールで連絡すること。これらの十分な対応が行われたと判断された場合には事情などに応じて課題等での対応を行うこととする。

教科書

基礎から学ぶ CAD/CAM テクノロジー／日本デジタル歯科学会、全国歯科技工士教育協議会、末瀬 一彦、1951-、宮崎 隆、1953-、日本デジタル歯科学会、全国歯科技工士教育協議会 監修、末瀬一彦、宮崎隆 編、医歯薬出版、2017.8

備考

前年度履修学生の科目評価で、特段の改善意見がなかったため、前年度と同様の授業編成とする

オフィスアワー

土田 優美 メールにて面談の日程を調整すること

高市 敦士 随時（メールにて面談の日程を調整すること）

2 号館 2 階 口腔デジタルプロセス学分野 教授室

時間割番号	023890						
科目名	全部床義歯補綴学			科目ID			
担当教員	岩城 麻衣子, 駒ヶ嶺 友梨子, 羽田 多麻木[IWAKI Maiko, KOMAGAMINE Yuriko, HADA Tamaki]						
開講時期	2026 年度前期	対象年次	2	単位数	1		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	メディア利用科目		
主な講義場所 非同期型遠隔授業							
授業の目的、概要等 無歯顎という特殊な口腔内状態を理解し、歯の喪失により生じた形態的、機能的変化を、全部床義歯により、いかに回復し維持するかを理解する。これらの知識をもとに全部床義歯製作に必要な技法を習得する。							
授業の到達目標 1. 無歯顎の特殊性を理解できる。 2. 全部床義歯の製作の流れを診療室と技工室に分けて説明できる。 3. 無歯顎の印象採得法とそれに必要な器材を説明できる。 4. 無歯顎の咬合採得法とそれに必要な器材を説明できる。 5. 咬合器装着とそれに必要な器材を説明できる。 6. 人工歯の種類と特徴を列挙できる。 7. 人工歯排列、歯肉形成法を説明できる。 8. 埋没と重合法を理解し説明できる。 9. 削合と研磨の重要性を理解し説明できる。 10. 義歯装着の方法と義歯管理の重要性を説明できる。 11. リライン、リベース、修理法を説明できる。 12. 金属床義歯の利点と欠点を説明できる。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	4/6	13:30-15:10	遠隔授業 (非同期型)	全部床義歯の特性	全部床義歯の特性 1. 全部床義歯の構成要素 2. 全部床義歯の種類 3. 全部床義歯の口腔内での維持, 安定および支持	金澤 学, 岩城 麻衣子	『有床義歯工学』 P.19-23
3-5	4/9	13:30-16:10	遠隔授業 (非同期型)	デジタルデンチャー, インプラントオーバーデンチャー	デジタルデンチャー, インプラントオーバーデンチャー	金澤 学, 岩城 麻衣子	『やってみよう！インプラントオーバーデンチャー』
6-8	4/9	13:30-16:10	遠隔授業 (非同期型)	全部床義歯の製作順序	全部床義歯の製作順序 1. 歯科診療所と歯科技工所における作業の関連	金澤 学, 岩城 麻衣子	『有床義歯工学』 P.24-40
9-10	4/10	09:45-11:30	遠隔授業 (非同期型)	全部床義歯の印象採得	全部床義歯の印象採得に伴う技工作業 1. 無歯顎 2. 無歯顎の印象とトレー 3. 精密印象と作業模型	金澤 学, 岩城 麻衣子	『有床義歯工学』 P.24-40
11-12	4/28	15:25-17:05	遠隔授業 (非同期型)	全部床義歯の咬合採得に伴う技工作業	全部床義歯の咬合採得に伴う技工作業 1. 咬合床製作のための作業模型の処理 2. 咬合床の製作 3. 全部床義歯に用いられる咬合器 4. 作業用模型の咬合器装着 5. 咬合器の調節 6. ゴシックアーチ描記装置の取り付け	駒ヶ嶺 友梨子, 岩城 麻衣子	『有床義歯工学』 P.41-53

13-14	5/20	09:45-11:30	遠隔授業 (非同期型)	全部床義歯の人工歯排列と歯肉形成	全部床義歯の人工歯排列と歯肉形成 1. 人工歯 2. 人工歯排列 3. 歯肉形成 4. 蟬義歯の試適	駒ヶ嶺 友梨子, 岩城 麻衣子	『有床義歯工学』 P.56-80
15-16	6/3	09:45-11:30	遠隔授業 (非同期型)	全部床義歯の埋没と重合	全部床義歯の埋没と重合 1. 埋没の前準備 2. 埋没 3. 流蟬 4. 義歯床用レジンの重合	羽田 多麻木, 岩城 麻衣子	『有床義歯工学』 P.81-86
17-18	6/17	09:45-11:30	遠隔授業 (非同期型)	全部床義歯の咬合器への再装着 削合および研磨	全部床義歯の咬合器への再装着, 削合および研磨 1. 咬合器再装着の方法と特徴 2. 人工歯の削合 3. 研磨	駒ヶ嶺 友梨子, 岩城 麻衣子	『有床義歯工学』 P.89-102
19-20	6/17	09:45-11:30	遠隔授業 (非同期型)	リラインとリベース, 義歯修理, 義歯ケア	リラインとリベース, 義歯修理, 義歯ケア	金澤 学, 岩城 麻衣子	

授業方法

講義

遠隔授業(非同期型)で行います。

遠隔授業(非同期型)で質問を受ける方法は、授業担当者にメールで質問してください。授業担当者よりメールで回答します。

授業内容

.

成績評価の方法

確認テスト50点、期末テスト50点(筆記試験)の合計100点によって行う

成績評価の基準

期末テストの点数が 60 点以上のものを合格とする。

準備学習等についての具体的な指示

事前に資料の配布、WebClass へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

試験の受験資格

定期試験、追・再試験を受験する資格は以下のすべてとする。

・3 分の 2 以上の出席とする。

・授業ごとの確認テストの実施をもって出席とする。

教科書

有床義歯技工学／全国歯科技工士教育協議会, 鈴木 哲也, 1954-, 全国歯科技工士教育協議会 編, 鈴木哲也 ほか著: 医歯薬出版, 2017.2

参考書

よい義歯のための義歯：鈴木哲也のコンプリートデンチャー17 のルール／鈴木 哲也, 1954-, 鈴木哲也 著: クインテッセンス出版, 2011.11

コンプリートデンチャー：鈴木哲也のマスター1：ランクアップのための知恵と技／鈴木 哲也, 1954-, 古屋 純一, 鈴木哲也, 古屋純一 著: デンタルダイヤモンド社, 2017.4

無歯顎補綴治療学／市川 哲雄, 1958-, 大川 周治, 大久保 力廣, 水口 俊介, 市川哲雄, 大川周治, 大久保力廣, 水口俊介 編集, 市川哲雄 [ほか] 執筆: 医歯薬出版, 2022.2

バウチャー無歯顎患者の補綴治療／Boucher, Carl O, Zarb, George A, Bolender, Charles L, Eckert, Steven E, 田中 久敏, 1935-, 古谷野 潔, 市川 哲雄, 1958-, バウチャー [原著] Zarb, Bolender, Eckert, Jacob, Fenton, Mericske-Stern 編著, 田中久敏, 古谷野潔, 市川哲雄 監訳: 医歯薬出版, 2008.4

コンプリートデンチャーテクニック／細井 紀雄, 1940-, 細井紀雄 ほか編: 医歯薬出版, 2011.7

やってみよう! インプラントオーバーデンチャー／金澤 学, 水口 俊介, 金澤学, 水口俊介 編: 医歯薬出版, 2020.7

他科目との関連

一部、全部床義歯実習、デジタル全部床義歯実習と連動しています。

履修上の注意事項

事前に資料の配布、WebClass へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

備考

本講義では、一部の内容を全部床義歯実習およびデジタル全部床義歯実習と連動し、実習、演習によるアクティブラーニングを実施します。昨年度授業終了時アンケート結果より内容を再検討し、昨年度より内容を改善している。

担当教員のオフィスアワーおよび連絡先:

口腔デジタルプロセス学分野

准教授 岩城麻衣子 m.iwaki.gerd@tmd.ac.jp

時間割番号	023900					
科目名	全部床義歯実習			科目ID		
担当教員	岩城 麻衣子, 羽田 多麻木[IWAKI Maiko, HADA Tamaki]					
開講時期	2026 年度前期	対象年次	2	単位数	2	
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面	
主な講義場所						
2 号館第 3 実習室						
2 号館重合鑄造室						
2 号館総合実習室						
授業の目的、概要等						
無歯顎の特徴を理解し、その損なわれた形態と機能を回復するために用いる全部床義歯の製作方法を理解し、全部床義歯を製作する。						
授業の到達目標						
1. スタディモデルからランドマークが理解できる。						
2. リリーフとブロックアウトの意義を理解できる。						
3. 印象採得の手順を説明し、そのための個人トレーを製作できる。						
4. ハンドピース・エンジンを使って切削作業を実施できる。						
5. 咬合採得の手順を説明し、咬合床を製作できる。						
6. 丁寧に正確なワックス操作を行える。						
7. 模型を適切に咬合器に装着できる。						
8. 適切な人工歯排列ができる。						
9. 全部床義歯における咬合理論を理解し、適切な咬合を与えることができる。						
10. 自然感と清掃性を考慮した歯肉形成を施すことができる。						
11. 選択削合・自動削合を行える。						
12. 義歯の形態修正、研磨を行える。						
授業計画						
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員
1-7	4/13	09:45-17:05	第3実習室	実習道具の名称と種類	全部床義歯実習の概要説明	岩城 麻衣子, 羽田 多麻木
8-14	4/20	09:45-17:05	第3実習室	個人トレー製作2	上下顎オストロン圧接、トミリング	岩城 麻衣子, 羽田 多麻木
15-21	4/27	09:45-17:05	第3実習室	個人トレー製作3	柄・フィガーレストの取り付け、トレーの完成、コンパウンドの付与	岩城 麻衣子, 羽田 多麻木
22-28	5/11	09:45-17:05	第3実習室	咬合床製作1	外形線記入、リリーフ、ブロックアウト	岩城 麻衣子, 羽田 多麻木
29-35	5/18	09:45-17:05	第3実習室	咬合床製作2	基礎床製作、ろう堤形成、咬合床の完成	岩城 麻衣子, 羽田 多麻木
36-42	5/25	09:45-17:05	第3実習室	前歯部人工歯排列1	人工歯排列前準備、前歯部人工歯排列	岩城 麻衣子, 羽田 多麻木
43-49	6/1	09:45-17:05	第3実習室	前歯部人工歯排列2	前歯部人工歯排列	岩城 麻衣子, 羽田 多麻木
50-56	6/8	09:45-17:05	第3実習室	前歯部人工歯排列3	前歯部人工歯排列	岩城 麻衣子, 羽田 多麻木
57-60	6/9	13:30-17:05	第3実習室	臼歯部人工歯排列1	臼歯部人工歯排列	岩城 麻衣子, 羽田 多麻木
61-67	6/15	09:45-17:05	第3実習室	臼歯部人工歯排列2	臼歯部人工歯排列	岩城 麻衣子, 羽田 多麻木
68-74	6/22	09:45-17:05	第3実習室	臼歯部人工歯排列3	臼歯部人工歯排列	岩城 麻衣子,

昨年度授業終了時アンケート結果より、実習内容を再検討し、昨年度より内容を改善している。

担当教員のオフィスアワーおよび連絡先:

口腔デジタルプロセス学分野

准教授 岩城麻衣子 m.iwaki.gerd@tmd.ac.jp

助教 羽田多麻木 thada.gerd@tmd.ac.jp

時間割番号	023910					
科目名	デジタル全部床義歯実習			科目ID		
担当教員	岩城 麻衣子, 羽田 多麻木[IWAKI Maiko, HADA Tamaki]					
開講時期	2026 年度前期	対象年次	2	単位数	2	
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面	
主な講義場所						
2号館第3実習室						
2号館CAD/CAM実習室						
授業の目的、概要等						
デジタルデンティストリーの特徴を理解し、デジタル技術を用いた全部床義歯を製作方法を習得する。						
授業の到達目標						
1. スタディモデルからランドマークが理解できる。						
2. リリーフとブロックアウトの意義を理解できる。						
3. CADを用いた義歯製作について理解し、操作することができる。						
4. ハンドピース・エンジンを使って切削作業を実施できる。						
5. 咬合採得の手順を説明し、咬合床を製作できる。						
6. 適切な人工歯排列ができる。						
7. 全部床義歯における咬合理論を理解し、適切な咬合を与えることができる。						
8. 自然感と清掃性を考慮した歯肉形成を施すことができる。						
9. 付加造形について理解し、3Dプリンターを用いた義歯の造形ができる。						
10. 選択削合・自動削合を行える。						
11. 義歯の形態修正、研磨を行える。						
授業計画						
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員
1-7	4/13	09:45-17:05	第3実習室	実習道具の名称と種類	全部床義歯実習の概要説明	岩城 麻衣子, 羽田 多麻木
8-14	4/20	09:45-17:05	第3実習室	個人トレー製作2	上下顎オストロン圧接、トミリング	岩城 麻衣子, 羽田 多麻木
15-21	4/27	09:45-17:05	第3実習室	個人トレー製作3	柄・フィガーレストの取り付け、トレーの完成、コンパウンドの付与	岩城 麻衣子, 羽田 多麻木
22-28	5/11	09:45-17:05	第3実習室	咬合床製作1	外形線記入、リリーフ、ブロックアウト	岩城 麻衣子, 羽田 多麻木
29-35	5/18	09:45-17:05	第3実習室	咬合床製作2	基礎床製作、ろう堤形成、咬合床の完成	岩城 麻衣子, 羽田 多麻木
36-42	5/25	09:45-17:05	第3実習室	前歯部人工歯排列1	人工歯排列前準備、前歯部人工歯排列	岩城 麻衣子, 羽田 多麻木
43-49	6/1	09:45-17:05	第3実習室	前歯部人工歯排列2	前歯部人工歯排列	岩城 麻衣子, 羽田 多麻木
50-56	6/8	09:45-17:05	第3実習室	前歯部人工歯排列3	前歯部人工歯排列	岩城 麻衣子, 羽田 多麻木
57-60	6/9	13:30-17:05	第3実習室	臼歯部人工歯排列1	臼歯部人工歯排列	岩城 麻衣子, 羽田 多麻木
61-67	6/15	09:45-17:05	第3実習室	臼歯部人工歯排列2	臼歯部人工歯排列	岩城 麻衣子, 羽田 多麻木
68-74	6/22	09:45-17:05	第3実習室	臼歯部人工歯排列3	臼歯部人工歯排列	岩城 麻衣子, 羽田 多麻木
75-78	6/23	13:30-17:05	第3実習	デジタル排列実習	デジタル排列実習	岩城 麻衣子,

			室			羽田 多麻木
79-85	6/29	09:45-17:05	第3実習室	デジタル排列実習	デジタル排列実習	岩城 麻衣子, 羽田 多麻木
86-89	6/30	13:30-17:05	第3実習室	歯肉形成	歯肉形成	岩城 麻衣子, 羽田 多麻木
90-96	7/6	09:45-17:05	第3実習室	ろう義歯の埋没	一次埋没、二次埋没	岩城 麻衣子, 羽田 多麻木
97-100	7/7	13:30-17:05	第3実習室	流ろう、レジン填入・重合	流ろう、填入準備、填入、重合	岩城 麻衣子, 羽田 多麻木
101-107	7/13	09:45-17:05	第3実習室	割り出し・咬合器の再装着、削合	模型の割り出し・咬合器の再装着、選択削合	岩城 麻衣子, 羽田 多麻木
108-111	7/14	13:30-17:05	第3実習室	削合、義歯の取り出し、形態修正	選択削合、自動削合、義歯の取り出し、形態修正	岩城 麻衣子, 羽田 多麻木
112-118	7/27	09:45-17:05	第3実習室	形態修正・研磨	形態修正、サンドペーパー研磨、レーズ研磨、艶出し完成、超音波洗浄、提出	
119-120	7/28	13:30-15:10	第3実習室	GoA 描記装置製作	GoA 描記装置製作	

授業方法
実習
 事前に WebClass に提示されている資料、デモビデオを学習して予習しておくこと。
 実習前に確認テストを実施する。

成績評価の方法
 授業の実習内容について webclassm にアップされた資料を予習しておくこと。
 毎回の実習前に確認小テストを実施する。必ず予習を行い、実習内容を把握した上で実習に臨むこと。
 毎回の実習前の小テストの受験をもって出席とする。
 遅刻は欠席とする。
 プロダクトの完成 提出は必須とする。

成績評価の基準
 確認小テストの平均点が60点(100 点満点)以上を合格とする。
 また本実習で製作する全部床義歯の完成、提出は必須とする。

準備学習等についての具体的な指示
 事前に資料の配布、WebClass へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。
 実習帳やデモビデオを事前に予習してから実習に出席すること。

備考
 実習によるアクティブラーニングを実施する。
 昨年度授業終了時アンケート結果より、実習内容を再検討し、昨年度より内容を改善している。

担当教員のオフィシアワーおよび連絡先:
 口腔デジタルプロセス学分野
 准教授 岩城麻衣子 miwaki.gerd@tmd.ac.jp
 助教 羽田多麻木 thada.gerd@tmd.ac.jp

時間割番号	023920						
科目名	部分床義歯補綴学			科目ID			
担当教員	塩沢 真穂 高市 敦士 笛木 賢治[SHIOZAWA Maho, TAKAICHI Atsushi, FUEKI Kenji]						
開講時期	2026 年度後期	対象年次	2	単位数	1		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	メディア利用科目		
主な講義場所 2 号館第 3 講義室 遠隔授業(非同期型)							
授業の目的、概要等 部分的な歯の欠損の病態を理解し、部分床義歯による補綴治療で口腔の形態的、機能的回復をはかる意義を理解する。部分床義歯の構成要素および義歯の安定をはかるための理論を理解し、部分床義歯の製作方法を習得する。							
授業の到達目標 1. 部分床義歯の構成要素を説明できる。 2. 部分床義歯の製作順序を説明できる。 3. 部分床義歯を咬合圧の支持様式、残存歯と欠損の分布状態、使用目的で分類できる。 4. 部分床義歯における支持・把持・維持の考え方を説明できる。 5. 支台装置の種類、構造、機能を説明できる。 6. クラスプとアタッチメントの種類を説明できる。 7. 連結子の種類と特徴を説明できる。 8. 部分床義歯の印象採得の方法を説明できる。 9. 部分床義歯の設計の基本原則と順序を説明できる。 10. 部分床義歯の咬合採得の方法を説明できる。 11. 金属フレームワークの特徴と製作方法を説明できる。 12. 部分床義歯の人工歯排列の方法を説明できる。 13. 部分床義歯の埋没の種類と方法、重合方法を説明できる。 14. 部分床義歯の破損や不適合と、それらに対応する修理とリラインの方法を説明できる。 15. オーバーデンチャー、金属床義歯の特徴を説明できる。 16. ノンメタルクラスプデンチャーの特徴を説明できる							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	9/29	10:45-12:25	第3講義室	部分床義歯の構成要素 部分床義歯製作の手順	部分床義歯の構成要素 部分床義歯製作の手順	塩沢 真穂	到達目標:1-3
3-5	10/6	09:45-12:25	遠隔授業 (非同期型)	欠損様式と部分床義歯の分類 支台装置	歯の欠損様式の分類、部分床義歯の分類 支台装置	高市 敦士	到達目標:3-7 小テストを実施
6-7	10/13	10:45-12:25	遠隔授業 (非同期型)	部分床義歯にかかる力への対応 連結子と義歯床	支持・把持・維持 連結子と義歯床	高市 敦士	到達目標:3-7 小テストを実施
8-9	10/20	10:45-12:25	遠隔授業 (非同期型)	部分床義歯の印象採得と咬合採得 部分床義歯の人工歯排列と歯肉形成 部分床義歯の埋没とレジン重合	部分床義歯の印象採得と咬合採得 部分床義歯の人工歯排列と歯肉形成 部分床義歯の埋没とレジン重合	高市 敦士	到達目標: 8,10,12,13 小テストを実施
10-11	10/27	10:45-12:25	遠隔授業 (非同期型)	金属床義歯 義歯装着後の変化と対応	金属床義歯とフレームワーク 修理、リベース、リライン 部分床義歯の設計の基本原則、設計手順	高市 敦士	到達目標: 9,11,14,15 小テストを実施

時間割番号	023930						
科目名	部分床義歯補綴学実習			科目ID			
担当教員	塩沢 真穂, 高市 敦士, 佐藤 隆明[SHIOZAWA Maho, TAKAICHI Atsushi, SATO Takaaki]						
開講時期	2026 年度後期	対象年次	2	単位数	4		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面		
主な講義場所							
2 号館第 3 実習室、重合・鋳造室、総合実習室							
授業の目的、概要等							
口腔の形態的、機能的回復をはかるための部分床義歯の製作方法を習得し、各構成要素が具備すべき条件および使用する材料の性質を理解し、部分床義歯を製作する。							
授業の到達目標							
1. 部分歯列欠損症例の個人トレーを製作できる。							
2. 部分歯列欠損症例の咬合床を製作できる。							
3. 顎位を保持して作業模型を咬合器に装着できる。							
4. 作業模型のサベイングを行い、支台装置の設計ができる。							
5. 作業模型のブロックアウトとリリースができる。							
6. 外形線に沿ってワイヤークラスプの屈曲ができる。							
7. 直接法で鋳造用パターンが採得できる。							
8. リン酸塩系埋没材で埋没ができる。							
9. コバルトクロム合金の鋳造ができる。							
10. 鋳造体の形態修正を行い作業用模型に適合させることができる。							
11. 鋳造体の研磨ができる。							
12. 複印象を採得し、耐火模型を製作できる。							
13. 耐火模型上で支台装置のワックスアップができる。							
14. 耐火模型の型ごと埋没ができる。							
15. 支台装置のレーザー溶接ができる。							
16. 審美性と機能性に配慮して人工歯排列ができる。							
17. 機能性と生体親和性に配慮して歯肉形成ができる。							
18. ろう義歯の埋没ができる。							
19. 加熱重合レジンの填入と重合ができる。							
20. 義歯の割り出しができる。							
21. 人工歯の削合・調整ができる。							
22. レジン床の形態修正と研磨ができる。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-4	9/29	13:30-17:05	第3実習室	個人トレー製作	個人トレー外形線記入、ブロックアウト、リリース、常温重合レジン圧接	塩沢 真穂	到達目標:1
5-8	10/1	13:30-17:05	第3実習室	個人トレー製作	トレートリミング、柄・フィンガーレスト付与、個人トレー完成	塩沢 真穂 佐藤 隆明	到達目標:1 実習作品の提出
9-12	10/6	13:30-17:05	第3実習室	咬合床製作	外形線記入、ブロックアウト、リリース、常温重合レジン圧接	塩沢 真穂	到達目標:2
13-16	10/8	13:30-17:05	第3実習室	咬合床製作	基礎床トリミング、ろう堤形成	塩沢 真穂 佐藤 隆明	到達目標:2
17-20	10/13	13:30-17:05	第3実習室	咬合床製作、咬合器装着	咬合床完成、咬合器装着	塩沢 真穂	到達目標:2,3 実習作品の提出

21-24	10/15	13:30-17:05	第3実習室	支台装置製作	サベイング、支台装置設計	塩沢 真穂	到達目標:4
25-28	10/20	13:30-17:05	第3実習室	支台装置製作	ブロックアウト、ワイヤークラスプ屈曲	塩沢 真穂	到達目標:5,6 歯科技工部職員
29-32	10/22	13:30-17:05	第3実習室	支台装置製作	ワイヤークラスプ屈曲	塩沢 真穂	到達目標:6 歯科技工部職員
33-36	10/27	13:30-17:05	第3実習室	支台装置製作	上顎支台装置(鑄造レスト、鑄造クラスプ)パターン採得	塩沢 真穂	到達目標:7
37-40	10/29	13:30-17:05	第3実習室	支台装置製作	上顎支台装置パターン埋没、リンガルバーパターン採得	塩沢 真穂 佐藤 隆明	到達目標:7,8
41-44	11/5	13:30-17:05	第3実習室	支台装置製作	上顎支台装置パターン鑄造、リンガルバーパターン埋没	塩沢 真穂	到達目標:8,9
45-48	11/10	13:30-17:05	第3実習室	支台装置製作	リンガルバーパターン鑄造、上顎支台装置適合確認	塩沢 真穂 佐藤 隆明	到達目標:9,10
49-52	11/12	13:30-17:05	第3実習室	支台装置製作	上顎支台装置研磨、リンガルバー適合確認、研磨	塩沢 真穂	到達目標:10,11
53-56	11/17	13:30-17:05	第3実習室 総合実習室	支台装置製作	上顎支台装置レーザー溶接、研磨	塩沢 真穂	到達目標:15
57-60	11/19	13:30-17:05	第3実習室	支台装置製作	上顎支台装置研磨	塩沢 真穂	到達目標:11
61-64	11/24	13:30-17:05	第3実習室 総合実習室	支台装置製作	下顎複印象採得、耐火模型製作	塩沢 真穂	到達目標:12
65-68	11/26	13:30-17:05	第3実習室	支台装置製作	下顎支台装置ワックスアップ	塩沢 真穂	到達目標:13
69-72	12/1	13:30-17:05	第3実習室	支台装置製作	下顎支台装置型ごと埋没	塩沢 真穂	到達目標:14 歯科技工部職員
73-76	12/3	13:30-17:05	第3実習室	支台装置製作	下顎支台装置鑄造、形態修正	塩沢 真穂	到達目標:9,10 歯科技工部職員
77-80	12/8	13:30-17:05	第3実習室	支台装置製作	下顎支台装置形態修正、適合確認	塩沢 真穂	到達目標:10,11 歯科技工部職員
81-84	12/10	13:30-17:05	第3実習室	支台装置製作 人工歯排列	下顎支台装置研磨 前歯部人工歯排列	塩沢 真穂	到達目標:11,16
85-88	12/15	13:30-17:05	第3実習室	人工歯排列	前歯部人工歯排列	塩沢 真穂	到達目標:16
89-92	12/17	13:30-17:05	第3実習室	人工歯排列	臼歯部人工歯排列	塩沢 真穂	到達目標:16
93-96	12/22	13:30-17:05	第3実習室	人工歯排列、歯肉形成	臼歯部人工歯排列、歯肉形成	塩沢 真穂	到達目標:16,17
97-100	1/7	13:30-17:05	第3実習室	埋没	歯肉形成、一次埋没	塩沢 真穂	到達目標:17,18 歯科技工部職員
101-104	1/12	13:30-17:05	第3実習室 総合実習室	埋没	二次埋没、三次埋没、流ろう	塩沢 真穂 高市 敦士	到達目標:18 歯科技工部職員
105-108	1/14	13:30-17:05	第3実習室 総合実習室	填入、重合	填入、重合	高市 敦士 塩沢 真穂 佐藤 隆明	到達目標:19 歯科技工部職員
109-1	1/21	13:30-17:05	第3実習室	咬合器再装着、削合	割り出し、咬合器再装着、削合	塩沢 真穂	到達目標:20, 21

12			室				
113-1 16	1/28	13:30-17:05	第3実習 室	研磨	形態修正、荒研磨	塩沢 真穂	到達目標:22
117-1 20	2/4	13:30-17:05	第3実習 室	研磨	レーズ研磨、艶出し完成	塩沢 真穂	到達目標:22 実 習作品の提出

授業方法

実習

下顎部分歯列欠損症例の個人トレー、上下顎咬合床、上下顎部分床義歯の製作実習

事前に isct LMS に提示されている資料、デモビデオを学習して予習しておくこと。

成績評価の方法

評価は実習製作物(90 点)、出席状況(10 点)によって行う。

実習製作物は、

- ・下顎個人トレー:外形・辺縁・柄(10 点)
- ・上下咬合床:基礎床・ろう堤(15 点)
- ・下顎ろう義歯:支台装置・排列・咬合状態・形態(30 点)
- ・上顎完成義歯:支台装置・排列・咬合状態・形態・研磨状態(35 点)

について評価し、合計点数を成績とする。

授業態度を加味する。

成績評価の基準

- ・実習で製作した作品(90 点)、出席状況(10 点)で評価を行う(100 点)。60 点以上を合格とする。
- ・授業態度を総合的評価に加味する。

準備学習等についての具体的な指示

isct LMS にアップロードされている実習予定表および実習書を事前に確認し、当日行う実習内容を把握しておく。

isct LMS にアップロードされているデモビデオをあらかじめ視聴してから実習に臨むこと。

試験の受験資格

定期試験、追・再試験を受験する資格は以下のすべてとする。

- ・4 分の 3 以上の出席を基本とする。
- ・実習に出席し、提示された期限までに作品を提出すること。

参考書

有床義歯技工学 = Dental technology for removable dentures./全国歯科技工士教育協議会 編 鈴木哲也 ほか著 鈴木 哲也, 1954-,全国歯
科技工士教育協議会,:医歯薬出版, 2017

パーシャルデンチャーテクニック/五十嵐順正 [ほか] 編 五十嵐 順正,石上 友彦,大久保 力廣,岡崎 定司,馬場 一美,横山 敦郎,:医歯
薬出版, 2012

履修上の注意事項

実習予定表および実習書を事前に確認し、当日行う実習内容を把握しておく。 isct LMS にアップロードされているデモビデオをあらかじめ
め視聴してから実習に臨むこと。

備考

昨年度授業終了時アンケート結果より、実習内容を再検討し、昨年度より内容を改善している。

担当教員のオフィスアワー

塩沢 真穂 メールにて日時を相談 m.shiozawa.abm@tmd.ac.jp

オフィスアワー

塩沢 真穂 2 号館 3 階 314

時間割番号	023950						
科目名	歯冠修復学			科目ID			
担当教員	池田 正臣, 野崎 浩佑, 八幡 祥生, 興地 隆史[IKEDA Masaomi, NOZAKI Kosuke, YAHATA Yoshio, OKIJI Takashi]						
開講時期	2026 年度後期	対象年次	2	単位数	2		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	メディア利用科目		
時間数:30時間 授業形態:講義							
主な講義場所 遠隔授業(同期型,非同期型)							
授業の目的、概要等 歯冠修復治療の手順と補綴装置の具備すべき要件を理解し、機能の回復および歯周組織との調和に必要な知識を学ぶ。また、補綴治療に求められる機能性、審美的、生体親和性を学ぶことにより、口腔内で長期間安定するために必要な歯冠修復および架工義歯の条件を理解する。							
授業の到達目標 1. 歯冠修復の適応と意義を説明できる。 2. う蝕治療の流れと歯冠修復物の特徴を説明できる。 3. 築造と仮封冠の目的を説明できる。 4. 直接法と比較した間接法の特徴を説明できる。 5. 印象法と咬合採得の意義について説明できる。 6. 作業用模型の種類と取り扱い方を説明できる。 7. ろう型採得と埋没および鑄造の方法について説明できる。 8. 研磨の手法を説明できる。 9. 試適と咬合接触および合着の手順を説明できる。 10. 模型と生体との違いを説明できる。 11. ブリッジの特徴とポンティック形態を説明できる。 12. 術前のテンポラリークラウンの調整について説明できる。 13. 窩洞形態とマージン形態を説明できる。 14. ファイバーコアとメタルコアの違いを説明できる。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	9/28	10:45-12:25	第1講義室	歯冠修復工学総論	歯冠修復物の種類と目的 トラブルの原因と解決方法についての演習	野崎 浩佑, 池田 正臣	到達目標 1,2
3-4	10/2	08:50-10:30	遠隔授業(非同期型)	全部鑄造冠	全部鑄造冠の特徴、支台形態	野崎 浩佑	到達目標 2
5-6	10/5	10:45-12:25	遠隔授業(非同期型)	歯内療法学概論 1	歯内療法学における基本的な治療 1	八幡 祥生	到達目標 2
7-8	10/19	10:45-12:25	遠隔授業(非同期型)	歯内療法学概論 2	歯内療法学における基本的な治療 2	八幡 祥生	到達目標 2 根管治療動画
9-10	11/2	10:45-12:25	遠隔授業(非同期型)	築造、仮封冠	築造の目的、仮封冠の目的	野崎 浩佑	到達目標 3

			型)				
11-12	11/9	10:45-12:25	遠隔授業 (非同期 型)	間接法、印象法	間接法の寸法精度、補償理論 印象に用いられる材料、必要精 度、特徴	野崎 浩佑	到達目標 4.5
13-14	11/16	10:45-12:25	遠隔授業 (非同期 型)	間接法、印象法	間接法の寸法精度、補償理論 印象に用いられる材料、必要精 度、特徴	野崎 浩佑	到達目標 4.5
15-16	11/30	10:45-12:25	遠隔授業 (非同期 型)	咬合採得、作業用模型、 ろう型採得	咬合採得に用いる材料と方法、注 意点、各種模型の特質 内面の 適合精度、外面形態:咬合面、隣 接面、頬舌面	野崎 浩佑	到達目標 5-7
17-18	12/7	10:45-12:25	遠隔授業 (非同期 型)	他の歯冠修復材料	金属以外の材料と接着	池田 正臣	到達目標 5-7
19-20	12/14	10:45-12:25	遠隔授業 (非同期 型)	埋没、鋳造、研磨	スプルー線の植立、埋没操作 埋没材の変化、ワックスの焼却	野崎 浩佑	到達目標 7.8
21-22	12/21	10:45-12:25	遠隔授業 (非同期 型)	埋没、鋳造、研磨	鋳造用合金、鋳造体の熱処理 研 磨の目的、研磨器具の種類と特徴	野崎 浩佑	到達目標 7.8
23-24	1/18	10:45-12:25	遠隔授業 (非同期 型)	試適、合着	接触点の調整、咬合調整 セメン トの種類、浮き上がり防止策	野崎 浩佑	到達目標 9
25-26	1/25	10:45-12:25	遠隔授業 (非同期 型)	間接法と生体	顎骨の歪みや歯の微小変位が間 接法に与える影響	野崎 浩佑	到達目標 10
27-28	2/1	10:45-12:25	遠隔授業 (非同期 型)	ブリッジ	ボンテックの形態 術前 Tek 調 整、ブリッジの調整とセット	野崎 浩佑	到達目標 11,12
29-30	2/8	10:45-12:25	遠隔授業 (非同期 型)	支台歯・窩洞形態 マー ジン形態 ファイバーコ ア	各種修復物の支台歯・窩洞形態 各種修復物のマージン形態 ファ イバーコアの特徴、歯根破折	野崎 浩佑	到達目標 13、14

授業方法

講義、歯科材料に関する課題発表

遠隔授業(同期型、非同期型)では、授業時間中のチャットや発言、または授業担当者にメールにて質問すること。授業担当者より授業時間中、時間後にチャット・メールにて回答する。

成績評価の方法

- ・出席状況(10 点)、ディスカッションへの参加度(10 点)、期末試験(80 点)で総合的に評価する。
- ・期末試験が 60%未満の場合は再試験とする。

成績評価の基準

- ・期末試験の点数が 60%以上のものを合格とする。
- ・授業態度を加味して総合的に評価し、この科目の評価とする。

準備学習等についての具体的な指示

事前に資料の配付、web-class へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

講義は遠隔授業(同期型、非同期型)で行います。
試験の受験資格 定期試験、追・再試験を受験する資格は以下のすべてとする。 ・2/3 以上の出席を基本とする。 ・遠隔授業(同期型)に出席すること。 ・特別に勘案すべき事情があるために指示が達成できない場合や同期型授業に参加できない場合には、その事情とともに締め切り前および授業開始前までに科目責任者にメールで連絡すること。これらの十分な対応が行われたと判断された場合には事情などに応じてレポート等での対応を行う
教科書 歯冠修復技工学 = Dental Technology for Fixed Dental Prostheses and Restorations／全国歯科技工士教育協議会 編集[末瀬一彦] [[ほか] [著]末瀬 一彦, 1951-,全国歯科技工士教育協議会,:医歯薬出版, 2017
参考書 保存修復学 21／田上順次 [[ほか] 監修 ; 阿南壽 [[ほか] 編集田上, 順次阿南, 壽,奈良, 陽一郎,山本, 一世,斎藤, 隆史,:永末書店, 2017 クラウンブリッジ補綴学／矢谷博文, 三浦宏之, 細川隆司, 小川匠 編集矢谷, 博文, 1954-,三浦, 宏之,細川, 隆司,:医歯薬出版, 2014
備考 池田 正臣:メールにて面談の日程を調整すること ikeda.csoe@tmd.ac.jp 昨年度授業終了時アンケート結果より、実習内容を再検討し、昨年度より内容を改善している。
オフィスアワー 池田 正臣:メールにて面談の日程を調整すること 野崎 浩佑:毎週木曜日 AM.10:00-AM.11:00 D 棟北 11 階第 2 研究室

時間割番号	023960						
科目名	歯冠修復学実習			科目ID			
担当教員	池田 正臣, 佐藤 隆明[KEDA Masaomi, SATO Takaaki]						
開講時期	2026 年度後期	対象年次	2	単位数	5		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面		
時間数:165 時間 授業形態:実習							
主な講義場所 2号館第3実習室 2号館重合鑄造室 2号館総合実習室 2号館硬質レジン実習室 歯学科補綴実習室							
授業の目的、概要等 歯冠修復物の製作に必要な基本的要件を理解し、正確で迅速な歯科技工操作に求められる基礎的技術および知識を修得する。また、製作に用いる器材の取り扱い方法を学び、機能的および形態的に残存歯と調和の取れた歯冠補綴装置を製作するための基礎的な技術を習得する。							
授業の到達目標 1. 技工器具を用いて精度の高い模型の製作方法を説明できる。 2. 精度の高いろう型の採得方法を説明できる。 3. 埋没・鑄造方法について説明できる。 4. 適合と形態修正についてを説明できる。 5. 個歯トレーと暫間被覆冠の製作方法を説明できる。 6. 適切な辺縁形態、隣接面接触、咬合接触の付与方法を説明できる。 7. 鏡面研磨の方法を説明できる。 8. レジン前装冠前装部の窓開け方法を説明できる。 9. 前装用レジンを築盛方法を説明できる。 10. ファイバーコアの製作方法を説明できる。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-4	9/28	13:30-17:05	第3実習室	実習の進め方 模型製作	実習の進め方、実習室の使い方、技工器具・器機の使い方 模型トリミング	池田 正臣, 佐藤 隆明	到達目標 1
5-10	10/2	10:45-17:05	第3実習室	模型製作	ダウエルピン植立、二次石膏、三次石膏	池田 正臣, 佐藤 隆明	到達目標 1
11-14	10/5	13:30-17:05	第3実習室	模型製作	ダウエルピン植立、二次石膏、三次石膏	池田 正臣, 佐藤 隆明	到達目標 1
15-20	10/9	10:45-17:05	第3実習室	模型製作,咬合器装着	模型分割咬合器装着	池田 正臣, 佐藤 隆明	到達目標 1
21-26	10/16	10:45-17:05	第3実習室	歯型のマージン出し	歯型のマージン出し	池田 正臣, 佐藤 隆明	到達目標 1
27-30	10/19	13:30-17:05	第3実習室	メタルコアのワックスパターンの製作	メタルコアのワックスパターンの製作	池田 正臣, 佐藤 隆明	到達目標 2
31-36	10/23	10:45-17:05	第3実習室	メタルコアの埋没	スプルーイング、埋没	池田 正臣, 佐藤 隆明	到達目標 2,3
37-40	10/26	13:30-17:05	第3実習室	メタルコアの鑄造	鑄造	池田 正臣	到達目標 2,3

			室			佐藤 隆明	
41-46	10/30	10:45-17:05	第3実習室	メタルコアの完成	形態修正、完成	池田 正臣 佐藤 隆明	到達目標 4
47-50	11/2	13:30-17:05	第3実習室	個歯トレー製作	個歯トレー製作	池田 正臣 佐藤 隆明	到達目標 5
51-56	11/6	10:45-17:05	第3実習室	暫間被覆冠の歯冠形態回復	暫間被覆冠製作 歯冠形態回復	池田 正臣 佐藤 隆明	到達目標 5,6
57-60	11/9	13:30-17:05	第3実習室	暫間被覆冠製作	形態修正 研磨完成	池田 正臣 佐藤 隆明	到達目標 5-7
61-66	11/13	10:45-17:05	第3実習室	クラウンのワックスパターンの製作	クラウンのワックスパターンの概形製作	池田 正臣 佐藤 隆明	到達目標 2
67-70	11/16	13:30-17:05	第3実習室	クラウンのワックスパターンの製作、クラウンの埋没	クラウンのワックスパターンの製作、マージンのしめ直し、スプルーイング、埋没	池田 正臣 佐藤 隆明	到達目標 2,3
71-76	11/20	10:45-17:05	第3実習室	クラウンの鑄造	鑄造 内面調整	池田 正臣 佐藤 隆明	到達目標 3,4
77-82	11/27	10:45-17:05	第3実習室	クラウンの完成	接触点、咬合調整、研磨、完成	池田 正臣 佐藤 隆明	到達目標 4-6
83-86	11/30	13:30-17:05	第3実習室	メタルインレーのワックスパターンの製作	メタルインレーのワックスパターンの概形製作、歯冠形態回復	池田 正臣 佐藤 隆明	到達目標 2
87-92	12/4	10:45-17:05	第3実習室	埋没、鑄造	スプルーイング、埋没、鑄造	池田 正臣 佐藤 隆明	到達目標 3
93-96	12/7	13:30-17:05	第3実習室	メタルインレーの鑄造調整、完成	鑄造、適合確認、内面調整、接触点調整、咬合調整、研磨、完成 鑄造、適合確認、内面調整、接触点調整、咬合調整、研磨、完成	池田 正臣 佐藤 隆明	到達目標 3,4,6,7
97-102	12/11	10:45-17:05	第3実習室	レジ前装冠の waxup	レジ前装冠の waxup	池田 正臣 佐藤 隆明	到達目標 3
103-106	12/14	13:30-17:05	第3実習室	レジ前装冠のワックスパターンの製作	窓開け、ワックスパターン完成	池田 正臣 佐藤 隆明	到達目標 3 到達目標 2,8
107-112	12/18	10:45-17:05	第3実習室	レジ前装冠のリテンションピース付与、レジ前装冠の埋没	窓開け、ワックスパターン完成	池田 正臣 佐藤 隆明	到達目標 3 到達目標 2,8
113-117	1/8	10:45-16:10	第3実習室	卒業研究準備	卒業研究発表会	池田 正臣 佐藤 隆明	
118-122	1/15	10:45-16:10	第3実習室	鑄造、調整	鑄造、適合確認、内面調整、接触点調整、	池田 正臣 佐藤 隆明	到達目標 3,4,8
123-127	1/18	13:30-18:00	第3実習室	調整、研磨	フィニッシュライン調整、咬合調整、荒研磨	池田 正臣 佐藤 隆明	到達目標 6,8
128-133	1/22	10:45-17:05	第3実習室	前装レジン築盛	デンティン築盛 エナメル築盛	池田 正臣 佐藤 隆明	到達目標 9
134-139	1/29	10:45-17:05	第3実習室	レジ前装冠の形態修正、研磨	前装レジン築盛、形態修正、研磨、完成	池田 正臣 佐藤 隆明	到達目標 4,6,9
140-144	2/1	13:30-18:00	第3実習室	ファイバーコアの築盛	レジン築盛、形態修正、完成	池田 正臣 佐藤 隆明	到達目標 4,10
145-150	2/5	10:45-17:05	第3実習室	ファイバーコアの築盛	レジン築盛、形態修正、完成	池田 正臣 佐藤 隆明	到達目標 4,10

授業方法

実習

成績評価の方法 ・製作物(コア 10 点、個歯トレー10 点、テック 10 点、インレー10 点、クラウン 20 点、前装冠 20 点、ファイバーコア 10 点)、出席状況(10点)で総合的に評価する。 ・製作物の点数が 60%未満の場合は再提出とする。
成績評価の基準 ・実習で製作した作品で評価を行う ・製作物の点数が 60%以上を合格とする。 ・授業態度を加味して総合的に評価し、この科目の評価とする。
準備学習等についての具体的な指示 事前に資料の配付、web-class へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。 実習は実習室で行う。
試験の受験資格 定期試験、追・再試験を受験する資格は以下のすべてとする。 ・4 分の 3 以上の出席を基本とする。 ・実習に出席し、提示された期限までに製作物を提出すること。 ・特別に勘案すべき事情があるために指示が達成できない場合や実習に参加できない場合には、その事情とともに締め切り前および授業開始前までに科目責任者にメールで連絡すること。これらの十分な対応が行われたと判断された場合には事情などに応じてレポート等での対応を行うこととする。
教科書 歯冠修復技工学 = Dental Technology for Fixed Dental Prostheses and Restorations／全国歯科技工士教育協議会 編集[末瀬一彦] [[ほか] [著]末瀬 一彦, 1951-, 全国歯科技工士教育協議会.: 医歯薬出版, 2017
参考書 クラウンブリッジ補綴学／矢谷博文, 三浦宏之, 細川隆司, 小川匠 編集, 矢谷, 博文, 1954-, 三浦, 宏之, 細川, 隆司.: 医歯薬出版, 2014 保存修復学 21／田上順次 [[ほか] 監修 ; 阿南壽 [[ほか] 編集, 田上, 順次, 阿南, 壽, 奈良, 陽一郎, 山本, 一世, 斎藤, 隆史.: 永末書店, 2017
備考 担当教員のオフィシアワーおよび連絡先 池田正臣 ikeda.csoe@tmd.ac.jp メールにて面談の日程を調整すること 昨年度授業終了時アンケート結果より、実習内容を再検討し、昨年度より内容を改善している。
オフィシアワー 池田 正臣メールにて面談の日程を調整すること

時間割番号	023c80				
科目名	口腔保健工学エクスターンシップ B			科目 ID	
担当教員	青木 和広[AOKI Kazuhiro]				
開講時期	2026 年度通年	対象年次	2	単位数	1
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面

海外研修プログラムを履修した学生に、自由選択科目(卒業要件以外)の単位として1単位を認定する。

成績評価の方法

それぞれの海外研修プログラムの責任者が、学生の研修内容等を総合的に判定して可否をつけ、口腔保健学科教育委員会において承認を受けた後、教授会で最終判定を行う。

評価としては、発展的に学習して自らの課題解決策等について具体的に論述できる場合は 80 点 以上とする。

また、3)の TMU との交流における成績は、参加への積極性や発表時の内容等により総合的に判断して成績をつけるものとする。なお、ポイントは学年をまたいで持ち越しにはなるが、90 点以上の基準としては、プログラムの全部の参加状況が一つの基準となる。

準備学習等についての具体的な指示

- ・各自のテーマに必要な知識および技術を十分に理解して実習に臨むこと。
- ・訪問計画は担当教員と相談し、各自入念に準備しておくこと。

3)の TMU との交流にあたり、事前に TMU 学生と交流をし、準備を進めることが大切である。

来日時の交流に備えた事前の交流の仕方は、担当教員から指示がある。

試験の受験資格

○ 単位認定条件

1)海外研修奨励制度による研修プログラムへの参加

(1) 語学能力(英語)

選考時面接にて英語能力を評価。CEFR-J B1 High 以上を積極的に評価する。

(2) 海外渡航時の注意事項、危機管理に関する研修(講義)の履修

(3) 研修報告書の提出

日本語および英語(詳細は別に定める)

(4) 研修報告会における発表

研修報告会が開催されるときは、研修報告のプレゼンテーションを行う。

(5) 本学および海外の担当教員による学生評価の成績(70 点 以上)

2)その他の海外研修プログラム(口腔保健学科教育委員会が認めたもの)

(1) 語学能力(英語)

選考時面接にて英語能力を評価。CEFR-J B1 High 以上を積極的に評価する。

(2) 研修特別コースの履修(*)

研修内容によって、特別に提供されるコースの履修(詳細は別に定める)

(3) 海外における生活上の注意、危機管理に関する研修(講義)の履修

(4) 研修報告書の提出

日本語および英語(詳細は別に定める)

(5) 研修報告会における発表

研修報告会が開催されるときは、研修報告のプレゼンテーションを行う。

(6) 本学および海外の担当教員による学生評価の成績(70 点以上)

(*)なお、オンラインの国際交流プログラムを実施する場合においても、大学が開催する海外の教育研究機関とのオンライン交流会参加をもって、単位申請することができる。

- ・ 国際活動ポイント Point System for International Exchange(P-Sie) の総計が 15 以上あること。

(各交流プログラム担当者により付与ポイントを設定していただき、国際交流委員会の承認後、募集に際して学生にポイント数を明示する。学年持越し可とする。)

・大学が開催する P-Sie 対象のオンラインまたは対面のプログラムの単位認定条件は2)(2)(3)以外のすべての条件を満たすこと。

3) 台北医学大学(TMU)との交流で必修科目ではない、任意参加のプログラムにすべて参加した場合は、15 ポイントを付与し、エクスターンシップの単位申請ができる。単位認定は、教育委員会および教授会の承認を得る。

履修上の注意事項

1. 海外研修プログラムを履修した学生に、自由選択科目(卒業要件以外)の単位として1単位を認定する。 2. 単位認定の対象となる海外研修プログラムは以下のプログラムとする。各プログラムにおける単位認定条件は別に定める。 1) 大学海外研修奨励制度(事前研修を含む。) 2) その他の海外研修プログラム(口腔保健学科教育委員会が認めたもの)(*) 3. 所定のプログラムを終了した学生に対し、口腔保健学科教育委員会の議を経て、歯学部教授会が単位を認定する。但し、同一年次・年度で認定できる単位は1単位を上限とする。また、「その他の海外研修プログラム」に該当するプログラムで認定できる単位は、プログラムの内容・年次・年度・回数に限らず、在学期間を通じて1単位とする。 (*)なお、オンラインの国際交流プログラムを実施する場合においても、大学が開催する海外の教育研究機関とのオンライン交流会参加をもって、単位申請することができる。 ・国際活動ポイント Point System for International Exchange (P-Sie)の総計が 15 以上あること。(各交流プログラム担当者により付与ポイントを設定していただき、国際交流委員会の承認後、募集に際して学生にポイント数を明示する。学年持越し可とする。) ・大学が開催する P-Sie 対象のオンラインまたは対面のプログラムの単位認定条件は2)(2)(3)以外のすべての条件を満たすこと。 3) 台北医学大学(TMU)との交流で必修科目ではない、任意参加のプログラムにすべて参加した場合は、15 ポイントを付与し、エクスターンシップの単位申請ができる。単位認定は、教育委員会および教授会の承認を得る。

備考

昨年度授業終了時アンケート結果より、実習内容を再検討し、昨年度より内容を改善している。

国際交流自体が、AL(グループディスカッション)となる。

学生自身で単位申請を行うこと。

オフィスアワー

毎週月曜日 16時から18時 2号館2階 216号室(口腔基礎工学分野)

オフィスにいない場合もあるので、あらかじめメールで問い合わせることを推奨。

第 3 学年
履修科目・ユニット

時間割番号	023503						
科目名	科学英語Ⅱ			科目ID	DE310300L		
担当教員	池田 正臣, 佐藤 隆明[KEDA Masaomi, SATO Takaaki]						
開講時期	2026 年度前期	対象年次	3	単位数	1		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	メディア利用科目		
必修 15 時間							
主な講義場所 口腔保健工学専攻 第3講義室							
授業の目的、概要等 歯科で使われる英語について、英論文を読みながら基本的な知識を理解することができる。							
授業の到達目標 1. 英語論文の抄録を読んで内容を理解することができる。 2. 英語論文の要点をまとめ、わかりやすい日本語抄録を作成できる。 3. 英語の抄録を説明できる。 4. 英語の専門用語について日本語、英語で説明できる。 5. 英語論文を読み、抄録を作成し、論文の内容をわかりやすく説明できる。 6. 研究をまとめて発表する方法を説明できる。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	4/17	10:45-12:25	遠隔授業 (同期型)	論文の読み方、まとめ方1	論文の構成(CAD/CAM 論文) 発表課題	池田 正臣 佐藤 隆明	到達目標 1-5
3-4	5/1	10:45-12:25	遠隔授業 (同期型)	論文の読み方、まとめ方2	論文の構成(材料論文)	池田 正臣 佐藤 隆明	到達目標 1-5
5-6	5/15	10:45-12:25	遠隔授業 (同期型)	抄読会、ディスカッション 1	緒言、目的、材料と方法、結果、考察、結論(CAD/CAM 論文)	池田 正臣 佐藤 隆明	到達目標 1-5
7-8	6/5	10:45-12:25	遠隔授業 (同期型)	抄読会、ディスカッション 2	緒言、目的、材料と方法、結果、考察、結論(材料論文)	池田 正臣 佐藤 隆明	到達目標 1-5
9-10	6/19	10:45-12:25	遠隔授業 (同期型)	抄読会、ディスカッション 3	論文で用いられる単語、文法	池田 正臣 佐藤 隆明	到達目標 1-5
11-12	7/3	10:45-12:25	遠隔授業 (同期型)	研究発表シミュレーション	課題発表	池田 正臣 佐藤 隆明	到達目標 1-5
13-15	7/17	09:45-12:25	遠隔授業 (同期型)	研究発表シミュレーション	課題発表	池田 正臣 佐藤 隆明	到達目標 1-5
授業方法 講義、演習、課題発表 抄読会(対面演習)を行います。 事前に課題を行い、発表スライドを作成し発表する。							
成績評価の方法 ・授業参加(10 点)、抄読会発表内容・ディスカッションへの参加度(10 点)、期末試験(80 点)で総合的に評価する。 ・期末試験が 60%未満の場合は再試験とする。							
成績評価の基準 ・期末試験の点数が 60%以上のものを合格とする。 ・授業態度を加味して総合的に評価し、この科目の評価とする。 ・授業参加(10 点)、抄読会発表内容・ディスカッションへの参加度(10 点)、期末試験(80 点)で総合的に評価する。							

準備学習等についての具体的な指示 事前に WebClass で提示される英文資料を読み、課題を作成すること。授業当日は作成された英語課題について発表し、ディスカッションする。事前に十分予習してから授業に臨むこと。
試験の受験資格 定期試験、追・再試験を受験する資格は以下のすべてとする。 ・3 分の 2 以上の出席を基本とする。 ・事前に提示された課題を行い、授業前の提出期限までに課題を提出し、遠隔授業(同期型)に出席すること。 ・定期試験、追・再試験を受験する資格は以下のすべてとする。 ・3 分の 2 以上の出席を基本とする。 ・事前に提示された課題を行い、授業前の提出期限までに課題を提出し、遠隔授業(同期型)に出席すること。 ・特別に勘案すべき事情があるために指示が達成できない場合や同期型授業に参加できない場合には、その事情とともに締め切り前および授業開始前までに科目責任者にメールで連絡すること。これらの十分な対応が行われたと判断された場合には事情などに応じてレポート等での対応を行うこととする。
履修上の注意事項 事前に資料の配布、WebClass へのアップロード等があった場合には、予習して授業に臨むこと。 事前に出される課題を行い、WebClass にて提出すること。
備考 前年度履修学生の科目評価案アンケートで特に改善意見がなかったため、同様の授業編成とする。 担当教員のオフィスアワーおよび連絡先 池田正臣 メールにて日時を相談 ikeda.csoe@tmd.ac.jp
オフィスアワー 池田 正臣メールにて面談の日程を調整すること

時間割番号	023620a		
科目名	英語Ⅱ: Topical Discussion	科目ID	
担当教員	WHITAKER SIMON[WHITAKER SIMON]		
開講時期	2026 年度通年	対象年次	2～4
実務経験のある教員による授業		授業形態	メディア利用科目
・曜日・時間:水曜 3 講 ・対象:全学科 ・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー): 別表3ー4) 別表4ー5)			
授業の目的、概要等 A course focused on in-depth discussion of contemporary social topics which affect everyone, from AI and social media to new or growing health and environmental challenges. We will consider a small set of such topics from different angles. You will continuously work on and develop important skills like those of open and impromptu discussion. You will also be building up and consolidating vocabulary, and even your own ideas, as we explore points of connection between these topical debates and the often-overlapping ways they can be approached.			
授業の到達目標 To be able to engage in extended discussions in English on a range of topics 多様なトピックについて、英語でより長い議論をすることができる To be able to comprehend and use new vocabulary 新しい語彙を理解して使用することができる To be able to speak in front of others more effectively 他の人の前でより効果的に話すことができる To be able to overcome shyness and worries about stating opinions and communicating in imperfect English 完璧な英語でなくとも、羞恥心に打ち勝ち、自分の意見を英語で伝え議論に参加することができる To be able to productively engage in activities in a cross-cultural environment by collaborating with people from different cultural backgrounds in English 様々な文化的背景を持つ仲間と協働し、生産的に業務に貢献・遂行できる To be able to utilize critical thinking skills (including productively making and responding to counterarguments) and lateral thinking skills in English 英語でクリティカルシンキングやラテラルシンキングスキルを活用できる(健全で建設的な反論およびそれへの対応を含む) To be able to productively engage in academic and professional activities using English in an international setting 国際的な場面で、英語を使い、学問的および専門的な活動に生産的に貢献することができる 以下の 3 点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70 点以上)の必要条件として要求される。 1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。 2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。 3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。			

授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	6/10	13:30-14:15	遠隔授業 (同期型)	Class 1	Half-length session. Introduction to course and introducing each other.	WHITAKER SIMON	Active learning/speaking + Seminar
2-3	6/17	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 2, Class 3	Topic 1. First tutor-led discussion.	WHITAKER SIMON	Active learning/speaking + Seminar
4-5	6/24	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 4, Class 5	Further group discussion around topic 1.	WHITAKER SIMON	Active learning/speaking + Seminar
6-7	7/1	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 6, Class 7	Topic 2. Second tutor-led discussion.	WHITAKER SIMON	Active learning/speaking + Seminar
8-9	7/8	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 8, Class 9	Further group discussion around topic 2.	WHITAKER SIMON	Active learning/speaking + Seminar
10-11	7/15	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 10, Class 11	Topic 3. Third tutor-led discussion.	WHITAKER SIMON	Active learning/speaking + Seminar
12-13	7/22	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 12, Class 13	Further group discussion around topic 3.	WHITAKER SIMON	Active learning/speaking + Seminar
14-15	7/29	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 14, Class 15	Discussion of topics covered + further areas of study/consideration.	WHITAKER SIMON	Active learning/speaking + Seminar
授業方法							
Skills Instruction and Practice							
授業内容							
Class 1: Orientation							
Classes 2-15: Skills Instruction and Continuous Assessment							
Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.							
成績評価の方法							
Participation: 50%, Presentations: 30%. Discussion contributions: 20%							
再評価: 再評価はありません。							
成績評価の基準							
「東京科学大学学修規程第6条」による							
準備学習等についての具体的な指示							
Attendance and participation are both essential.							
試験の受験資格							
「英語Ⅱ」の各科目(1単位)は、45 分×15 コマです。科目ごとに成績がつきます。試験が実施される場合、受験資格があるのは、原則としてその科目に3分の2以上出席した者です。「英語Ⅱ」では再評価は行いません。							

履修上の注意事項

教員がとる出欠を優先します。既に履修済の英語Ⅱ科目と同一名の科目は原則として履修できません。

オフィスアワー

WHITAKER SIMON:水・木曜日 12時30分～13時 管理研究棟 3階 ウィタカー研究室

時間割番号	023640						
科目名	英語Ⅱ: Conversation I(前期)			科目ID			
担当教員	REED JESSE RYAN[REED JESSE RYAN]						
開講時期	2026 年度前期	対象年次	2～4	単位数	1		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	メディア利用科目		
・曜日・時間:水曜 3 講 ・対象:全学科 ・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー): 別表3ー4) 別表4ー5)							
授業の目的、概要等							
English II, "Conversation I" is a course for students who want to improve their spoken English skills. The course focuses on practical conversational abilities, and students will engage in interviews, role-playing, and group discussions on a variety of topics. The course prioritizes vocabulary development, effective public speaking, and the development of confidence in expressing opinions, even in imperfect English. The course aims to create an active and supportive learning environment, emphasizing not only the improvement of English skills but also the use of those skills in real-world situations.							
授業の到達目標							
To be able to engage in extended discussions in English on a range of topics 多様なトピックについて、英語でより長い議論をすることができる							
To be able to comprehend and use new vocabulary 新しい語彙を理解して使用することができる							
To be able to speak in front of others more effectively 他の人の前でより効果的に話すことができる							
To be able to overcome shyness and worries about stating opinions and communicating in imperfect English 完璧な英語でなくとも、羞恥心に打ち勝ち、自分の意見を英語で伝え議論に参加することができる							
以下の 3 点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70 点以上)の必要条件として要求される。							
1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。							
2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。							
3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	4/1	13:30-14:15	遠隔授業 (同期型)	Class 1	Intro to Conversation I	REED JESS E RYAN	Active Learning, Seminar, Zoom
2-3	4/8	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 2, Class 3	Discussion/Presentation Practice	REED JESS E RYAN	Active Learning, Seminar, Zoom

時間割番号	023641						
科目名	英語Ⅱ ConversationⅠ（後期）			科目ID			
担当教員	REED JESSE RYAN[REED JESSE RYAN]						
開講時期	2026 年度後期	対象年次	2～4	単位数	1		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	メディア利用科目		
・曜日・時間:水曜 3 講 ・対象:全学科 ・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー): 別表3－4) 別表4－5)							
授業の目的、概要等							
EnglishⅡ, "ConversationⅠ" is a course for students who want to improve their spoken English skills. The course focuses on practical conversational abilities, and students will engage in interviews, role-playing, and group discussions on a variety of topics. The course prioritizes vocabulary development, effective public speaking, and the development of confidence in expressing opinions, even in imperfect English. The course aims to create an active and supportive learning environment, emphasizing not only the improvement of English skills but also the use of those skills in real-world situations.							
授業の到達目標							
To be able to engage in extended discussions in English on a range of topics 多様なトピックについて、英語でより長い議論をすることができる							
To be able to comprehend and use new vocabulary 新しい語彙を理解して使用することができる							
To be able to speak in front of others more effectively 他の人の前でより効果的に話すことができる							
To be able to overcome shyness and worries about stating opinions and communicating in imperfect English 完璧な英語でなくとも、羞恥心に打ち勝ち、自分の意見を英語で伝え議論に参加することができる							
以下の3点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70点以上)の必要条件として要求される。							
1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。							
2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。							
3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	9/16	13:30-14:15	遠隔授業 (同期型)	Class 1	Intro to ConversationⅠ	REED JESSE RYAN	Active Learning, Seminar, Zoom
2-3	9/30	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 2, Class 3	Discussion/Presentation Practice	REED JESSE RYAN	Active Learning, Seminar, Zoom
4-5	10/7	13:30-15:10	遠隔授業	Class 4, Class 5	Discussion/Presentation Practice	REED JESSE	Active Learning,

時間割番号	023650						
科目名	英語Ⅱ: ConversationⅡ(前期)			科目ID			
担当教員	REED JESSE RYAN[REED JESSE RYAN]						
開講時期	2026 年度前期	対象年次	2～4	単位数	1		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	メディア利用科目		
・曜日・時間:水曜 3 講 ・対象:全学科 ・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー): 別表3ー4) 別表4ー5)							
授業の目的、概要等							
EnglishⅡ“ConversationⅡ”(Improving Conversational Proficiency) is an advanced course designed for students aiming to refine their spoken English skills. Students will actively engage in extensive discussions, interviews, and group discussion tasks, fostering a higher level of language proficiency, cultural adaptability, and effective communication. The course places a strong emphasis on vocabulary expansion, advanced public speaking techniques, and the continued cultivation of confidence in expressing opinions, even within the complexities of the English language. Evaluation methods include individual interviews, group discussions, and reflective homework assignments. The objective is to create a stimulating and encouraging learning environment, helping students to not only excel in language proficiency but also to develop the application of advanced English skills in diverse real-world contexts.							
授業の到達目標							
To be able to engage in extended discussions in English on a range of topics 多様なトピックについて、英語でより長い議論をすることができる							
To be able to comprehend and use new vocabulary 新しい語彙を理解して使用することができる							
To be able to speak in front of others more effectively 他の人の前でより効果的に話すことができる							
To be able to overcome shyness and worries about stating opinions and communicating in imperfect English 完璧な英語でなくとも、羞恥心に打ち勝ち、自分の意見を英語で伝え議論に参加することができる							
以下の3点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70点以上)の必要条件として要求される。							
1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。 2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。 3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	6/10	13:30-14:15	遠隔授業 (同期型)	Class 1	Intro to ConversationⅡ	REED JESSE RYAN	Active Learning, Seminar, Zoom
2-3	6/17	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 2, Class 3	Discussion/Presentation Practice	REED JESSE RYAN	Active Learning, Seminar,

							Zoom
4-5	6/24	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 4, Class 5	Discussion/Presentation Practice	REED JESS E RYAN	Active Learning, Seminar, Zoom
6-7	7/1	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 6, Class 7	Discussion/Presentation Practice	REED JESS E RYAN	Active Learning, Seminar, Zoom
8-9	7/8	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 8, Class 9	Discussion/Presentation Practice	REED JESS E RYAN	Active Learning, Seminar, Zoom
10-11	7/15	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 10, Class 11	Discussion/Presentation Practice	REED JESS E RYAN	Active Learning, Seminar, Zoom
12-13	7/22	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 12, Class 13	Discussion/Presentation Practice	REED JESS E RYAN	Active Learning, Seminar, Zoom
14-15	7/29	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 14, Class 15	Discussion Test	REED JESS E RYAN	Active Learning, Seminar, Zoom
授業方法							
Skills Instruction and Practice							
授業内容							
Class 1: Orientation							
Classes 2-13: Skills Instruction and Continuous Assessment							
Classes 14 and 15: Review and/or Final Assessment							
Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.							
成績評価の方法							
Conversation II 評価: Attendance & Participation: 40% Homework: 10% English Interview: 25% Discussion Test: 25%							
再評価: 再評価はありません。							
成績評価の基準							
「東京科学大学学修規程第6条」による							
準備学習等についての具体的な指示							
Attendance and participation are both essential.							
試験の受験資格							
「英語Ⅱ」の各科目(1単位)は、45分×15コマです。科目ごとに成績がつきます。試験が実施される場合、受験資格があるのは、原則としてその科目に3分の2以上出席した者です。「英語Ⅱ」では再評価は行いません。							
履修上の注意事項							
教員がとる出欠を優先します。既に履修済みの英語Ⅱ科目と同一名の科目は原則として履修できません。							
オフィスアワー							
猪熊 恵子・水・木曜日 12時30分～13時 管理研究棟 3階 猪熊研究室							

時間割番号	023d31						
科目名	英語Ⅱ (D)ConversationⅡ (後期)			科目ID			
担当教員	野口 大斗[NOGUCHI Hiroto]						
開講時期	2026 年度後期	対象年次	3				
実務経験のある教員による授業				授業形態	メディア利用科目		
・曜日・時間:火曜 3 講 ・対象:全学科 ・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー): 別表3ー4) 別表4ー5)							
授業の目的、概要等							
EnglishⅡ“ConversationⅡ”(Improving Conversational Proficiency) is an advanced course designed for students aiming to refine their spoken English skills. Students will actively engage in extensive discussions, interviews, and group discussion tasks, fostering a higher level of language proficiency, cultural adaptability, and effective communication. The course places a strong emphasis on vocabulary expansion, advanced public speaking techniques, and the continued cultivation of confidence in expressing opinions, even within the complexities of the English language. Evaluation methods include individual interviews, group discussions, and reflective homework assignments. The objective is to create a stimulating and encouraging learning environment, helping students to not only excel in language proficiency but also to develop the application of advanced English skills in diverse real-world contexts.							
授業の到達目標							
To be able to engage in extended discussions in English on a range of topics							
多様なトピックについて、英語でより長い議論をすることができる							
To be able to comprehend and use new vocabulary							
新しい語彙を理解して使用することができる							
To be able to speak in front of others more effectively							
他の人の前でより効果的に話すことができる							
To be able to overcome shyness and worries about stating opinions and communicating in imperfect English							
完璧な英語でなくとも、羞恥心に打ち勝ち、自分の意見を英語で伝え議論に参加することができる							
以下の3点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70点以上)の必要条件として要求される。							
1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。							
2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。							
3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	11/24	13:30-14:15	遠隔授業 (同期型)	Class 1	Intro to ConversationⅡ	野口 大斗	Active Learning, Seminar, Zoom
2-3	12/1	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 2, Class 3	Discussion/Presentation Practice	野口 大斗	Active Learning, Seminar,

							Zoom
4-5	12/8	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 4, Class 5	Discussion/Presentation Practice	野口 大斗	Active Learning, Seminar, Zoom
6-7	12/15	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 6, Class 7	Discussion/Presentation Practice	野口 大斗	Active Learning, Seminar, Zoom
8-9	12/22	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 8, Class 9	Discussion/Presentation Practice	野口 大斗	Active Learning, Seminar, Zoom
10-11	1/5	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 10, Class 11	Discussion/Presentation Practice	野口 大斗	Active Learning, Seminar, Zoom
12-13	1/12	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 12, Class 13	Discussion/Presentation Practice	野口 大斗	Active Learning, Seminar, Zoom
14-15	1/19	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 14, Class 15	Discussion Test	野口 大斗	Active Learning, Seminar, Zoom

授業方法
Skills Instruction and Practice

授業内容
Class 1: Orientation
Classes 2-13: Skills Instruction and Continuous Assessment
Classes 14 and 15: Review and/or Final Assessment

Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.

成績評価の方法
Conversation II 評価: Attendance & Participation: 40% Assignments: 20% Speaking Test I: 20% Speaking Test II: 20%

再評価: 再評価はありません。

成績評価の基準
「東京科学大学学修規程第6条」による

準備学習等についての具体的な指示
Attendance and participation are both essential.

試験の受験資格
「英語Ⅱ」の各科目(1単位)は、45分×15コマです。科目ごとに成績がつきます。試験が実施される場合、受験資格があるのは、原則としてその科目に3分の2以上出席した者です。「英語Ⅱ」では再評価は行いません。

履修上の注意事項
教員がとる出欠を優先します。既に履修済みの英語Ⅱ科目と同一名の科目は原則として履修できません。

オフィスアワー
猪熊 恵子・水・木曜日 12時30分～13時 管理研究棟 3階 猪熊研究室

時間割番号	023660					
科目名	International Course for Clinical Dentistry (ICCD) L1-L3 On-demand			科目ID		
担当教員	高市 敦士, JANELLE RENEE MOROSS, 關 奈央子, 金森 ゆうな, 駒ヶ嶺 友梨子, 水谷 幸嗣[TAKAICHI Atsushi, JANELLE RENEE MOROSS, SEKI Naoko, KANAMORI Yuna, KOMAGAMINE Yuriko, MIZUTANI Koji]					
開講時期	2025 年度3年通年	対象年次	2～4	単位数	1	
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	メディア利用科目	
主な講義場所 オンデマンド教材						
授業の目的、概要等 歯学部国際歯科臨床教育コース(International Course for Clinical Dentistry, ICCD)オンデマンドは歯学分野における語彙力向上や文章理解力と臨床の専門的な知識を習得するために、学部学生の臨床的な知識を高めることを目的としています。						
授業の到達目標 学生が全てのレベル(L1-3)を修了したとき、 1. 英語の理解能力を向上 2. 歯学分野の英語の語彙力を向上 することができる。 コース修了時、 英語で臨床歯学を学修することを期待できます。						
授業計画						
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員
1	9/19	08:50-09:35	オンデマ ンド	L1 1. オンデマンド学 習 配信期間 9/19(金) (9:00)- 26(金)(23:59)	・歯科英単語学習 ・リーディ ング教材	關 奈央子, J ANELLE RE NEE MORO SS, 駒ヶ嶺 友梨子, 金森 ゆうな
2	9/25	08:50-09:35	オンデマ ンド	L1 2. 学習確認テスト 配信期間 9/25(木) (9:00)-26(金)(23:59)	・学習確認テスト	關 奈央子, J ANELLE RE NEE MORO SS, 駒ヶ嶺 友梨子, 金森 ゆうな
3	10/10	08:50-09:35	オンデマ ンド	L1 3. 復習教材提供 配信期間 10/10(金) (9:00)- 17(金)(23:59)	・歯科英単語学習 ・リーディング 教材	關 奈央子, J ANELLE RE NEE MORO SS, 駒ヶ嶺 友梨子, 金森 ゆうな
4	10/16	08:50-09:35	オンデマ ンド	L1 4. 学習確認テスト 配信期間 10/16(木) (9:00)-17(金)(23:59)	・学習確認テスト	關 奈央子, J ANELLE RE NEE MORO SS, 駒ヶ嶺 友梨子, 金森 ゆうな
5	10/9	08:50-09:35	オンデマ ンド	L2 1. オンデマンド学 習 配信期間 10/9(金) (9:00)- 16(金)(23:59)	・歯科英単語学習 ・リーディング 教材	關 奈央子, J ANELLE RE NEE MORO SS, 水谷 幸

						嗣 金森 ゆう な
6	10/15	08:50-09:35	オンデマ ンド	L2 2. 学習確認テスト 配信期間 10/15(木) (9:00)~16(金)(23:59)	・学習確認テスト	関 奈央子, J ANELLE RE NEE MORO SS, 水谷 幸 嗣 金森 ゆう な
7	10/19	08:50-09:35	オンデマ ンド	L2 3. オンデマンド学 習 配信期間 10/19(月) (9:00)~ 23(金)(23:59)	・医療面接 ・インフォームドコンセ ント教材	関 奈央子, J ANELLE RE NEE MORO SS, 水谷 幸 嗣 金森 ゆう な
8	10/22	08:50-09:35	オンデマ ンド	L2 4. 学習確認テスト 配信期間 10/22(木) (9:00)~23(金)(23:59)	・学習確認テスト	関 奈央子, J ANELLE RE NEE MORO SS, 水谷 幸 嗣 金森 ゆう な

授業方法
L1 では高齢者歯科学、L2 では歯周病学、L3 では保存修復学と矯正歯科学に関する歯科英単語と知識について
自習や課題を行います。

成績評価の方法
オンデマンド教材履修状況により評価されます。履修期間内に全ての教材学習を行ってください。

準備学習等についての具体的な指示
課題に取り組む前に、記事／論文を読み、語彙を学んでください。

試験の受験資格
1. WebClass コースに配信される課題
WebClass の指定のコースにオンデマンドの課題が提供される。全ての当該課題を定められた期間内に履修し一定のスコアを記録すること。
と。

履修上の注意事項
1. このコースを選択する学生は、必要な WebClass のオンデマンド課題を全て修了すること。 2. ICCD はレベル 1 から 3 で構成されており、レベル 1 への履修登録をもってレベル 2(OH/OE3)レベル 3(OH/OE4)でもコースを受講することになります。 3. ICCD は全てのレベル(レベル 1-3)を履修したのちに単位が付与されます。

参照ホームページ
参考) <https://www.tmd.ac.jp/international/events/iccd/>

オフィスアワー 高市 敦士 随時(メールにて面談の日程を調整すること)
2 号館 2 階 口腔デジタルプロセス学分野 教授室
関 奈央子: 毎週月曜日 15:00 - 16:00 M&D タワー 7 階 教員室
水谷 幸嗣 D 棟 11 階 総合診療歯科学分野研究室
JANELLE RENEE MOROSS: ご予約をご希望の場合は、双方の都合のよい時間をご相談するためにメールをお送りください。

時間割番号	023670				
科目名	International Course for Clinical Dentistry (ICCD) L1-L3 On-line			科目 ID	
担当教員	高市 敦士, JANELLE RENEE MOROSS, 關 奈央子, 金森 ゆうな, 金澤 学, 駒田 亘, 駒ヶ嶺 友梨子, 水谷 幸嗣, 畑山 貴志, 保坂 啓一, Richard Foxton, 米満 郁男, 前川 祥吾, 永田 瑞, 矢野 孝星[TAKAICHI Atsushi, JANELLE RENEE MOROSS, SEKI Naoko, KANAMORI Yuna, KANAZAWA Manabu, KOMADA Wataru, KOMAGAMINE Yuriko, MIZUTANI Koji, HATAYAMA Takashi, HOSAKA Keiichi, Richard Foxton, YONEMITSU Ikuo, MAEKAWA Shogo, NAGATA Mizuki, YANO Kosei]				
開講時期	2025 年度3年通年	対象年次	2～4	単位数	1
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	メディア利用科目

主な講義場所

オンラインセッション(入室のための ID とパスワードは WebClass に掲示)

授業の目的、概要等

歯学部国際歯科臨床教育コース(International Course for Clinical Dentistry, ICCD)オンラインは学部学生の臨床的な知識、文化的コンピテンシー、そしてコミュニケーションと論理的な問題解決の基本的な能力を高めることを目的としています。

ICCD は学生に国際的なネットワーキングに参加できるようにし、歯学分野における語彙と英語でのコミュニケーション能力を向上させ、さらに、歯学に関連した様々なアクティビティを通して臨床の専門的な知識を習得することを可能にします。

ディスカッションや、問題解決のためにチームで仕事をしたり、論理的な議論を作り上げたりする機会を提供し、チームビルディングや批判的吟味、批判的思考能力、そして学際的な臨床の治療計画の基本を強化します。

授業の到達目標

学生が全てのレベル(L1-3)を修了したとき、

1. 英語の理解能力を向上
2. 歯学分野の英語の語彙力を向上
3. 仲間や教員と歯学分野のトピックについてディスカッション
4. 文化的規範について学び、互いの文化について理解することができる。

コース修了時、

1. 文化的コンピテンシーの向上
2. ネットワーキング能力の向上
3. 問題解決能力の向上
4. 英語で臨床歯学を学修すること
5. コミュニケーション上の課題に対処するためのレジリエンス／柔軟性の獲得
6. 情報を批判的かつ客観的に吟味する能力の向上
7. より明確な推論能力と論理的な説明を行う能力の獲得

を期待できます。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員
1	9/10	17:00-17:50	遠隔授業 (同期型)	L1 1. イントロ Zoom ID は後日配布	・コースイントロダクション(日本語) ・本コースをプロデュースする臨床系教員との対談(日本語) ※前後で 9/10 プレゼンの打ち合わせがあります。	金澤 学, 關 奈央子, 駒田 亘, 駒ヶ嶺 友梨子, 水谷 幸嗣, 畑山 貴志, 保坂 啓一
2	9/10	17:00-17:50	遠隔授業 (非同期型)	L1 2. プレゼン準備	・プレゼンテーション準備 ※ WebClass「歯学部国際歯科臨床教育コース L1 2025」の掲示板を適宜使用してください。	金森 ゆうな
3	9/24	18:30-20:30	遠隔授業	L1 3. 国際交流	・自己紹介 ・プレゼンテーション	關 奈央子, J

			(同期型)	Zoom ID は後日配布	(国や文化、大学の紹介) ・コミュニケーションアクティビティ	ANELLE RE NEE MORO SS、金森 ゆうな
4-5	10/8	18:30-20:50	遠隔授業 (同期型)	L1 4. 国際交流 Zoom ID は後日配布	・講義 ・ディスカッションとプレゼンテーション(「高齢化に付随した問題点と解決策」) ・フィードバック(20:35-20:50)	関 奈央子, J ANELLE RE NEE MORO SS、駒ヶ嶺 友梨子
6	10/23	08:50-09:35	遠隔授業 (非同期型)	L2 1. 事前学習 各自で実施	・LMSを参照し事前学習・準備をして今後のオンライン授業に臨むこと	関 奈央子, J ANELLE RE NEE MORO SS、金森 ゆうな
7	10/28	17:15-18:00	遠隔授業 (同期型)	L2 2. ライブ講義 Zoom ID は後日配布 授業時間:17:15-18:00	・インタラクティブ講義(英語で医療面接) 健康調査票等医療面接に関する資料は開催1週間前の9:00から配信(LMSにアップロード)	関 奈央子, J ANELLE RE NEE MORO SS
8	11/4	18:10-18:55	遠隔授業 (同期型)	L2 3. ライブ講義 Zoom ID は後日配布 授業時間:18:10-18:55	・講義「インフォームドコンセント」 ・ディスカッション ・プレゼンテーション	金森 ゆうな, Richard Foxton
9	11/6	08:50-09:35	遠隔授業 (非同期型)	L2 4. 事前学習 各自で実施	・LMSを参照し事前学習・準備をして次週のオンライン授業に臨むこと	関 奈央子, J ANELLE RE NEE MORO SS、金森 ゆうな
10	11/11	18:10-18:55	遠隔授業 (同期型)	L2 5. 国際交流セッション Zoom ID は後日配布 授業時間:18:10-20:45	・講義 ・ディスカッションとプレゼンテーション(「歯周病と全身疾患」) ・フィードバック(20:10-20:45) ・ライティング提出	関 奈央子, 水谷 幸嗣, J ANELLE RE NEE MORO SS、Richard Foxton

成績評価の方法

授業への参加、授業でのプレゼンテーションと論理的なスピーキングが考慮されます。

準備学習等についての具体的な指示

コース開始前に WebClass にて提示する予定表により、各回で取り上げるテーマを再確認し、事前に当該テーマについて十分に予習した上で、授業に参加してください。

試験の受験資格

オンラインセッションへの出席と参加

定刻までにオンラインセッションに入室し、クラスでのディスカッションやアクティビティに参加する準備をしてくること。

各日、予定されているオンラインセッション時間の 2/3 以上の出席をもって出席とみなす。

履修上の注意事項

1. このコースを選択する学生は、全てのオンラインセッションに出席し、プレゼンテーションを準備し、そして授業でのディスカッションとプレゼンテーションに参加すること。 2. ICCD はレベル 1 から 3 で構成されており、レベル 1 への履修登録をもってレベル 2(OH/OE3)レベル 3(OH/OE4)でもコースを受講することになります。 3. ICCD は全てのレベル(レベル 1-3)を履修したのちに単位が付与されます。 4. ICCD オンデマンドの履修も推奨される。 5. 履修においては TOEFL iBT61 (ITP500)程度の英語力が推奨される。

備考

オンライン授業においては AL(ペア/グループディスカッション、ケース演習など)を行う。

参照ホームページ

参考) <https://www.tmd.ac.jp/international/events/iccd/>

オフィスアワー

高市 敦士:随時(メールにて面談の日程を調整すること)

2号館2階 口腔デジタルプロセス学分野 教授室

前川 祥吾:毎週月、火、木、金曜日 PM.17:00-18:00 10号棟7階第3研究室

永田 瑞:10号館7階 歯周病学分野医局 随時

駒田 亘:随時

金澤 学:火-金, 16:00- 18:00

1号館3階 高齢者歯科学分野学分野 Lab9

關 奈央子:毎週月曜日 15:00 - 16:00 M&D タワー7階 教員室

水谷 幸嗣:D 棟 11 階 総合診療歯科学分野研究室

JANELLE RENEE MOROSS:ご予約をご希望の場合は、双方の都合のよい時間をご相談するためにメールをお送りください。

時間割番号	023506						
科目名	コミュニケーション学			科目ID	DE330600L		
担当教員	塩沢 真穂[SHIOZAWA Maho]						
開講時期	2026 年度前期	対象年次	3	単位数	1		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	メディア利用科目		
主な講義場所 遠隔授業(同期型) 2号館第3講義室							
授業の目的、概要等 他者の意見を整理し、自分の意見を相手に伝達するための基本的知識、技能および態度を学び、社会人に必要なコミュニケーション能力を習得する。							
授業の到達目標 1. コミュニケーションの定義と種類について説明できる。 2. 社会人に必要なコミュニケーション能力について説明できる。 3. 物事をわかりやすく説明できる。 4. 自分の意見を的確に伝達できる。 5. 適切な敬語を使用できる。 6. 相手に配慮したメールでの依頼ができる。 7. 文章をわかりやすく書くことができる。 8. 卒業後の進路について説明できる。 9. 就職活動の進め方について説明できる。 10. 将来の展望について発表できる。 11. 自己分析方法と結果を解釈できる。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-3	4/8	13:30-16:10	第3講義室	社会人に必要なコミュニケーション能力、説明の方法、口頭表現の基礎	社会人に必要なコミュニケーション能力、わかりやすい説明、印象のよい話し方、効果的な自己PR(演習)	塩沢 真穂	到達目標:1-4 授業中に課題を行うのでノートと筆記用具を準備してください。 授業後、isct LMSに課題を提出すること。
4-5	4/15	14:25-16:10	遠隔授業(同期型)	敬語、メールでの依頼	敬語の基礎、相手に配慮したメールでの依頼(演習)	塩沢 真穂	到達目標:5 授業後、isct LMSに課題を提出すること。
6-8	4/22	13:30-16:10	遠隔授業(同期型)	レポート・論文の書き方の基本	論理的な文章、わかりやすい文の書き方、パラグラフ・ライティング(演習)	塩沢 真穂	到達目標:6 授業後、isct LMSに課題を提出すること。
9-10	5/20	14:25-16:10	遠隔授業(同期型)	就活活動の実際	在学中の就職活動の実際、就職後に学ぶ接遇とマナー、社会人に求められる能力やスキルについて	塩沢 真穂 細谷 瑛理子	到達目標:9 授業後、isct LMSに課題を提出すること。
11-12	5/27	14:25-16:10	遠隔授業	卒業後のキャリア形成	在学中の就職活動の実際、就職	塩沢 真穂	到達目標:9

			(同期型)		後に学ぶ接遇とマナー、社会人に求められる能力やスキルについて		授業後、isct LMS に課題を提出すること。
13-15	6/3	13:30-16:10	第3講義室	就職活動の現状 将来の展望(課題学習発表)	自己分析結果の検討 自分の将来展望について(課題学習発表)	塩沢 真穂 樋口 和秀	到達目標:10,11 事前に自己分析を web で受験すること。事前に発表スライドを準備し、発表後に isct LMS に提出すること。

授業方法

講義、演習、課題発表

遠隔授業(同期型)、対面授業のほかに演習、課題発表が含まれます。

課題の提出を isct LMS にて行うこと。

遠隔授業(同期型)で質問を受ける方法は、授業時間中のチャットや発言、または授業担当者にメールで質問してください。授業担当者より授業時間中に回答もしくはメールで回答します。

成績評価の方法

評価は提出レポート、課題学習発表、期末試験(筆記試験:60 分)によって行う。

- ・期末試験は試験期間中に行う。
- ・配点はレポート(20 点)、課題学習発表(10 点)、期末試験(70 点)とする。
- ・期末試験の得点率が 6 割未満の場合は再試験を行う。
- ・出席状況と授業態度を加味する。

成績評価の基準

- ・期末試験の点数が 60 点以上のものを合格とする。
- ・配点は、期末試験 70 点、レポート 20 点、課題発表 10 点とし、合計 100 点満点で換算する。
- ・出席状況、授業態度を加味して総合的に評価し、この科目の評価とする。

準備学習等についての具体的な指示

昨年度より演習部分を増やし、内容を改善している。

事前に資料の配付、isct LMS へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

試験の受験資格

定期試験、追・再試験を受験する資格は以下のすべてとする。

- ・2/3 以上の出席を基本とする。
- ・遠隔授業(同期型)および対面授業に出席し、レポートや演習発表資料などの課題を提示された期限までに提出すること。
- ・特別に勘案すべき事情があるために指示が達成できない場合や授業に参加できない場合には、その事情とともに締め切り前および授業開始前までに科目責任者にメールで連絡すること。これらの十分な対応が行われたと判断された場合には事情などに応じてレポート等での対応を行うこととする。

参考書

大学生のための日本語表現トレーニング スキルアップ編／橋本修、安部朋世、福岡健伸 編著、橋本、修、安部、朋世、1968-、福岡、健伸、三省堂、2008

大学生のための日本語表現トレーニング 実践編／福岡健伸、橋本修、安部朋世 編著、福岡、健伸、橋本、修、安部、朋世、1968-、三省堂、2009

備考

演習、グループディスカッション、課題学習発表が含まれます。

昨年度授業終了時アンケート結果より、演習部分を少し増やし、実際に体験することで知識の向上をはかれるよう、内容を改善している。

担当教員のオフィシアワー

塩沢 真穂 メールにて日時を相談 m.shiozawa.abm@tmd.ac.jp

オフィシアワー

時間割番号	023508A						
科目名	グローバル口腔保健工学実習			科目ID	DE230800Z		
担当教員	青木 和広, JANELLE RENEE MOROSS, 土田 優美, 高市 敦士, 關 奈央子, 金森 ゆうな, SATOH HEATHER J., WAER ESTHER KASSANDR, MARIA GIANINA MAYO, 大木 明子, 池田 正臣, 佐藤 隆明, 金澤 学, 岩城 麻衣子[AOKI Kazuhiro, JANELLE RENEE MOROSS, TSUCHIDA Yumi, TAKAICHI Atsushi, SEKI Naoko, KANAMORI Yuna, SATOH HEATHER J, WAER ESTHER KASSANDR, MARIA GIANINA MAYO, OKI Meiko, IKEDA Masaomi, SATO Takaaki, KANAZAWA Manabu, IWAKI Maiko]						
開講時期	2026 年度通年	対象年次	3	単位数	1		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面		
時間数:45 時間							
授業形態:LMS での自主学習に続いて、歯科関連のトピックに関するグループディスカッションと海外経験のためのプレゼンテーション練習を実施します。							
* 海外特別研修は本授業の 14 時間分として認定する。							
主な講義場所							
第2, 3講義室およびリフレッシュルーム(遠隔授業_同期ライブ)学生は大学で3つの部屋に分かれます。							
第1講義室(リハーサル・報告会)							
オンデマンド自主学習 (LMS)							
台北医学大学							
台湾の技工所							
授業の目的、概要等							
海外における歯科技工の現状を知り、自身の将来設計を具体化させるとともに、海外の口腔保健工学に携わる学生と交流できるようにコミュニケーション力を育てる。国際社会における多様な考え方を理解し、広い視野を持ったグローバルな人材となるために必要な能力を習得する。							
授業の到達目標							
1. 日本の文化を英語で説明する。							
2. 日本の歯科医療の歴史、現況、将来展望について英語で説明する。							
3. 海外の歯科医療と日本の歯科医療の違いを英語で説明する。							
4. 東京科学大学について英語で説明する。							
5. 日本の文化、歯科医療、東京科学大学についてのプレゼンテーションを英語で作成する。							
6. グループワークを通じて協力しながらひとつのものを作り出す過程に必要な寛容性を身につける。							
7. 文化・習慣の違いによるコミュニケーションのあり方について理解し実践する。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	4/13	08:50-10:30	オンデマンド	歯学英语に関連したオンデマンド授業	LMS の歯学英语に関連したオンデマンド教材の実施	JANELLE RENEE MOROSS, 關 奈央子, 金森 ゆうな	LMS 参照
3-4	4/20	08:50-10:30	第2講義室 第3講義室 2号館リフレッシュルーム	歯学英会話、グループプレゼンテーション準備	歯学に関連した英会話の実践、グループプレゼンテーションの準備・練習	關 奈央子, JANELLE RENEE MOROSS, 金森 ゆうな, SATOH HEATHER	

			ム、遠隔 授業(同 期型)			J. , MARIA GIANINA MA YO, WAER ESTHER KA SSANDR	
5-6	4/27	08:50-10:30	オンデマ ンド	歯学英语に関連したオ ンデマンド授業	LMS の歯学英语に関連したオン デマンド教材の実施	JANELLE R ENEE MOR OSS, 関 奈 央子, 金森 ゆうな	LMS 参照
7-8	5/11	08:50-10:30	第2講義 室 第3 講義室 2号館リ フレッシュ ユル ム、遠隔 授業(同 期型)	歯学英会話、グループ プレゼンテーション準備	歯学に関連した英会話の実践、グ ループプレゼンテーションの準 備・練習	金森 ゆうな、 関 奈央子, J ANELLE RE NEE MORO SS, SATOH HEATHER J. , MARIA GIANINA MA YO, WAER ESTHER KA SSANDR	
9-10	5/18	08:50-10:30	オンデマ ンド	歯学英语に関連したオ ンデマンド授業	LMS の歯学英语に関連したオン デマンド教材の実施	JANELLE R ENEE MOR OSS, 関 奈 央子, 金森 ゆうな	LMS 参照
11-12	6/1	08:50-10:30	第2講義 室 第3 講義室 2号館リ フレッシュ ユル ム、遠隔 授業(同 期型)	歯学英会話、グループ プレゼンテーション準備	歯学に関連した英会話の実践、グ ループプレゼンテーションの準 備・練習	金森 ゆうな、 関 奈央子, J ANELLE RE NEE MORO SS, WAER ESTHER KA SSANDR, M ARIA GIANIN A MAYO, S ATOH HEAT HER J.	
13-14	6/15	08:50-10:30	オンデマ ンド	歯学英语に関連したオ ンデマンド授業	LMS の歯学英语に関連したオン デマンド教材の実施	JANELLE R ENEE MOR OSS, 関 奈 央子, 金森 ゆうな	LMS 参照
15-16	6/29	08:50-10:30	第2講義 室 第3 講義室 2号館リ フレッシュ ユル ム、遠隔 授業(同 期型)	歯学英会話、グループ プレゼンテーション準備	歯学に関連した英会話の実践、グ ループプレゼンテーションの準 備・練習	金森 ゆうな、 関 奈央子, J ANELLE RE NEE MORO SS, SATOH HEATHER J. , MARIA GIANINA MA	

			期型)			YO, WAER ESTHER KA SSANDR	
17-18	7/6	08:50-10:30	第2講義 室 第3 講義室 2号館リ フレッシュ ユル ム, 遠隔 授業(同 期型)	グループ別レッスン(プ レゼンテーション):日 本、歯科工学、東京科学 大学について		青木 和広, 關 奈央子, J ANELLE RE NEE MORO SS, 金森 ゆ うな, SATOH HEATHER J. , MARIA GIANINA MA YO, WAER ESTHER KA SSANDR	
19-20	7/13	08:50-10:30	第2講義 室 第3 講義室 2号館リ フレッシュ ユル ム, 遠隔 授業(同 期型)	グループ別レッスン(プ レゼンテーション):日 本、歯科工学、東京科学 大学について		關 奈央子, J ANELLE RE NEE MORO SS, 金森 ゆ うな, MARIA GIANINA MA YO, WAER ESTHER KA SSANDR	
21-22	7/27	08:50-10:30	第1講義 室	発表リハーサル(対面)		關 奈央子, 高市 敦士, J ANELLE RE NEE MORO SS, 金森 ゆ うな, 土田 優 美, 青木 和 広	
23-24	9/24	13:30-15:10	第1講義 室	発表リハーサル(対面)		青木 和広, 高市 敦士, J ANELLE RE NEE MORO SS, 金森 ゆ うな, 土田 優 美	
25-26	9/25	13:30-15:10	第1講義 室	発表リハーサル(対面)		高市 敦士, J ANELLE RE NEE MORO SS, 金森 ゆ うな, 土田 優 美, 青木 和 広	
27-28	10/2	13:30-15:10	第1講義 室	発表リハーサル(対面)		青木 和広, 高市 敦士, 土田 優美	
29	10/5	14:25-15:10	その他	海外研修1日目		青木 和広	

						高市 敦土 土田 優美	
30-34	10/6	09:45-15:10	その他	海外研修2日目		青木 和広 高市 敦土 土田 優美	
35-39	10/7	09:45-15:10	その他	海外研修3日目		青木 和広 高市 敦土 土田 優美	
40-41	10/8	09:45-11:30	その他	海外研修4日目		青木 和広 高市 敦土 土田 優美	
42	10/9	10:45-11:30	その他	海外研修5日目		青木 和広 高市 敦土 土田 優美	
43-45	10/26	09:45-12:25	第1講義 室	報告会		青木 和広 J ANELLE RE NEE MORO SS	OE2 年生と合同

授業方法

遠隔授業(オンデマンド・ライブ)、講義、課題発表、演習、実習

成績評価の方法

成績評価の方法

・レポート(50 点)および報告会プレゼンテーション(20 点)、英語での発表(20 点)に、出席状況、毎回の課題への取り組み、授業態度を加味し、総合的に評価を行う。

・海外特別研修は本授業の 16 時間分として認定する。

成績評価の基準

・レポート(50 点)、英語での発表(20 点)、および報告会プレゼンテーション(20 点)に、出席状況、毎回の課題への取り組み、授業態度を加味し、総合的に評価を行う。

・総合の点数が 60%未満の場合は課題を再提出とする。

・遠隔授業(同期型)、リハーサル、および報告会に出席し、演習発表資料、レポートなどの課題を提示された期限までに提出すること。

・授業に対する積極性を評価するが、レポートや報告会での内容に自ら考えた内容があると思われる場合、A+評価となる。

準備学習等についての具体的な指示

前期の最後に出される課題について、各自調べて英文で資料を準備しておくこと。

事前に資料の配付、LMS へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

試験の受験資格

・3/4 以上の出席を海外特別研修への参加条件とするが、海外研修だけでなく、リハーサルと報告会は出席すること。

・遠隔授業(同期型)、対面の発表リハーサルおよび、報告会に出席し、発表資料などの課題を提示された期限までに提出すること。

・特別に勘案すべき事情があるために指示が達成できない場合や授業に参加できない場合には、その事情とともに締め切り前および授業開始前までに科目責任者にメールで連絡すること。これらの十分な対応が行われたと判断された場合には事情などに応じてレポート等での対応を行うこととする。

備考

アクティブラーニングは対面実習、演習によりおこなう。

昨年度授業終了時アンケート結果より、実習内容を再検討し、昨年度より内容を改善している。

担当教員のオフィスアワーおよび連絡先

毎週月曜日 17 時～18 時

これ以外は

メールにて面談の日程を調整すること

青木和広 kazuhiro_aoki.bhoe@tmd.ac.jp

それぞれの担当教員への質問は LMS 科目の掲示板を使うこと。

同期授業は、インストラクターの指示に従いコミュニケーション能力を磨くこと。

対面授業では、AL(グループディスカッション)を行う。

参照ホームページ

LMS のコースを参照すること

オフィスアワー

青木 和広:毎週月曜日 16 時から 18 時 2 号館 2 階 216 号室(口腔基礎工学分野)

オフィスにいない場合もあるので、あらかじめメールで問い合わせすることを推奨。

大木 明子:メールにて面談の日程を調整すること。2 号館 2 階准教授室

關 奈央子:毎週月曜日 15:00 - 16:00 M&D タワー7階 教員室

JANELLE RENEE MOROSS:ご予約をご希望の場合は、双方の都合のよい時間をご相談するためにメールをお送りください。

高市 敦士:随時(メールにて面談の日程を調整すること)

2 号館 2 階 口腔デジタルプロセス学分野 教授室

時間割番号	023511A						
科目名	口腔保健工学管理学				科目ID	DE351100L	
担当教員	池田 正臣, 品田 佳世子[KEDA Masaomi, SHINADA KAYOKO]						
開講時期	2026 年度前期	対象年次	3		単位数	1	
実務経験のある教員による授業	該当する				授業形態	対面	
時間数:15 時間 授業形態:講義							
主な講義場所							
遠隔授業(同期型) 一部 Zoom 演習は第1 実習室							
就職支援セミナーは1号館口腔保健学科第3 講義室、基礎科学実習室							
授業の目的、概要等							
歯科医療および歯科技工の作業環境が健康に及ぼす影響とその改善に必要な5S および安全対策について学ぶ。また、歯科技工所開設に必要な構造設備基準と経営方針について理解する。さらに、SDGs の歴史と目的について理解する。							
授業の到達目標							
1. 自然・社会環境と廃棄物処理について説明できる。							
2. 粉じんと有害物質について説明できる。							
3. 歯科技工所の設備構造と作業環境の改善方法について説明できる。							
4. チェアサイド、ラボサイドの作業環境について説明できる。							
5. 作業環境が健康に及ぼす影響を説明できる。							
6. 歯科技工所の経営について説明できる。							
7. 安全対策について説明できる。							
8. 労働安全衛生法について説明できる。							
9. 5S について説明でき、実施できる							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	5/27	10:45-12:25	遠隔授業 (同期型)	環境と健康 ラボサイドでの作業環境、歯科の粉じんと有害物質について	自然・社会環境と廃棄物処理 歯科技工材料の取り扱いと保管方法、歯科の粉じんと有害物質、歯科技工所の作業環境と改善方法と設備構造基準課題	池田 正臣	到達目標 1-5
3-4	6/10	10:45-12:25	遠隔授業 (同期型)	歯科技工所の作業環境と改善方法について 設備構造基準 安全対策の計画課題	歯科技工所の作業環境と改善方法と設備構造基準 (グループワーク) 安全対策の計画課題	池田 正臣	到達目標 1-5
5-6	6/17	10:45-12:25	遠隔授業 (同期型)	チェアサイドとラボサイドでの作業環境と連携 歯科技工所起業と経営 スマイルエクスチェンジ	チェアサイドとラボサイドの作業環境と連携 歯科技工所起業と経営の実際 スマイルエクスチェンジ	池田 正臣	到達目標 1-5 高橋健先生 11:00-12:00 アンケート質疑応答
7-8	6/24	10:45-12:25	第3講義室 第1 実習室	SDGsの歴史と現在 チェアサイドとラボサイドでの作業環境と連携 歯科技工所起業と経営	SDGsの歴史と現在の SDGs チェアサイドとラボサイドの作業環境と連携 歯科技工所起業と経営の実際	池田 正臣	到達目標 1-9
9-10	7/8	10:45-12:25	第3講義室	作業環境が健康に及ぼす影響、作業環境の測定 安全対策について	作業環境が健康に及ぼす影響と作業管理と作業環境管理 労働安全衛生法 次世代育成支援対策推進法 働き方改革	池田 正臣	到達目標 1-9
11-15	7/22	10:45-16:10	第3講義室	歯科技工所の作業環境	パワーポイントでの課題発表	池田 正臣	到達目標 1-9

			室	と改善方法について 設備構造基準 安全対 策の計画課題		
授業方法 講義と演習および課題発表 遠隔授業(同期型)で質問を受ける方法は、授業時間中のチャットや発言、または授業担当者にメールで質問すること。授業担当者より授業時間中に回答もしくはメールで回答する。						
授業内容 講義、グループワーク、発表						
成績評価の方法 ・発表・グループワーク(20点)、期末の客観試験、論述試験(80点)で総合的に評価する。 ・期末試験が60%未満の場合は再試験とする。						
成績評価の基準 ・期末試験の点数が60%以上のものを合格とする。 ・出席状況、授業態度を加味して総合的に評価し、この科目の評価とする。						
準備学習等についての具体的な指示 ・事前に資料の配付、web-class へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。 ・講義・課題発表は基本的に遠隔授業(同期型)、演習は実習室で行います。						
試験の受験資格 定期試験、追・再試験を受験する資格は以下のすべてとする。 ・2/3 以上の出席を基本とする。 ・遠隔授業(同期型)に出席し、発表資料などの課題を提示された期限までに提出すること。 ・特別に勘案すべき事情があるために指示が達成できない場合や同期型授業に参加できない場合には、その事情とともに締め切り前および授業開始前までに科目責任者にメールで連絡すること。これらの十分な対応が行われたと判断された場合には事情などに応じてレポート等での対応を行う						
教科書 歯科技工管理学／全国歯科技工士教育協議会編；末瀬一彦ほか著,全国歯科技工士教育協議会,末瀬一彦,:医歯薬出版, 2017						
参考書 労働衛生のしおり／中央労働災害防止協会/編:中央労働災害防止協会, 2018-08						
備考 前年度履修学生の科目評価アンケートで、人工歯の整理について正答を開示するように要望があったため、本年度は正答を配布する。 池田 正臣:メールにて面談の日程を調整すること ikedacsoe@tmd.ac.jp						
オフィスアワー 池田 正臣:メールにて面談の日程を調整すること						

時間割番号	023740						
科目名	周術期手術支援工学			科目ID			
担当教員	大木 明子, 樺沢 勇司, 若林 侑輝[OKI Meiko, KABASAWA Yuji, WAKABAYASHI Yuki]						
開講時期	2026 年度前期	対象年次	3	単位数	1		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	メディア利用科目		
必修 15 時間 講義 15 コマ							
主な講義場所 最初と最後に対面講義を行う(2号館3階第2講義室)。 オンデマンドを中心とするが、ライブにて「歯科技工士と多職種連携」の講義を行う。							
授業の目的、概要等 口腔外科領域の疾患と診断、治療法の基礎的知識を修得する。臨床口腔解剖学や口腔病理学、歯科麻酔学についても講義内容に含まれる。歯科技工士として多職種連携のためにどのようなことができるのか、実際に多職種連携を実施している歯科技工士の講義を聞いて考える。							
授業の到達目標 1. 口腔外科の概要、口腔外科疾患の種類と診断法について説明できる。 2. 顎顔面口腔に症状を現す先天異常と発育異常を列挙し、その治療法を理解できる。 3. 顎口腔領域の損傷の診断と治療法を理解できる。 4. 顎口腔領域の炎症の診断と治療法を理解できる。 5. 顎口腔領域の嚢胞の診断と治療法を理解できる。 6. 顎口腔領域の腫瘍の診断と治療法を理解できる。 7. 口腔粘膜疾患の診断と治療法を理解できる。 8. 顎口腔領域の神経系疾患の診断および治療法を理解できる。 9. 唾液腺疾患の病因と病態について理解できる。 10. 顎口腔領域に症状を現す血液疾患、出血性素因について理解できる。 11. 代謝性疾患の口腔症状、口腔顎顔面領域に関連した疾患について理解できる。 12. 口腔外科疾患に関連する補綴治療について説明できる。 13. 顎関節疾患の病因、病態、診断および治療法を理解できる。 14. 口腔外科手術患者、口腔がん患者の全身管理や口腔管理について理解できる。 15. 歯科技工士としてどのような多職種連携に携われるのかを知る。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	4/10	15:25-16:10	第2講義室	総論	口腔外科とは、口腔外科を学ぶ重要性、口腔外科診断のプロセス	樺沢 勇司	到達目標:1 学習方法:講義、ディスカッション 事前学習:LMSにある資料・動画の視聴をすること。
2-3	4/24	10:45-12:25	遠隔授業 (非同期型)	先天異常と発育異常	歯や軟組織の異常、口唇裂・口蓋裂、その他の口腔・顎・顔面の先天異常、顎変形症	樺沢 勇司	到達目標:1,2 学習方法:講義(遠隔非同期)終了後小テストを実施 事前学習:LMSにある資料・動画の視聴をすること。
4-5	5/8	10:45-12:25	遠隔授業	損傷 炎症	歯の外傷、軟組織損傷、歯槽骨・	樺沢 勇司	到達目標:3-4 学

			(非同期型)		顎骨骨折 歯槽部・顎骨・顎骨周囲組織の炎症		習方法:講義(遠隔非同期) 終了後小テストを実施 事前学習:LMSにある資料・動画の視聴をすること。
6-7	5/29	10:45-12:25	遠隔授業 (非同期型)	嚢胞 口腔粘膜疾患	嚢胞の定義・分類・診断、顎骨の嚢胞、軟組織の嚢胞 口腔粘膜疾患の診断と治療	樺沢 勇司	到達目標:5.7 学習方法:講義(遠隔非同期)終了後小テストを実施 事前学習:LMSにある資料・動画の視聴をすること。
8-9	6/12	10:45-12:25	遠隔授業 (非同期型)	腫瘍および腫瘍類似疾患	良性腫瘍・腫瘍類似疾患の診断と治療、悪性腫瘍の診断と治療	樺沢 勇司	到達目標:6 学習方法:講義(遠隔非同期)終了後小テストを実施 事前学習:LMSにある資料・動画の視聴をすること。
10-11	6/26	10:45-12:25	遠隔授業 (非同期型)	口腔顎顔面領域の神経系疾患、唾液腺疾患、血液疾患、出血性素因、代謝性疾患の口腔症状・症候群	口腔顎顔面領域の神経疾患、唾液腺疾患の診断と治療 血液疾患、出血性素因の診断と治療、代謝性疾患の口腔症状、口腔顎顔面領域に関連した症候群および疾患	樺沢 勇司	到達目標:8-11 学習方法:講義(遠隔非同期)終了後小テストを実施 事前学習:LMSにある資料・動画の視聴をすること。
12	7/10	09:45-10:30	遠隔授業 (同期型)	歯科技工士と多職種連携	大学病院における歯科技工士の多職種連携への関わり	大木 明子、 若林 侑輝	到達目標:15 ミーティング ID:9801691 0952 パスコード:8f1Xqg 終了後に課題を提出すること
13-14	7/10	10:45-12:25	遠隔授業 (非同期型)	顎関節疾患、口腔外科と補綴治療、口腔外科手術・口腔がん患者の全身管理と口腔健康管理	顎関節症の診断と治療、顎関節症以外の顎関節疾患の種類、診断と治療 口腔外科疾患術後患者に対する補綴治療、補綴に関連した口腔外科手術、口腔外科手術・口腔がん患者への口腔ケア	樺沢 勇司	到達目標:12-14 学習方法:講義(遠隔非同期)終了後小テストを実施 事前学習:LMSにある資料・動画の視聴をすること。
15	7/24	15:25-16:10	第2講義室	まとめ	演習、理解度の確認(評価テスト)	樺沢 勇司	到達目標:1-15 学習方法:演習 事前学習:演習のための資料を準備すること

授業方法

講義、演習

オンデマンドを中心とするが、対面講義にて講義についておよびまとめを行う。Zoom 講義で多職種連携と歯科技工士の講義を行う。

オンデマンドの課題を LMS にて行い、提出すること。 ライブで質問を受ける方法は、授業時間中のチャットや発言、または授業担当者にメールで質問してください。授業担当者より授業時間中に回答もしくはメールで回答します。 オンデマンドで質問を受ける方法は、授業担当者にメールで質問、メールで回答とします。
授業内容 講義(対面、オンデマンド、ライブ) 口腔外科学の基礎的知識を学ぶ。
成績評価の方法 評価は提出課題および試験(筆記試験:対面:60 分)によって行う。 ・課題演習は、事前学習(ビデオ学習を含む)の理解度評価(10 点)、多職種連携についての講義の感想レポート(10 点)、最終講義での演習、討論、授業態度(20 点)、出席により評価する。 ・試験の配点は 60 点とするが、試験の点数が 6 割未満の場合は再試験とする。
成績評価の基準 ・試験の点数が 60 点以上の者を合格とする。 ・配点は、事前学習(ビデオ学習を含む)の理解度評価(10 点)、講義の感想レポート(10 点)、最終講義での演習、討論、授業態度(20 点)およびテスト(60 点)とし、合計 100 点満点で換算する。 ・授業態度を加味して総合的に評価し、この科目の評価とする。
準備学習等についての具体的な指示 事前に資料の配布および LMS 上に事前学習用のビデオなど自己学習用のアップロードがあった場合は、各自予習して授業に臨むこと。課題を提出すること。
試験の受験資格 試験、追・再試験を受験する資格は以下のすべてとする。 ・2/3 以上の出席を受験資格とする。出席確認は、対面講義:学生証のカードタッチ、ライブ:遠隔授業(同期型)では画面 ON と授業中に実施される質問への返答や課題提出、オンデマンド:遠隔授業(非同期型)では学習履歴と小テストの実施で行う。 ・対面講義およびライブ授業に出席すること。対面講義は、1 分でも遅刻とし、カードタッチがなければ欠席とする。 ・オンデマンド授業を実施し、小テストなどの課題を提示された期限までに提出すること。 ・特別に勘案すべき事情があるために指示が達成できない場合やライブ授業に参加できない場合には、その事情とともに締め切り前および授業開始前までに科目責任者にメールで連絡すること。これらの十分な対応が行われたと判断された場合には事情などに応じてレポート等での対応を行うこととする。
参考書 最新歯科衛生士教本 顎・口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔／松井恭平ほか:医歯薬出版, 2011
他科目との関連 顎顔面補綴学、顎関節症とオーラルアプライアンス、画像解析学の基礎となる科目です。
履修上の注意事項 事前に資料の配布、LMS へのアップロード等があった場合には、予習して授業に臨むこと。課題の提出を提示された期日までに行うこと。
備考 昨年度授業終了時アンケート結果より、学習課題を再検討しました。 担当教員のオフィスアワーおよび連絡先 樺沢 勇司 kabasawa.ocsh@tmd.ac.jp 科目責任者のオフィスアワーおよび連絡先 大木明子 moki.mfoe@tmd.ac.jp メールにて面談の日程を調整すること
オフィスアワー 大木 明子:メールにて面談の日程を調整すること。2 号館 2 階准教授室

時間割番号	023750						
科目名	高齢者歯科学			科目ID			
担当教員	金澤 学, 岩城 麻衣子, 猪越 正直, 古屋 純一, 松尾 浩一郎, 稲田 雅彦, 戸原 玄, 駒ヶ嶺 友梨子, 濱 洋平 [KANAZAWA Manabu, IWAKI Maiko, INOKOSHI Masanao, Junichi Furuya, MATSUO Koichiro, INADA Masahiko, TOHARA Haruka, KOMAGAMINE Yuriko, HAMA Yohei]						
開講時期	2026 年度後期	対象年次	3	単位数	2		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	メディア利用科目		
必修 30 時間							
主な講義場所 遠隔授業(非同期型) 口腔保健工学専攻 第 2 講義室							
授業の目的、概要等 高齢者に特徴的な疾患と問題点について学び、摂食・嚥下障害など口腔機能障害の病態と、その機能訓練・回復治療法について理解する。高齢者施設の見学をとおして施設利用者に対する理解を深め、高齢者をとりまく環境と口腔内状況、口腔内装置の実態を理解する。							
授業の到達目標 1. 高齢者に特徴的な疾患とそれにより生じる問題点を説明し、介護保険などの公的支援についてを説明できる。 2. 摂食嚥下障害の病因、病態、障害を説明できる。 3. 高齢者施設について種類を列挙し、介護保険サービスと利用者の口腔内と装着装置の実態をを説明できる。 4. 演習をとおして歯科技工のニーズや今後の展望を説明できる。 5. 摂食嚥下障害に対するリハビリテーションの流れを説明できる。 6. 摂食嚥下障害に対する補綴的対応を説明できる。 7. 誤嚥性肺炎と口腔健康管理、口腔衛生管理用品について説明できる。 8. 高齢者における口腔機能低下症とフレイルについて説明できる。 9. 摂食嚥下障害に対するチーム医療を説明できる。 10. 歯科業界に関連したスタートアップについて説明できる。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-3	11/2	13:30-16:10	遠隔授業 (非同期型)	高齢者の特徴、現状、社会の高齢化、死因、加齢と老化、摂食嚥下のメカニズム	高齢者の特徴、超高齢社会、高齢者の背景、死因、健康寿命と平均寿命、全身の加齢と老化、摂食嚥下のメカニズムとその障害	金澤 学, 岩城 麻衣子	到達目標:1-2
4-6	11/13	09:45-12:25	遠隔授業 (非同期型)	高齢者に対する医療、保健・福祉制度、訪問診療	医療、保健、福祉制度、介護保険 高齢者施設、訪問診療、高齢者に多い疾患	金澤 学, 岩城 麻衣子	到達目標:1,3-6
7-9	12/18	09:45-12:25	遠隔授業 (非同期型)	口腔機能低下症とオーラルフレイル、口腔機能を保ち健康長寿に貢献しよう！	高齢者における口腔機能低下症	金澤 学, 岩城 麻衣子, 駒ヶ嶺 友梨子	到達目標:8
10-12	1/15	09:45-12:25	遠隔授業 (非同期型)	高齢者に多い疾患	高齢者に多い疾患	猪越 正直, 金澤 学, 岩城 麻衣子	到達目標:1-2, 5-9
13-15	1/22	09:45-12:25	遠隔授業 (非同期型)	高齢者に多い疾患	高齢者に多い疾患	猪越 正直, 金澤 学, 岩城 麻衣子	到達目標:1-2, 5-9
16-18	1/25	13:30-16:10	遠隔授業 (非同期型)	チームアプローチ、地域包括ケア、まとめ	摂食嚥下障害、言語障害、周術期チーム、栄養サポートチームや呼	古屋 純一, 金澤 学, 岩	到達目標:5-9

			型)		吸サポートチーム、地域包括ケア、まとめ	城 麻衣子	
19-21	1/29	09:45-12:25	遠隔授業 (非同期型)	口腔ケアと誤嚥性肺炎	肺炎、誤嚥、口腔細菌と誤嚥性肺炎、誤嚥性肺炎の予防、誤嚥性肺炎の治療法、口腔健康管理	松尾 浩一郎 金澤 学、岩城 麻衣子	到達目標:1-2, 5-9
22-24	2/1	13:30-16:10	第3講義 室	Let's start up!	高齢社会における歯科医療・歯科技工の課題解決に向けて 一起業への第一歩	稲田 雅彦、 金澤 学、岩城 麻衣子	到達目標:10
25-27	2/5	09:45-12:25	遠隔授業 (非同期型)	脳血管疾患と摂食嚥下障害	脳血管障害と摂食嚥下リハビリテーション、在宅・施設における摂食嚥下障害の対応	戸原 玄、金澤 学、岩城 麻衣子	到達目標:1, 5, 7-9
28-30	2/8	13:30-16:10	第2講義 室	高齢者への対応(発表・1人 10 分)	高齢者への対応(発表)	金澤 学、岩城 麻衣子	到達目標:1-10

授業方法

講義、演習

講義は遠隔授業(非同期型)で行います。

遠隔授業(非同期型)で質問を受ける方法は、授業担当者にメールで質問してください。授業担当者よりメールで回答します。

演習は対面で行います。事前に WebClass に提示されている資料を学習して準備しておくこと。

成績評価の方法

評価は授業ごとの確認テスト、発表評価によって行う。

成績評価の基準

・確認テスト、発表評価の合計点数が 60 点以上のものを合格とする。

準備学習等についての具体的な指示

事前に資料が WebClass にアップロードされた場合はよく読んでから講義に出席すること。配布資料は WebClass にアップロードされます。

試験の受験資格

定期試験は行わず、以下をもって成績判定の資格を得るものとする。

・3 分の 2 以上の出席

・非同期型授業では、授業ごとの Web クラスでの確認テストの実施をもって出席とする。

なお、確認テストの実施期限は当該授業終了時までとする。

参考書

歯学生のための摂食嚥下リハビリテーション学 = Dysphagia Rehabilitation for Dental Students／向井美恵、山田好秋、井上誠、弘中祥司 編著、向井、美恵、1947-、山田、好秋、1949-、井上、誠、1963-、:医歯薬出版、2019

歯科発アクトイブライフプロモーション 21 : 健康増進からフレイル予防まで／花田信弘 監著、武内博朗、野村義明、泉福英信 編著、花田、信弘、1953-、武内、博朗、1962-、野村、義明、泉福、英信、:デンタルダイヤモンド社、2017

義歯ケア事典 : らくらくお口のケア : 義歯ケアマイスター認定テキスト／日本義歯ケア学会編、日本義歯ケア学会、浜田、泰三、水口、俊介、:永末書店、2018

歯科と栄養が会おうとき : 診療室からはじめる!フレイル予防のための食事指導／菊谷武、尾関麻衣子 著、菊谷、武、尾関、麻衣子、:医歯薬出版、2020

高齢者歯科／植田耕一郎ほか著、植田、耕一郎、全国歯科衛生士教育協議会、:医歯薬出版、2013

開業医のための摂食・嚥下機能改善と装置の作り方超入門 : 摂食機能療法&舌接触補助床 (PAP) の基本がわかる Q&A 50／前田芳信、阪井丘芳 監著、小野高裕 編著、野原幹司、小谷泰子、堀一浩、山本雅章、中島純子、熊倉勇美 著、:クインテッセンス出版、2013

臨床歯科栄養学 : 歯科に求められる栄養の基礎知識／花田信弘、萩原芳幸、北川昇 監修、花田、信弘、1953-、萩原、芳幸、北川、昇、:口腔保健協会、2018

老年歯科医学／森戸光彦 [ほか] 編、森戸、光彦、山根、源之、櫻井、薫(歯学)、羽村、草下、山、和弘、柿木、保明、:医歯薬出版、2015

老年医学系統講義テキスト : カラー版／日本老年医学会編集、日本老年医学会、西村書店、2013

高齢者歯科／植田耕一郎ほか著、植田、耕一郎、全国歯科衛生士教育協議会、:医歯薬出版、2013

履修上の注意事項

事前に資料の配布、WebClass へのアップロード等があった場合には、予習して授業に臨むこと。 演習においては自学自習の上、参

加すること。

備考

本講義では、講義内容によって演習、グループワーク、討論などのアクティブラーニングを実施します。
昨年度授業終了時アンケート結果より内容を再検討し、昨年度より内容を改善している。

担当教員のオフィスアワーおよび連絡先

口腔デジタルプロセス学分野

准教授 岩城麻衣子 m.iwaki.gerd@tmd.ac.jp

時間割番号	023523						
科目名	臨床咬合学				科目 ID	DE352300L	
担当教員	大木 明子, 塩沢 真穂, 高市 敦士[OKI Meiko, SHIOZAWA Maho, TAKAICHI Atsushi]						
開講時期	2026 年度前期	対象年次	3		単位数	1	
実務経験のある教員による授業	該当する				授業形態	対面	
必修 15 時間 講義演習 15 コマ							
主な講義場所 1 号館 8 階 口腔保健学科 相互実習室 2 号館 4 階 第1実習室							
授業の目的、概要等 咬合器装着模型を用いた学生相互演習において、予備印象採得、フェイスボウ記録、半調節性咬合器の装着、顎路調整という一連の臨床操作を実施することにより、下顎運動と歯の咬合接触を中心とした咀嚼と咬合のメカニズムを理解する。口腔機能の各種検査について学ぶ。							
授業の到達目標 1. 標準予防策について理解し、応用できる。 2. 衛生的な手洗いを理解し、応用できる。 3. 歯科医療で用いるものの廃棄についてゴミを分別できる。 4. 予備印象採得の方法を理解できる。 5. 研究用模型を製作することができる。 6. 半調節性咬合器を含む咬合器の種類を説明できる。 7. フェイスボウトランスファーの方法を理解できる。 8. チェックバイトを説明できる。 9. 顎路調整を行うことができる。 10. 口腔機能低下症と用いられる口腔機能評価を理解できる。 11. 舌圧の測定法と役割を説明できる。 12. 咬合接触面積を説明できる。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-3	5/13	09:45-12:25	口腔保健学科相互実習室 第1実習室	感染予防について、衛生的な手洗い、予備印象採得(実習)、口腔機能評価	標準予防策、衛生的な手洗い、廃棄物の分類、歯科用ユニットの使用法、アルジネート印象材による予備印象採得(実習)、口腔機能低下症と口腔機能評価(口腔衛生状態)	大木 明子, 塩沢 真穂, 高市 敦士	最初に白衣を着て第1実習室に集合してください。 unnecessaryなものは持参しないように。到達目標: 1-3、10-11 講義 実習 事前学習: LMS の資料・動画の視聴をすること。
4-7	5/13	13:30-17:05	第1実習室	研究用模型の製作(実習)	研究用模型の製作 半調節性咬合器の種類と取り扱い	大木 明子, 塩沢 真穂	到達目標: 3, 5-6 実習 事前学習: LMS にある資料・動画の視聴をすること。 実習作

							品の提出
8-10	5/19	08:50-11:30	口腔保健 学科相互 実習室 第1実習 室	フェイスボウトランスファ ー、口腔機能の測定(実 習)	フェイスボウトランスファー、チェッ クバイト法、咬合接触面積の測定 (実習)	大木 明子, 塩沢 真穂 高市 敦士	到達目標:1-3, 7, 8, 10 講義実習 最初に白衣を着 て第1実習室に 集合してくださ い。 unnecessaryなものは持参しないよう に。 事前学習: LMSの資料・動画 の視聴すること。 と。
11-13	5/26	08:50-11:30	第1実習 室	フェイスボウトランスファ ー(実習)	咬合器装着、チェックバイト法(実 習)	大木 明子, 塩沢 真穂	到達目標: 6-8 実習 事前学習: LMSの資料・動画 の視聴すること。 実習作品の 提出
14-15	6/9	09:45-11:30	第1実習 室	顎路調整、口腔機能低 下症、口腔機能の測定 (実習)	顎路調整、口腔機能低下症と口腔 機能の測定、咬合接触面積の測 定	大木 明子, 塩沢 真穂	到達目標: 9-12 実習 事前学習: LMSの資料・動画 の視聴すること。 実習後にレ ポートを提出

授業方法

対面講義、実習演習

事前にLMSに提示されている資料を学習して準備しておくこと。

課題を行い、提出すること。

与えられた課題レポートを提出すること。

印象採得、模型の製作、フェイスボウトランスファー、咬合器装着、半調節性咬合器の調節、口腔機能検査を行う。

授業内容

感染予防について、衛生学的手洗い、研究用模型の製作、フェイスボウトランスファー、顎路調整、口腔機能低下症と口腔機能の測定、咬合採得についてまとめ

成績評価の方法

評価は提出作品および試験(筆記試験(対面):60分)によって行う。

・研究模型(上下各5点、計10点)、フェイスボウトランスファー(5点)、咬合器装着(10点)、口腔機能測定レポート(5点)、期末試験(70点)で総合的に評価する。

・提出作品は担当教員2名が採点し、その平均点を作品の点数とする。

・試験が100点満点中60点未満の場合は再試験とする。

成績評価の基準

・試験の点数が60点以上のものを合格とする。

・配点は、筆記試験70点、提出プロダクツ25点、実習レポート5点とし、合計100点満点で換算する。

・出席状況、授業態度を加味して総合的に評価し、この科目の評価とする。

準備学習等についての具体的な指示

事前に資料の配布、LMSへのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

実習にあたって事前にLMSで資料・動画を視聴し、予習してくること。

試験前に自習としてLMSの「押さえておきたいポイント」を実施すること。

試験の受験資格

試験、追・再試験を受験する資格は以下のすべてとする。 ・3 分の 2 以上の出席を基本とする。出席確認は学生証のカードタッチで行う。遅刻でもカードタッチがなければ欠席とする。実習が主なものであるため 1 分でも遅れた場合は遅刻とする。 ・課題を実施し提出すること。 ・実習に出席し、提示された期限までにプロダクトを提出すること。 ・特別に勘案すべき事情があるために指示が達成できない場合には、その事情とともに締め切り前および授業開始前までに科目責任者にメールで連絡すること。これらの十分な対応が行われたと判断された場合には事情などに応じてレポート等での対応を行うこととする。
教科書 顎口腔機能学 = Stomatognathic Function Science／全国歯科技工士教育協議会 編集志賀博 町博之, 小泉順一, 竹井利香 著志賀 博 町, 博之, 小泉 順一, 全国歯科技工士教育協議会,:医歯薬出版, 2016
参考書 コンプリートデンチャーテクニック／細井紀雄 [ほか] 編細井, 紀雄, 平井, 敏博, 長岡, 英一, 赤川, 安正, 鈴木, 哲也(歯科学), 大川, 周治,:医歯薬出版, 2011
他科目との関連 全部床義歯学を基礎としています。
履修上の注意事項 授業場所に注意すること(シラバスに集合場所が記載されています。実習にあたり、服装の注意事項や持参が必要なものがあるので確認して実習に臨むこと。
備考 昨年度授業終了時アンケート結果より、事前にLMSにある資料を学習することで実習時間を確保し、実習前にポイントを確認したあとに実習を開始するように内容を改善している。 担当教員のオフィスアワーおよび連絡先 大木明子 准教授 メールにて日時を相談 moki.mfoe@tmd.ac.jp 塩沢真穂 助教 メールにて日時を相談 m.shiozawa.abm@tmd.ac.jp
オフィスアワー 大木 明子:メールにて面談の日程を調整すること。2 号館 2 階准教授室 高市 敦士:随時(メールにて面談の日程を調整すること) 2 号館 2 階 口腔デジタルプロセス学分野 教授室 塩沢 真穂:2 号館 3 階 314

時間割番号	023820						
科目名	デジタルデンティストリー応用				科目ID		
担当教員	土田 優美, 池田 正臣, 塩沢 真穂, 佐藤 隆明, 高市 敦士, 岩城 麻衣子, 大木 明子[TSUCHIDA Yumi, IKEDA Masaomi, SHIOZAWA Maho, SATO Takaaki, TAKAICHI Atsushi, IWAKI Maiko, OKI Meiko]						
開講時期	2026 年度前期	対象年次	3		単位数	1	
実務経験のある教員による授業	該当する				授業形態	対面	
科目名:デジタルデンティストリー応用 時間数:15 時間 授業形態:講義							
主な講義場所 遠隔授業 (Zoom) 2 号館 3 階 第 2 講義室							
授業の目的、概要等 デジタルデンティストリーの最新の研究、動向を知る。							
授業の到達目標 1. デジタルデンティストリーの最新の研究、動向について理解できる。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	4/9	13:30-15:10	第2講義室	研究紹介	研究紹介	池田 正臣 塩沢 真穂 佐藤 隆明	到達目標:1 学習方法:講義 事前学習:なし 終了後に感想を提出
3	5/25	08:50-09:35	遠隔授業 (非同期型)	研究紹介	研究紹介	土田 優美	到達目標:1 学習方法:講義 事前学習:なし 終了後に感想を提出
4	6/8	08:50-09:35	遠隔授業 (非同期型)	研究紹介	研究紹介	高市 敦士	到達目標:1 学習方法:講義 事前学習:なし 終了後に感想を提出
5	6/22	08:50-09:35	遠隔授業 (非同期型)	研究紹介	研究紹介	岩城 麻衣子	到達目標:1 学習方法:講義 事前学習:なし 終了後に感想を提出
6-7	6/23	09:45-11:30	遠隔授業 (同期型)	研究紹介	研究紹介(広島大学 峯 裕一 先生)	土田 優美	到達目標:1 学習方法:講義 事前学習:なし 終了後に感想を提出
8-9	6/30	09:45-11:30	第2講義室	研究紹介	研究紹介(鶴見大学 木原 琢也 先生)	土田 優美	到達目標:1 学習方法:講義 事前学習:なし 終了後に感想を提出
10	7/14	09:45-10:30	遠隔授業 (同期型)	研究紹介	研究紹介	大木 明子	到達目標:1 学習方法:講義 事前学習:なし 終了後に感想を提出

時間割番号	023830						
科目名	顎顔面補綴学			科目ID			
担当教員	大木 明子, 尾澤 昌悟, 吉岡 文[OKI Meiko, OZAWA Shogo, YOSHIOKA Fumi]						
開講時期	2026 年度後期	対象年次	3	単位数	1		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面		
必修 15 時間 講義 15 コマ							
主な講義場所 対面講義 2 号館 3 階 第 2 講義室 ライブ (Zoom)							
授業の目的、概要等 顎口腔および顔面の欠損の病態と治療法、治療用装置の構造と製作法を理解する。外科治療や放射線治療、言語治療などに用いられる補助装置の構造と製作法、治療法を理解する。							
授業の到達目標 1. 顎顔面補綴の治療範囲、原因、分類を理解できる。 2. 上顎欠損症例の特徴と欠損の病態、治療法、治療用装置について理解できる。 3. 上顎欠損に用いられる補綴装置の構造と製作過程を理解し、応用できる。 4. 下顎欠損症例の特徴と欠損の病態、治療法、治療用装置について理解できる。 5. 舌欠損症例の特徴と欠損の病態、治療法、治療用装置について理解できる。 6. 外傷後の補綴と小口症、開口障害への対応について理解できる。 7. 放射線治療補助装置の種類と放射線治療法について理解できる。 8. インプラントを用いた顎顔面欠損に対する対応を理解できる。 9. 唇顎口蓋裂の病態と特徴、治療用装置について理解できる。 10. 言語治療補助装置と治療法を理解できる。 11. 外科治療補助装置について理解できる。 12. 顔面、体幹欠損症例の欠損の病態、材料、治療用装置について理解できる。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	9/29	09:45-11:30	第2講義室	顎顔面補綴学とは、上顎欠損と上顎顎義歯	定義、分類、歴史 上顎欠損の特徴、分類反転授業、上顎欠損の症例	大木 明子	到達目標:1-3 講義 対面 小テストを実施 事前学習:LMS の資料を見て上顎欠損の分類を覚えてくること
3-4	10/2	09:45-11:30	第2講義室	上顎欠損と上顎顎義歯	上顎欠損の症例、製作法、上顎顎義歯の設計演習	大木 明子	到達目標:1-3 講義 対面 事前学習:LMS の資料を見てくること
5-6	10/16	09:45-11:30	第2講義室	設計演習 下顎欠損と舌欠損	演習解説、下顎欠損、舌欠損の特徴、症例	大木 明子	到達目標:4-5 講義 対面 事前学習:設計演習課題を指定された日時に提出後に授業に出席すること

7-9	10/23	09:45-12:25	第2講義 室	外傷後の補綴、小口症、 開口障害の補綴、放射 線治療と補綴	顎顔面部外傷後特徴、小口症・開 口障害の特徴、印象採得・技工の 工夫について、口腔内頭頸部に対 する放射線治療、放射線治療補助 装置、放射線治療後の補綴	大木 明子	到達目標:6-7 講 義 対面 事前 学習:LMS の資料 をチェックするこ と
10-11	11/6	09:45-11:30	第2講義 室	唇顎口蓋裂と補綴、言語 治療用補助装置、各種 補助装置	唇顎口蓋裂の特徴、チームアプロ ーチと補綴、構音障害と言語治療 用補助装置、外科治療用補助装置	大木 明子	到達目標:9-11 講義 対面 事前学習:LMS の 資料をチェックす ること
12	11/20	10:45-11:30	遠隔授業 (同期型)	インプラントを用いた顎 顔面補綴	インプラントを用いた顎顔面補綴 の症例	大木 明子, 尾澤 昌悟	到達目標:8 講義 Zoom 事前学 習:LMS の資料を チェックすること
13-14	1/7	14:25-16:10	第2講義 室	顔面・体幹補綴	顔面補綴治療、体幹補綴、エピテ ーゼ材料、エピテーゼの製作法	大木 明子	到達目標:12 講 義 対面 事前 学習:LMS の資料 をチェックするこ と
15	1/12	10:45-11:30	第2講義 室	顔面補綴の症例	顔面補綴の症例	大木 明子, 吉岡 文	到達目標:12 講 義 対面

授業方法

講義、小テスト(WebClass)、演習

対面講義および遠隔授業(同期型)で行います。

事前に LMS に提示されている資料を学習して準備しておくこと。

設計演習の課題を行い、期限までに対面で提出すること。

ライブで質問を受ける方法は、授業時間中のチャットや発言、または授業担当者にメールで質問してください。授業担当者より授業時間中に回答もしくはメールで回答します。

授業内容

講義

顎顔面補綴学

顎顔面補綴学とは、上顎欠損、下顎欠損、舌欠損、唇顎口蓋裂、顔面補綴、外傷後の補綴、各種治療補助装置

成績評価の方法

評価は小テスト、提出課題および試験(筆記試験(対面):60分)によって行う。

・小テスト(5点)、設計演習(5点)、筆記試験(90点)で総合的に評価する。

・試験が100点満点中60点未満の場合は再試験とする。

成績評価の基準

・試験の点数が60点以上のものを合格とする。

・配点は、筆記試験90点、小テスト5点、設計演習課題5点とし、合計100点満点で換算する。

・出席状況、授業態度を加味して総合的に評価し、この科目の評価とする。

準備学習等についての具体的な指示

事前に資料がアップロードされた場合は予習をしてから講義にのぞむこと。

1回目の上顎欠損分類について、事前にアップロードされている課題を行った上で講義にのぞむこと。講義中に小テストを行います。

設計演習の課題を期日までに提出すること。

試験の受験資格

試験、追・再試験を受験する資格は以下のすべてとする。

- ・3 分の 2 以上の出席を基本とする。遅刻でもカードタッチがなければ欠席とする。
- ・対面講義またはライブに出席すること。出席確認は画面 ON と授業中に実施される質問への返答や課題提出で行う。
- ・事前学習の後実施される小テストを行うこと。
- ・課題を実施し、提示された期限までに課題を提出すること。
- ・特別に勘案すべき事情があるために指示が達成できない場合やライブ授業に参加できない場合には、その事情とともに締め切り前および授業開始前までに科目責任者にメールで連絡すること。これらの十分な対応が行われたと判断された場合には事情などに応じてレポート等での対応を行うこととする。

参考書

顎顔面補綴の臨床：咀嚼・嚥下・発音の機能回復のために／大山喬史、谷口尚 編：医学情報社、2006

口唇裂口蓋裂の補綴治療／大山喬史 編著：医歯薬出版、1997

口唇口蓋裂のチーム医療／高戸毅 監修、須佐美隆史、米原啓之 編：金原出版、2005

構音障害の臨床：基礎知識と実践マニュアル／阿部雅子 著：金原出版、2008

顎口腔外傷のチーム医療／高戸毅 監修、米原啓之、須佐美隆史 編：金原出版、2005

口腔・中咽頭がんのリハビリテーション：構音障害、摂食・嚥下障害／溝尻源太郎、熊倉勇美 編著：医歯薬出版、2000

Beumer's Maxillofacial Rehabilitation: Prosthodontics and Surgical Considerations／Arun Sharma, Jay Jayanetti, John Beumer III: Foundation for Oral-Facial Rehabilitation , 2025

他科目との関連

周術期手術支援工学や矯正歯科学、高齢者歯科学と一部連携しています。また、本科目を基礎として顎補綴学実習、顔面補綴学実習で実際に装置を製作して応用します。

履修上の注意事項

事前に資料の配布、LMS へのアップロード等があった場合には、予習して授業に臨むこと。課題の提出を提示された期日までに行うこと。押さえておきたいポイントを学習すること。

備考

昨年度授業終了時アンケート結果より、学習の理解が高まるよう事前に演習課題を実施するように内容を改善した。上顎顎義歯の設計演習を時間外に設定している。

担当教員のオフィスアワーおよび連絡先

大木明子 准教授 メールにて日時を相談 moki.mfoe@tmd.ac.jp

オフィスアワー

大木 明子メールにて面談の日程を調整すること。2 号館 2 階准教授室

時間割番号	023840						
科目名	顎補綴学実習			科目ID			
担当教員	大木 明子[OKI Meiko]						
開講時期	2025 年度後期	対象年次	3	単位数	2.5		
実務経験のある教員による授業	該当する						
必修 75 時間 実習 75 コマ							
主な講義場所 口腔保健工学専攻 第1 実習室、総合実習室、重合・鋳造室							
授業の目的、概要等 上顎骨欠損患者に適用される上顎顎義歯の構造と栓塞子の製作法を理解し、上顎顎義歯を製作する。							
授業の到達目標 1. 上顎顎義歯の構造について説明できる。 2. 無歯顎上顎欠損の印象範囲を理解し、個人トレーを製作できる。 3. 上顎欠損の部分床義歯について設計原則を理解し、設計の説明ができる。 4. 上顎顎義歯製作のための咬合採得の手順を理解し、ワイヤークラスプを付与した咬合床を製作することができる。 5. 上顎顎義歯製作のために模型を適切に咬合器に装着することができる。 6. 上顎顎義歯の支台装置を適切な形態でワックスパターンを製作し、鋳造、製作することができる。 7. 適切な人工歯排列を説明できる。 8. 自然感と清掃性を考慮した歯肉形成を施すことができる。 9. ろう義歯の埋没、流ろう、レジン填入および重合を適切に行える。 10. 栓塞部の製作法を理解して石膏コアの製作方法が説明できる。 11. 上顎顎義歯の咬合調整、形態修正、研磨を行える。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-4	10/2	13:30-17:05	第1実習室	顎補綴工学実習概説 個人トレー	顎補綴工学実習内容説明、模型調整、概形線記入、ブロックアウト、リリース 常温重合レジン圧接、トリミング、柄	大木 明子	到達目標:1,2 実習 事前学習: WebClass の動画を視聴しておくこと 実習作品の提出 TA:アイン
5-8	10/7	08:50-12:25	第1実習室	咬合床	作業用模型調整、設計、ブロックアウト、リリース、常温重合レジン圧接、トリミング	大木 明子	到達目標:1,3-4 実習 事前学習: WebClass の動画を視聴しておくこと TA:アイン
9-12	10/9	13:30-17:05	第1実習室	咬合床	ワイヤークラスプ屈曲、クラスプ固定	大木 明子	到達目標:1,3-4 実習 事前学習: WebClass の動画を視聴しておくこと TA:アイン
13-16	10/14	08:50-12:25	第1実習室	咬合床	ワイヤークラスプ屈曲、クラスプ固定、ワックスリム追加、咬合採得	大木 明子	到達目標:1,3-4 実習 事前学習: WebClass の動画を視聴しておくこと TA:アイン

17-20	10/16	13:30-17:05	第1実習室	咬合床、咬合器装着	模型修正、咬合器装着	大木 明子	到達目標:1,3-5 実習 事前学習: WebClass の動画を視聴しておくこと 実習作品の提出 TA:アイン
21-24	10/21	08:50-12:25	第1実習室	設計、支台装置	設計、ワイヤークラスプ屈曲、プロックアウト、リリース。複印象	大木 明子	到達目標:1,3,6 実習 事前学習: WebClass の動画を視聴しておくこと TA:アイン
25-28	10/30	13:30-17:05	第1実習室	支台装置	複印象、耐火模型製作、支台装置ワックスパターンの製作	大木 明子	到達目標:1,3,6 実習 事前学習: WebClass の動画を視聴しておくこと TA:アイン
29-32	11/4	08:50-12:25	第1実習室	支台装置	支台装置ワックスパターンの製作、埋没	大木 明子	到達目標:1,3,6 実習 事前学習: WebClass の動画を視聴しておくこと TA:アイン
33-36	11/6	13:30-17:05	第1実習室	支台装置、人工歯排列	人工歯排列、鑄造	大木 明子	到達目標:1,3,6-7 実習 事前学習: WebClass の動画を視聴しておくこと TA:アイン
37-40	11/11	08:50-12:25	第1実習室	支台装置、人工歯排列	レーザー溶接・ろう着、支台装置完成・付与、人工歯排列	大木 明子	到達目標:1,3,6-7 実習 事前学習: WebClass の動画を視聴しておくこと TA:アイン
41-44	11/13	13:30-17:05	第1実習室	支台装置、人工歯排列	支台装置完成・付与、人工歯排列、歯肉形成	大木 明子	到達目標:1,3,6-7 実習 事前学習: WebClass の動画を視聴しておくこと TA:アイン
45-48	11/18	08:50-12:25	第1実習室	歯肉形成、ろう義歯完成	歯肉形成、ろう義歯完成	大木 明子	到達目標:1,7-8 実習 事前学習: WebClass の動画を視聴しておくこと 実習作品の提出 TA:アイン
49-52	11/20	13:30-17:05	第1実習室	埋没	埋没前準備、一次埋没、シリコーンコア採得、二次埋没、三次埋没	大木 明子	到達目標:1,9 実習 事前学習: WebClass の動画を視聴しておくこと TA:アイン
53-56	12/2	08:50-12:25	第1実習室	流ろう、欠損部修正、石膏コア製作	流ろう、欠損部修正、石膏コア製作	大木 明子	到達目標:1,9-10 実習 事前学習:

							WebClass の動画を視聴しておくこと TA:アイン
57-59	12/4	13:30-16:10	第1実習室	填入、重合	レジン填入、重合	大木 明子	到達目標:1,9-10 実習 事前学習: WebClass の動画を視聴しておくこと TA:アイン
60-63	12/9	08:50-12:25	第1実習室	割り出し、咬合器再装着、咬合調整	割り出し、咬合器再装着、人工歯咬合調整	大木 明子	到達目標:1,11 実習 事前学習: WebClass の動画を視聴しておくこと TA:アイン
64-67	12/11	13:30-17:05	第1実習室	割り出し、形態修正	割り出し、形態修正	大木 明子	到達目標:1,11 実習 事前学習: WebClass の動画を視聴しておくこと
68-71	12/16	08:50-12:25	第1実習室	形態修正、研磨	形態修正、研磨	大木 明子	到達目標:1,11 実習 事前学習: WebClass の動画を視聴しておくこと
72-75	12/18	13:30-17:05	第1実習室	研磨、完成	研磨	大木 明子	到達目標:1,11 実習 事前学習: WebClass の動画を視聴しておくこと 実習作品の提出

授業方法

実習、反転授業

上顎骨欠損患者に用いられる個人トレー、上顎顎義歯の製作実習

事前に WebClass に提示されている資料、デモビデオを学習して予習しておくこと。

授業内容

上顎顎義歯の製作実習

成績評価の方法

評価は実習で製作するプロダクトによって行う。

- ・上顎個人トレー(柄、辺縁、栓塞部、全体:計 20 点)
- ・上顎顎義歯の咬合床(基礎床、ろう堤、栓塞部:計 15 点)
- ・ろう義歯(支台装置、人工歯排列、全体:計 15 点)
- ・完成顎義歯(支台装置、人工歯部、栓塞部、研磨状態、全体:計 50 点)

について段階的に評価し、合計点数を成績とする。

成績評価の基準

- ・実習で製作した作品で評価を行う(配点 100 点)。60 点以上を合格とする。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

準備学習等についての具体的な指示

実習書および WebClass の資料、実習デモビデオを事前によく見て予習してから出席すること。

試験の受験資格

試験、追・再試験を受験する資格は以下のすべてとする。

・4 分の 3 以上の出席を基本とする。出席確認は対面で学生証のカードタッチで行う。

・実習に出席し、提示された期限までにプロダクトを提出すること。

参考書

顎顔面補綴の臨床：咀嚼・嚥下・発音の機能回復のために／大山喬史, 谷口尚 編 大山, 喬史, 1939-, 谷口, 尚, 1952-, :医学情報社, 2006
Maxillofacial Rehabilitation 3rd Edition／J. Beumer III, MT Maunick, SJ Esposito: Quintessence, 2011

他科目との関連

顎顔面補綴学を基礎として実習で実際に装置を製作して応用する。

履修上の注意事項

事前に資料の配布、WebClass へのアップロード等があった場合には、予習して授業に臨むこと。実習デモビデオを必ず視聴してから授業に臨むこと。実習時間に余裕がないのでデモビデオを見ておくことで時間を有効に使いたいと思います。

備考

実習の初めにデモを行いません。各自デモビデオをあらかじめ視聴してから実習をしてください。

ステップごとにチェックを行います。

昨年度授業終了時アンケート結果より、時間を有効に使うため、ビデオ教材を充実させています。新カリキュラムでは、旧カリキュラムの70時間から75時間と増加させ、時間に余裕を持たせます。

担当教員のオフィシアワーおよび連絡先

大木明子 准教授 メールにて日時を相談 moki.mfoe@tmd.ac.jp

TA アイン

オフィシアワー

メールにて面談の日程を調整すること。2号館2階准教授室

時間割番号	023850						
科目名	顔面補綴学実習			科目ID			
担当教員	大木 明子[OKI Meiko]						
開講時期	2026 年度後期	対象年次	3	単位数	1		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面		
必修 30 時間 実習 30 コマ							
主な講義場所 口腔保健工学専攻 第1 実習室、総合実習室、重合・鑄造室							
授業の目的、概要等 顔面の欠損に適用される治療用装置の構造と製作法を理解し、眼窩部欠損患者に適応される義眼および眼窩部エピテーゼを製作する。 指エピテーゼを製作する。							
授業の到達目標 1. エピテーゼに用いられる材料について説明できる。 2. 指の印象から石膏模型を製作する。 3. 義眼の構成を列挙し、義眼の製作法を説明できる。 4. 眼窩部エピテーゼの製作法を説明できる。 5. 内部彩色と外部彩色の違いを説明し、エピテーゼ用シリコーン材料に彩色する方法を説明できる。 6. まつ毛を植毛する方法を説明できる。 7. 指エピテーゼの構成を列挙し、製作法を説明できる。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-4	1/14	13:30-17:05	第1実習室	指の印象採得、ワックスパターン、型の製作	指の印象採得、指のワックスパターンの製作、埋没、流ろう、型の製作	大木 明子	到達目標:1.2 実習 事前学習:LMS の動画を視聴しておくこと TA:アイン
5-8	1/19	08:50-12:25	第1実習室	義眼の製作	義眼の製作	大木 明子	到達目標:1-3 実習 筆とアクリル絵の具が必要 事前学習:LMS の動画を視聴しておくこと TA:アイン
9-12	1/21	13:30-17:05	第1実習室	ワックスパターンの製作	エピテーゼワックスパターンの製作	大木 明子	到達目標:1.4 実習 事前学習:LMS の動画を視聴しておくこと
13-16	1/26	08:50-12:25	第1実習室	ワックスパターンの製作	エピテーゼワックスパターンの製作	大木 明子	到達目標:1.4 実習 事前学習:LMS の動画を視聴しておくこと
17-19	1/28	13:30-16:10	第1実習室	ワックスパターンの製作、埋没	エピテーゼワックスパターンの製作、埋没	大木 明子	到達目標:1.4 実習 針など先が細いものが必要 事前学習:LMS の動画を視聴してお

履修上の注意事項

事前に資料の配布、WebClass へのアップロード等があった場合には、予習して授業に臨むこと。 実習デモビデオを必ず視聴してから授業に臨むこと。

備考

実習の初めにデモを行いません。各自デモビデオをあらかじめ視聴してから実習をしてください。

ステップごとにチェックを行います。

義眼の製作において、筆を購入、準備しておくのが望ましい。

まつ毛に関して、つけまつ毛等を各自購入、準備しておくこと。

昨年度授業終了時アンケート結果より、30 時間ですが、時間を有効に使うため、予習復習のためのビデオ教材を作成しています。

担当教員のオフィスアワーおよび連絡先

大木明子 准教授 メールにて日時を相談 moki.mfoe@tmd.ac.jp

TA アイン

オフィスアワー

メールにて面談の日程を調整すること。2 号館 2 階准教授室

時間割番号	023563						
科目名	臨床義歯管理工学			科目ID			
担当教員	大木 明子, 青木 秀馬, 塩沢 真穂[OKI Meiko, AOKI Syuma, SHIOZAWA Maho]						
開講時期	2026 年度後期	対象年次	3	単位数	1		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面		
必修 30 時間							
講義をしながら途中に演習を加える形式です。講義 4 コマ、講義演習 13 コマ、演習実習 13 コマ							
主な講義場所							
2 号館第 1 実習室							
2 号館 3 階 第 2 講義室							
授業の目的、概要等							
歯科医療チームの一員として臨床や訪問歯科診療同行に必要な基本的な医療管理(標準予防策、義歯管理、データ管理)、特に義歯の日常的管理や修理、複製の学理と技法を修得する。							
授業の到達目標							
1. 生体のモニタリング(血圧、脈拍、血中酸素飽和度など)、バイタルサインについて理解し、応用できる。							
2. 標準予防策について理解し、応用できる。							
3. 口腔の加齢と老化の違いを理解し、加齢による口腔内環境の変化に対して行う義歯の複製、修理、リライン、ティッシュコンディショニング、義歯安定剤について説明、応用できる。							
4. デンチャーブラークについて説明し、汚れた義歯の弊害を理解できる。							
5. 夜間の義歯装着の影響とナイトガードについて理解し、義歯の管理ができる。							
6. 義歯の清掃法(機械的洗浄、化学的洗浄)を説明し、義歯洗浄剤、口腔保湿剤、洗口液、薬液の注意点を列挙、義歯の清掃に応用できる。							
7. 義歯の着脱法について理解できる。							
8. 複製義歯の役割を説明し、複製義歯を製作する。							
9. 義歯の修理法を説明し、義歯を修理する。							
10. 災害時の歯科医療について理解し、義歯の刻印の意義を説明し、義歯に名前を入れる。							
11. 訪問診療時で用いる器材を列挙し、実際に使用して義歯を調整する体験を行う。							
12. 顔や口腔内写真、義歯の写真の撮影法を説明し、顔、口腔内、義歯の写真を撮影する体験を行う。							
13. 人工歯選択や義歯床色選択について説明し、シェードテイキングを行い、写真撮影する。							
14. 歯科におけるデジタルデータについて列挙し、デジタル情報の管理、暗号化について理解できる。							
15. 歯科医療情報データベースの構築について応用できる。							
16. 模型のスキャン、義歯のスキャン、データの編集管理ができる。							
17. 口腔内スキャナーを用いた口腔内情報の取得を、マネキンを用いて体験する。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-4	10/16	13:30-17:05	第1実習室	医療従事者として高齢者と接するために 口腔の加齢と老化、義歯装着による口腔内環境の変化 生体のモニタリング、義歯の着脱(実習)	生体のモニタリング、血圧、脈拍、顔貌の観察、医療面接、問診票、標準予防策 口腔の加齢と老化、義歯装着による口腔内環境の変化 バイタルチェック、モニタリング(血圧、脈拍、顔貌の観察等)、義歯着脱時の注意点 (義歯の着脱)	大木 明子, 塩沢 真穂	到達目標:1-3、7 講義、実習 事前学習:プレテストを実施すること。LMS の資料をチェックすること 実習レポートの提出
5-8	10/23	13:30-17:05	第1実習室	義歯の管理、デンチャーブラークコントロー	デンチャーブラークの弊害、夜間用義歯、ナイトガード、義歯の清掃	大木 明子, 塩沢 真穂	到達目標:1-6 講義 実習 ペンラ

講義、実習、演習 講義・実習は対面で行います。 事前にLMSに提示されている資料を学習して準備しておくこと。 課題や作品を提出すること。
授業内容 講義(義歯の管理、データベースなど) 実習演習(モニタリング、義歯の管理、複製義歯、義歯修理、刻印、写真撮影、スキャン、データベース管理)
成績評価の方法 評価は、提出作品、課題、および試験(筆記試験(対面):60分)によって行う。 ・実習製作物(複製義歯 10 点、義歯修理 10 点、刻印 5 点)、実習レポート(モニタリング、義歯管理、デジタルデータの作成、各 5 点)、筆記試験(60 点)で総合的に評価する。 ・実習製作物は担当教員 2 名の評価の平均点を得点とする。 ・試験が 100 点満点中 60 点未満の場合は再試験とする。
成績評価の基準 ・試験の点数が 60 点以上のものを合格とする。 ・配点は、筆記試験 60 点と実習製作作品 2 種の評価合計 25 点、実習レポート 15 点とし、合計 100 点満点で換算する。 ・出席状況、授業態度を加味して総合的に評価し、この科目の評価とする。
準備学習等についての具体的な指示 事前に資料の配付、LMS へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。デモビデオを必ず視聴してから実習にのぞむこと。データの保存に際して PC や USB メモリーを準備すること。 最初の講義前までにプレテスト、最後の講義のあとにポストテストを実施してください。この2つのテストは成績評価に関与しませんが、みなさんの事前知識の確認を行い講義実習内容に反映させ、終了後にどのくらい理解できたかを確認するために行います。
試験の受験資格 試験、追・再試験を受験する資格は以下のすべてとする。 ・3 分の 2 以上の出席を基本とする。出席確認は学生証のカードタッチ、授業中に実施される課題提出で行う。遅刻でもカードタッチがなければ欠席とする。 ・対面講義に出席すること。 ・演習実習に出席し、提示された期限までに課題を提出すること。 ・特別に勘案すべき事情があるために指示が達成できない場合には、その事情とともに締め切り前および授業開始前までに科目責任者にメールで連絡すること。これらの十分な対応が行われたと判断された場合には事情などに応じてレポート等での対応を行うこととする。
教科書 義歯ケア事典：らくらくお口のケア：義歯ケアマイスター認定テキスト／日本義歯ケア学会編 日本義歯ケア学会、浜田、泰三、水口、俊介：永末書店、2018
参考書 複製義歯：慣れた義歯こそ高齢者の求める義歯／濱田泰三、市川哲雄著、浜田、泰三、市川、哲雄：永末書店、2017 複製義歯を応用した咬座印象法による総義歯の臨床／矢崎秀昭 著、矢崎、秀昭、1942-、：医歯薬出版、2004 すぐに知りたい！口腔内規格写真クイック Q&A／片山章子 執筆、片山達治 監修、片山、章子、片山、達治：デンタルダイヤモンド社、2017 デンタルハイジーン別冊 どうして？どうする？診療室からはじまる高齢者歯科／戸原玄：医歯薬出版、2020 災害歯科医学／槻木恵一、中久木康一編、槻木、恵一、中久木、康一、足立、了平、飯田、良平、大平、寛：医歯薬出版、2018 義歯安定剤／浜田泰三[ほか]著、浜田、泰三、村田、比呂司、夕田、貞之、玉本、光弘、貞森、紳丞：デンタルダイヤモンド社、2003
他科目との関連 全部床義歯実習、部分床義歯実習を基礎とし、審美修復学実習、高齢者歯科学、臨床実習Ⅰと一部連動しています。
履修上の注意事項 事前に資料の配布、LMS へのアップロード等があった場合には、予習して授業に臨むこと。実習デモビデオを必ず視聴してから授業に臨むこと。
備考 実習：各自デモビデオをあらかじめ視聴してから実習をしてください。 ステップごとにチェックを行います。 昨年度のアンケート結果より、理解しやすいよう、講義のあとにできるだけすぐ実習となるように日程変更を行いました。限られた時間内で実習が行えるよう、教育内容を減らし、実習時間を確保しました。

担当教員のオフィスアワーおよび連絡先

大木明子 准教授 メールにて日時を相談 moki.mfoe@tmd.ac.jp

塩沢真穂 助教 メールにて日時を相談 m.shiozawa.abm@tmd.ac.jp

オフィスアワー

大木 明子:メールにて面談の日程を調整すること。2 号館 2 階准教授室

時間割番号	023940				
科目名	デジタル金属床義歯実習			科目ID	
担当教員	沖本 祐真, 高市 敦士, 岩城 麻衣子[Yushin Okimoto, TAKAICHI Atsushi, IWAKI Maiko]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	3	単位数	2
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面

主な講義場所

第1 実習室、重合・鋳造室、リアルモードラボ

授業の目的、概要等

部分的歯牙欠損患者の口腔機能回復のための理論と、各種構成要素に用いる材料の諸性質を理解、および補綴装置の構造力学的安定を考慮し、個々の臨床ケースに対応できる部分義歯製作のための技法および技術を身につける。

授業の到達目標

1. 金属床義歯の設計線の記入ができる。
2. CAD を用いた金属床のデザインができる。
3. キャスト用レジンパターンを造形することができる。
4. スプルーイングができる。
5. リン酸塩系埋没材で埋没ができる。
6. コバルトクロム合金の鋳造ができる。
7. ワイヤークラスプの屈曲ができる。
8. メタルフレームの形態修正・研磨ができる。
9. 審美性・機能性に配慮して人工歯排列ができる。
10. 機能性および生体親和性に配慮して歯肉形成ができる。
11. 即時重合レジンの流し込みと重合ができる。
12. レジン床の形態修正と研磨ができる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-4	4/6	13:30-17:05	第1実習室	義歯の設計、サベイング、モデルスキャン、モデリング	支台装置の概略と構成要素、金属床外形線の記入、作業模型のスキャン、鋳造床製作術式の講義、CAD ソフトウェアを用いたモデリング、力学的構造設計	高市 敦士, 沖本 祐真	到達目標:1, 2
5-8	4/20	13:30-17:05	第1実習室	モデリング、プリンティング	CAD ソフトウェアを用いたモデリング、力学的構造設計、3D プリンターによるレジンパターンの造形	高市 敦士, 沖本 祐真	到達目標:1, 2, 3
9-12	4/27	13:30-17:05	第1実習室	モデリング、プリンティング	CAD ソフトウェアを用いたモデリング、力学的構造設計、3D プリンターによるレジンパターンの造形	高市 敦士, 沖本 祐真	到達目標:1, 2, 3
13-17	5/11	13:30-18:00	第1実習室	レジンパターン形態修正	模型上でレジンパターンの形態修正	高市 敦士, 沖本 祐真	到達目標:1, 2, 3
18-22	5/18	13:30-18:00	第1実習室	レジンパターン形態修正	模型上でレジンパターンの形態修正	高市 敦士, 沖本 祐真	到達目標:1, 2, 3
23-27	5/25	13:30-18:00	第1実習室	埋没、鋳造	スプルーイング、埋没、鋳造の講義	高市 敦士, 沖本 祐真	到達目標:4, 5
28-32	6/1	13:30-18:00	第1実習室	鋳造、形態修正、研磨	鋳造、スプルーカット、形態修正	高市 敦士, 沖本 祐真	到達目標:4, 5
33-37	6/8	13:30-18:00	第1実習室	メタルフレームワーク研磨、適合	クラスプの維持力調整、仕上げ研磨、作業用模型への適合	高市 敦士, 沖本 祐真	到達目標:8

38-42	6/15	13:30-18:00	第1実習室	メタルフレームワーク研磨、適合	クラスプの維持力調整、仕上げ研磨、作業用模型への適合	高市 敦士、 沖本 祐真	到達目標:8
43-47	6/22	13:30-18:00	第1実習室	ワイヤークラスプ	ワイヤークラスプの屈曲、フレームワークへの接着	高市 敦士、 沖本 祐真	到達目標:7
48-52	6/29	13:30-18:00	第1実習室	人工歯排列、歯肉形成	臼歯部人工歯排列、歯肉形成	高市 敦士、 沖本 祐真	到達目標:9, 10
53-56	7/6	13:30-17:05	第1実習室	レジン重合、形態修正	レジン重合、形態修正	高市 敦士、 沖本 祐真	到達目標:11
57-60	7/13	13:30-17:05	第1実習室	研磨	レジン研磨、完成 実習作品の提出	高市 敦士、 沖本 祐真	到達目標:12

授業方法

実習

上顎金属床義歯の製作

事前に isct LMS に提示されている資料を学習して予習しておくこと

授業内容

授業明細のスケジュールは目安であり、実際の進行状況に合わせて適宜前後する場合があります

成績評価の方法

評価は実習で製作する作品と出席状況によって行う。

・完成製作物(90 点):形態(40 点)、適合状態(20 点)、研磨状態(30 点)

・出席状況(10 点)

で総合的に評価する。授業態度を加味する。

成績評価の基準

・実習で製作した完成製作物(90 点)、出席状況(10 点)で評価を行う。60 点以上を合格とする。

・授業態度を総括的評価に加味する。

準備学習等についての具体的な指示

事前に isct LMS 上にある実習帳を熟読し、当日の実習内容について把握しておくこと。

試験の受験資格

出席は授業開始時に確認をする。実習開始 10 分以内は遅刻として扱い、それ以降は欠席として扱う。

試験は実施しないが、以下を必須とする。

・4 分の 3 以上の出席すること。

・提示された期限までに作品を提出すること。

教科書

新 1 週間でマスターするキャストパーシャル／川島 哲, 1948-,川島哲 著:医歯薬出版, 2012.10

T.K.M.キャストデンチャーのすべて : Bio-mimetic cast denture／川島 哲,川島哲著:医歯薬出版, 2005.10

参考書

「デジタルサベヤーによるキャストクラスプの設計と製作」野首孝祠・小野高裕・奥野善彦 著 デンタルエコー Vol.66 SHOFUInc. 京都 1984

「コバルトクロム合金を用いたキャストクラスプの合理的な製法」野首孝祠・小野高裕・守光隆・奥野善彦著 デンタルエコー Vol.71 SHOFUInc. 京都 1986

「パーシャルデンチャーの設計・製作によりよい環境を求めて」野首孝祠・安井栄・喜多誠一・奥野善彦 著 デンタルエコー Vol.89 SHOFUInc. 京都 1992

「合理的で確実なパーシャルデンチャーの製作方法」池邊一典・野首孝祠 著 デンタルエコーVol.109 SHOFUInc. 京都 1997

「金属床と構造設計進化論-軽くて薄くて壊れない金属床義歯の設計と製作」古賀壮一 歯科技工 Vol.33 No.4 pp.409-433 医歯薬出版 東京 2005

「義歯に血の通うまで〜アルプス歯科の総義歯製作技法」中込敏夫・向井道夫 著 サンバレー書房 2011

「Fundamentals of Esthetic Dental Technology」歯科技工別冊 医歯薬出版 2009

「パーシャルデンチャー製作のための設計/構造」歯科技工別冊 医歯薬出版 2000

履修上の注意事項

事前に資料の配付、isct LMS へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。
備考 前年度のアンケート結果を踏まえて今年度も同様の内容で実施する
オフィスアワー 高市 敦士随時(メールにて面談の日程を調整すること) 2号館2階 口腔デジタルプロセス学分野 教授室

時間割番号	023970				
科目名	審美修復学実習			科目ID	
担当教員	池田 正臣, 市原 謙一, 青木 和広, 田村 聡[IKEDA Masaomi, ICHIHARA Kenichi, AOKI Kazuhiro, TAMURA Sou]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	3	単位数	2
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面

主な講義場所

2 号館 4 階第 1 実習室、ポーセレン室、総合実習室、2 号館 3 階 CAD/CAM 演習室

授業の目的、概要等

審美歯冠修復に用いられるセラミックスクラウンのフレームが備えるべき理工学的条件および形態的特徴を理解し、陶材築盛作業および形態修正の基礎技術を習得する。

授業の到達目標

1. 審美歯冠修復に関する概要を説明できる。
2. 高精度な歯冠修復物を製作するための精密な作業用模型を製作できる。
3. 審美的および機能的に考慮された歯冠回復できる。
4. サポートエリアおよび陶材築盛量を考慮したフィニッシングライン設計および窓開けできる。
5. 変形がない精密なワックスパターンを採得できる。
6. 歯科用 CAD/CAM を使用し、咬合に配慮した理想的な歯冠形態を設計し切削加工できる。
7. ジルコニアコーピングを製作する際の歯科用 CAM の特性を説明できる。
8. ジルコニアフレームを支台歯模型に正確に適合できる。
9. サポートエリアを十分確保した陶材築盛面を調整および形成できる。
10. 歯科用陶材の特徴を理解し、それぞれ製品別の色調再現法を理解し実践できる。
11. 複数の陶材を混ぜることなく積層できる。
12. 陶材を盛り上げることによって歯冠形態を再現できる。
13. ステインによる色調表現法を理解し、実践できる。
14. 天然歯の持つ質感を、形態修正および艶出しによって表現できる。
15. 支台歯への適合を確認し、隣接および咬合接触点を調整して研磨できる。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-4	4/10	10:45-15:10	第1実習室 総合実習室	審美修復実習の概要 作業用模型製作 1	実習内容説明、トリミング、ダウエルピン植立、2 次石膏、3 次石膏	池田 正臣 市原 謙一	到達目標:1,2 学習方法:実習
5-8	4/17	13:30-17:05	第1実習室 総合実習室	作業用模型製作 2	スプリットキャスト付与、歯型分割、咬合器装着、マージントリミング、ガム模型製作	池田 正臣 市原 謙一	到達目標:2 学習方法:実習
9-12	4/24	13:30-17:05	第1実習室 総合実習室	作業用模型製作 3	咬合器装着、マージントリミング、ガム模型製作	池田 正臣 市原 謙一	到達目標:2 学習方法:実習
13-16	5/1	13:30-17:05	第1実習室 総合実習室	ワックスアップ 1	上顎中切歯（歯冠回復） 下顎大臼歯（歯冠回復）	池田 正臣 市原 謙一	到達目標:3 学習方法:実習
17-20	5/8	13:30-17:05	第1実習室 総合実習室	ワックスアップ 2	上顎中切歯（歯冠回復） 下顎大臼歯（歯冠回復）	池田 正臣 市原 謙一	到達目標:3 学習方法:実習
21-24	5/15	13:30-17:05	第1実習室 総合実習室	ワックスアップ 3	上顎中切歯（カットバック）、下顎大臼歯（カットバック）	池田 正臣 市原 謙一	到達目標:3 学習方法:実習

25-28	5/29	13:30-17:05	リアルモ ードラボ, 第1実習 室 総合 実習室	歯科用 CAD/CAM 1	上顎中切歯デザイン CAM 操作 Zr ディスクミリング加工 シンタリ ング	池田 正臣 市原 謙一	到達目標:6.7 学 習方法:実習
29-32	6/5	13:30-17:05	リアルモ ードラボ, 第1実習 室 総合 実習室	歯科用 CAD/CAM 2	上顎中切歯デザイン CAM 操作 Zr ディスクミリング加工 シンタリ ング	池田 正臣 市原 謙一	到達目標:6.7 学 習方法:実習
33-36	6/12	13:30-17:05	リアルモ ードラボ, 第1実習 室 総合 実習室	歯科用 CAD/CAM 3 ジルコニアフレーム調 整	下顎大臼歯デザイン 上顎中切 歯 適合、フレーム調整	池田 正臣 市原 謙一	到達目標:8.9 学 習方法:実習 実 習作品の提出
37-40	6/19	13:30-17:05	リアルモ ードラボ, 第1実習 室 総合 実習室	歯科用 CAD/CAM 4 ジルコニアフレーム調 整	下顎大臼歯デザイン 上顎中切 歯 適合、フレーム調整	池田 正臣 市原 謙一	到達目標:8.9 学 習方法:実習 実 習作品の提出
41-44	6/26	13:30-17:05	第1実習 室 総合 実習室	陶材築盛練習 1	陶材築盛練習、色調表現練習	池田 正臣 市原 謙一	到達目標:10-15 学習方法:実習
45-48	7/3	13:30-17:05	第1実習 室 総合 実習室	陶材築盛練習 2	上顎中切歯、歯冠回復、カットバッ ク練習	池田 正臣 市原 謙一	到達目標:12-15 学習方法:実習
49-52	7/10	13:30-17:05	第1実習 室 総合 実習室	陶材築盛・焼成 1	上顎中切歯、シェードベース築盛・ 焼成 上顎中切歯、内部ステイ ン、築盛陶材築盛・焼成	池田 正臣 市原 謙一	到達目標:12-15 学習方法:実習
53-57	7/17	13:30-18:00	第1実習 室 総合 実習室	カービングコンテスト	カービングコンテスト	池田 正臣 市原 謙一	到達目標:12-15 学習方法:実習
58-60	7/24	11:40-15:10	第1実習 室 総合 実習室	形態修正、完成	上顎中切歯、咬合調整、形態修 正、ステイン、作品提出	池田 正臣 市原 謙一	到達目標:12-15 学習方法:実習

授業方法

実習

上顎中切歯、下顎大臼歯の審美修復補綴装置の製作実習

事前に WebClass に提示されている資料、デモビデオを学習して予習しておくこと。

授業内容

審美修復補綴装置の製作実習

成績評価の方法

評価は実習で製作するプロダクトによって行う。

上顎中切歯(適合、形態、研磨状態、色調:計 60 点)

下顎大臼歯(CAD)20 点

WaxUp(各 10 点)

について段階的に評価し、合計点数を成績とする。

成績評価の基準

・実習で製作した作品で評価を行う(配点 100 点)。60 点以上を合格とする。

・参加状況、授業態度を総括的評価に加味する。
準備学習等についての具体的な指示 実習予定表および実習資料を事前に確認し、当日行う実習内容を把握しておくこと。
試験の受験資格 定期試験、追・再試験を受験する資格は以下のすべてとする。 ・4 分の 3 以上の出席を基本とする。 ・実習に出席し、提示された期限までにプロダクトを提出すること。
教科書 歯冠修復技工学／全国歯科技工士教育協議会編；末瀬一彦ほか著,全国歯科技工士教育協議会,末瀬 一彦,：医歯薬出版, 2017 基礎から学ぶ CAD/CAM テクノロジー／日本デジタル歯科学会, 全国歯科技工士教育協議会 監修,末瀬一彦, 宮崎隆 編,末瀬 一彦, 1951-,宮崎, 隆, 1953-,日本デジタル歯科学会,全国歯科技工士教育協議会,：医歯薬出版, 2017
参考書 CAD/CAM デンタルテクノロジー／日本歯科 CAD CAM 学会, 全国歯科技工士教育協議会 監修,末瀬一彦, 宮崎隆 編,末瀬 一彦, 1951-, 宮崎, 隆, 1953-,日本歯科 CAD/CAM 学会,全国歯科技工士教育協議会,：医歯薬出版, 2012 メタルセラミックス築盛の基礎／山本真著,山本, 真,：クインテッセンス出版, 1989 ザ・メタルセラミックス：カラーアトラス／山本真著,山本, 真(歯科学),：クインテッセンス出版, 1982 ・「最新 CAD/CAM レストレーション」三浦宏之・宮崎 隆 編 補綴臨床別冊 医歯薬出版 2008 ・「メタルフリーレストレーションと CAD/CAM 技工の最前線」細川隆司・山下恒彦 編 歯科技工別冊 医歯薬出版 2007
履修上の注意事項 WebClass に資料がアップされているときには、事前に確認しておくこと。
備考 昨年度授業終了時アンケート結果より、実習内容を再検討し、昨年度より内容を改善している。 1 コマ 45 分授業となったための時間補填として、120 時間ではなく 128 時間となっている。
オフィスアワー 池田 正臣:メールにて面談の日程を調整すること

時間割番号	023980						
科目名	デジタル歯冠修復学実習			科目ID			
担当教員	土田 優美 高市 敦士[TSUCHIDA Yumi, TAKAICHI Atsushi]						
開講時期	2026 年度前期	対象年次	3	単位数	1		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面		
科目名:デジタル歯冠修復学実習 時間数:30 時間 授業形態:実習							
主な講義場所 2 号館 3 階 リアルモードラボ							
授業の目的、概要等 デジタルデンティストリーを応用した歯科補綴装置製作に関する知識及び技術を修得する。							
授業の到達目標 1. 模型用スキャナで歯列模型をスキャンできる。 2. 口腔内スキャナで歯列をスキャンする方法を説明できる。 3. フェイススキャナを用いて顔をスキャンする方法を説明できる。 4. CAD ソフトウェアを用いてクラウンブリッジの補綴装置の設計ができる。 5. 汎用 CAD ソフトウェアを用いた 3D モデリングができる。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	4/6	10:45-12:25	リアルモードラボ	3Shape の基本操作	3Shape の基本操作	土田 優美	到達目標:1.4 学習方法:実習 事前学習:なし
3-4	4/20	10:45-12:25	リアルモードラボ	3Shape の基本操作	3Shape の基本操作	土田 優美	到達目標:1.4 学習方法:実習 事前学習:なし
5-6	4/27	10:45-12:25	リアルモードラボ	スキャン	模型スキャン、口腔内スキャン、フェイススキャン	土田 優美	到達目標:1-3 学習方法:4 年生との合同実習 事前学習:なし
7-8	5/11	10:45-12:25	リアルモードラボ	スキャン	模型スキャン、口腔内スキャン、フェイススキャン	土田 優美	到達目標:1-3 学習方法:4 年生との合同実習 事前学習:なし
9-10	5/18	10:45-12:25	リアルモードラボ	スキャン	模型スキャン、口腔内スキャン、フェイススキャン	土田 優美	到達目標:1-3 学習方法:4 年生との合同実習 事前学習:なし
11-12	5/25	10:45-12:25	リアルモードラボ	CAD ソフトウェアを用いた設計実習	3Shape によるクラウン・インレーの設計	土田 優美	到達目標:4 学習方法:4 年生との合同実習 事前学習:なし
13-14	6/1	10:45-12:25	リアルモードラボ	CAD ソフトウェアを用いた設計実習	3Shape による前装クラウンの設計	土田 優美	到達目標:4 学習方法:4 年生との合同実習 事前学習:なし
15-16	6/8	10:45-12:25	リアルモ	CAD ソフトウェアを用い	3Shape によるブリッジの設計	土田 優美	到達目標:4 学習

			ードラボ	た設計実習			方法:4年生との 合同実習 事前学 習:なし
17-18	6/15	10:45-12:25	リアルモ ードラボ	CAD ソフトウェアを用い た設計実習	Exocad によるクラウン・インレー の設計	土田 優美	到達目標:4 学習 方法:4 年生との 合同実習 事前学 習:なし
19-20	6/22	10:45-12:25	リアルモ ードラボ	CAD ソフトウェアを用い た設計実習	Exocad による前装クラウンの設計	土田 優美	到達目標:4 学習 方法:4 年生との 合同実習 事前学 習:なし
21-22	6/29	10:45-12:25	リアルモ ードラボ	CAD ソフトウェアを用い た設計実習	Exocad によるブリッジの設計	土田 優美	到達目標:4 学習 方法:4 年生との 合同実習 事前学 習:なし
23-24	7/6	10:45-12:25	リアルモ ードラボ	CAD ソフトウェアを用い た設計実習	Freeform による汎用 CAD デザイ ン・最終評価対策	土田 優美	到達目標:4-5 学 習方法:4 年生と の合同実習 事前 学習:なし
25-26	7/7	09:45-11:30		調整中		土田 優美	
27-28	7/13	10:45-12:25	リアルモ ードラボ	CAD ソフトウェアを用い た設計実習	Freeform による汎用 CAD デザイ ン・最終評価対策	土田 優美	到達目標:4-5 学 習方法:実習 事 前学習:なし
29-30	7/27	10:45-12:25	リアルモ ードラボ	最終評価	最終評価	土田 優美	到達目標:1-5 学 習方法:実習 事 前学習:なし

授業方法

実習

デジタルデンティストリー領域の補綴装置設計の実習を行う。

最終日に最終評価を行う。

成績評価の方法

最終日に行われる製作物の評価によって行う。

出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

成績評価の基準

4 分の 3 以上の出席を単位取得の基本条件とする。

製作物の評点に出席状況、授業態度を加味して総合的に評価し、総合点が 80 点以上であれば A 評価以上とする。

準備学習等についての具体的な指示

事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

試験の受験資格

本科目は試験を行わない。

参考書

基礎から学ぶ CAD/CAM テクノロジー／日本デジタル歯科学会・全国歯科技工士教育協議会・末瀬 一彦, 1951-, 宮崎 隆, 1953-, 日本デジタル歯科学会, 全国歯科技工士教育協議会 監修・末瀬一彦, 宮崎隆 編: 医歯薬出版, 2017.8

備考

前年度履修学生の科目評価で、特段の改善意見がなかったため、前年度と同様の授業編成とする。

オフィスアワー

土田 優美 メールにて面談の日程を調整すること

時間割番号	023a00						
科目名	インプラント歯科補綴学実習			科目ID			
担当教員	池田 正臣, 佐藤 隆明, 林 政利, 下岸 将博, 柴崎 真樹, 山本 麻衣子[IKEDA Masaomi, SATO Takaaki, HAYASHI Masatoshi, SHIMOOGISHI MASAHIRO, SHIBASAKI Masaki, YAMAMOTO Maiko]						
開講時期	2026 年度前期	対象年次	3	単位数	2		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面		
必修 60 時間 講義 6 コマ、実習 54 コマ(実習室 52 コマ+企業見学 2 コマ)							
主な講義場所 遠隔授業、2 号館 4 階第 1 実習室、第 4 実習室、ポーセレン室、総合実習室、2 号館 3 階 CAD/CAM 演習室							
授業の目的、概要等 口腔インプラント治療について理解し、インプラント補綴装置製作の基本的な技術力を養う。歯科用 CAD/CAM システムを応用してインプラントアバットメントおよび上部構造の設計製作を行う。							
授業の到達目標 1. 口腔インプラント治療の流れを説明できる。 2. 口腔インプラントの上部構造の製作法を説明できる。 3. インプラント用個人トレーの製作法を説明できる。 4. インプラント修復物製作に必要な作業模型の精度を説明できる。 5. インプラント修復物に与えるべき咬合関係を説明できる。 6. インプラント修復物に与えるべき歯冠形態を説明できる。 7. 上部構造体の形態を考慮したアバットメントの設計を説明できる。 8. サポートエリアおよび陶材築盛量を考慮したフィニッシングライン設計およびカットバック法を説明できる。 9. 歯科用 CAD システムを用いてダブルスキャンによるコーピングの設計を説明できる。 10. 歯科用 CAD システムを用いてアバットメントの設計を説明できる。 11. ジルコニアコーピングとカスタムアバットメントに必要な適合精度を説明できる。 12. 修復物の最終歯冠形態をイメージして陶材の築盛方法を説明できる。 13. インプラント上部構造に与えるべき歯冠形態を説明できる。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	4/9	15:25-17:05	遠隔授業 (非同期型)	口腔インプラント 1	口腔インプラント概論 診察・検査と診断、治療計画の立案	池田 正臣 下岸 将博 柴崎 真樹	到達目標:1,2
3-4	4/16	13:30-15:10	遠隔授業 (非同期型)	口腔インプラント 2	インプラント外科 インプラント補綴	池田 正臣 柴崎 真樹	到達目標:1,2
5-6	4/23	13:30-15:10	遠隔授業 (非同期型)	口腔インプラント 3	デジタルワークフロー メンテナンス	池田 正臣 下岸 将博 柴崎 真樹	到達目標:1,2
7-10	4/30	13:30-17:05	第1実習室	CAD アバットメントデザイン	CAD/CAM システムを活用したアバットメント、上部構造の設計	池田 正臣 佐藤 隆明	到達目標:7
11-14	5/7	13:30-17:05	第1実習室	インプラント用個人トレーの製作	オーブントレーの製作、シリコーン印象への石膏注入	池田 正臣 佐藤 隆明	到達目標:3 実習作品の提出
15-18	5/14	13:30-17:05	第1実習室	作業用模型製作	ダウエルピン植立、二次石膏操作	池田 正臣 佐藤 隆明	到達目標:4
19-22	5/21	13:30-17:05	第1実習室	作業用模型製作、咬合	三次石膏操作、咬合器装着、歯型	池田 正臣	到達目標:4-8

			室	器装着、歯冠回復	分割、歯冠回復	林 政利 佐藤 隆明	
23-26	5/28	13:30-17:05	第1実習室	カスタムアバットメント形成	カスタムアバットメントのワックスアップ	池田 正臣 林 政利 佐藤 隆明	到達目標:5-8
27-30	6/4	13:30-17:05	第1実習室	上部構造体フレーム形成	ジルコニアアバットメント上での歯冠回復、窓開け	池田 正臣 林 政利 佐藤 隆明	到達目標:5,6,8
31-34	6/11	13:30-17:05	第1実習室	CAD/CAM 操作、ミリング、シンタリング	CAD/CAM システムによるスキヤニング、ディスク削り出し、シンタリング	池田 正臣 林 政利 佐藤 隆明	到達目標:9
35-38	6/18	13:30-17:05	第1実習室	ジルコニアフレーム調整	ジルコニアアバットメントへの適合確認・調整、フレーム形状の調整・研磨	池田 正臣 林 政利 佐藤 隆明	到達目標:10
39-42	6/25	13:30-17:05	第1実習室	陶材築盛 1	形態修正、艶出し・研磨イニシャル築盛(単色築盛法)	池田 正臣 林 政利 佐藤 隆明	到達目標:11-13
43-46	7/9	13:30-17:05	第1実習室	陶材築盛 2	形態修正、艶出し・研磨イニシャル築盛(単色築盛法)	池田 正臣 佐藤 隆明	到達目標:11-13
47-50	7/16	13:30-17:05	第1実習室	陶材築盛 3	形態修正、艶出し・研磨	池田 正臣 佐藤 隆明	到達目標:11-13
51-53	7/22	16:20-18:55	第1実習室	陶材築盛 4	形態修正、艶出し・研磨	池田 正臣 佐藤 隆明	到達目標:11-13
54-58	7/23	13:30-18:00	第1実習室	仕上げ・作品提出	仕上げ・作品提出	池田 正臣 佐藤 隆明	到達目標:11-13 実習作品の提出
59-60	9/3	13:30-15:10	第1実習室	GC R&D Center 見学	企業見学	池田 正臣 佐藤 隆明	到達目標:11-13

授業方法

遠隔授業(同期型)、実習、見学実習

インプラント個人トレー、アバットメント CAD 実習、上部構造製作実習

事前に isct LMS に提示されている資料、デモビデオを学習して予習しておくこと。

遠隔授業(同期型)で質問を受ける方法は、授業時間中のチャットや発言、または授業担当者にメールで質問してください。授業担当者より授業時間中に回答もしくはメールで回答します。

授業内容

口腔インプラント治療について理解し、インプラント補綴装置製作の実習を行う

(ほか、歯科企業の研究所見学を行う(9月3日予定))

企業見学時は、ふさわしい頭髪・服装で臨む事

成績評価の方法

評価は提出作品および期末試験(筆記試験)によって行う。

・インプラント用トレー(5点)、アバットメント CAD(5点)、上部構造 40点、期末試験(50点)について段階的に評価し、合計点数を作品の成績とする。

・期末試験の配点は 50点とするが、期末試験が 60%未満の場合は再試験とする。

成績評価の基準

・期末試験の点数が 60%以上のものを合格とする。

・配点は、筆記試験 50点、提出プロダクト 50点とし、合計 100点満点で換算する。

・授業態度・参加度を加味して総合的に評価し、この科目の評価とする。

準備学習等についての具体的な指示

実習予定表および実習資料を事前に確認し、当日行う実習内容を把握しておくこと。

試験の受験資格

定期試験、追・再試験を受験する資格は以下のすべてを満たすものとする。

・4 分の 3 以上の出席を基本とする。

・実習に出席し、提示された期限までにプロダクトを提出すること。

教科書

最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学／全国歯科技工士教育協議会 編:医歯薬出版, 2017

基礎から学ぶ CAD/CAM テクノロジー／日本デジタル歯科学会, 全国歯科技工士教育協議会 監修,末瀬一彦, 宮崎隆 編,末瀬 一彦, 1951-,宮崎, 隆, 1953-,日本デジタル歯科学会,全国歯科技工士教育協議会,:医歯薬出版, 2017

参考書

インプラント歯学の実際／Ashok Sethi・Thomas Kaus 著 瀬戸 皖一・佐藤 淳一訳:クインテッセンス出版, 2006

CAD/CAM デンタルテクノロジー／日本歯科 CAD CAM 学会, 全国歯科技工士教育協議会 監修,末瀬一彦, 宮崎隆 編,:医歯薬出版, 2012

メタルセラミックス築盛の基礎 : カラーアトラス／山本真 著,:クインテッセンス出版, 1989

ザ・メタルセラミックス : カラーアトラス／山本真 著,:クインテッセンス出版, 1982

・歯科技工別冊「インプラントの技工」市川哲雄・渡邊文彦 編 医歯薬出版 2004

・歯科技工別冊「メタルフリーレストレーションと CAD/CAM 技工の最前線」細川隆司・山下恒彦 編 医歯薬出版 2007

履修上の注意事項

isct LMS に資料がアップされたときは、事前に確認しておくこと。

備考

昨年度授業終了時アンケート結果より、実習内容、使用材料を再検討し、昨年度より内容を改善している。新カリキュラムより、15 時間増加の 60 時間の時間を確保しました。時間を有効に使うため、ビデオ教材を導入しています。

科目責任者のオフィシアワーおよび連絡先

メールにて日程調整

池田正臣 ikeda.csoe@tmd.ac.jp

佐藤隆明 t.sato.ope@tmd.ac.jp

オフィスアワー

池田 正臣:メールにて面談の日程を調整すること

時間割番号	023a10						
科目名	小児歯科学			科目ID			
担当教員	青木 和広, 岩本 勉, 岩城 麻衣子, 楠本 康香[AOKI Kazuhiro, IWAMOTO Tsutomu, IWAKI Maiko, KUSUMOTO Yasuka]						
開講時期	2026 年度後期	対象年次	3	単位数	1		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面		
時間数:15 時間 授業形態:講義(対面)							
主な講義場所 講義はすべて対面授業							
授業の目的、概要等 小児の心身の成長・発達をふまえ、発達期口腔保健の意義および発達期口腔疾患の特徴、予防・治療法を理解する。							
授業の到達目標 1. 歯の萌出と乳歯・幼若永久歯の特徴を説明できる。 2. 出生から青少年期までの心身の成長・発達を説明できる。 3. 小児の情緒と社会性の発達を説明できる。 4. 摂食機能と言語機能の発達過程を理解できる。 5. 歯列咬合と顎・顔面頭蓋の成長過程を説明できる。 6. 小児う蝕の特徴・小児歯科疾患および治療の概要を説明できる。 7. 小児歯科治療に用いる咬合誘導を概説できる。 8. 口腔習癖とその治療法および筋機能を説明できる。 9. 乳歯・永久歯の外傷の特徴と治療法について説明できる。 10. 小児期歯科におけるチーム医療を説明できる。 11. 歯科治療時の小児の行動への対応法を説明できる。 12. 小児に特有な心身の問題とその解決策を概説できる。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-3	9/28	09:45-12:25	第3講義室	小児歯科学とは 小児の成長・発達1・発達2	小児歯科の特徴、意義 全身の発育、器官の発育, 摂食嚥下、無歯期の特徴、顎間空隙、言語、情動、社会性	岩本 勉	到達目標:1-4
4-6	9/30	13:30-16:10	第3講義室	顎顔面の発育・歯・歯列の発育と異常	骨の成長様式、顎の発育、歯の発生、 歯の発育、乳歯の形態、歯の発育異常、 歯列の形態、ヘルマンの咬合発育段階、生理的歯間空隙、ターミナルプレーンの定義と意義、切歯の交換	岩本 勉	到達目標:5
7-9	10/19	09:45-12:25	第3講義室	小児う蝕の特徴 小児の歯冠修復、歯内療法 小児の歯周疾患、軟組織疾患	齲蝕発症の要因、乳歯う蝕の特徴 小児の歯冠修復、歯内療法 小児の歯周疾患、軟組織疾患	岩本 勉	到達目標:6
10-12	10/26	13:30-16:10	第2講義室	咬合誘導概論 保険＋動的咬合誘導 口腔習	咬合誘導の目的、意義 保険装置の種類、クランループ、バンドル	岩本 勉	到達目標:7, 8

時間割番号	023a20						
科目名	小児歯科学実習			科目 ID			
担当教員	青木 和広, 柿野 聡子, 楠本 康香, 岩城 麻衣子, 杉本 明日菜, 久保 優里[AOKI Kazuhiro, KAKINO Satoko, KUSUMOTO Yasuka, IWAKI Maiko, SUGIMOTO Asuna, KUBO Yuri]						
開講時期	2026 年度後期	対象年次	3	単位数	1		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面		
主な講義場所 第1実習室							
授業の目的、概要等 小児の心身の成長・発達をふまえ、発達期口腔保健の意義および発達期口腔疾患の特徴、予防・治療法を理解する。 スペシャルニーズのある患者の口腔内状況、治療内容と口腔内装置の実際を理解する。							
授業の到達目標 1. 小児歯科治療に用いる装置の目的および構成を説明できる。 2. 小児歯科治療に用いる装置の製作法を理解し、製作できる。 3. スペシャルニーズのある患者について理解を深めるとともに、口腔状況と口腔内装置の実際を理解できる。 4. 見学実習を通して歯科技工のニーズを把握できる。 5. 障害者理解を深めるとともに口腔の特徴について理解できる。 6. 障害者の歯科治療時における行動調整、口腔状況と補綴装置を理解できる。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-4	10/14	13:30-17:05	第3講義室	クラウンループ	実習用模型咬合器装着 クラウンループ製作	柿野 聡子	到達標:1, 2
5-8	10/21	13:30-17:05	第1実習室	クラウンループ	クラウンループ製作	柿野 聡子	到達標:1, 2
9-12	10/28	13:30-17:05	第1実習室	可撤保隙装置	可撤保隙装置製作	柿野 聡子	到達標:1, 2
13-16	11/4	13:30-17:05	第1実習室	可撤保隙装置	可撤保隙装置製作	柿野 聡子	到達標:1, 2
17-20	11/11	13:30-17:05	第1実習室	小児矯正装置	小児矯正装置製作	柿野 聡子	到達標:1, 2
21-22	11/16	13:30-15:10	第2講義室	障がい者歯科概論	障がい者・有病者の口腔内の特徴と歯科治療	楠本 康香	到達標:5, 6
23-26	11/18	13:30-17:05	第1実習室	小児矯正装置	小児矯正装置製作	柿野 聡子	到達標:1, 2
27-30	11/26	13:30-17:05	その他	学外施設見学	学外施設(ゆきわりそう)	青木 和広	到達目標:5, 6 久保優里担当
授業方法 実習 クラウンループ、可撤式保隙装置、小児矯正装置(スペースリゲーター)の製作実習 事前に WebClass で提示されている資料を学習して予習しておくこと。 レポート課題が課されるため、期限までに提出すること。							
授業内容 評価は提出作品およびレポート課題によって行う。 ・クラウンループ、可撤式保隙装置、小児矯正装置(スペースリゲーター) 各 25 点、計 75 点 ・遠隔授業による講義および演習、レポート提出 25 点							

・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。
成績評価の方法 評価は提出作品およびレポート課題によって行う。 ・クラウンループ、可撤式保険装置、小児矯正装置（スペースリグーナー）各 25 点、計 75 点 ・遠隔授業による講義および演習、レポート提出 25 点 ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。
成績評価の基準 ・提出作品 75 点、レポート課題 25 点、合計 100 点満点で換算し、60 点以上を合格とする。 ・出席状況、授業態度、小テスト結果を加味して総合的に評価し、この科目の評価とする。
準備学習等についての具体的な指示 事前に資料の配布、Webclass へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。
教科書 :医歯薬出版 :医歯薬出版
参考書 小児歯科技工学／全国歯科技工士教育協議会、内川、喜盛、白瀬、敏臣、尾崎、順男、1954-、全国歯科技工士教育協議会 編集、内川喜盛、白瀬敏臣、尾崎順男 著：医歯薬出版、2024.2 小児歯科学／白川、哲夫、福本、敏、岩本、勉、森川、和政、白川哲夫、福本敏、岩本勉、森川和政 編、白川哲夫〔ほか〕執筆：医歯薬出版、2023.2 障害者歯科学／全国歯科衛生士教育協議会、向井美恵〔ほか〕著、遠藤圭子〔ほか〕編集：医歯薬出版、2023.1
備考 昨年度授業終了時アンケート結果より、実習内容を再検討し、昨年度より内容等を改善している。 口腔基礎工学分野 教授 青木和広 kazuhiko_aoki.bhoe@tmd.ac.jp 非常勤講師 久保優里
オフィスアワー 青木 和広：毎週月曜日 16 時から 18 時 2 号館 2 階 216 号室（口腔基礎工学分野） オフィスにいない場合もあるので、あらかじめメールで問い合わせることを推奨。

時間割番号	023a30						
科目名	矯正歯科学			科目ID			
担当教員	塩沢 真穂, 細道 純[SHIOZAWA Maho, HOSOMICHI Jiyun]						
開講時期	2026 年度前期	対象年次	3	単位数	2		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面		
科目名:矯正歯工科学 時間数:30 時間 授業形態:講義、実習							
主な講義場所 遠隔授業(非同期型) 7号館5階 歯学科実習室3 2号館 第1実習室							
授業の目的、概要等 顎顔面頭蓋の成長発育ならびに不正咬合の原因・診断・治療について理解し、矯正歯科治療に必要な装置製作に関する知識と基本的技能を修得する。							
授業の到達目標 1. 顎顔面の成長発育と正常な歯列咬合の状態を理解できる。 2. 不正咬合の分類・種類・原因とその影響を理解できる。 3. 矯正歯科の診断・治療法を概説できる。 4. 矯正歯科装置の必要条件・分類・種類と使用法を説明できる。 5. 矯正歯科装置の製作法を理解できる。 6. 歯科矯正治療におけるチーム医療を理解できる。 7. 矯正歯科装置の必要条件・分類・種類と使用法を説明できる。 8. 矯正歯科装置の製作法を理解できる。 9. 歯科矯正治療におけるチーム医療を理解できる。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-3	4/7	08:50-11:30	遠隔授業 (非同期型)	矯正歯工科学序論、成長発育、正常咬合と不正咬合	歯科矯正学の歩み、不正咬合による障害と矯正歯科治療の意義、矯正歯科治療における矯正歯科技工の意義、顎顔面頭蓋の成長発育、歯列・咬合の成長発育、正常咬合・不正咬合とその分類	細道 純	到達目標:1-6 isct LMS 終了後 小テストを実施
4-6	4/13	13:30-16:10	7号館5階歯学科実習室3	矯正技工基本の手技1-3 (歯学科と合同実習)	ワイヤーベンディング	細道 純	到達目標:5 歯学科との合同実習のため、歯学科の担当教員で実施 12:50～15:40
7-9	4/14	08:50-11:30	7号館5階歯学科実習室3	矯正技工基本の手技4-5 (歯学科と合同実習)	ワイヤーベンディング、自在鉗着	細道 純	到達目標:5 歯学科との合同実習のため、歯学科の担当教員で実施 9:00～11:50
10-12	4/21	08:50-11:30	遠隔授業	不正咬合の原因・予防と	不正咬合の原因と予防、矯正力に	細道 純	到達目標:2.3

定期試験、追・再試験を受験する資格は以下のすべてとする。

・2/3 以上の出席を受験資格とする。

・遠隔授業(非同期型)に出席し、小テストなどの課題を提示された期限までに提出すること。

・実習に出席し、提示された期限までに製作物を提出すること。

・特別に勘案すべき事情があるために指示が達成できない場合や授業に参加できない場合には、その事情とともに締め切り前および授業開始前までに科目責任者にメールで連絡すること。これらの十分な対応が行われたと判断された場合には事情などに応じてレポート等での対応を行うこととする。

教科書

最新歯科技工士教本 矯正歯科技工学／全国歯科技工士教育協議会編；後藤尚昭, 宇都宮宏充, 横山和良著, 全国歯科技工士教育協議会, 後藤, 尚昭, 宇都宮, 宏充, 横山, 和良: 医歯薬出版, 2017

参考書

矯正歯科技工学／全国歯科技工士教育協議会 編集, 後藤尚昭, 宇都宮宏充, 横山和良 著: 医歯薬出版, 2017

歯科技工士のための実践矯正装置製作法／尾崎順男, 宇都宮宏充, 茂原宏美, 後藤尚昭 著: クインテッセンス出版, 2007

チェアサイド・ラボサイドの新矯正装置ビジュアルガイド：患者さんに渡せる装置の説明リーフレット付／後藤滋巳 編者代表: 医歯薬出版, 2015

矯正歯科技工・小児歯科技工：歯科技工学実習トレーニング／関西北陸地区歯科技工士学校連絡協議会 編: 医歯薬出版, 2011

最新歯科矯正アトラス／井上直彦・鈴木祥井著: 医歯薬出版, 1984

最新歯科矯正アトラス臨床編Ⅰ／井上直彦著: 医歯薬出版, 1982

歯科矯正学／飯田順一郎, 葛西一貴, 後藤滋巳, 末石研二, 槇宏太郎, 山城隆 編集, 飯田, 順一郎, 葛西, 一貴, 1955-, 後藤, 滋巳, 1952-, : 医歯薬出版, 2019

Contemporary Orthodontics／6th Ed., W. R. Proffit 他著: ELSEVIER MOSBY, 2019

歯科技工士国家試験問題集／全国歯科技工士教育協議会 編: 医歯薬出版, 2019

新・要点チェック歯科技工士国家試験対策 6 矯正歯科技工学・小児歯科技工学／関西北陸地区歯科技工士学校連絡協議会 編: 医歯薬出版, 2020

備考

講義、実習が含まれます。

昨年度授業終了時アンケート結果より、実習内容を再検討し、昨年度より内容を改善している。

担当教員のオフィシアワーおよび連絡先

細道 純 hosomichi.orts@tmd.ac.jp

科目責任者のオフィシアワーおよび連絡先

塩沢 真穂 m.shiozawa.abm@tmd.ac.jp

メールにて面談の日程を調整すること

オフィシアワー

塩沢 真穂 2 号館 3 階 314

時間割番号	023a40						
科目名	再建工学包括臨床実習Ⅰ			科目ID			
担当教員	塩沢 真穂、佐藤 隆明、池田 正臣、伊藤 奏、LIAO SHIN RU、森下 幸治[SHIOZAWA Maho, SATO Takaaki, IKEDA Masaomi, ITO Kanade, LIAO SHIN RU, MORISHITA Koji]						
開講時期	2026 年度後期	対象年次	3	単位数	3.5		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面		
実習 118 コマ							
主な講義場所							
2 号館 4 階第 1 実習室、総合実習室、重合鋳造室、硬質レジン実習室、CAD/CAM 実習室、2 号館 3 階 CAD/CAM 演習室、歯学部附属病院外来、スキルスラボ(救命救急実習)、遠隔授業(Zoom)							
授業の目的、概要等							
歯科医療チームの一員として診療参加型臨床実習を円滑に実践、遂行するための準備段階として必要な基本的態度・知識・技能を習得する。							
授業の到達目標							
1. 医療人としての倫理観を身につけられる。 2. 多職種との連携に必要な事項を列挙できる。 3. 臨床模型による歯科技工操作の留意点を説明できる。 4. 臨床実習に必要な基本的歯科技工技術を習得できる。 5. 歯学部附属病院における各診療科の特徴を理解できる。 6. 歯科補綴装置の製作に必要な情報を取得し、整理できる。 7. 症例に応じた補綴デザインを選択できる。 8. 歯学附属病院の感染対策について説明できる。 9. 個人用防護具(PPE)を正しく着脱できる。 10. 医療安全について理解し、説明できる。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	9/7	08:50-10:30	特別講堂 (D 棟 4 階)	登院式	合同式典参加 オリエンテーション 臨床実習に必要な服装、態度	池田 正臣 塩沢 真穂 佐藤 隆明	到達目標:1-3 服装規定あり、式の開始前に集合
3-5	9/30	09:45-12:25	第1実習室 総合実習室	再建工学包括臨床実習 PhaseⅠ	オリエンテーション 臨床実習に必要な基本的歯科技工技術の確認	池田 正臣 塩沢 真穂 佐藤 隆明	到達目標:1-3
6-8	10/14	09:45-12:25	第1実習室 総合実習室	再建工学包括臨床実習 PhaseⅠ	臨床模型を使った歯科技工技術の習得	池田 正臣 塩沢 真穂 佐藤 隆明	到達目標:3,4,6,7
9-11	10/21	09:45-12:25	第1実習室 総合実習室	再建工学包括臨床実習 PhaseⅠ	臨床模型を使った歯科技工技術の習得	池田 正臣 塩沢 真穂 佐藤 隆明	到達目標:3,4,6,7
12-14	10/28	09:45-12:25	第1実習室 総合実習室	再建工学包括臨床実習 PhaseⅠ	臨床実習に必要な基本的歯科技工技術の確認	池田 正臣 塩沢 真穂 佐藤 隆明	到達目標:1-3
15-17	11/2	09:45-12:25	第1実習室 総合実習室	再建工学包括臨床実習 PhaseⅠ	臨床実習に必要な基本的歯科技工技術の確認	池田 正臣 塩沢 真穂 佐藤 隆明	到達目標:1-3
18-20	11/4	09:45-12:25	第1実習室 総合実習室	再建工学包括臨床実習 PhaseⅠ	臨床実習に必要な基本的歯科技工技術の確認	池田 正臣 塩沢 真穂	到達目標:1-3

			実習室			佐藤 隆明	
21-23	11/11	09:45-12:25	第1実習室 総合実習室	再建工学包括臨床実習 Phase I	臨床実習に必要な基本的歯科技工技術の確認	池田 正臣 塩沢 真穂 佐藤 隆明	到達目標:3,4,6,7
24-26	11/16	09:45-12:25	第1実習室 総合実習室	再建工学包括臨床実習 Phase I	臨床実習に必要な基本的歯科技工技術の確認	池田 正臣 塩沢 真穂 佐藤 隆明	到達目標:3,4,6,7
27-29	11/18	09:45-12:25	第1実習室 総合実習室	再建工学包括臨床実習 Phase I	臨床実習に必要な基本的歯科技工技術の確認	池田 正臣 塩沢 真穂 佐藤 隆明	到達目標:3,4,6,7
30-31	11/24	09:45-11:30	第1実習室 総合実習室	再建工学包括臨床実習 Phase I	臨床実習に必要な基本的歯科技工技術の確認	池田 正臣 塩沢 真穂 佐藤 隆明	到達目標:3,4,6,7
32-38	11/25	08:50-16:10	その他 (歯学科)	再建工学包括臨床実習 Phase II	附属病院(歯系)の各診療科での臨床実習	池田 正臣 塩沢 真穂 佐藤 隆明	到達目標:1-5 各科ローテーション 到達目標: 8,9,10 事前に臨床咬合学で実習したビデオを確認しておくこと
39-45	11/27	08:50-16:10	その他 (歯学科)	再建工学包括臨床実習 Phase II	附属病院(歯系)の各診療科での臨床実習	池田 正臣 塩沢 真穂 佐藤 隆明	到達目標:1-5 各科ローテーション
46-52	11/30	08:50-16:10	その他 (歯学科)	再建工学包括臨床実習 Phase II	附属病院(歯系)の各診療科での臨床実習	池田 正臣 塩沢 真穂 佐藤 隆明	到達目標:1-5 各科ローテーション
53-59	12/2	08:50-16:10	その他 (歯学科)	再建工学包括臨床実習 Phase II	附属病院(歯系)の各診療科での臨床実習	池田 正臣 塩沢 真穂 佐藤 隆明	到達目標:1-5 各科ローテーション
60-66	12/4	08:50-16:10	その他 (歯学科)	再建工学包括臨床実習 Phase II	附属病院(歯系)の各診療科での臨床実習	池田 正臣 塩沢 真穂 佐藤 隆明	到達目標:1-5 各科ローテーション
67-73	12/7	08:50-16:10	その他 (歯学科)	再建工学包括臨床実習 Phase II	附属病院(歯系)の各診療科での臨床実習	池田 正臣 塩沢 真穂 佐藤 隆明	到達目標:1-5 各科ローテーション
74-80	12/9	08:50-16:10	その他 (歯学科)	再建工学包括臨床実習 Phase II	附属病院(歯系)の各診療科での臨床実習	池田 正臣 塩沢 真穂 佐藤 隆明	到達目標:1-5 各科ローテーション
81-87	12/11	08:50-16:10	その他 (歯学科)	再建工学包括臨床実習 Phase II	附属病院(歯系)の各診療科での臨床実習	池田 正臣 塩沢 真穂 佐藤 隆明	到達目標:1-5 各科ローテーション
88-90	12/16	09:45-12:25	第1実習室 総合実習室	再建工学包括臨床実習 Phase I	臨床実習に必要な基本的歯科技工技術の確認	池田 正臣 塩沢 真穂 佐藤 隆明	到達目標:3,4,6,7
91-92	12/23	09:45-11:30	スキルスラボ	再建工学包括臨床実習 Phase I	救命救急技術の確認	池田 正臣 塩沢 真穂 佐藤 隆明 森下 幸治	到達目標:3,4,6,7
93-96	1/13	08:50-12:25	第1実習室	再建工学包括臨床実習	臨床実習Ⅲ発表参加	池田 正臣	到達目標:3,4,6,7

			室 総合 実習室	Phase I		塩沢 真穂 佐藤 隆明	
97-99	1/13	13:30-16:10	第1実習 室 総合 実習室	再建工学包括臨床実習 Phase I	臨床実習に必要な基本的歯科 技工技術の確認	池田 正臣 塩沢 真穂 佐藤 隆明	到達目標:3,4,6,7
100-1 04	1/18	09:45-15:10	第1実習 室 7号館 3階歯学 科実習室 1. 総合 実習室	再建工学包括臨床実習 Phase I	平行模型製作実習の補助	池田 正臣 塩沢 真穂 佐藤 隆明 伊藤 奏 LIA O SHIN RU	到達目標:3,4,6,7 OHとの合同実習
105-1 07	1/20	13:30-16:10	第1実習 室 総合 実習室	再建工学包括臨床実習 Phase I	臨床実習に必要な基本的歯科 技工技術の確認	池田 正臣 塩沢 真穂 佐藤 隆明	到達目標:3,4,6,7
108-1 12	1/27	09:45-15:10	第1実習 室 総合 実習室	再建工学包括臨床実習 Phase I	臨床実習に必要な基本的歯科 技工技術の確認	池田 正臣 塩沢 真穂 佐藤 隆明	到達目標:3,4,6,7
113-1 15	2/3	13:30-16:10	第1実習 室 総合 実習室	再建工学包括臨床実習 Phase I	臨床実習に必要な基本的歯科 技工技術の確認	池田 正臣 塩沢 真穂 佐藤 隆明	到達目標:3,4,6,7
116-1 18	2/10	09:45-12:25	第1実習 室 総合 実習室	再建工学包括臨床実習 Phase I	臨床実習に必要な基本的歯科 技工技術の確認	池田 正臣 塩沢 真穂 佐藤 隆明	到達目標:3,4,6,7

授業方法

実習、演習

事前に isct LMS に提示されている資料を学習して準備しておくこと。

成績評価の方法

評価は実習で製作するプロダクトおよびレポートによって行う。

・歯冠修復(40点)、有床義歯(30点)、各科ローテーションレポート(30点)で総合的に評価し、合計点数を成績とする。

成績評価の基準

・実習で製作した作品およびレポートで評価を行う(配点100点)。60点以上を合格とする。

・小テスト、授業態度、参加度を総合的に評価に加味する。

準備学習等についての具体的な指示

・事前に資料の配布、isct LMS へのアップロード等があった場合には、予習して授業に臨むこと。

・登院式(9月7日)は、他学科との合同式典。時間厳守、服装統一(ユニフォーム配布)。

・各科ローテーションでは附属病院(歯系)の補綴系外来と歯科技工部で実習を行う。服装等に注意すること。不適切な服装・身だしなみの場合は実習を停止する。予定表やレポート書式に関しては isct LMS にアップロードされるので確認すること。

・救急救命実習では、マネキンを用いて演習する。動きやすい服装で参加すること。

試験の受験資格

・4分の3以上の出席を基本とする。

・実習に出席し、提示された期限までにプロダクトを提出すること。

教科書

基礎から学ぶCAD/CAMテクノロジー／日本デジタル歯科学会 全国歯科技工士教育協議会 末瀬 一彦, 1951-, 宮崎 隆, 1953-, 日本デジタル歯科学会, 全国歯科技工士教育協議会 監修 末瀬 一彦, 宮崎隆 編: 医歯薬出版, 2017.8

履修上の注意事項

・登院式の詳細は別に定める。 ・再建工学包括臨床実習 I Phase II (ローテーション実習)の具体的な班分け、詳細な日程は別に定める。 ・OHと合同模型製作実習があります。

備考

科目責任者、担当者のオフィシアワーおよび連絡先

連絡先

口腔医療工学分野

池田正臣 ikeda.csoe@tmd.ac.jp

佐藤隆明 t.sato.ope@tmd.ac.jp

塩沢 真穂 m.shiozawa.abm@tmd.ac.jp

オフィスアワー

メールにて面談の日程を調整すること

オフィスアワー

池田 正臣:メールにて面談の日程を調整すること

塩沢 真穂:2 号館 3 階 314

時間割番号	023554A						
科目名	医療倫理			科目ID			
担当教員	甲畑 宏子, 高市 敦士, 江花 有亮, 佐藤 信吾, 森下 幸治, 吉田 雅幸[KOBATA Hiroko, TAKAICHI Atsushi, EBANA Yusuke, SATO Shingo, MORISHITA Koji, YOSHIDA Masayuki]						
開講時期	2026 年度後期	対象年次	3	単位数	1		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	メディア利用科目		
科目名:医療倫理 時間数:15 時間 授業形態:講義・討論 必修							
主な講義場所 遠隔授業(同期型・非同期型)、討論 非同期授業は isctLMS 上の授業コンテンツを用いて行う 同期授業は ZOOM で行う Zoom 情報は授業明細を確認すること。 定期試験は情報検索室1で実施する							
授業の目的、概要等 ・倫理学の視点から生命倫理の基礎を確認し、その上で、生命倫理が取り組んできた課題および現在直面している問題について理解する。 ・医療倫理, 研究倫理, 技術倫理や個人情報保護について理解する。							
授業の到達目標 1. 生命倫理について説明する。 2. 優生思想の基礎的な理解とその歴史を説明する。 3. 現代の生命倫理が抱える課題を理論的および歴史的視点から論じる。 4. 倫理審査について説明する。 5. 個人情報保護の必要性を説明する 6. 医療倫理を説明する。 7. 技術者倫理および情報倫理について理解し、実践的な対応力を身につける。 8. 社会の現状および企業の仕組みを理解し、社会及び企業との関係において、技術者としてのあり方を身につける。 9.医療現場で働く他職種のメンバーを尊重する姿勢を有する 10.議論において必要な情報を共有し、協調し、また場合に応じてリーダーシップを発揮し、建設的な議論を促進する 11.全人的視点を身に着ける							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	4/8	09:45-11:30	遠隔授業 (同期型)	医療倫理総論	ZOOM:	高市 敦士	到達目標:1-11
3	4/8	11:40-12:25	遠隔授業 (非同期型)	医療研究のデザインの 実際	講義動画視聴(非同期)	高市 敦士, 江花 有亮	到達目標:1-11
4	4/22	10:45-11:30	遠隔授業 (非同期型)	・研究不正	講義動画視聴(非同期)	江花 有亮 高市 敦士	到達目標:1-11

5	4/22	11:40-12:25	遠隔授業 (非同期型)	・ゲノム診療・研究における倫理	講義動画視聴(非同期)	江花 有亮 高市 敦士	到達目標:1-11
6-7	5/20	10:45-12:25	遠隔授業 (非同期型)	終末期医療と倫理	講義動画視聴(非同期)	高市 敦士, 佐藤 信吾	到達目標:1-11
8-9	6/3	10:45-12:25	遠隔授業 (非同期型)	救命救急と医療倫理	講義動画視聴(非同期)	高市 敦士, 森下 幸治	到達目標:1-11
10-11	7/1	10:45-12:25	遠隔授業 (同期型)	歯科臨床における倫理		高市 敦士	到達目標:1-11
12-13	7/15	10:45-12:25	遠隔授業 (非同期型)	多職種連携と倫理	講義動画視聴(非同期)	高市 敦士, 甲畑 宏子	到達目標:1-11
14-15	9/2	10:45-12:25	遠隔授業 (非同期型)	研究倫理総論	大学開催の研究倫理講習会を受講する	高市 敦士	到達目標:1-11

授業方法

講義, 討論

成績評価の方法

定期試験(80点)医療倫理講習会受講レポート(20点)に出席状況を加味して総合的評価を行う。

成績評価の基準

- ・合計点数が60%以上のものを合格とする。
- ・出席状況を加味して総合的に評価し、この科目の評価とする。

準備学習等についての具体的な指示

授業明細を確認の上授業に臨むこと。

事前の資料配付および e-learning (isct LMS) 上へのアップロードがあった場合には、予習をして授業に臨むこと。

チェックを怠らず、指示に従って課題および予習を行うこと。

試験の受験資格

試験の受験資格は以下とする。

3 分の 2 以上の出席

* 非同期授業は授業後のレポート提出をもって出席とみなす。

参考書

技術者倫理：技術者として幸福を得るために考えておくべきこと／辻井洋行, 水井万里子, 堀田源治 著.: 日刊工業新聞社, 2016

優生学と人間社会：生命科学の世紀はどこへ向かうのか／米本 昌平 [ほか] 著, 米本 昌平.: 講談社

生そのものの政治学：二十一世紀の生物医学、権力、主体性／ニコラス・ローズ: 法政大学出版局, 2014

備考

昨年度授業終了時アンケート結果より、演習内容を修正し、内容を改善している。

オフィスアワー

高市 敦士 随時(メールにて面談の日程を調整すること)

2 号館 2 階 口腔デジタルプロセス学分野 教授室

時間割番号	023b00						
科目名	研究実習 I			科目 ID			
担当教員	青木 和広, 澁川 穂積, 池田 正臣, 土田 優美, 高市 敦士[AOKI Kazuhiro, SHIBUKAWA Hozumi, IKEDA Masaomi, TSUCHIDA Yumi, TAKAICHI Atsushi]						
開講時期	2026 年度後期	対象年次	3	単位数	1		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面		
時間数:60 時間 授業形態:講義・演習 遠隔授業(同期型)および対面授業 2 号館 2 階第 1 講義室、MD タワー4 階 図書館情報検索室							
主な講義場所 対面授業 遠隔授業(同期型) 2 号館 2 階第 1 講義室、MD タワー4 階 図書館情報検索室							
授業の目的、概要等 『「科学の進歩」と「人々の幸せ」とを探究し、社会とともに新たな価値を創造する』という本学の存在意義(ミッション)を中心に、各学生の知的興味、将来の方向性に沿った歯科技工領域研究、あるいは生物学と理工学の融合研究のテーマを検討し、実施に向けて、基本的な研究の進め方および先行研究の検索方法と研究のまとめ方を理解する。 研究者としてのキャリアについて理解する。							
授業の到達目標 1. 研究の進め方を説明できる。 2. EBM・EBHC の概念と研究者としての倫理観を説明できる。 3. 論文の構成を説明できる。 4. 理工学研究および生物学研究との融合研究の概念を説明できる。 5. 本学の基本理念に沿って、論文の検索と科学的吟味を行い、今日までの知見を整理する。 6. 本学の基本理念を中心に各人の知的興味、将来の方向性に沿った研究テーマを設定する。 7. 研究実施にあたって必要となる倫理的配慮、個人情報保護および動物の扱いを説明できる。 8. 結論を導くために必要な統計処理について説明できる。 9. 4年生で行う研究の背景および研究方法に関する研究計画書を指導者の助言を受け、記載できる。 10.修士、博士課程から研究者へのキャリアについて説明できる。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-3	7/24	08:50-11:30	第1講義室	研究テーマの思索	4 年生中間発表会に参加	青木 和広	到達目標:1-9
4	9/28	13:30-14:15	第2講義室	研究実習1オリエンテーション	研究実習の概要、Evidence-based Medicine (EBM)と研究者としての倫理観 未来を見つめる観点	青木 和広	到達目標:1-4 角 祥太郎先生講和
5-7	9/28	14:25-17:05	情報検索室 1	文献検索1	文献検索の実施と論文読解1 基本理念に沿って、論文を作成するために必要な参考文献の引用方法について学ぶ	青木 和広 澁川 穂積	到達目標:1-5,10 LMS に資料アップする 事前学習してくる。演習を行う。
8-10	10/19	13:30-16:10	情報検索室 2	文献検索2	文献検索の実施と論文読解2基本理念に沿って、研究テーマを策定	青木 和広 澁川 穂積	到達目標:1-5,10 LMS に資料アップ

					し、関連論文を収集する技術を学ぶ		プする 事前学習してくる。演習を行う。
11-12	11/9	13:30-15:10	第2講義室	研究テーマの決定 ノートの取り方の重要性 論文の読み方	教員から示されたテーマとそれ以外のテーマ	青木 和広	到達目標:1-9
13-16	12/8	08:50-12:25	第2講義室 特別講堂(D棟4階)	OH4卒業研究発表会	OH の卒研発表会に参加	青木 和広	到達目標:1-9
17	12/14	10:45-11:30	第2講義室	卒研テーマの決定	各分野の研究紹介から選択	青木 和広	到達目標:1-9
18-19	12/21	10:45-12:25	第2講義室	教員からの研究テーマの提案 研究に使う統計	統計の復習	青木 和広 池田 正臣	到達目標:1-5, 8 ノートの取り方の レポート提出
20-24	1/8	09:45-15:10	第2講義室 特別講堂(D棟4階)	OE 卒業研究発表会	卒業研究発表会に参加	青木 和広	到達目標:1-9 一人一人の発表 に対する感想記入
25-26	1/25	10:45-12:25	第2講義室	修士課程、博士課程の 学び		青木 和広	到達目標:1-10 2回生 土田優美 先生
27-28	2/1	10:45-12:25	第2講義室	研究に用いる統計	4年生が用いた統計を例に解説	池田 正臣	到達目標:8
29-30	2/8	10:45-12:25	第3講義室	文献検索 3	研究計画書の仕上げ	青木 和広 澁川 穂積	到達目標:1-9 Reference を入れて 計画書を完成させる

授業方法

対面授業、遠隔授業(同期型)、課題学習

成績評価の方法

出席状況、授業への取り組みや授業態度(10 点)、課題提出内容(20 点)、研究計画書(70 点)から総合的評価を行う。

成績評価の基準

出席状況、授業への取り組みや授業態度(10 点)、課題提出内容(20 点)、研究計画書(70 点)から総合的評価を行う。

研究計画書の点数が 60%以上のものを合格とする。

準備学習等についての具体的な指示

事前の資料配付および LMS へのアップロードがあった場合には、予習をして授業に臨むこと。

LMS を連絡だけでなく、あらかじめ動画を見ておくなど、反転授業のためにも利用するので、チェックを怠らず、指示に従って課題および予習を行うこと。

試験の受験資格

4 分の 3 の出席が単位取得の最低条件。

各指導者の下で研究を始めた場合、原則、研究実習 I の時間の居場所を指導教員に必ず明らかにしておき、やむを得ぬ事情の時以外は、始めるとき、終わるときを直接指導教員に会って知らせること。臨床実習の時間に研究実習を当てる場合も考えられるが、毎週の進捗報告に居場所も記載すること。進捗報告をもって、出席したものとする。

また、就職活動により欠席する場合は、以下の2つの条件が満たされることにより、就職活動による欠席を出席扱いとすることは周知事項に記載してあるとおりである；

1. 事前に担当教員に行き先を伝え許可を得る。
2. 就職活動後に説明担当者名、連絡先、配布された資料、日時が記載された登録票や予約メールなどの報告を決められた場所にアップする。

参考書

研究の育て方：ゴールとプロセスの「見える化」／近藤克則著、近藤 克則、医学書院、2018

備考

この科目は、論文作成に必要な知識を演習を通して獲得し、指導教員との討論を交えて次年度からの研究のための研究計画書の作成を目標とする。

昨年度授業終了後の学生へ聞き取り調査により、実習内容を再検討し、昨年度より内容を改善している。

それぞれの担当教員への質問はWebClass 科目の掲示板を使うこと。

非同期授業は、動画視聴後に多肢選択式問題をそれぞれの期限までに行うこと。

対面授業では、AL(グループディスカッション)を行う。

オフィスアワー

青木 和広:毎週月曜日 16時から18時 2号館2階 216号室(口腔基礎工学分野)

オフィスにいない場合もあるので、あらかじめメールで問い合わせすることを推奨。

高市 敦士:随時(メールにて面談の日程を調整すること)

2号館2階 口腔デジタルプロセス学分野 教授室

時間割番号	023b40						
科目名	多職種連携Ⅱ			科目ID			
担当教員	大木 明子, 岩城 麻衣子[OKI Meiko, IWAKI Maiko]						
開講時期	2026 年度前期	対象年次	3	単位数	0.5		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面		
必修 0.5 単位 講義 2 コマ、演習 6 コマ							
主な講義場所 MD タワー2 階 鈴木章夫記念講堂							
授業の目的、概要等 患者の講演を通して、患者の気持ちや背景を想像し、患者・利用者・家族・地域に関わる重要な課題を多職種の視点から議論することを主眼とする。その上で、他学科学生との協働学習を通じて、各職種の役割を相互に理解し、共通する職業倫理や仕事への姿勢、多職種連携の重要性を確認し、将来像を共有する。さらに、自他の役割や思考・行為・感情・価値観を踏まえた信頼関係を築き、葛藤にも適切に対応しながら、円滑な意見交換に必要な課題を認識することを目指す。							
授業の到達目標 1. 自らの知識や価値観を、他学科の学生に共有することができる。 2. 他学科学生の役割や意見を尊重した説明や返答、問いかけができる。 3. 他学科学生との演習活動の中で、円滑な協働を進めるために、自らの役割を果たすことができる。 4. 自らの価値観や言動について、他学科の学生との関係性の中で、相対化できる。 5. 自分の職種の役割を他職種及び他の医療系学部学生に説明できる。 H26 歯科技工学教育モデル・コア・カリキュラム A-1 歯科技工学概論 到達目標: A-1-1)-⑤ 多職種との連携とチーム医療について説明できる。 A-1-1)-⑥ チーム医療でのコミュニケーション力の必要性を認識できる。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	5/22	08:50-10:30	鈴木章夫 記念講堂	オリエンテーション グループワーク1 講演 第1部	・実習オリエンテーション ・自己紹介、学科専攻紹介 ・AYA 世代について	大木 明子	到達目標 1-4、講義講演対面、演習対面 事前学習:LMSにて提示された資料を予習しておくこと、課題提出 各学科専攻教員
3-4	5/22	10:45-12:25	鈴木章夫 記念講堂	講演 第2部 グループワーク2	・AYA 世代の闘病 ・講演を踏まえたグループディスカッション	大木 明子	到達目標 1-4、講演対面、演習対面、課題提出 各学科専攻教員
5-6	5/22	13:30-15:10	鈴木章夫 記念講堂	講義 グループワーク3	・多職種連携について ・仮想シナリオを用いたグループディスカッション	大木 明子	到達目標 1-4、講義対面、演習対面 各学科専攻教員
7-8	5/22	15:25-17:05	鈴木章夫 記念講堂	発表会 グループワーク4 総括	・患者を支える多職種連携 ・実習全体を踏まえたグループディスカ	大木 明子	到達目標 1-4、発表会対面、演習

					セッション ・実習のまとめ		対面、課題提出 各学科専攻教員 事後課題を提出 すること
授業方法 演習(講義、討論) 医学部・歯学部 of 全学科・全専攻(医・歯・口工:3 年、看護・検査・口衛:2 年)の学生が参加し、グループに分かれて討論を行う。 課題の提出を LMS にて行うこと(提出期日は LMS を確認すること)。							
授業内容 オリエンテーション、グループワーク(自己紹介、学科専攻に関する相互質問など)、AYA 世代に関する講演(患者講師)、グループワーク(講演を聞いて)、多職種連携についての講義、グループワーク(自分のこととして考える)、発表会(患者を支える多職種連携)、グループワーク(実習全体)、総括							
成績評価の方法 成績はピア評価・チューター評価によるグループワークへの参加態度(50%)、レポート等の提出物(50%)により評価する。							
成績評価の基準 ・合計点数が 60%以上のものを合格とする。 ・授業態度を加味して総合的に評価し、この科目の評価とする。 参加態度は、司会や書記を務め、積極的に発言しただけではなく、グループメンバーの話しやすい雰囲気を作るなど、聞く姿勢も評価の対象となる。 ・期日までに提出された課題を採点対象とし、講演で聞いた内容やグループワークで話し合った内容が含まれているか、自分自身の考えが描かれているかについて授業の到達目標の達成度に応じて採点する。							
準備学習等についての具体的な指示 事前の資料の配布、LMS へのアップロード等があった場合は、予習をして授業に臨むこと。 LMS を連絡等に利用するので、チェックを怠らず、指示に従って課題および予習を行うこと。							
試験の受験資格 試験は実施しない ・出席を基本とし、演習に参加する。 ・演習発表資料などの課題を提示された期限までに提出すること。事後課題の提出締め切りは 1 週間後。 ・特別に勘案すべき事情があるために指示が達成できない場合には、その事情とともに締め切り前および授業開始前までに科目責任者にメールで連絡すること。これらの十分な対応が行われたと判断された場合には事情などに応じてレポート等での対応を行うこととする。							
参考書 へこんでも : 25 歳ナツコの明るいガン闘病記／多和田、奈津子、1972-、多和田奈津子 著:新潮社、2002.4 ・総合的な思春期・若年成人(AYA)世代のがん対策のあり方に関する研究(厚労科研)文献番号 201708005A ・がんノート (URL: https://gannote.com/)							
他科目との関連 多職種連携Ⅰを基盤とし、医療倫理と関連、多職種連携Ⅲの基礎となる科目である。 多職種連携と医療者としてのプロフェッショナルリズムを養成するための科目である。							
履修上の注意事項 積極的に参加すること。課題レポートを提出すること。							
備考 昨年の学生アンケートの結果を受けて、下記とする。 ・グループワークが困難な場合は、チューターへ報告、相談の上、グループ内での座席の交換を可能とする。 ・シナリオ課題の一部と、チューター評価表を見直した。							
科目責任者(口腔保健工学専攻)のオフィスアワーおよび連絡先 大木 明子 准教授 メールにて日時を相談 moki.mfoe@tmd.ac.jp							
オフィスアワー 大木 明子メールにて面談の日程を調整すること。2 号館 2 階准教授室							

時間割番号	023558				
科目名	口腔保健工学エクスターンシップ			科目 ID	DE495800Z
担当教員	青木 和広[AOKI Kazuhiro]				
開講時期	2026 年度通年	対象年次	1～4	単位数	1
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面

海外研修プログラムを履修した学生に、自由選択科目(卒業要件以外)の単位として1単位を認定する。

成績評価の方法

それぞれの海外研修プログラムの責任者が、学生の研修内容等を総合的に判定して可否をつけ、口腔保健学科教育委員会において承認を受けた後、教授会で最終判定を行う。

評価としては、発展的に学習して自らの課題解決策等について具体的に論述できる場合は 80 点 以上とする。

また、3)の TMU との交流における成績は、参加への積極性や発表時の内容等により総合的に判断して成績をつけるものとする。なお、ポイントは学年をまたいで持ち越しにはなるが、90 点以上の基準としては、プログラムの全部の参加状況が一つの基準となる。

準備学習等についての具体的な指示

- ・各自のテーマに必要な知識および技術を十分に理解して実習に臨むこと。
- ・訪問計画は担当教員と相談し、各自入念に準備しておくこと。

3)の TMU との交流にあたり、事前に TMU 学生と交流をし、準備を進めることが大切である。

来日時の交流に備えた事前の交流の仕方は、担当教員から指示がある。

試験の受験資格

○ 単位認定条件

1)海外研修奨励制度による研修プログラムへの参加

(1) 語学能力(英語)

選考時面接にて英語能力を評価。CEFR-J B1 High 以上を積極的に評価する。

(2) 海外渡航時の注意事項、危機管理に関する研修(講義)の履修

(3) 研修報告書の提出

日本語および英語(詳細は別に定める)

(4) 研修報告会における発表

研修報告会が開催されるときは、研修報告のプレゼンテーションを行う。

(5) 本学および海外の担当教員による学生評価の成績(70 点 以上)

2)その他の海外研修プログラム(口腔保健学科教育委員会が認めたもの)

(1) 語学能力(英語)

選考時面接にて英語能力を評価。CEFR-J B1 High 以上を積極的に評価する。

(2) 研修特別コースの履修(＊)

研修内容によって、特別に提供されるコースの履修(詳細は別に定める)

(3) 海外における生活上の注意、危機管理に関する研修(講義)の履修

(4) 研修報告書の提出

日本語および英語(詳細は別に定める)

(5) 研修報告会における発表

研修報告会が開催されるときは、研修報告のプレゼンテーションを行う。

(6) 本学および海外の担当教員による学生評価の成績(70 点以上)

(＊)なお、オンラインの国際交流プログラムを実施する場合においても、大学が開催する海外の教育研究機関とのオンライン交流会参加をもって、単位申請することができる。

- ・ 国際活動ポイント Point System for International Exchange(P-Sie) の総計が 15 以上あること。

(各交流プログラム担当者により付与ポイントを設定していただき、国際交流委員会の承認後、募集に際して学生にポイント数を明示する。学年持越し可とする。)

・大学が開催する P-Sie 対象のオンラインまたは対面のプログラムの単位認定条件は2)(2)(3)以外のすべての条件を満たすこと。

3) 台北医学大学(TMU)との交流で必修科目ではない、任意参加のプログラムにすべて参加した場合は、15 ポイントを付与し、エクスターンシップの単位申請ができる。単位認定は、教育委員会および教授会の承認を得る。

履修上の注意事項

1. 海外研修プログラムを履修した学生に、自由選択科目(卒業要件以外)の単位として1単位を認定する。 2. 単位認定の対象となる海外研修プログラムは以下のプログラムとする。各プログラムにおける単位認定条件は別に定める。 1) 大学海外研修奨励制度(事前研修を含む。) 2) その他の海外研修プログラム(口腔保健学科教育委員会が認めたもの)(*) 3. 所定のプログラムを終了した学生に対し、口腔保健学科教育委員会の議を経て、歯学部教授会が単位を認定する。但し、同一年次・年度で認定できる単位は1単位を上限とする。また、「その他の海外研修プログラム」に該当するプログラムで認定できる単位は、プログラムの内容・年次・年度・回数に限らず、在学期間を通じて1単位とする。 (*)なお、オンラインの国際交流プログラムを実施する場合においても、大学が開催する海外の教育研究機関とのオンライン交流会参加をもって、単位申請することができる。 ・国際活動ポイント Point System for International Exchange (P-Sie)の総計が 15 以上あること。(各交流プログラム担当者により付与ポイントを設定していただき、国際交流委員会の承認後、募集に際して学生にポイント数を明示する。学年持越し可とする。) ・大学が開催する P-Sie 対象のオンラインまたは対面のプログラムの単位認定条件は2)(2)(3)以外のすべての条件を満たすこと。 3) 台北医学大学(TMU)との交流で必修科目ではない、任意参加のプログラムにすべて参加した場合は、15 ポイントを付与し、エクスターンシップの単位申請ができる。単位認定は、教育委員会および教授会の承認を得る。

備考

昨年度授業終了時アンケート結果より、実習内容を再検討し、昨年度より内容を改善している。

担当教員のオフィスアワーおよび連絡先

毎週月曜日 17 時～18 時

これ以外は

メールにて面談の日程を調整すること

青木和広 kazuhiro_aoki.bhoe@tmd.ac.jp

それぞれの担当教員への質問は LMS 科目の掲示板を使うこと。

非同期授業は、動画視聴後に多肢選択式問題をそれぞれの期限までに行うこと。

国際交流なので、AL(グループディスカッション)を行う。

学生自身で単位申請を行うこと。

オフィスアワー

毎週月曜日 16 時から 18 時 2 号館 2 階 216 号室(口腔基礎工学分野)

オフィスにいない場合もあるので、あらかじめメールで問い合わせることを推奨。

第 4 学年
履修科目・ユニット

時間割番号	023620a		
科目名	英語Ⅱ: Topical Discussion	科目ID	
担当教員	WHITAKER SIMON[WHITAKER SIMON]		
開講時期	2026 年度通年	対象年次	2～4
実務経験のある教員による授業		授業形態	メディア利用科目
・曜日・時間:水曜 3 講 ・対象:全学科 ・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー): 別表3ー4) 別表4ー5)			
授業の目的、概要等 A course focused on in-depth discussion of contemporary social topics which affect everyone, from AI and social media to new or growing health and environmental challenges. We will consider a small set of such topics from different angles. You will continuously work on and develop important skills like those of open and impromptu discussion. You will also be building up and consolidating vocabulary, and even your own ideas, as we explore points of connection between these topical debates and the often-overlapping ways they can be approached.			
授業の到達目標 To be able to engage in extended discussions in English on a range of topics 多様なトピックについて、英語でより長い議論をすることができる To be able to comprehend and use new vocabulary 新しい語彙を理解して使用することができる To be able to speak in front of others more effectively 他の人の前でより効果的に話すことができる To be able to overcome shyness and worries about stating opinions and communicating in imperfect English 完璧な英語でなくとも、羞恥心に打ち勝ち、自分の意見を英語で伝え議論に参加することができる To be able to productively engage in activities in a cross-cultural environment by collaborating with people from different cultural backgrounds in English 様々な文化的背景を持つ仲間と協働し、生産的に業務に貢献・遂行できる To be able to utilize critical thinking skills (including productively making and responding to counterarguments) and lateral thinking skills in English 英語でクリティカルシンキングやラテラルシンキングスキルを活用できる(健全で建設的な反論およびそれへの対応を含む) To be able to productively engage in academic and professional activities using English in an international setting 国際的な場面で、英語を使い、学問的および専門的な活動に生産的に貢献することができる 以下の 3 点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70 点以上)の必要条件として要求される。 1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。 2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。 3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。			

授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	6/10	13:30-14:15	遠隔授業 (同期型)	Class 1	Half-length session. Introduction to course and introducing each other.	WHITAKER SIMON	Active learning/speaking + Seminar
2-3	6/17	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 2, Class 3	Topic 1. First tutor-led discussion.	WHITAKER SIMON	Active learning/speaking + Seminar
4-5	6/24	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 4, Class 5	Further group discussion around topic 1.	WHITAKER SIMON	Active learning/speaking + Seminar
6-7	7/1	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 6, Class 7	Topic 2. Second tutor-led discussion.	WHITAKER SIMON	Active learning/speaking + Seminar
8-9	7/8	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 8, Class 9	Further group discussion around topic 2.	WHITAKER SIMON	Active learning/speaking + Seminar
10-11	7/15	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 10, Class 11	Topic 3. Third tutor-led discussion.	WHITAKER SIMON	Active learning/speaking + Seminar
12-13	7/22	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 12, Class 13	Further group discussion around topic 3.	WHITAKER SIMON	Active learning/speaking + Seminar
14-15	7/29	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 14, Class 15	Discussion of topics covered + further areas of study/consideration.	WHITAKER SIMON	Active learning/speaking + Seminar
授業方法							
Skills Instruction and Practice							
授業内容							
Class 1: Orientation							
Classes 2-15: Skills Instruction and Continuous Assessment							
Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.							
成績評価の方法							
Participation: 50%, Presentations: 30%, Discussion contributions: 20%							
再評価: 再評価はありません。							
成績評価の基準							
「東京科学大学学修規程第6条」による							
準備学習等についての具体的な指示							
Attendance and participation are both essential.							
試験の受験資格							
「英語Ⅱ」の各科目(1単位)は、45 分×15 コマです。科目ごとに成績がつきます。試験が実施される場合、受験資格があるのは、原則としてその科目に3分の2以上出席した者です。「英語Ⅱ」では再評価は行いません。							

履修上の注意事項

教員がとる出欠を優先します。 既に履修済の英語Ⅱ科目と同一名の科目は原則として履修できません。

オフィスアワー

WHITAKER SIMON:水・木曜日 12 時 30 分～13 時 管理研究棟 3 階 ウィタカー研究室

時間割番号	023640						
科目名	英語Ⅱ: Conversation I(前期)			科目ID			
担当教員	REED JESSE RYAN[REED JESSE RYAN]						
開講時期	2026 年度前期	対象年次	2～4	単位数	1		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	メディア利用科目		
・曜日・時間:水曜 3 講 ・対象:全学科 ・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー): 別表3ー4) 別表4ー5)							
授業の目的、概要等							
English II, "Conversation I" is a course for students who want to improve their spoken English skills. The course focuses on practical conversational abilities, and students will engage in interviews, role-playing, and group discussions on a variety of topics. The course prioritizes vocabulary development, effective public speaking, and the development of confidence in expressing opinions, even in imperfect English. The course aims to create an active and supportive learning environment, emphasizing not only the improvement of English skills but also the use of those skills in real-world situations.							
授業の到達目標							
To be able to engage in extended discussions in English on a range of topics 多様なトピックについて、英語でより長い議論をすることができる							
To be able to comprehend and use new vocabulary 新しい語彙を理解して使用することができる							
To be able to speak in front of others more effectively 他の人の前でより効果的に話すことができる							
To be able to overcome shyness and worries about stating opinions and communicating in imperfect English 完璧な英語でなくとも、羞恥心に打ち勝ち、自分の意見を英語で伝え議論に参加することができる							
以下の 3 点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70 点以上)の必要条件として要求される。							
1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。							
2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。							
3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	4/1	13:30-14:15	遠隔授業 (同期型)	Class 1	Intro to Conversation I	REED JESS E RYAN	Active Learning, Seminar, Zoom
2-3	4/8	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 2, Class 3	Discussion/Presentation Practice	REED JESS E RYAN	Active Learning, Seminar, Zoom

4-5	4/15	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 4, Class 5	Discussion/Presentation Practice	REED JESS E RYAN	Active Learning, Seminar, Zoom
6-7	4/22	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 6, Class 7	Discussion/Presentation Practice	REED JESS E RYAN	Active Learning, Seminar, Zoom
8-9	5/13	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 8, Class 9	Discussion/Presentation Practice	REED JESS E RYAN	Active Learning, Seminar, Zoom
10-11	5/20	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 10, Class 11	Discussion/Presentation Practice	REED JESS E RYAN	Active Learning, Seminar, Zoom
12-13	5/27	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 12, Class 13	Discussion/Presentation Practice	REED JESS E RYAN	Active Learning, Seminar, Zoom
14-15	6/3	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 14, Class 15	Discussion Test	REED JESS E RYAN	Active Learning, Seminar, Zoom

授業方法

Skills Instruction and Practice

授業内容

Class 1: Orientation

Classes 2-13: Skills Instruction and Continuous Assessment

Classes 14 and 15: Review and/or Final Assessment

Detailed class contents will be determined based on the needs of the class and are subject to change.

成績評価の方法

Conversation I 評価: Attendance & Participation: 50% Homework: 10% English Interview: 15%

Discussion Test: 25%

再評価: 再評価はありません。

成績評価の基準

「東京科学大学学修規程第 6 条」による

準備学習等についての具体的な指示

Attendance and participation are both essential.

試験の受験資格

「英語Ⅱ」の各科目(1単位)は、45 分×15 コマです。科目ごとに成績がつきます。試験が実施される場合、受験資格があるのは、原則としてその科目に3分の2以上出席した者です。「英語Ⅱ」では再評価は行いません。

履修上の注意事項

教員がとる出欠を優先します。既に履修済の英語Ⅱ科目と同一名の科目は原則として履修できません。

オフィスアワー

猪熊 恵子 水・木曜日 12時30分～13時 管理研究棟 3階 猪熊研究室

時間割番号	023641						
科目名	英語Ⅱ ConversationⅠ（後期）			科目ID			
担当教員	REED JESSE RYAN[REED JESSE RYAN]						
開講時期	2026 年度後期	対象年次	2～4	単位数	1		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	メディア利用科目		
・曜日・時間:水曜 3 講 ・対象:全学科 ・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー): 別表3－4) 別表4－5)							
授業の目的、概要等 EnglishⅡ, "ConversationⅠ" is a course for students who want to improve their spoken English skills. The course focuses on practical conversational abilities, and students will engage in interviews, role-playing, and group discussions on a variety of topics. The course prioritizes vocabulary development, effective public speaking, and the development of confidence in expressing opinions, even in imperfect English. The course aims to create an active and supportive learning environment, emphasizing not only the improvement of English skills but also the use of those skills in real-world situations.							
授業の到達目標 To be able to engage in extended discussions in English on a range of topics 多様なトピックについて、英語でより長い議論をすることができる To be able to comprehend and use new vocabulary 新しい語彙を理解して使用することができる To be able to speak in front of others more effectively 他の人の前でより効果的に話すことができる To be able to overcome shyness and worries about stating opinions and communicating in imperfect English 完璧な英語でなくとも、羞恥心に打ち勝ち、自分の意見を英語で伝え議論に参加することができる 以下の3点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70 点以上)の必要条件として要求される。 1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。 2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。 3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	9/16	13:30-14:15	遠隔授業 (同期型)	Class 1	Intro to ConversationⅠ	REED JESSE RYAN	Active Learning, Seminar, Zoom
2-3	9/30	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 2, Class 3	Discussion/Presentation Practice	REED JESSE RYAN	Active Learning, Seminar, Zoom
4-5	10/7	13:30-15:10	遠隔授業	Class 4, Class 5	Discussion/Presentation Practice	REED JESSE	Active Learning,

時間割番号	023650						
科目名	英語Ⅱ: ConversationⅡ(前期)			科目ID			
担当教員	REED JESSE RYAN[REED JESSE RYAN]						
開講時期	2026 年度前期	対象年次	2～4	単位数	1		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	メディア利用科目		
・曜日・時間:水曜 3 講 ・対象:全学科 ・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー): 別表3ー4) 別表4ー5)							
授業の目的、概要等							
EnglishⅡ“ConversationⅡ”(Improving Conversational Proficiency) is an advanced course designed for students aiming to refine their spoken English skills. Students will actively engage in extensive discussions, interviews, and group discussion tasks, fostering a higher level of language proficiency, cultural adaptability, and effective communication. The course places a strong emphasis on vocabulary expansion, advanced public speaking techniques, and the continued cultivation of confidence in expressing opinions, even within the complexities of the English language. Evaluation methods include individual interviews, group discussions, and reflective homework assignments. The objective is to create a stimulating and encouraging learning environment, helping students to not only excel in language proficiency but also to develop the application of advanced English skills in diverse real-world contexts.							
授業の到達目標							
To be able to engage in extended discussions in English on a range of topics 多様なトピックについて、英語でより長い議論をすることができる							
To be able to comprehend and use new vocabulary 新しい語彙を理解して使用することができる							
To be able to speak in front of others more effectively 他の人の前でより効果的に話すことができる							
To be able to overcome shyness and worries about stating opinions and communicating in imperfect English 完璧な英語でなくとも、羞恥心に打ち勝ち、自分の意見を英語で伝え議論に参加することができる							
以下の3点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70点以上)の必要条件として要求される。							
1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。 2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。 3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	6/10	13:30-14:15	遠隔授業 (同期型)	Class 1	Intro to ConversationⅡ	REED JESSE RYAN	Active Learning, Seminar, Zoom
2-3	6/17	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 2, Class 3	Discussion/Presentation Practice	REED JESSE RYAN	Active Learning, Seminar,

[illegible]

時間割番号	023d31						
科目名	英語Ⅱ (D)ConversationⅡ (後期)			科目ID			
担当教員	野口 大斗[NOGUCHI Hiroto]						
開講時期	2026 年度後期	対象年次	3				
実務経験のある教員による授業				授業形態	メディア利用科目		
・曜日・時間:火曜 3 講 ・対象:全学科 ・科目を履修して得られる能力(コンピテンシー): 別表3ー4) 別表4ー5)							
授業の目的、概要等							
EnglishⅡ “ConversationⅡ” (Improving Conversational Proficiency) is an advanced course designed for students aiming to refine their spoken English skills. Students will actively engage in extensive discussions, interviews, and group discussion tasks, fostering a higher level of language proficiency, cultural adaptability, and effective communication. The course places a strong emphasis on vocabulary expansion, advanced public speaking techniques, and the continued cultivation of confidence in expressing opinions, even within the complexities of the English language. Evaluation methods include individual interviews, group discussions, and reflective homework assignments. The objective is to create a stimulating and encouraging learning environment, helping students to not only excel in language proficiency but also to develop the application of advanced English skills in diverse real-world contexts.							
授業の到達目標							
To be able to engage in extended discussions in English on a range of topics							
多様なトピックについて、英語でより長い議論をすることができる							
To be able to comprehend and use new vocabulary							
新しい語彙を理解して使用することができる							
To be able to speak in front of others more effectively							
他の人の前でより効果的に話すことができる							
To be able to overcome shyness and worries about stating opinions and communicating in imperfect English							
完璧な英語でなくとも、羞恥心に打ち勝ち、自分の意見を英語で伝え議論に参加することができる							
以下の3点を満たすことが、この授業の到達目標を概ね達成したレベル(70点以上)の必要条件として要求される。							
1. 授業内で課される課題や試験等について、原則としてすべて、期限内に所定の形式で受験または提出すること。							
2. 教員から返却される添削ファイルおよびコメントを受けて自らの英語の問題点を客観的に把握し、修正してより良いものに仕上げること。							
3. 授業および添削・コメントから得た知見を次回以降の課題作成、またはクラス内活動に参加の際に活かすこと。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1	11/24	13:30-14:15	遠隔授業 (同期型)	Class 1	Intro to ConversationⅡ	野口 大斗	Active Learning, Seminar, Zoom
2-3	12/1	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	Class 2, Class 3	Discussion/Presentation Practice	野口 大斗	Active Learning, Seminar,

[illegible]

時間割番号	023660					
科目名	International Course for Clinical Dentistry (ICCD) L1-L3 On-demand			科目ID		
担当教員	高市 敦士, JANELLE RENEE MOROSS, 關 奈央子, 金森 ゆうな, 駒ヶ嶺 友梨子, 水谷 幸嗣[TAKAICHI Atsushi, JANELLE RENEE MOROSS, SEKI Naoko, KANAMORI Yuna, KOMAGAMINE Yuriko, MIZUTANI Koji]					
開講時期	2024 年度3年通年	対象年次	2～4	単位数	1	
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	メディア利用科目	
主な講義場所 オンデマンド教材						
授業の目的、概要等 歯学部国際歯科臨床教育コース(International Course for Clinical Dentistry, ICCD)オンデマンドは歯学分野における語彙力向上や文章理解力と臨床の専門的な知識を習得するために、学部学生の臨床的な知識を高めることを目的としています。						
授業の到達目標 学生が全てのレベル(L1-3)を修了したとき、 1. 英語の理解能力を向上 2. 歯学分野の英語の語彙力を向上 することができる。 コース修了時、 英語で臨床歯学を学修することを期待できます。						
授業計画						
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員
1	9/9	08:50-09:35	オンデマ ンド	L1 1. オンデマンド学習 配信期間 9/9(月) (9:00)- 13(金)(23:59)	・歯科英単語学習 ・リーディング教材	金澤 学, JANELLE RENEE MOROSS, 關 奈央子, 駒ヶ嶺 友梨子, 金森 ゆうな
2	9/12	08:50-09:35	オンデマ ンド	L1 2. 学習確認テスト 配信期間 9/12(木) (9:00)-13(金)(23:59)	・学習確認テスト	金澤 学, JANELLE RENEE MOROSS, 關 奈央子, 駒ヶ嶺 友梨子, 金森 ゆうな
3	9/20	08:50-09:35	オンデマ ンド	L1 3. 復習教材提供 配信期間 9/20(金) (9:00)- 27(金)(23:59)	・歯科英単語学習 ・リーディング教材	金澤 学, JANELLE RENEE MOROSS, 關 奈央子, 駒ヶ嶺 友梨子, 金森 ゆうな
4	9/26	08:50-09:35	オンデマ ンド	L1 4. 学習確認テスト 配信期間 9/26(木) (9:00)-27(金)(23:59)	・学習確認テスト	金澤 学, JANELLE RENEE MOROSS, 關 奈央子, 駒ヶ嶺 友梨子, 金森 ゆうな

						な
5	10/6	08:50-09:35	オンデマ ンド	L2 1. オンデマンド学習 配信期間 10/6(月) (9:00)~ 10(金)(23:59)	・歯科英単語学習 ・リーディ ング教材	關 奈央子, J ANELLE RE NEE MORO SS, 水谷 幸 嗣 金森 ゆう な
6	10/9	08:50-09:35	オンデマ ンド	L2 2. 学習確認テスト 配信期間 10/9(木) (9:00)~10(金)(23:59)	・学習確認テスト	關 奈央子, J ANELLE RE NEE MORO SS, 水谷 幸 嗣 金森 ゆう な
7	10/10	08:50-09:35	オンデマ ンド	L2 3. オンデマンド学習 配信期間 10/10(金) (9:00)~ 17(金)(23:59)	・医療面接 ・インフォームドコン セント教材	關 奈央子, J ANELLE RE NEE MORO SS, 水谷 幸 嗣 金森 ゆう な
8	10/16	08:50-09:35	オンデマ ンド	L2 4. 学習確認テスト 配信期間 10/16(木) (9:00)~17(金)(23:59)	・学習確認テスト	關 奈央子, J ANELLE RE NEE MORO SS, 水谷 幸 嗣 金森 ゆう な
9	11/9	08:50-09:35	オンデマ ンド	L3 1. オンデマンド学習 配信期間 11/9(月) (9:00)~ 13(金)(23:59)	・歯科英単語学習 ・リーディ ング教材	關 奈央子, J ANELLE RE NEE MORO SS, 金森 ゆ うな
10	11/12	08:50-09:35	オンデマ ンド	L3 2. 学習確認テスト 配信期間 11/12(木) (9:00)~13(金)(23:59)	・学習確認テスト	關 奈央子, J ANELLE RE NEE MORO SS, 金森 ゆ うな
11	11/16	08:50-09:35	オンデマ ンド	L3 3. オンデマンド学習 配信期間 11/16(月) (9:00)~ 20(金)(23:59)	・Case study report ・英語臨床シ ミュレーション教材	關 奈央子, J ANELLE RE NEE MORO SS, 金森 ゆ うな
12	11/19	08:50-09:35	オンデマ ンド	L3 4. 学習確認ビデオ視 聴 配信期間 11/19(木) (9:00)~20(金)(23:59)	・学習確認ビデオ視聴	關 奈央子, J ANELLE RE NEE MORO SS, 金森 ゆ うな

授業方法

L1 では高齢者歯科学、L2 では歯周病学、L3 では保存修復学と矯正歯科学に関する歯科英単語と知識について
 自習や課題を行います。

成績評価の方法

オンデマンド教材履修状況により評価されます。履修期間内に全ての教材学習を行ってください。
準備学習等についての具体的な指示 課題に取り組む前に、記事／論文を読み、語彙を学んでください。
試験の受験資格 1. WebClass コースに配信される課題 WebClass の指定のコースにオンデマンドの課題が提供される。全ての当該課題を定められた期間内に履修し一定のスコアを記録すること。
履修上の注意事項 1. このコースを選択する学生は、必要な WebClass のオンデマンド課題を全て修了すること。 2. ICCD はレベル 1 から 3 で構成されており、レベル 1 への履修登録をもってレベル 2(OH/OE3)レベル 3(OH/OE4)でもコースを受講することになります。 3. ICCD は全てのレベル(レベル 1-3)を履修したのちに単位が付与されます。
参照ホームページ 参考)https://www.tmd.ac.jp/international/events/iccd/
オフィスアワー 高市 敦士随時(メールにて面談の日程を調整すること) 2 号館 2 階 口腔デジタルプロセス学分野 教授室 關 奈央子:毎週月曜日 15:00 - 16:00 M&D タワー7階 教員室 水谷 幸嗣D 棟 11 階 総合診療歯科学分野研究室 JANELLE RENEE MOROSS:ご予約をご希望の場合は、双方の都合のよい時間をご相談するためにメールをお送りください。

時間割番号	023670				
科目名	International Course for Clinical Dentistry (ICCD) L1-L3 On-line			科目 ID	
担当教員	高市 敦士, JANELLE RENEE MOROSS, 關 奈央子, 金森 ゆうな, 金澤 学, 駒田 亘, 駒ヶ嶺 友梨子, 水谷 幸嗣, 米満 郁男, 畑山 貴志, 保坂 啓一, Richard Foxton, 前川 祥吾, 永田 瑞, 矢野 孝星[TAKAICHI Atsushi, JANELLE RENEE MOROSS, SEKI Naoko, KANAMORI Yuna, KANAZAWA Manabu, KOMADA Wataru, KOMAGAMINE Yuriko, MIZUTANI Koji, YONEMITSU Ikuo, HATAYAMA Takashi, HOSAKA Keiichi, Richard Foxton, MAEKAWA Shogo, NAGATA Mizuki, YANO Kosei]				
開講時期	2024 年度3年通年	対象年次	2～4	単位数	1
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	メディア利用科目

主な講義場所

オンラインセッション(入室のための ID とパスワードは WebClass に掲示)

授業の目的、概要等

歯学部国際歯科臨床教育コース(International Course for Clinical Dentistry, ICCD)オンラインは学部学生の臨床的な知識、文化的コンピテンシー、そしてコミュニケーションと論理的な問題解決の基本的な能力を高めることを目的としています。

ICCD は学生に国際的なネットワーキングに参加できるようにし、歯学分野における語彙と英語でのコミュニケーション能力を向上させ、さらに、歯学に関連した様々なアクティビティを通して臨床の専門的な知識を習得することを可能にします。

ディスカッションや、問題解決のためにチームで仕事をしたり、論理的な議論を作り上げたりする機会を提供し、チームビルディングや批判的吟味、批判的思考能力、そして学際的な臨床の治療計画の基本を強化します。

授業の到達目標

学生が全てのレベル(L1-3)を修了したとき、

1. 英語の理解能力を向上
2. 歯学分野の英語の語彙力を向上
3. 仲間や教員と歯学分野のトピックについてディスカッション
4. 文化的規範について学び、互いの文化について理解することができる。

コース修了時、

1. 文化的コンピテンシーの向上
2. ネットワーキング能力の向上
3. 問題解決能力の向上
4. 英語で臨床歯学を学修すること
5. コミュニケーション上の課題に対処するためのレジリエンス／柔軟性の獲得
6. 情報を批判的かつ客観的に吟味する能力の向上
7. より明確な推論能力と論理的な説明を行う能力の獲得

を期待できます。

授業計画

回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員
1	9/4	17:00-17:50	遠隔授業 (同期型)	L1 1. イントロ Zoom ID は後日配布	・コースイントロダクション(日本語) ・本コースをプロデュースする臨床系教員との対談(日本語) ※前後で 9/11 プレゼンの打ち合わせがあります。	金澤 学, 駒田 亘, 關 奈央子, 水谷 幸嗣, 駒ヶ嶺 友梨子, 畑山 貴志, 米満 郁男, 金森 ゆうな, 保坂 啓一
2	9/4	17:00-17:50	遠隔授業 (同期型)	L1 2. プレゼン準備	・プレゼンテーション準備 ※ WebClass「IL2400215 歯学部国際 歯科臨床教育コース L1 2024」の掲	金澤 学, 金森 ゆうな

					示板を適宜使用してください。	
3	9/11	18:30-20:30	遠隔授業 (同期型)	L1 3. 国際交流 Zoom ID は後日配布	・自己紹介 ・プレゼンテーション (国や文化、大学の紹介) ・コミュニケーションアクティビティ	金澤 学, J ANELLE REN EE MOROS S, 關 奈央子, 金森 ゆうな
4-5	9/18	18:30-20:50	遠隔授業 (同期型)	L1 4. 国際交流 Zoom ID は後日配布	・講義 ・ディスカッションとプレゼンテーション(「高齢化に付随した問題点と解決策」) ・フィードバック(20:35-20:50)	金澤 学, J ANELLE REN EE MOROS S, 關 奈央子, 駒ヶ嶺 友梨子
6	10/17	08:50-09:35	遠隔授業 (非同期型)	L2 1. 事前学習 各自 で実施	・LMSを参照し事前学習・準備をして今後のオンライン授業に臨むこと	關 奈央子, J ANELLE RE NEE MORO SS, 金森 ゆ うな
7	10/22	17:00-17:50	遠隔授業 (同期型)	L2 2. ライブ講義 Zoom ID は後日配布	・インタラクティブ講義(英語医療面接)健康調査票等医療面接に関する資料は開催1週間前の9:00から配信(WebClassのユニットにアップロード)	關 奈央子, J ANELLE RE NEE MORO SS
8	10/29	18:00-18:50	遠隔授業 (同期型)	L2 3. ライブ講義 Zoom ID は後日配布	・講義「インフォームドコンセント」 ・ディスカッション ・プレゼンテーション	金森 ゆうな, Richard Fox ton, 關 奈央 子, JANELLE RENEE MO ROSS
9	11/7	08:50-09:35	遠隔授業 (非同期型)	L2 4. 事前学習 各自 で実施	・LMSを参照し事前学習・準備をして次週のオンライン授業に臨むこと	關 奈央子, J ANELLE RE NEE MORO SS, 金森 ゆ うな
10-11	11/12	18:30-20:50	遠隔授業 (同期型)	L2 5. 国際交流 Zoom ID は後日配布	・講義 ・ディスカッションとプレゼンテーション(「歯周病と全身疾患」) ・フィードバック(20:35-20:50) ・ライティング提出	關 奈央子, J ANELLE RE NEE MORO SS, 水谷 幸 嗣, Richard F oxton
12	11/20	08:50-09:35	遠隔授業 (非同期型)	L3 1. 事前学習 各自 で実施	・LMSを参照し事前学習・準備をして次週のオンライン授業に臨むこと	關 奈央子, J ANELLE RE NEE MORO SS, 金森 ゆ うな
13	11/25	18:10-18:55	遠隔授業 (同期型)	L3 2. 国際交流セッション Zoom ID は後日 配布 授業時間: 18:30-19:30	・ケースレポートの読み方 ・症例 検討へのアプローチ(critical appraisal, critical thinking を磨 く) ・フィードバック	Richard Fox ton, 金森 ゆ うな, 保坂 啓 一, 水谷 幸 嗣

14	12/4	08:50-09:35	遠隔授業 (非同期型)	L3 3. 事前学習 各自で実施	・LMSを参照し事前学習・準備をして次週のオンライン授業に臨むこと	關 奈央子, JANELLE RENEE MOROSS, 金森 ゆうな
15	12/9	18:30-20:30	遠隔授業 (同期型)	L3 4. 国際交流セッション Zoom ID は後日配布 授業時間: 18:30-20:30	・大学院(留学)生との症例検討会 聴講・参加 ・症例の復習 ・最新の歯科治療に関するライブ講義	關 奈央子, 金澤 学, 駒田 亘, 米満 郁男, 水谷 幸嗣, 駒ヶ嶺 友梨子, 保坂 啓一, 畑山 貴志, 前川 祥吾, 永田 瑞, Richard Foxton, 矢野 孝星, 金森 ゆうな

成績評価の方法

授業への参加、授業でのプレゼンテーションと論理的なスピーキングが考慮されます

準備学習等についての具体的な指示

コース開始前に WebClass にて提示する予定表により、各回で取り上げるテーマを再確認し、事前に当該テーマについて十分に予習した上で、授業に参加してください。

試験の受験資格

オンラインセッションへの出席と参加

定刻までにオンラインセッションに入室し、クラスでのディスカッションやアクティビティに参加する準備をしてくること。

各日、予定されているオンラインセッション時間の 2/3 以上の出席をもって出席とみなす。

履修上の注意事項

1. このコースを選択する学生は、全てのオンラインセッションに出席し、プレゼンテーションを準備し、そして授業でのディスカッションとプレゼンテーションに参加すること。 2. ICCD はレベル 1 から 3 で構成されており、レベル 1 への履修登録をもってレベル 2(OH/OE3)レベル 3(OH/OE4)でもコースを受講することになります。 3. ICCD は全てのレベル(レベル 1-3)を履修したのちに単位が付与されます。 4. ICCD オンデマンドの履修も推奨される。 5. 履修においては TOEFL iBT61 (ITP500)程度の英語力が推奨される。

備考

オンライン授業においては AL(ペア/グループディスカッション、ケース演習など)を行う。

参照ホームページ

参考) <https://www.tmd.ac.jp/international/events/iccd/>

オフィスアワー

高市 敦士:随時(メールにて面談の日程を調整すること)

2 号館 2 階 口腔デジタルプロセス学分野 教授室

前川 祥吾:毎週月、火、木、金曜日 PM.17:00-18:00 10 号棟 7 階第 3 研究室

永田 瑞:10 号館 7 階 歯周病学分野医局 随時

駒田 亘:随時

金澤 学:火-金, 16:00- 18:00

1 号館 3 階 高齢者歯科学分野学分野 Lab9

關 奈央子:毎週月曜日 15:00 - 16:00 M&D タワー7階 教員室

水谷 幸嗣:D 棟 11 階 総合診療歯科学分野研究室

JANELLE RENEE MOROSS:ご予約をご希望の場合は、双方の都合のよい時間をご相談するためにメールをお送りください。

参照ホームページ

参考) <https://www.tmd.ac.jp/international/events/iccd/>

オフィスアワー

高市 敦士:随時(メールにて面談の日程を調整すること)

2号館2階 口腔デジタルプロセス学分野 教授室

関 奈央子:毎週月曜日 15:00 - 16:00 M&D タワー7階 教員室

時間割番号	023509A						
科目名	歯科技工士と法律			科目ID			
担当教員	大木 明子[OKI Meiko]						
開講時期	2026 年度前期	対象年次	4	単位数	1		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面		
必修 15 時間 講義・演習 15 コマ							
主な講義場所 対面講義(2号館3階 第3講義室)							
授業の目的、概要等 医療上の事故等(インシデント、医療過誤等を含む)は日常的に起こり得ることを認識し、ヒューマンエラー、医療安全、インシデントレポートについて理解する。 保健・衛生行政の概要と歯科技工士法を理解し、歯科技工士の医療と社会における役割を学ぶ。 医療法や医薬品医療機器等法、医療保険について理解する。							
授業の到達目標 1. ヒューマンエラーとリスク、医療安全について用語を説明できる。 2. インシデントとアクシデント、医療事故と医療過誤の違いを理解し、応用できる。 3. 医療安全推進のためのリスク管理、防止対策、インシデントレポート、5Sについて説明、応用できる。 4. 医療安全に関連した法律・規則の基本的事項を説明できる。 5. 歯科医事紛争の防止対策について応用できる。 6. 歯科技工士の役割と倫理について説明できる。 7. 衛生行政の概要、意義、組織と活動を説明できる。 8. 歯科技工士法を説明できる。 9. 歯科技工指示書と歯科技工録について理解し、応用できる。 10. 労働関係法規の概要をを説明できる。 11. 歯科医師法の目的と歯科医師の任務を説明できる。 12. 歯科衛生士法の目的と歯科衛生士の法的定義を説明できる。 13. 医療法の目的、病院と診療所の法的定義を説明できる。 14. 保健、社会保障、社会保険制度、健康保険についての概要を説明できる。 15. 医薬品・医療機器について理解し、製品のクラス分けと認証・承認について説明できる。							
H26 歯科技工学教育モデル・コア・カリキュラム A. 歯科技工と歯科医療 2. 歯科技工士と法律:医療人としての遵法精神を身につけるために、歯科技工士として必要な法律を理解し、遵守する。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-3	4/8	09:45-12:25	第3講義室	医療安全	エラー、リスク、医療安全、インシデント、リスク管理、インシデントレポート、5S、演習	大木 明子	到達目標 1-5 講義、対面、グループワーク 事前学習:LMSの資料をチェック、課題の提出
4-5	4/22	09:45-11:30	第3講義室	衛生行政 歯科技工士法1	衛生行政 歯科技工士法 の概念、免許、試験、演習	大木 明子	到達目標 6-8 講義、対面、グループワーク 事前学習:LMSの資料

							料をチェック、課題の提出
6-7	5/20	09:45-11:30	第3講義室	歯科技工士法 2	歯科技工業務 歯科技工指示書、歯科技工録とトレーサビリティ、国外で製作された技工物、演習	大木 明子	到達目標 8-9 講義、対面、グループワーク 事前学習:LMSの資料をチェック、課題の提出
8-9	5/27	09:45-11:30	第3講義室	歯科技工士法 3 労働関係法規	歯科技工所、歯科技工士法の雑則、罰則、附則 労働に関する法律、ハラスメント、演習	大木 明子	到達目標 10 講義、対面、グループワーク 事前学習:LMSの資料をチェック、課題の提出
10-11	6/3	09:45-11:30	第3講義室	歯科医療関係法規 医療関係法規	医療法、歯科医師法、歯科衛生士法、一般医療関係者法	大木 明子	到達目標 11-13 講義、対面、グループワーク 事前学習:LMSの資料をチェック、課題の提出
12-13	6/10	09:45-11:30	第3講義室	医療保険	社会保険制度、健康保険、傷害保険、医療保険、がん保険	大木 明子	到達目標 14 講義、対面、グループワーク 事前学習:LMSの資料をチェック、課題の提出
14-15	7/1	09:45-11:30	第3講義室	その他の関係法規 5S 発表	保健衛生法規、医薬品医療機器等法、5S 発表会	大木 明子	到達目標 15、3 講義、対面、グループワーク、発表 事前学習:LMSの資料をチェック、5S 発表スライドの提出

授業方法

講義、演習(グループワーク)

対面で行います。

事前に LMS に提示されている資料を学習して準備しておくこと。

演習課題を行い、期限までに提出すること。

授業内容

講義、演習

医療安全、歯科技工士法、その他歯科医療、医療に関する法律、労働関係法規、社会保障、医薬品医療機器等法

成績評価の方法

評価は提出課題および試験(筆記試験(対面):60 分)によって行う。

・演習課題(医療安全:4 点、トレーサビリティ:4 点、ハラスメント:2 点、歯科技工料金:4 点、保険:2 点、5S 発表:4 点)(20 点)、筆記試験(80 点)で総合的に評価する。

・試験が 100 点満点中 60 点未満の場合は再試験とする。

成績評価の基準

・試験の点数が 60 点以上のものを合格とする。

・配点は、筆記試験 80 点、演習課題 20 点とし、合計 100 点満点で換算する。

・出席状況、授業態度を加味して総合的に評価し、この科目の評価とする。
準備学習等についての具体的な指示 事前に LMS に資料がアップロードされた場合は予習をしてから講義にのぞむこと。 定期試験の前に、歯科技工士国家試験の関係法規の部分の問題をやっておくこと。
試験の受験資格 試験、追・再試験を受験する資格は以下のすべてとする。 ・3 分の 2 以上の出席を基本とする。出席確認は学生証のカードタッチで行う。遅刻でもカードタッチがなければ欠席とする。 ・各項目で実施される演習課題を実施し、提示された期限までにレポートを提出すること。 ・特別に勘案すべき事情があるために指示が達成できない場合には、その事情とともに締め切り前および授業開始前までに科目責任者にメールで連絡すること。これらの十分な対応が行われたと判断された場合には事情などに応じてレポート等での対応を行うこととする。
教科書 歯科技工管理学／全国歯科技工士教育協議会編；末瀬一彦ほか著、全国歯科技工士教育協議会、末瀬一彦、医歯薬出版、2017
参考書 歯科六法コンメンタール 第2版 歯科関連法律の逐条解説／社会歯科学会、シヤカイガクツカイ、ヒョーロン・パブリッシャーズ、2021 事例・判例から学ぶ歯科の法律／小室歳信 著、小室 歳信、1952-、医歯薬出版、2004 歯科医療管理：安全・安心・信頼の歯科医療を提供するために／日本歯科医療管理学会編、日本歯科医療管理学会、医歯薬出版、2018 医療安全：患者の安全を守る看護の基礎力・臨床力／小林美亜編集、小林 美亜、学研メディカル秀潤社、2018 看護の現場ですぐに役立つ医療安全のキホン：インシデントから患者さんを守る方法を学ぶ！／大坪陽子、荒神裕之、雑賀智也著、大坪陽子、荒神 裕之、雑賀 智也、秀和システム、2018 :メディカ出版
他科目との関連 臨床義歯管理工学、再建工学包括臨床実習Ⅱの実習と関連があります。
履修上の注意事項 事前に資料の配布、LMS へのアップロード等があった場合には、予習して授業に臨むこと。演習課題の提出を提示された期日までに行うこと。
備考 昨年度授業終了時アンケート結果より、講義時の演習内容を再検討し、グループワークでの演習による理解度アップの時間を確保した。また、インフォームドコンセントと個人情報保護は医療倫理で実施していることから削除し、社会保障の項目を追加した。 担当教員のオフィスアワーおよび連絡先 大木明子 准教授 メールにて日時を相談 moki.mfoe@tmd.ac.jp
オフィスアワー メールにて面談の日程を調整すること。2 号館 2 階准教授室

時間割番号	023519						
科目名	画像解析学			科目ID	DE451900L		
担当教員	土田 優美 渡邊 裕 中村 伸 三浦 雅彦 高市 敦士[TSUCHIDA Yumi, WATANABE Hiroshi, NAKAMURA Shin, MIURA Masahiko, TAKAICHI Atsushi]						
開講時期	2026 年度前期	対象年次	4	単位数	1		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	メディア利用科目		
科目名:画像解析学 時間数:15 時間 授業形態:講義・演習 選択							
主な講義場所 遠隔授業(LMS) 2 号館 3 階 CAD/CAM 演習室							
授業の目的、概要等 放射線の性質や、顎顔面口腔領域で利用される画像検査法の種類、特徴および適応を理解する。							
授業の到達目標 1. 放射線の種類、性質、測定法、単位を説明できる。 2. エックス線の発生と画像形成の原理を説明できる。 3. エックス線フィルムおよび増感紙の構造と性質を説明できる。 4. エックス線写真処理の原理と方法を説明できる。 5. デジタルラジオグラフィーの原理および特徴を説明できる。 6. 口内法エックス線撮影の種類を列挙し、それぞれの方法および適応を説明できる。 7. パノラマエックス線撮影の原理、方法および適応を説明できる。 8. 顔面頭蓋部撮影の種類を列挙し、それぞれの方法および適応を説明できる。 9. 歯科用コーンビーム CT、CT、MRI、超音波検査の原理と顎顔面口腔領域における適応を説明できる。 10. 歯科用インプラントのためのステント作成とそのステントを用いる CT について説明できる。 11. 各種画像に見られる顎顔面口腔領域の正常像について説明できる。 12. 各種画像に見られる顎顔面口腔領域の異常所見を指摘できる。 13. 放射線の人体に対する影響を説明できる。 14. がんの放射線治療とその補助装置を説明できる。 15. 断層撮影画像データの三次元構築ができる。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-3	4/6	13:30-16:10	遠隔授業 (非同期型)	エックス線写真の原理	放射線の種類と性質、エックス線画像形成の原理、エックス線写真処理の原理、デジタルラジオグラフィーの原理	渡邊 裕	到達目標:1-5 学習方法:講義 事前学習:なし 終了後に小テストを実施
4-6	4/13	13:30-16:10	遠隔授業 (非同期型)	歯科用エックス線撮影の種類と原理	口内法エックス線撮影の種類、パノラマエックス線撮影の原理、顔面頭蓋部撮影の種類、歯科用コーンビーム CT ほか、インプラントのためのステントと CT	渡邊 裕	到達目標:6-10 学習方法:講義 事前学習:なし 終了後に小テストを実施
7-8	4/20	13:30-15:10	遠隔授業 (非同期型)	顎顔面口腔領域の正常像と異常像	画像診断、正常像と異常所見	中村 伸	到達目標:11-12 学習方法:講義

			型)				事前学習:なし 終了後に小テストを実施
9-10	4/27	13:30-15:10	遠隔授業 (非同期型)	放射線の人体への影響	放射線の人体に対する影響	三浦 雅彦	到達目標:13 学習方法:講義 事前学習:なし 終了後に小テストを実施
11-12	4/27	15:25-17:05	遠隔授業 (非同期型)	放射線治療	がんの放射線治療とその補助装置	三浦 雅彦	到達目標:14 学習方法:講義 事前学習:なし 終了後に小テストを実施
13-15	5/11	13:30-16:10	リアルモ ードラボ	断層撮影画像データの 三次元構築	Zed Viewを使用した CT データの 3D モデリング	土田 優美	到達目標:15 学習方法:演習 事前学習:なし
16	5/18	13:30-14:15	リアルモ ードラボ	試験	試験	土田 優美	

授業方法

講義、演習

遠隔授業(非同期型)、対面授業を行う。

遠隔授業(非同期型)は LMS にアップロードされる資料にて学習し、小テストでの合格または課題の提出をもって出席とする。

※小テストは実施期限をよく確認し、必ず期限内に実施すること。小テスト未実施および不合格は欠席となるため注意すること。

※小テストは満点の取得をもって合格とする。

※小テストは期限内であれば何度でも実施可能。

遠隔授業(非同期型)での質問は、授業担当者にメールで質問すること。回答は授業担当者よりメールで行う。

なお、毎回の授業後に 5 分間の予復習を行うこと。

成績評価の方法

評価は期末試験(筆記試験)によって行う。

期末試験の点数が 6 割未満の場合は再試験とする。

出席状況、授業態度の結果を総合的に評価に加味する。

成績評価の基準

期末試験の点数が 6 割以上のものを合格とする。

出席状況、授業態度、小テストの結果を加味して総合的に評価し、総合点が 80 点以上であれば A 評価以上とする。

準備学習等についての具体的な指示

事前に資料の配布、LMS へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

試験の受験資格

定期試験、追・再試験を受験する資格は以下のすべてとする。

・3 分の 2 以上の出席を基本とする。

・特別に勘案すべき事情があるために指示が達成できない場合や同期型授業・見学実習に参加できない場合には、その事情とともに締め切り前および授業開始前までに科目責任者にメールで連絡すること。これらの十分な対応が行われたと判断された場合には事情などに応じてレポート等での対応を行うこととする。

参考書

歯科放射線学／岡野、友宏、1947-、小林、馨、1955-、有地、榮一郎、勝又、明敏、林、孝文、岡野友宏 [ほか] 編集、新井嘉則 [ほか] 執筆:医歯薬出版、2024

歯科臨床における画像診断アトラス／日本歯科放射線学会 編、日本歯科放射線学会:、医歯薬出版、2020

備考

前年度履修学生の科目評価で、特段の改善意見がなかったため、前年度と同様の授業編成とする。

オフィスアワー

土田 優美 メールにて面談の日程を調整すること

三浦 雅彦 月、水、金 16:00－18:00 D 棟 12F 教授室

渡邊 裕 毎週火曜日 P.M.0:00-16:00

時間割番号	023860						
科目名	スポーツ歯科学				科目ID		
担当教員	大木 明子, 中禮 宏, 林 海里[OKI Meiko, CHUREI Hiroshi, HAYASHI Kairi]						
開講時期	2026 年度前期	対象年次	4		単位数	1	
実務経験のある教員による授業	該当する				授業形態	対面	
選択 15 時間 講義 7 コマ、演習 8 コマ							
主な講義場所 2号館 3 階 第 3 講義室 口腔保健工学専攻 第 2 実習室、総合実習室、重合・鋳造室							
授業の目的、概要等 スポーツとスポーツ外傷、歯科保健医療について理解し、外傷予防に用いる歯科領域の装置、特にマウスガードの構造と製作法を理解する。マウスガードを製作する。							
授業の到達目標 1. 顎口腔領域のスポーツ外傷とその特徴を理解できる。 2. 顎口腔領域のスポーツ外傷の予防について理解できる。 3. 顎口腔系機能と身体運動機能の関連について理解できる。 4. スポーツ選手における顎口腔系の状態とその健康管理について理解できる。 5. フェイスガードの構造と製作法について理解できる。 6. マウスガードの目的、種類、特徴について理解できる。 7. マウスガードの材料について理解できる。 8. マウスガードの構造と製作法について説明、応用でき、マウスガードを製作する。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-3	5/28	13:30-16:10	第3講義室 第2実習室	スポーツ歯科学概論 実習用模型の準備	スポーツ外傷の特徴と予防、顎口腔系機能と身体運動機能の関連、スポーツ選手の健康管理 実習用模型の準備	中禮 宏	到達目標:1-4 講義 対面 事前学習:LMS の資料を確認しておくこと 実習用模型の準備
4-6	6/4	13:30-16:10	第3講義室 第2実習室	マウスガードの製作法 実習用模型の確認	マウスガードの目的、種類、材料、製作法 実習用模型の確認	中禮 宏	到達目標:6-8 講義 対面 事前学習:LMS の資料を確認しておくこと 実習用模型の準備
7-9	6/11	13:30-16:10	第3講義室 第2実習室	遠隔支援、フェイスガードの製作法 マウスガードの製作 1(実習)	遠隔支援、フェイスガードの目的、構造、製作法 模型調整・咬合器装着	大木 明子, 中禮 宏	到達目標:4-8 講義、実習 対面 事前学習:LMS の資料を確認しておくこと、実習用模型を乾燥した状態で準備しておくこと
10-12	6/18	13:30-16:10	第3講義室 第2実習室	マウスガードの製作 2 (実習)	EVA シート製マウスガードの圧接調整、ポリオレフィンシートマウス	大木 明子, 中禮 宏	到達目標:6-8 実習 事前学習:

本科目を受講し、日本スポーツ歯科医学会に入会、既定の研修指導等を実施すると、学会認定の「マウスガードテクニカルインストラクター」の資格の申請を行うことが可能である。

昨年度授業終了時アンケート結果より、マウスガード製作実習の事前準備を行う時間があるように改善した。

科目責任者のオフィスアワーおよび連絡先

大木明子 准教授 メールにて日時を相談 moki.mfoe@tmd.ac.jp

担当教員のオフィスアワーおよび連絡先

中禮 宏 講師 メールにて日時を相談 chu.spm@tmd.ac.jp

オフィスアワー

大木 明子:メールにて面談の日程を調整すること。2 号館 2 階准教授室

時間割番号	023870						
科目名	顎関節症とオーラルアプライアンス			科目ID			
担当教員	大木 明子, 西山 暁, 石山 裕之, 秀島 雅之, 鈴木 達[OKI Meiko, NISHIYAMA Akira, ISHIYAMA Hiroyuki, HIDEISHIMA Masayuki, SUZUKI Tatsu]						
開講時期	2026 年度前期	対象年次	4	単位数	1		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面		
選択 15 時間 講義 5 コマ、演習実習 10 コマ							
主な講義場所 対面講義(第3講義室) 2号館4階 第2実習室							
授業の目的、概要等 顎関節症の症状と治療法を理解し、治療に用いるスプリントの意義と製作法を修得する。							
授業の到達目標 1. 顎関節症の症状について説明できる。 2. 顎関節症の治療法について説明できる。 3. 顎関節症に用いるスプリントの製作法について説明でき、装置を製作する。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	9/3	13:30-15:10	第3講義室	顎関節症の症状	顎関節症の臨床症状 顎関節症の原因	西山 暁	到達目標:1 講義、演習 対面 事前学習:LMSの資料をチェックすること
3-4	9/3	15:25-17:05	第2実習室	顎関節症に用いるスプリントの模型製作、咬合器装着	実習用模型の製作、咬合器装着	西山 暁 大木 明子	到達目標:2-3 演習・実習 対面 事前学習:LMSの資料をチェックすること 実習補助:榎本 耕一
5-7	9/4	13:30-16:10	第3講義室	顎関節症の治療法	顎関節症の治療法 スタビライゼーションスプリント その他のスプリント	西山 暁	到達目標:2 講義、演習 対面 事前学習:LMSの資料をチェックすること
8-11	9/10	13:30-17:05	第2実習室	顎関節症に用いるスプリントの製作実習	スタビライゼーションスプリントの製作、ワックスアップ、埋没、流ろう、重合	西山 暁 大木 明子	到達目標:3 演習・実習 対面 事前学習:LMSの資料をチェックすること 実習補助:榎本 耕一
12-15	9/11	13:30-17:05	第2実習室	顎関節症に用いるスプリントの製作実習	スタビライゼーションスプリントの割り出し、咬合調整、形態修正研磨	西山 暁 大木 明子	到達目標:3 演習・実習 対面 事前学習:LMSの資料をチェックす

						ること 実習補助: 榎本 耕一 実習 作品の提出
授業方法						
講義、演習実習						
対面講義のほかにオールアプライアンス製作が含まれます。						
事前に提示されている資料を学習して準備しておくこと。						
課題を行い提出すること。						
授業内容						
対面講義・演習実習(顎関節症治療用のスタビライゼーションスプリントの製作)						
成績評価の方法						
評価は提出課題、提出作品および期末試験(対面筆記試験:60 分)によって行う。						
・筆記試験(対面)(80 点)、製作物(顎関節症用スプリント:20 点)で総合的に評価する。						
・試験が 100 点満点中 60 点未満の場合は再試験とする。						
・製作物は担当教員により評価する。						
成績評価の基準						
・試験の点数が 60%以上得点したものを合格とする。						
・配点は、筆記試験 80 点、製作物 20 点とし、合計 100 点満点で換算する。						
・出席状況、授業態度を加味して総合的に評価し、この科目の評価とする。						
準備学習等についての具体的な指示						
事前に資料の配布、LMS へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。						
試験の受験資格						
定期試験、追・再試験を受験する資格は以下のすべてとする。						
・3 分の 2 以上の出席を基本とする。出席確認は対面で学生証のカードタッチで行う。遅刻でもカードタッチがなければ欠席とする。						
・対面講義に出席し、演習に参加すること。						
・演習実習に出席し、提示された期限までにプロダクトを提出すること。						
・特別に勘案すべき事情があるために指示が達成できない場合には、その事情とともに締め切り前および授業開始前までに科目責任者にメールで連絡すること。これらの十分な対応が行われたと判断された場合には事情などに応じてレポート等での対応を行うこととする。						
参考書						
写真でマスターする顎関節症治療のためのスプリントのつくり方・つかい方／鯨見進一、皆木省吾 編著、鯨見 進一、1956-、皆木 省吾、ヒョーロン・パブリッシャーズ、2011						
歯科技工実習／全国歯科技工士教育協議会編；末瀬一彦ほか著、全国歯科技工士教育協議会、末瀬 一彦、:医歯薬出版、2017						
:羊土社						
他科目との関連						
周術期手術支援工学を基礎としています。						
履修上の注意事項						
事前に資料の配布、LMS へのアップロード等があった場合には、予習して授業に臨むこと。実習の日はインスツルメント器材を準備しておくこと。						
備考						
新カリキュラムにより 15 時間の新科目とし、事前準備も含めた時間とした。昨年度授業終了時アンケート結果より、実習の流れを再確認し、実習がスムーズに進むように検討している。						
担当教員のオフィスアワーおよび連絡先						
西山 暁 准教授 メールにて日時を相談 anishi.tmj@tmd.ac.jp						
榎本 耕一 (歯科技工部)						
科目責任者のオフィスアワーおよび連絡先						
大木 明子 准教授 メールにて日時を相談 moki.mfoe@tmd.ac.jp						
オフィスアワー						
大木 明子メールにて面談の日程を調整すること。2 号館 2 階准教授室						

時間割番号	023880						
科目名	睡眠とオーラルアプライアンス			科目ID			
担当教員	大木 明子, 石山 裕之[OKI Meiko, ISHIYAMA Hiroyuki]						
開講時期	2026 年度前期	対象年次	4	単位数	1		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面		
選択 15 時間 講義 4 コマ、演習実習 11 コマ							
主な講義場所 対面講義 2 号館 3F 第 3 講義室 2 号館 4 階 第 2 実習室							
授業の目的、概要等 睡眠時無呼吸症候群の症状と治療法を理解し、治療に用いるスプリントの意義と製作法を修得する。							
授業の到達目標 1. 閉塞性睡眠時無呼吸症(Obstructive Sleep Apnea: OSA)の症状について説明できる。 2. OSA の治療法について説明できる。 3. OSA に用いるスリープスプリント(Oral Appliance: OA)の製作法について説明でき、装置を製作する。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	4/9	13:30-15:10	第3講義室	閉塞性睡眠時無呼吸症 (OSA)とは	OSA の医学的背景 医科との連携と歯科での対応	石山 裕之	到達目標:1 Zoom 講義、終了後に小テストを実施 事前学習: LMS の資料をチェックすること
3-4	4/16	13:30-15:10	第3講義室	OSA の治療法	OSA の治療法 OSA 用スプリント (OA)の種類と材料、設計	石山 裕之	到達目標:2 Zoom 講義、終了後に小テストを実施 事前学習: LMS の資料をチェックすること
5-6	4/23	13:30-15:10	第2実習室	OSA 用 OA の製作実習	咬合採得、咬合器装着	大木 明子, 石山 裕之	到達目標:3 実習 事前学習: LMS の資料をチェックすること OA 製作に用いる模型の製作をしておくこと 実習補助:榎本 耕一
7-9	4/30	13:30-16:10	第2実習室	OSA 用 OA の製作実習	OA の設計、シートの圧接	大木 明子, 石山 裕之	到達目標:3 実習 事前学習: LMS の資料をチェックすること 実習補助:榎本 耕一 実習作品の提出

備考

新カリキュラムから独立した科目とし、対面講義および実習の事前準備も含めた内容とした。昨年度授業終了時アンケート結果より、実習の流れを再確認し、実習がスムーズに進むように検討している。

担当教員のオフィスアワーおよび連絡先

石山 裕之 講師 メールにて日時を相談 hishiyama.pro@tmd.ac.jp

榎本 耕一（歯科技工部）

科目責任者のオフィスアワーおよび連絡先

大木明子 准教授 メールにて日時を相談 moki.mfoe@tmd.ac.jp

オフィスアワー

大木 明子メールにて面談の日程を調整すること。2号館2階准教授室

時間割番号	023990						
科目名	デジタルデンティストリー実習				科目 ID		
担当教員	土田 優美 高市 敦士[TSUCHIDA Yumi, TAKAICHI Atsushi]						
開講時期	2026 年度前期	対象年次	4		単位数	1	
実務経験のある教員による授業	該当する				授業形態	対面	
科目名:デジタルデンティストリー実習 時間数:30 時間 授業形態:実習							
主な講義場所 2 号館 3 階 リアルモードラボ							
授業の目的、概要等 デジタルデンティストリーについて口腔保健工学専攻 3 年生、歯学科 6 年生に説明することにより、自らの知識と技能の向上を図る。							
授業の到達目標 1. 口腔内スキャン、フェイススキャン、模型スキャンについて説明できる。 2. 歯科用 CAD ソフトウェアによる設計について説明できる。 3. 歯科用切削加工機や付加製造機について説明できる。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	4/6	10:45-12:25	遠隔授業 (同期型)	オリエンテーション	オリエンテーション	土田 優美	
3-4	4/13	10:45-12:25	遠隔授業 (非同期型)	課題作成	D6 合同実習での説明資料作成	土田 優美	到達目標:1-3 学習方法:実習 事前学習:なし
5-6	4/20	10:45-12:25	リアルモードラボ	OE3 合同実習	スキャンの解説、機器操作説明	土田 優美	到達目標:1 学習方法:実習 事前学習:なし
7-8	4/27	10:45-12:25	リアルモードラボ	OE3 合同実習	スキャンの解説、機器操作説明	土田 優美	到達目標:1 学習方法:実習 事前学習:なし
9-10	5/11	10:45-12:25	リアルモードラボ	OE3 合同実習	スキャンの解説、機器操作説明	土田 優美	到達目標:1 学習方法:実習 事前学習:なし
11-12	5/18	10:45-12:25	遠隔授業 (非同期型)	課題作成	D6 合同実習での説明資料作成	土田 優美	到達目標:1-3 学習方法:実習 事前学習:なし
13-15	5/25	13:30-16:10	リアルモードラボ	合同実習 練習	デジタルデンティストリーの解説、機器操作説明の練習	土田 優美	到達目標:1-3 学習方法:実習 事前学習:なし
16-18	6/1	13:30-16:10	リアルモードラボ	D6 合同実習	デジタルデンティストリーの解説、機器操作説明	土田 優美	到達目標:1-3 学習方法:実習 事前学習:なし
19-21	6/8	13:30-16:10	リアルモードラボ	D6 合同実習	デジタルデンティストリーの解説、機器操作説明	土田 優美	到達目標:1-3 学習方法:実習 事前学習:なし
22-24	6/15	13:30-16:10	リアルモードラボ	D6 合同実習	デジタルデンティストリーの解説、機器操作説明	土田 優美	到達目標:1-3 学習方法:実習 事前学習:なし

時間割番号	023a50						
科目名	再建工学包括臨床実習Ⅱ			科目ID			
担当教員	土田 優美, 池田 正臣, 青木 和広, 高市 敦士, 岩城 麻衣子, 塩沢 真穂, 大木 明子, 佐藤 隆明[TSUCHIDA Yumi, IKEDA Masaomi, AOKI Kazuhiro, TAKAICHI Atsushi, IWAKI Maiko, SHIOZAWA Maho, OKI Meiko, SATO Takaaki]						
開講時期	2026 年度通年	対象年次	4	単位数	6		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面		
科目名:再建工学包括臨床実習Ⅱ 時間数:180 時間 授業形態:実習							
主な講義場所 2 号館 4 階 第 2 実習室							
授業の目的、概要等 患者本位の歯科医療を実施するうえで必要となる各種歯科補綴装置の製作、ならびに修理に関する知識・技能を習得する。							
授業の到達目標 1. 臨床実習に必要なとなる基本的な歯科技工技術を確実に身につける。 2. 本学病院の診療システムおよび各診療科の特徴を理解する。 3. 当該実習日における効率的な作業計画を立案できる。 4. 使用する材料の理工学的特長を理解し、効率的かつ確実性が高い技工作業ができる。 5. 症例に応じた補綴デザインを選択し、高品質な補綴物を製作できる。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-4	4/7	13:30-17:05	第2実習室	臨床実習	臨床実習	土田 優美	到達目標:1-5 学習方法:実習 事前学習:なし
5-8	4/10	13:30-17:05	第2実習室	臨床実習	臨床実習	土田 優美	到達目標:1-5 学習方法:実習 事前学習:なし
9-12	4/14	13:30-17:05	第2実習室	臨床実習	臨床実習	土田 優美	到達目標:1-5 学習方法:実習 事前学習:なし
13-16	4/17	13:30-17:05	第2実習室	臨床実習	臨床実習	土田 優美	到達目標:1-5 学習方法:実習 事前学習:なし
17-20	4/21	13:30-17:05	第2実習室	臨床実習	臨床実習	土田 優美	到達目標:1-5 学習方法:実習 事前学習:なし
21-24	4/24	13:30-17:05	第2実習室	臨床実習	臨床実習	土田 優美	到達目標:1-5 学習方法:実習 事前学習:なし
25-28	4/28	13:30-17:05	第2実習室	臨床実習	臨床実習	土田 優美	到達目標:1-5 学習方法:実習 事前学習:なし
29-32	5/1	13:30-17:05	第2実習室	臨床実習	臨床実習	土田 優美	到達目標:1-5 学習方法:実習 事前学習:なし
33-36	5/8	13:30-17:05	第2実習室	臨床実習	臨床実習	土田 優美	到達目標:1-5 学

			室				習方法:実習 事前学習:なし
37-40	5/12	13:30-17:05	第2実習室	臨床実習	臨床実習	土田 優美	到達目標:1-5 学習方法:実習 事前学習:なし
41-44	5/15	13:30-17:05	第2実習室	臨床実習	臨床実習	土田 優美	到達目標:1-5 学習方法:実習 事前学習:なし
45-48	5/19	13:30-17:05	第2実習室	臨床実習	臨床実習	土田 優美	到達目標:1-5 学習方法:実習 事前学習:なし
49-52	5/22	13:30-17:05	第2実習室	臨床実習	臨床実習	土田 優美	到達目標:1-5 学習方法:実習 事前学習:なし
53-56	5/26	13:30-17:05	第2実習室	臨床実習	臨床実習	土田 優美	到達目標:1-5 学習方法:実習 事前学習:なし
57-60	5/29	13:30-17:05	第2実習室	臨床実習	臨床実習	土田 優美	到達目標:1-5 学習方法:実習 事前学習:なし
61-64	6/2	13:30-17:05	第2実習室	臨床実習	臨床実習	土田 優美	到達目標:1-5 学習方法:実習 事前学習:なし
65-68	6/5	13:30-17:05	第2実習室	臨床実習	臨床実習	土田 優美	到達目標:1-5 学習方法:実習 事前学習:なし
69-72	6/9	13:30-17:05	第2実習室	臨床実習	臨床実習	土田 優美	到達目標:1-5 学習方法:実習 事前学習:なし
73-76	6/12	13:30-17:05	第2実習室	臨床実習	臨床実習	土田 優美	到達目標:1-5 学習方法:実習 事前学習:なし
77-80	6/19	13:30-17:05	第2実習室	臨床実習	臨床実習	土田 優美	到達目標:1-5 学習方法:実習 事前学習:なし
81-84	6/26	13:30-17:05	第2実習室	臨床実習	臨床実習	土田 優美	到達目標:1-5 学習方法:実習 事前学習:なし
85-88	6/30	13:30-17:05	第2実習室	臨床実習	臨床実習	土田 優美	到達目標:1-5 学習方法:実習 事前学習:なし
89-92	7/6	13:30-17:05	第2実習室	IOS 実習(OH と合同)	デジタルデンティストリーの解説、機器操作説明	土田 優美	到達目標:1-5 学習方法:実習 事前学習:なし
93-96	7/7	13:30-17:05	第2実習室	臨床実習	臨床実習	土田 優美	到達目標:1-5 学習方法:実習 事前学習:なし
97-98	7/21	09:45-11:30	第2実習室	臨床実習	臨床実習	土田 優美	到達目標:1-5 学習方法:実習 事前学習:なし

							前学習:なし
99-10 1	9/8	09:45-12:25	第2実習 室	臨床実習	臨床実習	土田 優美	到達目標:1-5 学 習方法:実習 事 前学習:なし
102-1 04	9/15	09:45-12:25	第2実習 室	臨床実習	臨床実習	土田 優美	到達目標:1-5 学 習方法:実習 事 前学習:なし
105-1 08	9/17	13:30-17:05	第2実習 室	臨床実習	臨床実習	土田 優美	到達目標:1-5 学 習方法:実習 事 前学習:なし
109-1 12	9/24	13:30-17:05	第2実習 室	臨床実習	臨床実習	土田 優美	到達目標:1-5 学 習方法:実習 事 前学習:なし
113-1 16	9/29	13:30-17:05	第2実習 室	臨床実習	臨床実習	土田 優美	到達目標:1-5 学 習方法:実習 事 前学習:なし
117-1 20	10/1	13:30-17:05	第2実習 室	臨床実習	臨床実習	土田 優美	到達目標:1-5 学 習方法:実習 事 前学習:なし
121-1 24	10/6	13:30-17:05	第2実習 室	臨床実習	臨床実習	土田 優美	到達目標:1-5 学 習方法:実習 事 前学習:なし
125-1 28	10/8	13:30-17:05	第2実習 室	臨床実習	臨床実習	土田 優美	到達目標:1-5 学 習方法:実習 事 前学習:なし
129-1 32	10/13	13:30-17:05	第2実習 室	臨床実習	臨床実習	土田 優美	到達目標:1-5 学 習方法:実習 事 前学習:なし
133-1 36	10/15	13:30-17:05	第2実習 室	臨床実習	臨床実習	土田 優美	到達目標:1-5 学 習方法:実習 事 前学習:なし
137-1 40	10/20	13:30-17:05	第2実習 室	臨床実習	臨床実習	土田 優美	到達目標:1-5 学 習方法:実習 事 前学習:なし
141-1 44	10/22	13:30-17:05	第2実習 室	臨床実習	臨床実習	土田 優美	到達目標:1-5 学 習方法:実習 事 前学習:なし
145-1 48	10/27	13:30-17:05	第2実習 室	臨床実習	臨床実習	土田 優美	到達目標:1-5 学 習方法:実習 事 前学習:なし
149-1 52	10/29	13:30-17:05	第2実習 室	臨床実習	臨床実習	土田 優美	到達目標:1-5 学 習方法:実習 事 前学習:なし
153-1 56	11/5	13:30-17:05	第2実習 室	臨床実習	臨床実習	土田 優美	到達目標:1-5 学 習方法:実習 事 前学習:なし
157-1 60	11/10	13:30-17:05	第2実習 室	臨床実習	臨床実習	土田 優美	到達目標:1-5 学 習方法:実習 事 前学習:なし

161-1 64	11/12	13:30-17:05	第2実習 室	臨床実習	臨床実習	土田 優美	到達目標:1-5 学 習方法:実習 事 前学習:なし
165-1 68	11/17	13:30-17:05	第2実習 室	臨床実習	臨床実習	土田 優美	到達目標:1-5 学 習方法:実習 事 前学習:なし
169-1 72	11/19	13:30-17:05	第2実習 室	臨床実習	臨床実習	土田 優美	到達目標:1-5 学 習方法:実習 事 前学習:なし
173-1 76	11/24	13:30-17:05	第2実習 室	臨床実習	臨床実習	土田 優美	到達目標:1-5 学 習方法:実習 事 前学習:なし
177-1 80	11/26	13:30-17:05	第2実習 室	臨床実習	臨床実習	土田 優美	到達目標:1-5 学 習方法:実習 事 前学習:なし

授業方法

実習

本学病院の患者ケースの歯科技工およびケースレポート作成を行う。

なお、毎回の授業後に 5 分間の予復習を行うこと。

成績評価の方法

評価は各回で課される小課題および実習で製作するケースレポートによって行う。

- ・小課題(60 点) (各回で課される課題の点数の合計点を 60 点に換算する。欠席により課題の提出がされない場合は当該回の点数を 0 点とする)
- ・ケースレポート(40 点)

出席状況、授業態度を総合的に評価に加味する。

成績評価の基準

4 分の 3 以上の出席を単位取得の基本条件とする。

小課題、ケースレポートの評定の合計が 6 割以上のものを合格とする。

評定に授業態度を加味して総合的に評価し、総合点が 80 点以上であれば A 評価以上とする。

準備学習等についての具体的な指示

臨床実習予定および基礎実習資料を事前に確認し、当日行う実習内容を把握しておくこと。

試験の受験資格

本科目では試験を行わない。

参考書

有床義歯技工学／全国歯科技工士教育協議会 鈴木、哲也、1954-、全国歯科技工士教育協議会 編 鈴木哲也 [ほか著]：医歯薬出版、2017.2

歯冠修復技工学／全国歯科技工士教育協議会、末瀬 一彦、1951-、全国歯科技工士教育協議会 編集[末瀬一彦] [ほか] [著]：医歯薬出版、2017.3

歯科技工実習／全国歯科技工士教育協議会、末瀬 一彦、1951-、全国歯科技工士教育協議会 編集末瀬一彦 [ほか 著]：医歯薬出版、2017.4

基礎から学ぶ CAD/CAM テクノロジー／日本デジタル歯科学会、全国歯科技工士教育協議会、末瀬 一彦、1951-、宮崎、隆、1953-、日本デジタル歯科学会、全国歯科技工士教育協議会 監修、末瀬一彦、宮崎隆 編：医歯薬出版、2017.8

履修上の注意事項

外来では医療スタッフとしての自覚をもって行動すること。

備考

カリキュラム変更により授業編成が前年より変更となっている。

オフィスアワー

土田 優美：メールにて面談の日程を調整すること

時間割番号	023a60						
科目名	再建工学包括臨床実習Ⅲ				科目ID		
担当教員	土田 優美, 池田 正臣, 青木 和広, 高市 敦士, 岩城 麻衣子, 佐藤 隆明, 塩沢 真穂, 大木 明子[TSUCHIDA Yumi, IKEDA Masaomi, AOKI Kazuhiro, TAKAICHI Atsushi, IWAKI Maiko, SATO Takaaki, SHIOZAWA Maho, OKI Meiko]						
開講時期	2026 年度通年	対象年次	4		単位数	2	
実務経験のある教員による授業	該当する				授業形態	対面	
科目名:再建工学包括臨床実習Ⅲ 時間数:60 時間 授業形態:実習							
主な講義場所 2 号館 4 階 第 2 実習室							
授業の目的、概要等 患者本位の歯科医療を実施するうえで必要となる各種歯科補綴装置の製作、ならびに修理に関する高度な知識・技能を習得する。							
授業の到達目標 1. 臨床実習に必要なとなる歯科技工技術を確実に身につける。 2. 本学病院の診療システムおよび各診療科の特徴を理解する。 3. 当該実習日における効率的な作業計画を立案できる。 4. 使用する材料の理工学的特長を理解し、効率のかつ確実性が高い技工作業ができる。 5. 症例に応じた補綴デザインを選択し、高品質な補綴物を製作できる。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-4	7/14	13:30-17:05	第2実習室	臨床実習	臨床実習	土田 優美	到達目標:1-5 学習方法:実習 事前学習:なし
5-8	7/17	13:30-17:05	第2実習室	臨床実習	臨床実習	土田 優美	到達目標:1-5 学習方法:実習 事前学習:なし
9-12	7/21	13:30-17:05	第2実習室	臨床実習	臨床実習	土田 優美	到達目標:1-5 学習方法:実習 事前学習:なし
13-16	7/24	13:30-17:05	第2実習室	臨床実習	臨床実習	土田 優美	到達目標:1-5 学習方法:実習 事前学習:なし
17-20	7/28	13:30-17:05	第2実習室	臨床実習	臨床実習	土田 優美	到達目標:1-5 学習方法:実習 事前学習:なし
21-24	9/1	13:30-17:05	第2実習室	臨床実習	臨床実習	土田 優美	到達目標:1-5 学習方法:実習 事前学習:なし
25-28	9/8	13:30-17:05	第2実習室	臨床実習	臨床実習	土田 優美	到達目標:1-5 学習方法:実習 事前学習:なし
29-32	9/15	13:30-17:05	第2実習室	臨床実習	臨床実習	土田 優美	到達目標:1-5 学習方法:実習 事前学習:なし
33-36	12/1	13:30-17:05	第2実習室	臨床実習	臨床実習	土田 優美	到達目標:1-5 学習方法:実習 事前学習:なし

							前学習:なし
37-40	12/3	13:30-17:05	第2実習室	臨床実習	臨床実習	土田 優美	到達目標:1-5 学習方法:実習 事前学習:なし
41-44	12/8	13:30-17:05	第2実習室	臨床実習	臨床実習	土田 優美	到達目標:1-5 学習方法:実習 事前学習:なし
45-48	12/10	13:30-17:05	第2実習室	臨床実習	臨床実習	土田 優美	到達目標:1-5 学習方法:実習 事前学習:なし
49-52	12/17	13:30-17:05	第2実習室	臨床実習	臨床実習	土田 優美	到達目標:1-5 学習方法:実習 事前学習:なし
53-56	12/22	13:30-17:05	第2実習室	臨床実習	臨床実習	土田 優美	到達目標:1-5 学習方法:実習 事前学習:なし
57-60	1/13	08:50-12:25		最終発表	最終発表	土田 優美	

授業方法

実習

本学病院の患者ケースの歯科技工およびケースレポート作成を行う。

なお、毎回の授業後に 5 分間の予復習を行うこと。

成績評価の方法

評価は各回で課される小課題、実習で製作するケースレポート、および最終発表によって行う。

・小課題(30 点)(各回で課される課題の点数の合計点を 60 点に換算する。欠席により課題の提出がされない場合は当該回の点数を 0 点とする)

・ケースレポート(40 点)・最終発表(30 点)

出席状況、授業態度を総合的に評価に加味する。

成績評価の基準

4 分の 3 以上の出席を単位取得の基本条件とする。

小課題、ケースレポート、最終発表の評定の合計が 6 割以上のものを合格とする。

評定に授業態度を加味して総合的に評価し、総合点が 80 点以上であれば A 評価以上とする。

準備学習等についての具体的な指示

臨床実習予定および基礎実習資料を事前に確認し、当日行う実習内容を把握しておくこと。

試験の受験資格

本科目では試験を行わない。

参考書

有床義歯技工学／全国歯科技工士教育協議会,鈴木, 哲也, 1954-,全国歯科技工士教育協議会 編,鈴木哲也 ほか 著:医歯薬出版, 2017.2

歯冠修復技工学／全国歯科技工士教育協議会,末瀬, 一彦, 1951-,全国歯科技工士教育協議会 編集[末瀬一彦] [ほか] [著]:医歯薬出版, 2017.3

歯科技工実習／全国歯科技工士教育協議会,末瀬, 一彦, 1951-,全国歯科技工士教育協議会 編集,末瀬一彦 ほか 著:医歯薬出版, 2017.4

基礎から学ぶCAD/CAMテクノロジー／日本デジタル歯科学会,全国歯科技工士教育協議会,末瀬, 一彦, 1951-,宮崎, 隆, 1953-,日本デジタル歯科学会, 全国歯科技工士教育協議会 監修,末瀬一彦, 宮崎隆 編:医歯薬出版, 2017.8

履修上の注意事項

外来では医療スタッフとしての自覚をもって行動すること。

備考

カリキュラム変更により授業編成が前年より変更となっている。

オフィスアワー

土田 優美メールにて面談の日程を調整すること

時間割番号	023a70						
科目名	統合実習基礎			科目ID			
担当教員	土田 優美 高市 敦士[TSUCHIDA Yumi, TAKAICHI Atsushi]						
開講時期	2026 年度後期	対象年次	4	単位数	1.5		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面		
科目名:統合実習基礎 時間数:45 時間 授業形態:実習							
主な講義場所 2 号館 4 階 第 2 実習室							
授業の目的、概要等 全部床義歯の人工歯排列およびクラウンのワックスパターン製作を通して、歯科技工士として必要な基礎知識および技術を養う。							
授業の到達目標 1. 全部床義歯において適切な咬合を付与した人工歯排列を行うことができる。 2. 自然感と清掃性を考慮した歯肉形成を施すことができる。 3. 一定時間内に人工歯排列、歯肉形成ができる。 4. 一定時間内に歯列に調和したクラウンのワックスパターンを製作できる。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-3	9/29	09:45-12:25	第2実習室	全部床義歯人工歯排列	全部床義歯人工歯排列	土田 優美	到達目標:1-3 学習方法:実習 事前学習:なし
4-6	10/6	09:45-12:25	第2実習室	全部床義歯人工歯排列	全部床義歯人工歯排列	土田 優美	到達目標:1-3 学習方法:実習 事前学習:なし
7-9	10/13	09:45-12:25	第2実習室	全部床義歯人工歯排列	全部床義歯人工歯排列	土田 優美	到達目標:1-3 学習方法:実習 事前学習:なし
10-12	10/20	09:45-12:25	第2実習室	全部床義歯人工歯排列	全部床義歯人工歯排列	土田 優美	到達目標:1-3 学習方法:実習 事前学習:なし
13-15	10/27	09:45-12:25	第2実習室	全部床義歯人工歯排列	全部床義歯人工歯排列	土田 優美	到達目標:1-3 学習方法:実習 事前学習:なし
16-17	11/4	10:45-12:25	第2実習室	クラウンのワックスアップ	クラウンのワックスアップ	土田 優美	到達目標:4 学習方法:実習 事前学習:なし
18-20	11/10	09:45-12:25	第2実習室	全部床義歯人工歯排列	全部床義歯人工歯排列	土田 優美	到達目標:1-3 学習方法:実習 事前学習:なし
21-22	11/11	10:45-12:25	第2実習室	クラウンのワックスアップ	クラウンのワックスアップ	土田 優美	到達目標:4 学習方法:実習 事前学習:なし
23-25	11/17	09:45-12:25	第2実習室	全部床義歯人工歯排列 中間評価	全部床義歯人工歯排列 中間評価	土田 優美	到達目標:1-3 学習方法:実習 事前学習:なし

26-27	11/18	10:45-12:25	第2実習室	クラウンのワックスアップ 中間評価	クラウンのワックスアップ 中間評価	土田 優美	到達目標:4 学習方法:実習 事前学習:なし
28-30	11/24	09:45-12:25	第2実習室	全部床義歯人工歯排列	全部床義歯人工歯排列	土田 優美	到達目標:1-3 学習方法:実習 事前学習:なし
31-32	11/25	10:45-12:25	第2実習室	クラウンのワックスアップ	クラウンのワックスアップ	土田 優美	到達目標:4 学習方法:実習 事前学習:なし
33-35	12/1	09:45-12:25	第2実習室	全部床義歯人工歯排列	全部床義歯人工歯排列	土田 優美	到達目標:1-3 学習方法:実習 事前学習:なし
36-37	12/2	10:45-12:25	第2実習室	クラウンのワックスアップ	クラウンのワックスアップ	土田 優美	到達目標:4 学習方法:実習 事前学習:なし
38-39	12/9	10:45-12:25	第2実習室	クラウンのワックスアップ	クラウンのワックスアップ	土田 優美	到達目標:4 学習方法:実習 事前学習:なし
40-45	12/15	09:45-16:10	第2実習室	歯科技工臨床能力判定試験	歯科技工臨床能力判定試験	土田 優美	
46-48	1/19	13:30-16:10	リアルモールドラボ	学科試験	学科試験	土田 優美	

授業方法

実習

全部床義歯の人工歯排列、クラウンのワックスアップ実習。

授業期間中に中間評価と全国歯科技工士教育協議会の実技認定試験を、期末に学科試験を実施する。

なお、毎回の授業後に5分間の予復習を行うこと。

成績評価の方法

実習中に行われる中間評価(1)、全国歯科技工士教育協議会の実技認定試験、および学科試験によって行う。

- ・中間評価:人工歯排列 15 点、クラウンパターン 15 点
- ・実技認定試験:人工歯排列 15 点、クラウンパターン 15 点
- ・学科試験:40 点(試験の点数が6割未満の場合は再試験とする。)
- ・出席状況、授業態度を総合的に評価に加味する。

成績評価の基準

学科試験の点数が6割以上のものを合格とする。

中間評価、実技認定試験の評点に出席状況、授業態度を加味して総合的に評価し、総合点が80点以上であればA評価以上とする。

準備学習等についての具体的な指示

事前に資料の配布、e-learningへのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

試験の受験資格

定期試験、追・再試験を受験する資格は以下のすべてとする。

- ・4分の3以上の出席を基本とする。
- ・特別に勘案すべき事情があるために指示が達成できない場合や同期型授業に参加できない場合には、その事情とともに締め切り前および授業開始前までに科目責任者にメールで連絡すること。これらの十分な対応が行われたと判断された場合には事情などに応じて課題等での対応を行うこととする。

参考書

有床義歯技工学 = Dental technology for removable dentures／全国歯科技工士教育協議会 編 鈴木哲也 ほか著、鈴木 哲也、1954-、全国歯科技工士教育協議会、:医歯薬出版、2017

歯冠修復技工学／全国歯科技工士教育協議会編；末瀬一彦ほか著、全国歯科技工士教育協議会、末瀬 一彦、:医歯薬出版、2017

歯科技工実習／全国歯科技工士教育協議会編；末瀬一彦ほか著,全国歯科技工士教育協議会,末瀬 一彦,:医歯薬出版, 2017
歯科技工士国家試験問題集／全国歯科技工士教育協議会編:医歯薬出版

備考

全国歯科技工士教育協議会の実技認定試験については日時が変更となる場合がある。
昨年度授業終了時アンケート結果より、実習内容を修正し、内容を改善している。

参照ホームページ

カリキュラム変更により授業編成が前年より変更となっている。

オフィスアワー

土田 優美メールにて面談の日程を調整すること

時間割番号	023a80						
科目名	統合実習応用			科目ID			
担当教員	土田 優美, 高市 敦士, 岩城 麻衣子[TSUCHIDA Yumi, TAKAICHI Atsushi, IWAKI Maiko]						
開講時期	2026 年度後期	対象年次	4	単位数	1		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	メディア利用科目		
科目名:統合実習応用 時間数:30 時間 授業形態:実習 選択							
主な講義場所 遠隔授業(WebClass) 2 号館 4 階 第 2 実習室 2 号館 3 階 第 2 講義室							
授業の目的、概要等 各実習で習得した基礎知識および歯科技工技術を活用し、歯のデッサン、歯型彫刻、ワイヤーの屈曲を通じて更なる技術の研鑽を行う。 また、歯科技工士として必要な包括的な知識を身に着ける。							
授業の到達目標 1. 各歯の特徴を捉え、解剖学的歯冠形態を描画できる。 2. 各歯の特徴を捉え、解剖学的歯冠形態を彫刻できる。 3. 設計線に合ったワイヤー屈曲ができる。 4. 歯科技工士として必要な包括的な知識を有する。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-3	9/28	09:45-12:25	遠隔授業 (非同期型)	課題製作	デッサン、歯型彫刻、ワイヤー屈曲	土田 優美	到達目標:1-3 学習方法:実習 事前学習:なし
4-6	10/5	09:45-12:25	遠隔授業 (非同期型)	課題製作	デッサン、歯型彫刻、ワイヤー屈曲	土田 優美	到達目標:1-3 学習方法:実習 事前学習:なし
7-8	10/19	10:45-12:25	遠隔授業 (非同期型)	課題製作	デッサン、歯型彫刻、ワイヤー屈曲	土田 優美	到達目標:1-3 学習方法:実習 事前学習:なし
9-10	10/26	10:45-12:25	遠隔授業 (非同期型)	課題製作	デッサン、歯型彫刻、ワイヤー屈曲	土田 優美	到達目標:1-3 学習方法:実習 事前学習:なし
11-12	11/2	10:45-12:25	遠隔授業 (非同期型)	課題製作	デッサン、歯型彫刻、ワイヤー屈曲	土田 優美	到達目標:1-3 学習方法:実習 事前学習:なし
13-14	11/9	10:45-12:25	遠隔授業 (非同期型)	課題製作	デッサン、歯型彫刻、ワイヤー屈曲	土田 優美	到達目標:1-3 学習方法:実習 事前学習:なし
15-16	11/16	10:45-12:25	遠隔授業 (非同期型)	課題製作	デッサン、歯型彫刻、ワイヤー屈曲	土田 優美	到達目標:1-3 学習方法:実習 事前学習:なし
17-18	11/30	10:45-12:25	2号館リ フレッツ	国家試験模擬語試験	国家試験模擬語試験	土田 優美	到達目標:4 学習方法:試験 事前

土田 優美 メールにて面談の日程を調整すること

高市 敦士 随時(メールにて面談の日程を調整すること)

2号館2階 口腔デジタルプロセス学分野 教授室

時間割番号	023b10						
科目名	研究実習Ⅱ			科目ID			
担当教員	青木 和広, 高市 敦士, 大木 明子, 池田 正臣, 岩城 麻衣子, 佐藤 隆明, 土田 優美, 塩沢 真穂[AOKI Kazuhiro, TAKAICHI Atsushi, OKI Meiko, IKEDA Masaomi, IWAKI Maiko, SATO Takaaki, TSUCHIDA Yumi, SHIOZAWA Maho]						
開講時期	2026 年度通年	対象年次	4	単位数	4		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面		
時間数:120 時間 授業形態:演習・実習							
主な講義場所 口腔保健工学専攻講義室, 実習室, 研究室など各指導者の指示する場所で研究を実施。 大岡山、理工学系 工学院(八木 透教授研究室) 臨床実習の空き時間を利用しても構わない。							
授業の目的、概要等 『「科学の進歩」と「人々の幸せ」とを探究し、社会とともに新たな価値を創造する』という本学の存在意義(ミッション)を中心に、各学生の科学的興味、将来の方向性に沿って決定したテーマについて、計画・立案に基づき研究を実施する。さらに、結果を整理分析し、論文にまとめ、発表することにより、研究への理解と意欲を培う。							
授業の到達目標 1. 本学のミッションを中心に策定した研究テーマについて、研究実習Ⅰで策定した研究計画に基づき研究を実施できる。(単位認定者は5月のはじめには、研究計画書を科目責任者に提出すること) 2. EBM の概念と研究者としての倫理観を理解できる。 3. 不測の事態が起こった場合に、指導教員と相談しながら、研究計画の変更ならびに立案を行うことができる。 4. 実験・調査などのデータを整理分析し、統計学的に解析できる。 5. 結果に基づき、新たな問題点と課題を抽出、提起できる。 6. 一連の研究成果を論文にまとめることができる。 7. 自身の研究内容について、制限時間を考慮したわかりやすい口頭発表ができる。 8. 論文の抄録を英語で表現できる。 9. 最後まで粘り強く立てた仮説を実証するために、やりぬく精神力を培う。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-2	4/7	09:45-11:30	第3講義室	研究実習2ガイダンス	研究実習2の概要説明、抄読会の順番、実施方法の説明 卒研2の概要説明、抄読会の順番、実施方法の説明	青木 和広	到達目標:1-9
3-4	4/10	09:45-11:30	第3講義室 リアルモードラボ、第2実習室	研究実施、抄読会準備		青木 和広 池田 正臣 高市 敦士 大木 明子 岩城 麻衣子 佐藤 隆明 塩沢 真穂 土田 優美	到達目標:1-9
5-6	4/14	09:45-11:30	第3講義室 リア	研究実施、抄読会準備	研究実施、抄読会準備	青木 和広 池田 正臣	到達目標:1-9

			ルモード ラボ、第 2実習室			高市 敦土、 大木 明子、 岩城 麻衣子、 佐藤 隆明、 塩沢 真穂、 土田 優美	
7-8	4/17	09:45-11:30	第3講義 室、リア ルモード ラボ、第 2実習室	研究実施、抄読会準備	研究実施、抄読会準備	青木 和広、 池田 正臣、 高市 敦土、 大木 明子、 岩城 麻衣子、 佐藤 隆明、 塩沢 真穂、 土田 優美	到達目標:1-9
9-10	4/21	09:45-11:30	第3講義 室、リア ルモード ラボ、第 2実習室	研究実施、抄読会準備	研究実施、抄読会準備	青木 和広、 池田 正臣、 高市 敦土、 大木 明子、 岩城 麻衣子、 佐藤 隆明、 塩沢 真穂、 土田 優美	到達目標:1-9
11-12	4/24	09:45-11:30	第3講義 室、リア ルモード ラボ、第 2実習室	研究実施、抄読会準備		青木 和広、 池田 正臣、 高市 敦土、 大木 明子、 岩城 麻衣子、 佐藤 隆明、 塩沢 真穂、 土田 優美	到達目標:1-9
13-14	4/28	09:45-11:30	第3講義 室、リア ルモード ラボ、第 2実習室	研究実施、抄読会準備		青木 和広、 池田 正臣、 高市 敦土、 大木 明子、 岩城 麻衣子、 佐藤 隆明、 塩沢 真穂、 土田 優美	到達目標:1-9
15-16	5/1	09:45-11:30	第3講義 室、リア ルモード ラボ、第 2実習室	研究実施、抄読会準備		青木 和広、 池田 正臣、 高市 敦土、 大木 明子、 岩城 麻衣子、 佐藤 隆明、 塩沢 真穂、 土田 優美	到達目標:1-9
17-18	5/8	09:45-11:30	第3講義 室、リア ルモード ラボ、第	研究実施、抄読会準備		青木 和広、 池田 正臣、 高市 敦土、 大木 明子、	到達目標:1-9

			2実習室			岩城 麻衣子, 佐藤 隆明, 塩沢 真穂, 土田 優美	
19-20	5/12	09:45-11:30	第3講義 室	抄読会 その1	抄読会中の質疑応答、研究の進 捗報告(全員)	青木 和広	到達目標:1-9
21-22	5/15	09:45-11:30	第3講義 室 リア ルモード ラボ、第 2実習室	研究実施、抄読会準備		青木 和広, 池田 正臣, 高市 敦士, 大木 明子, 岩城 麻衣子, 佐藤 隆明, 塩沢 真穂, 土田 優美	到達目標:1-9
23-24	5/19	09:45-11:30	第3講義 室	抄読会 その2	抄読会中の質疑応答、研究の進 捗報告(全員)	青木 和広	到達目標:1-9
25-26	5/22	09:45-11:30	第3講義 室 リア ルモード ラボ、第 2実習室	研究実施、抄読会準備		青木 和広, 池田 正臣, 高市 敦士, 大木 明子, 岩城 麻衣子, 佐藤 隆明, 塩沢 真穂, 土田 優美	到達目標:1-9
27-28	5/26	09:45-11:30	第3講義 室	抄読会 その3	抄読会中の質疑応答、研究の進 捗報告(全員)	青木 和広	到達目標:1-9
29-30	5/29	09:45-11:30	第3講義 室 リア ルモード ラボ、第 2実習室	研究実施、抄読会準備		青木 和広, 池田 正臣, 高市 敦士, 大木 明子, 岩城 麻衣子, 佐藤 隆明, 塩沢 真穂, 土田 優美	到達目標:1-9
31-32	6/5	09:45-11:30	第3講義 室	抄読会 その4	抄読会中の質疑応答、研究の進 捗報告(全員)	青木 和広	到達目標:1-9
33-34	6/9	09:45-11:30	第3講義 室	抄読会 その5	抄読会中の質疑応答、研究の進 捗報告(全員)	青木 和広	到達目標:1-9
35-36	6/12	09:45-11:30	第3講義 室 リア ルモード ラボ、第 2実習室	研究実施、抄読会準備		青木 和広, 池田 正臣, 高市 敦士, 大木 明子, 岩城 麻衣子, 佐藤 隆明, 塩沢 真穂, 土田 優美	到達目標:1-9
37-38	6/16	09:45-11:30	第3講義 室	抄読会 その6	抄読会中の質疑応答、研究の進 捗報告(全員)	青木 和広	到達目標:1-9
39-40	6/19	09:45-11:30	第3講義	研究実施、抄読会準備		青木 和広	到達目標:1-9

			室 リアルモード ラボ、第 2実習室			池田 正臣 高市 敦士 大木 明子 岩城 麻衣子 佐藤 隆明 塩沢 真穂 土田 優美	
41-42	6/26	09:45-11:30	第3講義 室	抄読会 その7	抄読会中の質疑応答、研究の進 捗報告(全員)	青木 和広	到達目標:1-9
43-44	6/30	09:45-11:30	第3講義 室	抄読会 その8	抄読会中の質疑応答、研究の進 捗報告(全員)	青木 和広	到達目標:1-9
45-46	7/3	09:45-11:30	第3講義 室、リアル モード ラボ、第 2実習室	研究実施、抄読会準備		青木 和広 池田 正臣 高市 敦士 大木 明子 岩城 麻衣子 佐藤 隆明 塩沢 真穂 土田 優美	到達目標:1-9
47-48	7/7	09:45-11:30	第3講義 室	抄読会 その9	抄読会中の質疑応答、研究の進 捗報告(全員)	青木 和広	到達目標:1-9
49-50	7/10	09:45-11:30	第3講義 室	抄読会 その10	抄読会中の質疑応答、研究の進 捗報告(全員)	青木 和広	到達目標:1-9
51-52	7/17	09:45-11:30	第3講義 室、リアル モード ラボ、第 2実習室	中間発表会準備		青木 和広 池田 正臣 高市 敦士 大木 明子 岩城 麻衣子 佐藤 隆明 塩沢 真穂 土田 優美	到達目標:1-9
53-55	7/24	08:50-11:30	第3講義 室、リアル モード ラボ、第 2実習室	中間発表会		青木 和広	到達目標:1-9
56-57	9/25	09:45-11:30	第3講義 室、リアル モード ラボ、第 2実習室	研究実施		青木 和広 池田 正臣 高市 敦士 大木 明子 岩城 麻衣子 佐藤 隆明 塩沢 真穂 土田 優美	到達目標:1-9
58-59	9/25	13:30-15:10	第3講義 室、リアル モード ラボ、第 2実習室	研究実施		青木 和広 池田 正臣 高市 敦士 大木 明子 岩城 麻衣子	到達目標:1-9

						佐藤 隆明 塩沢 真穂 土田 優美	
60-61	10/2	09:45-11:30	第3講義 室 リア ルモード ラボ, 第 2実習室	研究実施		青木 和広 池田 正臣 高市 敦士 大木 明子 岩城 麻衣子 佐藤 隆明 塩沢 真穂 土田 優美	到達目標:1-9
62-63	10/2	13:30-15:10	第3講義 室 リア ルモード ラボ, 第 2実習室	研究実施		青木 和広 池田 正臣 高市 敦士 大木 明子 岩城 麻衣子 佐藤 隆明 塩沢 真穂 土田 優美	到達目標:1-9
64-65	10/9	09:45-11:30	第3講義 室 リア ルモード ラボ, 第 2実習室	研究実施		青木 和広 池田 正臣 高市 敦士 大木 明子 岩城 麻衣子 佐藤 隆明 塩沢 真穂 土田 優美	到達目標:1-9
66-67	10/9	13:30-15:10	第3講義 室 リア ルモード ラボ, 第 2実習室	研究実施		青木 和広 池田 正臣 高市 敦士 大木 明子 岩城 麻衣子 佐藤 隆明 塩沢 真穂 土田 優美	到達目標:1-9
68-69	10/16	09:45-11:30	第3講義 室 リア ルモード ラボ, 第 2実習室	研究実施		青木 和広 池田 正臣 高市 敦士 大木 明子 岩城 麻衣子 佐藤 隆明 塩沢 真穂 土田 優美	到達目標:1-9
70-71	10/16	13:30-15:10	第3講義 室 リア ルモード ラボ, 第 2実習室	研究実施		青木 和広 池田 正臣 高市 敦士 大木 明子 岩城 麻衣子 佐藤 隆明 塩沢 真穂	到達目標:1-9

						土田 優美	
72-73	10/23	09:45-11:30	第3講義 室 リア ルモード ラボ, 第 2実習室	研究実施		青木 和広 池田 正臣 高市 敦士 大木 明子 岩城 麻衣子 佐藤 隆明 塩沢 真穂 土田 優美	到達目標:1-9
74-75	10/23	13:30-15:10	第3講義 室 リア ルモード ラボ, 第 2実習室	研究実施		青木 和広 池田 正臣 高市 敦士 大木 明子 岩城 麻衣子 佐藤 隆明 塩沢 真穂 土田 優美	到達目標:1-9
76-77	10/30	09:45-11:30	第3講義 室	卒論ガイダンス (対 面)	論文の書式、卒研発表会の発表 時間等の説明	青木 和広	到達目標:1-9 簡単な進捗報告 をしてもらいま す。スライドは必 要ありません。
78-79	10/30	13:30-15:10	第3講義 室 リア ルモード ラボ, 第 2実習室	卒論準備		青木 和広 池田 正臣 高市 敦士 大木 明子 岩城 麻衣子 佐藤 隆明 塩沢 真穂 土田 優美	到達目標:1-9
80-81	11/6	09:45-11:30	第3講義 室 リア ルモード ラボ, 第 2実習室	卒論準備		青木 和広 池田 正臣 高市 敦士 大木 明子 岩城 麻衣子 佐藤 隆明 塩沢 真穂 土田 優美	到達目標:1-9
82-83	11/6	13:30-15:10	第3講義 室 リア ルモード ラボ, 第 2実習室	卒論準備		青木 和広 池田 正臣 高市 敦士 大木 明子 岩城 麻衣子 佐藤 隆明 塩沢 真穂 土田 優美	到達目標:1-9
84-85	11/13	09:45-11:30	第3講義 室 リア ルモード ラボ, 第	卒論準備		青木 和広 池田 正臣 高市 敦士 大木 明子,	到達目標:1-9

			2実習室			岩城 麻衣子, 佐藤 隆明, 塩沢 真穂, 土田 優美	
86-87	11/13	13:30-15:10	第3講義 室 リア ルモード ラボ, 第 2実習室	卒論準備		青木 和広, 池田 正臣, 高市 敦士, 大木 明子, 岩城 麻衣子, 佐藤 隆明, 塩沢 真穂, 土田 優美	到達目標:1-9
88-89	11/20	09:45-11:30	第3講義 室 リア ルモード ラボ, 第 2実習室	卒論準備		青木 和広, 池田 正臣, 高市 敦士, 大木 明子, 岩城 麻衣子, 佐藤 隆明, 塩沢 真穂, 土田 優美	到達目標:1-9
90-91	11/20	13:30-15:10	第3講義 室	中間発表 その2	ひとり7分で発表	青木 和広	到達目標:1-9
92-93	11/27	09:45-11:30	第3講義 室 リア ルモード ラボ, 第 2実習室	卒論準備		青木 和広, 池田 正臣, 高市 敦士, 大木 明子, 岩城 麻衣子, 佐藤 隆明, 塩沢 真穂, 土田 優美	到達目標:1-9
94-95	11/27	13:30-15:10	第3講義 室 リア ルモード ラボ, 第 2実習室	卒論準備		青木 和広, 池田 正臣, 高市 敦士, 大木 明子, 岩城 麻衣子, 佐藤 隆明, 塩沢 真穂, 土田 優美	到達目標:1-9
96-97	12/4	09:45-11:30	第3講義 室 リア ルモード ラボ, 第 2実習室	卒論準備		青木 和広, 池田 正臣, 高市 敦士, 大木 明子, 岩城 麻衣子, 佐藤 隆明, 塩沢 真穂, 土田 優美	到達目標:1-9
98-99	12/4	13:30-15:10	第3講義 室 リア ルモード ラボ, 第	卒論準備		青木 和広, 池田 正臣, 高市 敦士, 大木 明子,	到達目標:1-9

			2実習室			岩城 麻衣子, 佐藤 隆明, 塩沢 真穂, 土田 優美	
100-1 03	12/7	13:30-17:05	第3講義 室 リア ルモード ラボ, 第 2実習室	卒論準備		青木 和広, 池田 正臣, 高市 敦士, 大木 明子, 岩城 麻衣子, 佐藤 隆明, 塩沢 真穂, 土田 優美	
104-1 07	12/8	08:50-12:25	第3講義 室 リア ルモード ラボ, 第 2実習室	OH 卒研発表会 参加 (詳細は、12月1日の週 に連絡します)	午前中のみ参加	青木 和広, 大木 明子	到達目標:1-9 発表に対する感想記入で出席カウント 積極的な質問歓迎
108-1 09	12/11	09:45-11:30	第3講義 室 リア ルモード ラボ, 第 2実習室	卒論準備		青木 和広, 池田 正臣, 高市 敦士, 大木 明子, 岩城 麻衣子, 佐藤 隆明, 塩沢 真穂, 土田 優美	
110-1 11	12/11	13:30-15:10	第3講義 室 リア ルモード ラボ, 第 2実習室	卒論準備		青木 和広, 池田 正臣, 高市 敦士, 大木 明子, 岩城 麻衣子, 佐藤 隆明, 塩沢 真穂, 土田 優美	
112-1 13	12/18	09:45-11:30	第3講義 室 リア ルモード ラボ, 第 2実習室	卒論準備		青木 和広, 池田 正臣, 高市 敦士, 大木 明子, 岩城 麻衣子, 佐藤 隆明, 塩沢 真穂, 土田 優美	
114-1 15	12/18	13:30-15:10	第3講義 室 リア ルモード ラボ, 第 2実習室	卒論準備		青木 和広, 池田 正臣, 高市 敦士, 大木 明子, 岩城 麻衣子, 佐藤 隆明, 塩沢 真穂, 土田 優美	
116-1	1/8	09:45-15:10	特別講堂	研究実習発表会		青木 和広	到達目標:1-9

20			(D 棟 4 階)			池田 正臣 高市 敦士 大木 明子 岩城 麻衣子 佐藤 隆明 塩沢 真穂 土田 優美	
授業方法 研究 抄読会 中間報告会発表、卒業研究発表を行う。 OH4 の卒研発表会に参加							
成績評価の方法 評価は、研究に向かう姿勢(平常点)、抄読会、中間報告会発表、卒業論文、卒業研究発表によって行う。 ・毎週の研究進捗状況報告(平常点として勘案する)を加味する(20 点)。 ・各課題の LMS 等への提出状況を評価に加味する。 ・卒業研究中間報告会での発表により中間評価を行う(10 点)。 ・卒業研究論文(30 点) ・卒業研究発表会の発表内容に対する教員評価(40 点)。 ・指導教員からの評価も加味して総合評価とする。							
成績評価の基準 ・総合評価が 60 点以上の者を合格とする。 ・配点は、卒業研究発表会のプレゼンテーションに対する教員評価(40 点)と卒業研究論文の評価(30 点)、中間発表(10 点)、出席率等平常点(20 点)、とし、合計 100 点満点で換算する。 ・抄読会、プログレスミーティング、中間報告会、指導教員からの評価、各課題の WebClass 等への提出状況を加味してこの科目の評価とする。							
準備学習等についての具体的な指示 卒業研究の授業時間だけでは研究時間が足りないので、課外時間も利用して文献検索、研究実施、データ処理等を行うこと。							
試験の受験資格 単位認定資格は以下のすべてとする。 ・4 分の 3 以上の出席とする。 ・抄読会を 1 度ずつ担当すること。 ・中間発表会、卒業研究発表会で発表を行うこと。 ・提示された期限までに卒業論文および抄録を提出すること。 ・卒業研究の出席に関して、学生証のカードタッチで出席をとるが、他分野で研究する場合は、研究のはじめと終わりを指導教員に報告すること。 ・毎週の進捗報告。 報告がない場合は、カードタッチがあっても、欠席したものとみなす。 ・特別に勘案すべき事情があるために指示が達成できない場合や同期型授業に参加できない場合には、その事情とともに締め切り前および授業開始前までに科目責任者にメールで連絡すること。休みは休みとしてカウントされるが、出席率の足りない場合には、勘案される。							
備考 研究実習によるアクティブラーニングを実施している。 昨年度授業終了時の個別の聞き込み調査により、実習内容を再検討し、プログレスミーティングの時間は取らず、抄読会時に進捗を報告することにし、昨年度より内容を改善している。							

オフィスアワー

青木 和広:毎週月曜日 16時から18時 2号館2階 216号室(口腔基礎工学分野)

オフィスにいない場合もあるので、あらかじめメールで問い合わせすることを推奨。

高市 敦士:随時(メールにて面談の日程を調整すること)

2号館2階 口腔デジタルプロセス学分野 教授室

時間割番号	023b20						
科目名	研究実習Ⅲ			科目ID			
担当教員	青木 和広, 中禮 宏, 片桐 さやか, 岩本 勉, 高市 敦士[AOKI Kazuhiro, CHUREI Hiroshi, KATAGIRI Sayaka, IWAMOTO Tsutomu, TAKAICHI Atsushi]						
開講時期	2026 年度通年	対象年次	4	単位数	2		
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面		
時間数:60 時間 授業形態:実習							
主な講義場所 口腔保健工学専攻講義室, 実習室, 研究室など各指導者の指示する場所で研究を実施。 歯科棟（中禮宏先生研究室、岩本勉教授研究室） MD タワー（片桐さやか教授研究室） 大岡山 工学院（八木 透教授研究室）							
授業の目的、概要等 「科学の進歩」と「人々の幸せ」とを探究し、社会とともに新たな価値を創造する」という本学の基本理念(ミッション)を中心に、各学生の科学的興味、将来の方向性に沿って決定したテーマについて、計画・立案に基づき研究を実施する。さらに、結果を整理分析し、論文にまとめ、学会発表することにより、研究への理解と意欲を培う。							
授業の到達目標 1. 本学の基本理念を中心に策定した研究テーマについて、研究実習Ⅰで策定した研究計画に基づき研究を実施できる。 2. EBM の概念と研究者としての倫理観を理解できる。 3. 不測の事態が起こった場合に、指導教員と相談しながら、研究計画の変更ならびに立案を行うことができる。 4. 実験・調査などのデータを整理分析し、統計学的に解析できる。 5. 結果に基づき、新たな問題点と課題を抽出、提起できる。 6. 一連の研究成果を論文にまとめることができる。 7. 学会発表の準備を理解する。 8. 論文の抄録を英語で表現できる。 9. 最後まで粘り強く立てた仮説を実証するために、やりぬく精神力を培う。							
授業計画							
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員	到達目標・学習方法・その他
1-4	7/14	13:30-17:05	第3講義室, リアルモードラボ, 第2実習室	研究実習	各研究指導者の支持する内容	青木 和広, 中禮 宏, 片桐 さやか, 岩本 勉	到達目標:1-9 各研究指導者の指示に従って研究と発表準備を進める 研究主指導員 工学院:八木透教授
5-8	7/17	13:30-17:05	第3講義室, リアルモードラボ, 第2実習室	研究実習	各研究指導者の指示する内容 発表準備	青木 和広, 中禮 宏, 片桐 さやか, 岩本 勉	到達目標:1-9 各研究指導者の指示に従って研究と発表準備を進める 研究主指導員 工学院:八木透教授
9-12	7/21	13:30-17:05	第3講義室, リアルモードラボ, 第2実習室	研究実習	各研究指導者の指示する内容 発表準備	青木 和広, 中禮 宏, 片桐 さやか, 岩本 勉	到達目標:1-9 各研究指導者の指示に従って研究と発表準備を進める 研究主指導員 工学院:八木透教授

			ルモード ラボ、第 2実習室			桐 さやか、 岩本 勉	指示に従って研 究と発表準備をを 進める 研究 主指導員 工学 院:八木透教授
13-16	7/24	13:30-17:05	第3講義 室、リア ルモード ラボ、第 2実習室	研究実習	各研究指導者の指示する内容 発表準備	青木 和広、 中禮 宏、片 桐 さやか、 岩本 勉	到達目標:1-9 各研究指導者の 指示に従って研 究と発表準備をを 進める 研究 主指導員 工学 院:八木透教授
17-20	7/28	13:30-17:05	第3講義 室、リア ルモード ラボ、第 2実習室	研究実習	各研究指導者の指示する内容 発表準備	青木 和広、 中禮 宏、片 桐 さやか、 岩本 勉	到達目標:1-9 各研究指導者の 指示に従って研 究と発表準備をを 進める 研究 主指導員 工学 院:八木透教授
21-24	9/28	13:30-17:05	第3講義 室、リア ルモード ラボ、第 2実習室	研究実習	各研究指導者の指示する内容 発表準備	青木 和広、 中禮 宏、片 桐 さやか、 岩本 勉	到達目標:1-9 各研究指導者の 指示に従って研 究と発表準備をを 進める 研究 主指導員 工学 院:八木透教授
25-28	10/5	13:30-17:05	第3講義 室、リア ルモード ラボ、第 2実習室	研究実習	各研究指導者の指示する内容 発表準備	青木 和広、 中禮 宏、片 桐 さやか、 岩本 勉	到達目標:1-9 各研究指導者の 指示に従って研 究と発表準備をを 進める 研究 主指導員 工学 院:八木透教授
29-32	10/19	13:30-17:05	第3講義 室、リア ルモード ラボ、第 2実習室	研究実習	各研究指導者の指示する内容 発表準備	青木 和広、 中禮 宏、片 桐 さやか、 岩本 勉	到達目標:1-9 各研究指導者の 指示に従って研 究と発表準備をを 進める 研究 主指導員 工学 院:八木透教授
33-36	10/26	13:30-17:05	第3講義 室、リア ルモード ラボ、第 2実習室	研究実習	各研究指導者の指示する内容 発表準備	青木 和広、 中禮 宏、片 桐 さやか、 岩本 勉	到達目標:1-9 各研究指導者の 指示に従って研 究と発表準備をを 進める 研究 主指導員 工学 院:八木透教授
37-40	11/2	13:30-17:05	第3講義 室、リア ルモード	研究実習	各研究指導者の指示する内容 発表準備	青木 和広、 中禮 宏、片 桐 さやか、	到達目標:1-9 各研究指導者の 指示に従って研

			ラボ, 第2実習室			岩本 勉	究と発表準備を進める 研究 主指導員 工学 院:八木透教授
41-44	11/9	13:30-17:05	第3講義 室 リア ルモード ラボ, 第 2実習室	研究実習	各研究指導者の指示する内容 発表準備	青木 和広 中禮 宏 片 桐 さやか, 岩本 勉	到達目標:1-9 各研究指導者の 指示に従って研 究と発表準備をを 進める 研究 主指導員 工学 院:八木透教授
45-48	11/16	13:30-17:05	第3講義 室 リア ルモード ラボ, 第 2実習室	研究実習	各研究指導者の指示する内容 発表準備	青木 和広 中禮 宏 片 桐 さやか, 岩本 勉	到達目標:1-9 各研究指導者の 指示に従って研 究と発表準備をを 進める 研究 主指導員 工学 院:八木透教授
49-52	11/30	13:30-17:05	第3講義 室 リア ルモード ラボ, 第 2実習室	研究実習	各研究指導者の指示する内容 発表準備	青木 和広 中禮 宏 片 桐 さやか, 岩本 勉	到達目標:1-9 各研究指導者の 指示に従って研 究と発表準備をを 進める 研究 主指導員 工学 院:八木透教授
53-56	12/14	13:30-17:05	第3講義 室 リア ルモード ラボ, 第 2実習室	研究実習	各研究指導者の指示する内容 発表準備	青木 和広 中禮 宏 片 桐 さやか, 岩本 勉	到達目標:1-9 各研究指導者の 指示に従って研 究と発表準備をを 進める 研究 主指導員 工学 院:八木透教授
57-60	1/13	08:50-12:25	第3講義 室 リア ルモード ラボ, 第 2実習室	臨床実習Ⅲ 発表会	臨床実習Ⅲ 発表会	青木 和広	

授業方法

研究を実施し、学会での発表を実施する。

成績評価の方法

評価は、研究活動に対する熱心さと学会発表の準備から発表までの内容によって行う。

- ・日々の研究活動の平常点(指導教員からの評価、出席率)(50点)
- ・学会での発表内容に対する指導教員による評価(50点)

成績評価の基準

- ・総合点が60点以上の者を合格とする。
- ・配点は、日々の研究活動の平常点(指導教員からの評価、出席率)(50点)および、学会での発表内容・発表態度などに対する指導教員による評価(50点)の合計100点満点で評価する。

準備学習等についての具体的な指示

卒業研究の授業時間だけでは研究時間が足りないので、課外時間も利用して文献検索、研究実施、データ処理等を行うこと。前期から研究実習Ⅲを意識して、取り組むことが推奨される。
研究実習Ⅱで実施した研究の継続を前提としている。

学会発表は自身の発表が推奨されるが、co-first author の立場で貢献した発表も発表したものとして認める。この判断は、科目責任者が行う。

備考

臨床実習Ⅲとの選択制である。研究実習Ⅱで実施した研究の継続を前提としている。
昨年度、工学専攻以外の指導教員や学生からの直接の聞き取りにより、実習評価を再検討し、First co-author 扱いの発表に関して、昨年度途中から発表したものと認めることになり、内容を改善している。

担当教員のオフィスアワーおよび連絡先

毎週月曜日 16 時から 18 時

それ以外は、まず、メールなどで連絡すること。

口腔基礎工学分野

教授 青木和広 kazuhiro_aoki.bhoe@tmd.ac.jp

オフィスアワー

青木 和広:毎週月曜日 16 時から 18 時 2 号館 2 階 216 号室(口腔基礎工学分野)

オフィスにいない場合もあるので、あらかじめメールで問い合わせすることを推奨。

高市 敦士:随時(メールにて面談の日程を調整すること)

2 号館 2 階 口腔デジタルプロセス学分野 教授室

時間割番号	023b50					
科目名	多職種連携Ⅲ			科目ID		
担当教員	高市 敦士, 大木 明子, 和田 淳一郎, 西山 暁, 鶴田 潤[TAKAICHI Atsushi, OKI Meiko, WADA Junichiro, NISHIYAMA Akira, TSURUTA Jiyun]					
開講時期	2026 年度前期	対象年次	4	単位数	1	
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	メディア利用科目	
主な講義場所						
①全学:遠隔・同期型授業(Zoom)						
②歯学科との合同演習:対面演習						
授業の目的、概要等						
患者・家族の視点を起点に、医療・歯科医療・保健・福祉の多職種が協働して課題を捉え、よりよい支援へつなげる力を養うことを目的とする。臨床現場を舞台に、専門職それぞれの強みと限界を理解しながら、対話を通じて情報を共有し、患者中心の目標をチームで考える。実習では、カンファレンスや現場での観察・参加、振り返りを通して、チーム医療に必要なコミュニケーション、合意形成、役割調整、プロフェッショナリズムを実践的に学ぶ。多様な価値観が交わる現場で、学生自身が「自分はチームに何を持ち寄れるか」を考え、将来の専門職としての協働のあり方を描けるようになることを目指す。						
授業の到達目標						
1. 自らの知識や価値観を、他学科の学生に共有することができる。						
2. 他学科学生の役割や意見を尊重した説明や返答、問いかけができる。						
3. 他学科学生との演習活動の中で、円滑な協働を進めるために、自らの役割を果たすことができる。						
4. 自らの価値観や言動について、他学科の学生との関係性の中で、相対化できる。						
5. 自分の職種の役割を他職種及び他の医療系学部の学生に説明できる。						
6. 病院・診療所・施設等の職場環境やチームや部門等の所属に応じた他職種の役割を理解している。						
7. 患者・家族・地域の課題について、他学科学生とともに検討を行い、課題解決に必要な取り組みを提案することができる。						
授業計画						
回	日付	時刻	講義室	授業題目	授業内容	担当教員
1-2	6/16	13:30-15:10	遠隔授業 (同期型)	シナリオ 1. 2 事前学習	シナリオ 1. 2 に関する事前学習	高市 敦士
3-5	6/17	09:45-12:25	遠隔授業 (同期型)	シナリオ 1. 2 事前学習	シナリオ 1. 2 に関する事前学習	高市 敦士
6-13	6/23	08:50-17:05	遠隔授業 (同期型)	シナリオ 1 グループワーク	・多職種連携に関する講演 ・シナリオ 1 に関するグループディスカッション ・グループワークの発表	高市 敦士
14-21	6/24	08:50-17:05	遠隔授業 (同期型)	シナリオ 2 グループワーク	・患者講師による講演 ・シナリオ 2 に関するグループディスカッション ・グループワークの発表	高市 敦士
22-24	7/2	13:30-16:10	遠隔授業 (同期型)	シナリオ 3 事前学習	シナリオ 3 に関する事前学習	高市 敦士
25-27	7/3	13:30-16:10	歯学部演習室	シナリオ 3 グループワーク	・シナリオ 3 に関するディスカッション ・グループワークの発表	高市 敦士, 大木 明子, 和田 淳一郎, 西山 暁 鶴田 潤
28-30	7/10	13:30-16:10	遠隔授業 (同期型)	多職種連携総括	多職種連携総括	高市 敦士
授業方法						

演習、講義(同期・非同期)、演習(対面) 事前に e-learning (isct LMS) に提示された資料を学習し、準備しておくこと。 他学科との合同授業として、グループに分かれて討論を行う。 ①医学部・歯学部 of 全学科・全専攻(医・歯:6 年、看護・検査・口衛・口工:4 年)に加え、他大学の薬学系・社会福祉系学生と実施する ②歯学科 6 年生と実施する 課題の提出を LMS にて行うこと(実習後課題の提出期限は 1 週間後)。
成績評価の方法 成績はグループワークへの参加態度(50%)、レポート等の提出物(50%)により評価する。 出席状況、授業態度を総合評価に加味する。
成績評価の基準 ・合計点数が 60% 以上のものを合格とする。 ・授業態度を加味して総合的に評価し、この科目の評価とする。 参加態度は、司会や書記を務め、積極的に発言しただけではなく、グループメンバーの話しやすい雰囲気を作るなど、聞く姿勢も評価の対象となる。 ・期日までに提出された課題を採点対象とし、講演で聞いた内容やグループワークで話し合った内容が含まれているか、自分自身の考えが描かれているかについて授業の到達目標の達成度に応じて採点する。
準備学習等についての具体的な指示 資料の配布、LMS へのアップロード等があった場合は、各自視聴すること。課題の提出を LMS にて行うこと。
試験の受験資格 試験は実施しない ・出席を基本とし、演習に参加する。 ・演習発表資料などの課題を提示された期限までに提出すること。 ・特別に勘案すべき事情があるために指示が達成できない場合には、その事情とともに締め切り前および授業開始前までに科目責任者にメールで連絡すること。これらの十分な対応が行われたと判断された場合には事情などに応じてレポート等での対応を行うこととする。
教科書 患者中心の医療の方法／Stewart, Moira, Brown, Judith Belle, Weston, W. Wayne, McWhinney, Ian R., -2012, McWilliam, Carol L, Freeman, Thomas, 1948-, 葛西, 龍樹, 1957-, Moira Stewart, Judith Belle Brown, W Wayne Weston, Ian R McWhinney, Carol L McWilliam, Thomas R Freeman 著, 葛西龍樹 監訳 若手医: 羊土社, 2021.4
他科目との関連 多職種連携Ⅰ、Ⅱを基礎とした最終学年での科目である。
履修上の注意事項 事前にアップロードされた資料をもとに事前学習を行ってから参加すること。事後課題を提出すること。
備考 ①事前学習と 2 日間の取り組みと、②歯学科との合同演習(事前学習、まとめを含む)を追加した、1 単位の科目である。 新カリキュラムで今年度から開始する科目である。従来の①チーム医療入門から、昨年の学生アンケートの結果を受けて、下記とした。 ・提出課題、発表形式を見直した。 担当教員のオフィスパワーおよび連絡先 高市 敦士(a.takaichi.pro@tmd.ac.jp) 質問があるときは随時連絡ください
オフィスパワー 高市 敦士随時(メールにて面談の日程を調整すること) 2 号館 2 階 口腔デジタルプロセス学分野 教授室

時間割番号	023558				
科目名	口腔保健工学エクスターンシップ			科目 ID	DE495800Z
担当教員	青木 和広[AOKI Kazuhiro]				
開講時期	2026 年度通年	対象年次	1～4	単位数	1
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面

海外研修プログラムを履修した学生に、自由選択科目(卒業要件以外)の単位として1単位を認定する。

成績評価の方法

それぞれの海外研修プログラムの責任者が、学生の研修内容等を総合的に判定して可否をつけ、口腔保健学科教育委員会において承認を受けた後、教授会で最終判定を行う。

評価としては、発展的に学習して自らの課題解決策等について具体的に論述できる場合は 80 点 以上とする。

また、3)の TMU との交流における成績は、参加への積極性や発表時の内容等により総合的に判断して成績をつけるものとする。なお、ポイントは学年をまたいで持ち越しにはなるが、90 点以上の基準としては、プログラムの全部の参加状況が一つの基準となる。

準備学習等についての具体的な指示

- ・各自のテーマに必要な知識および技術を十分に理解して実習に臨むこと。
- ・訪問計画は担当教員と相談し、各自入念に準備しておくこと。

3)の TMU との交流にあたり、事前に TMU 学生と交流をし、準備を進めることが大切である。

来日時の交流に備えた事前の交流の仕方は、担当教員から指示がある。

試験の受験資格

○ 単位認定条件

1)海外研修奨励制度による研修プログラムへの参加

(1) 語学能力(英語)

選考時面接にて英語能力を評価。CEFR-J B1 High 以上を積極的に評価する。

(2) 海外渡航時の注意事項、危機管理に関する研修(講義)の履修

(3) 研修報告書の提出

日本語および英語(詳細は別に定める)

(4) 研修報告会における発表

研修報告会が開催されるときは、研修報告のプレゼンテーションを行う。

(5) 本学および海外の担当教員による学生評価の成績(70 点 以上)

2)その他の海外研修プログラム(口腔保健学科教育委員会が認めたもの)

(1) 語学能力(英語)

選考時面接にて英語能力を評価。CEFR-J B1 High 以上を積極的に評価する。

(2) 研修特別コースの履修(＊)

研修内容によって、特別に提供されるコースの履修(詳細は別に定める)

(3) 海外における生活上の注意、危機管理に関する研修(講義)の履修

(4) 研修報告書の提出

日本語および英語(詳細は別に定める)

(5) 研修報告会における発表

研修報告会が開催されるときは、研修報告のプレゼンテーションを行う。

(6) 本学および海外の担当教員による学生評価の成績(70 点以上)

(＊)なお、オンラインの国際交流プログラムを実施する場合においても、大学が開催する海外の教育研究機関とのオンライン交流会参加をもって、単位申請することができる。

- ・ 国際活動ポイント Point System for International Exchange(P-Sie) の総計が 15 以上あること。

(各交流プログラム担当者により付与ポイントを設定していただき、国際交流委員会の承認後、募集に際して学生にポイント数を明示する。学年持越し可とする。)

・大学が開催する P-Sie 対象のオンラインまたは対面のプログラムの単位認定条件は2)(2)(3)以外のすべての条件を満たすこと。

3) 台北医学大学(TMU)との交流で必修科目ではない、任意参加のプログラムにすべて参加した場合は、15 ポイントを付与し、エクスターンシップの単位申請ができる。単位認定は、教育委員会および教授会の承認を得る。

履修上の注意事項

1. 海外研修プログラムを履修した学生に、自由選択科目(卒業要件以外)の単位として1単位を認定する。 2. 単位認定の対象となる海外研修プログラムは以下のプログラムとする。各プログラムにおける単位認定条件は別に定める。 1) 大学海外研修奨励制度(事前研修を含む。) 2) その他の海外研修プログラム(口腔保健学科教育委員会が認めたもの)(*) 3. 所定のプログラムを終了した学生に対し、口腔保健学科教育委員会の議を経て、歯学部教授会が単位を認定する。但し、同一年次・年度で認定できる単位は1単位を上限とする。また、「その他の海外研修プログラム」に該当するプログラムで認定できる単位は、プログラムの内容・年次・年度・回数に限らず、在学期間を通じて1単位とする。 (*)なお、オンラインの国際交流プログラムを実施する場合においても、大学が開催する海外の教育研究機関とのオンライン交流会参加をもって、単位申請することができる。 ・国際活動ポイント Point System for International Exchange (P-Sie)の総計が 15 以上あること。(各交流プログラム担当者により付与ポイントを設定していただき、国際交流委員会の承認後、募集に際して学生にポイント数を明示する。学年持越し可とする。) ・大学が開催する P-Sie 対象のオンラインまたは対面のプログラムの単位認定条件は2)(2)(3)以外のすべての条件を満たすこと。 3) 台北医学大学(TMU)との交流で必修科目ではない、任意参加のプログラムにすべて参加した場合は、15 ポイントを付与し、エクスターンシップの単位申請ができる。単位認定は、教育委員会および教授会の承認を得る。

備考

昨年度授業終了時アンケート結果より、実習内容を再検討し、昨年度より内容を改善している。

担当教員のオフィスアワーおよび連絡先

毎週月曜日 17 時～18 時

これ以外は

メールにて面談の日程を調整すること

青木和広 kazuhiro_aoki.bhoe@tmd.ac.jp

それぞれの担当教員への質問は LMS 科目の掲示板を使うこと。

非同期授業は、動画視聴後に多肢選択式問題をそれぞれの期限までに行うこと。

国際交流なので、AL(グループディスカッション)を行う。

学生自身で単位申請を行うこと。

オフィスアワー

毎週月曜日 16 時から 18 時 2 号館 2 階 216 号室(口腔基礎工学分野)

オフィスにいない場合もあるので、あらかじめメールで問い合わせることを推奨。

時間割番号	023b60				
科目名	口腔保健工学企業研修			科目 ID	
担当教員	高市 敦士[TAKAICHI Atsushi]				
開講時期	2026 年度通年	対象年次	4	単位数	2
実務経験のある教員による授業	該当する			授業形態	対面
企業の主催するインターンシップに参加し、企業における口腔保健工学の社会実装に関する学習を実施する。					
主な講義場所 インターンシップ実施企業					
授業の目的、概要等 企業の主催するインターンシップに参加し、企業における口腔保健工学の社会実装に関する学習を実施する。					
授業の到達目標 企業における口腔保健工学の社会実装を説明できる。					
授業方法 インターンシップ主催企業が実施方法に従うこと。					
授業内容 1. 事前の届出を行い、科目責任者が認めた企業主催インターンシップを本科目の対象とする。 2. 研修内容は口腔保健工学に関連したものを本科目の対象とする。 3. 30 時間以上の研修があるものを本科目の対象とする。 3. 研修先では、研修先企業の指示にした以外、すべての研修を実施すること。 4. 研修にかかる交通費・食費・その他の支出については自己負担とする。					
成績評価の方法 事前の届出と事後の報告書により成績を評価する。					
準備学習等についての具体的な指示					
試験の受験資格 定期試験は実施しない。					
モジュールの単位判定 開始前の事前の届出書と終了後の報告書を持って単位を認定する。 なお、研修期間は 30 時間以上確保されていること。					
オフィスアワー 随時(メールにて面談の日程を調整すること) 2 号館 2 階 口腔デジタルプロセス学分野 教授室					